2010年度放送大学大学院開設予定授業科目講義内容

2009年11月発行

第　9　版

放送大学学園
学務部教務課

目　　次

1．生活健康科学プログラム

番号		頁	メディア	単位
1	生活健康研究（’０９）㊔環	1	R	2
2	家族生活研究（’０９）㊔文	5	R	2
3	食健康科学（’０９）㊔環 【自然環境科学プログラムと共通】	8	TV	2
4	生活科学Ⅱ（’０６）－住民主体の居住環境整備－ ㊔環 【自然環境科学プログラムと共通】	12	TV	2
5	健康科学の史的展開（’１０）㊔環 （２０１０年度開設科目）	15	TV	2
6	精神医学特論（’１０）㊔環㊔臨 （２０１０年度開設科目） 【臨床心理学プログラムと共通】	19	R	2
7	看護ケアの倫理学（’０９）㊔環	22	R	2
8	スポーツ・健康科学（’０９）㊔教	26	R	2
9	社会福祉研究（’１０）㊔政 （２０１０年度開設科目）	29	R	2
10	現代の福祉政策（’１０）－担い手の役割と責任－ ㊔政 （２０１０年度開設科目）	33	R	2

㊔文 旧カリキュラム「総合文化プログラム（文化情報学群）」の科目です。

㊔環 旧カリキュラム「総合文化プログラム（環境システム科学群）」の科目です。

㊔政 旧カリキュラム「政策経営プログラム」の科目です。

㊔教 旧カリキュラム「教育開発プログラム」の科目です。

㊔臨 旧カリキュラム「臨床心理プログラム」の科目です。

2．人間発達科学プログラム

		頁	メディア	単位
11	教育経営論（’０８）㊔教	36	R	2
12	人間発達論（’０９）㊔教	39	R	2
13	才能と教育（’１０）－個性と才能の新たな地平へ－ ㊔教 （２０１０年度開設科目）	43	TV	2
14	コミュニティ教育論（’１０）㊔教 （２０１０年度開設科目）	46	TV	2
15	学校システム論（’０７）㊔教	49	TV	2
16	学校臨床社会学（’０７）㊔教	52	R	2
17	市民性形成論（’０７）㊔教	55	R	2
18	生涯学習の理論と実践（’１０）㊔教 （２０１０年度開設科目）	58	TV	2
19	認知行動科学（’０６）㊔環㊔臨 【臨床心理学プログラムと共通】 －心身の統合科学をめざして－	61	TV	2
20	認知過程研究（’０７）㊔教 —知識の獲得とその利用—	64	R	2
21	発達心理学特論（’０７）㊔教㊔臨 【臨床心理学プログラムと共通】	67	TV	2
22	学校臨床心理学特論（’０９）㊔教㊔臨 【臨床心理学プログラムと共通】	72	TV	2
23	心理・教育統計法特論（’０９）㊔教㊔臨 【臨床心理学プログラムと共通】	75	R	2

㊔環 旧カリキュラム「総合文化プログラム（環境システム科学群）」の科目です。

㊔教 旧カリキュラム「教育開発プログラム」の科目です。

㊔臨 旧カリキュラム「臨床心理プログラム」の科目です。

３．臨床心理学プログラム

		頁	メディア	単位
24	臨床心理学特論（’０５）(臨)	78	R	4
25	臨床心理面接特論（’０７）(臨)	82	R	4
26	臨床心理学研究法特論（’０６）(臨)	88	R	2
	心理・教育統計法特論（’０９）(臨)(教) 【人間発達科学プログラムと共通】	(75)	R	2
	発達心理学特論（’０７）(臨)(教) 【人間発達科学プログラムと共通】	(67)	TV	2
	認知行動科学（’０６）(臨)(環) 【人間発達科学プログラムと共通】	(61)	TV	2
	―心身の統合科学をめざして―			
27	社会心理学特論（’０９）(臨)	91	TV	2
28	家族心理学特論（’１０）(臨) （２０１０年度開設科目）	94	R	2
	精神医学特論（’１０）(臨)(環) （２０１０年度開設科目）	(19)	R	2
	【生活環境科学プログラムと共通】			
29	障害児・障害者心理学特論（’０８）(臨)	97	R	2
30	臨床心理地域援助特論（’０７）(臨)	100	R	2
	学校臨床心理学特論（’０９）(教)(臨) 【人間発達科学プログラムと共通】	(72)	TV	2

(環) 旧カリキュラム「総合文化プログラム（環境システム科学群）」の科目です。

(教) 旧カリキュラム「教育開発プログラム」の科目です。

(臨) 旧カリキュラム「臨床心理プログラム」の科目です。

４．社会経営科学プログラム

		頁	メディア	単位
31	公共哲学（’１０）(政) （２０１０年度開設科目）	103	R	2
32	経済政策（’０９）(政)	106	TV	2
33	途上国の開発政策（’０９）(文)	109	TV	2
34	自治体と政策（’０９）(政)	112	TV	2
35	社会的自我論（’０８）(政)	115	R	2
36	社会経済組織論（’１０）(政) （２０１０年度開設科目）	118	R	2
37	法システムⅠ（’０６）―生命・医療・安全衛生と法― (政)	121	R	2
38	法システムⅡ（’０７）―比較法社会論―日本とドイツを中心に― (政)	124	TV	2
39	国際社会研究Ⅱ（’０７）―中国近代政治史― (文)	127	R	2
40	国際政治（’０７）(文)	130	TV	2
41	大学のマネジメント（’０８）(政)	133	R	2
42	経営システムⅠ（’０６）―企業の公的経営― (政)	136	R	2
43	コーポレート・ガバナンス（’０９）(政)	139	R	2
44	環境工学（’０７）(政) 【自然環境科学プログラムと共通】	142	TV	2
45	都市環境デザイン論（’１０）(政) （２０１０年度開設科目）	146	TV	2

(文) 旧カリキュラム「総合文化プログラム（文化情報科学群）」の科目です。

(政) 旧カリキュラム「政策経営プログラム」の科目です。

５．文化情報学プログラム

		頁	メディア	単位
46	人類学研究（’１０）－環境問題の文化人類学－ ㊍ ……（２０１０年度開設科目）……	150	TV	2
47	哲学史における生命概念（’１０）㊍ ……（２０１０年度開設科目）……	153	R	2
48	東アジアの歴史と社会（’１０）㊍ ……（２０１０年度開設科目）……	156	TV	2
49	表象文化研究（’０６）㊍ ……	159	TV	2
50	地域文化研究Ⅲ（’０７）－ヨーロッパの歴史と文化－ ㊍ ……	162	TV	2
51	日本の歴史と社会（’０９）㊍ ……	168	R	2
52	言語文化研究Ⅰ（’０７）－国語国文学研究の成立－ ㊍ ……	172	R	2
53	異文化の交流と共存（’０９）㊍ ……	175	R	2
54	ことばと情報（’０９）㊍ ……	178	R	2
55	世界の芸術文化政策（’０８）㊕ ……	182	TV	2
56	文化政策の展開（’０７）　－芸術文化の振興と文化財の保護－ ㊕ ……	184	R	2

㊍ 旧カリキュラム「総合文化プログラム（文化情報科学群）」の科目です。

㊕ 旧カリキュラム「政策経営プログラム」の科目です。

６．自然環境科学プログラム

		頁	メディア	単位
57	生命環境科学Ⅰ（’１０）－生物多様性の成立ちと保全－ ㊔ （２０１０年度開設科目）……	187	TV	2
58	生命環境科学Ⅱ（’０８）－環境と生物進化－ ㊔ ……	190	TV	2
59	複雑システム科学（’０７）㊔ ……	192	TV	2
60	物質環境科学（’０９）㊔ ……	196	TV	2
61	物質環境科学Ⅱ（’０８）－宇宙・自然システムと人類－ ㊔ ……	199	TV	2
62	地球環境科学（’０５）㊔ ……	202	TV	2
63	数理科学の方法（’０９）㊔ ……	205	R	2
64	計算論（’１０）㊔ ……（２０１０年度開設科目）……	208	R	2
65	基礎情報科学（’０９）㊔ ……	211	R	2
	食健康科学（’０９）㊔ ……【生活健康科学プログラムと共通】……	(8)	TV	2
	生活科学Ⅱ（’０６）－住民主体の住居環境整備－ ㊔ 【生活健康科学プログラムと共通】……	(12)	TV	2
	環境工学（’０７）㊕ ……【社会経営科学プログラムと共通】……	(142)	TV	2

㊔ 旧カリキュラム「総合文化プログラム（環境システム科学群）」の科目です。

㊕ 旧カリキュラム「政策経営プログラム」の科目です。

事務局記載欄	開講年度	２００９年度	科目区分	大学院科目	科目コード	8910529	履修制限	無	単位数	2

科目名（メディア）＝　生活健康研究　（’０９）＝（R）

〔主任講師（現職名）：本間　博文（放送大学副学長）〕

〔主任講師（現職名）：藤原　康晴（放送大学客員教授）〕

講義概要

豊かな生活といえば，物質的な豊かさと解釈しがちであるが，精神的な豊かさ，心の豊かさが大きな比重を占めている。物質的に，そして精神的に豊かな生活が真に豊かな生活であり，質の高い生活といえよう。この科目では，生活者の家族や地域の人々等の「人的環境」，住居や生活用製品などの「物的環境」，「保健医療環境，「社会福祉環境」そして「生活者個人の状態」を対象に，生活の質にかかわる「主体性」，「創造性」，「関係性」，「相互扶助性」，「快適性」，「安心・安全性」，「持続可能性」等の観点からアプローチすることによって自己の生活の質の向上および他者の生活の質の向上につなげる方策や課題を追究する。

授業の目標

生活，保健医療，看護，社会福祉の各分野における生活者の自立と共生の観点から生活の質の向上を追究し，家庭，地域，企業，非営利組織，行政等において，生活や健康，福祉に関する課題を主体となって解決していく力量形成を目標としている。

履修上の留意点

この科目は，生活健康科学のキーワード「生活の質の向上」の基本的事項を概説したものであり，「生活の質の向上」にかかわる各分野の内容は，それぞれの専門科目の学習によって理解を深めてほしい。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	今，なぜ「生活の質」が問われるのか	生活の場における財・サービスは着実に充足されてきたが，生活に対する満足度は低下の傾向にある。生活のさまざまな場面の満足度の総合されたものを「生活の質」とみなすことができ，生活の各分野における質的アプローチが欠かせない。「生活者個人の状態」「生活者の人的環境」「生活者の物的環境」「保健医療環境」「社会福祉環境」を対象に，生活の質にかかわる観点から評価し，その質の向上につなげる枠組みを提案する。	藤原　康晴（放送大学客員教授）	藤原　康晴（放送大学客員教授）
2	個人と家族の生活経営	非婚化、晩婚化、離婚と再構成家族の増加等、多様化し流動化する個人と家族の生活において、生活経営の目標と方法が確立しにくく、生活の質の確保が困難になっている。第一に、生活経営の背景としての経済、社会、家族環境の状況の全体像示す。第二に、生活経営の問題点として、生活経営の主体形成が稀薄化していること、生活手段の利用と配置に格差があること等を取り上げる。第三に、多様な生活形態における生活経営の主体形成と家族の共同生活を促すような経済的、社会的環境を展望し、個人と家族の生活経営を総合的に支援する家族生活政策の必要性を強調したい。	松村　祥子（放送大学教授）	松村祥子（放送大学教授） ゲスト：宮本みち子（放送大学教授）
3	居住環境整備における住居の質	住まいは家族生活の容器である。このことは生活が変わるにつれて住まいもそれに対応しながら変わらなければならないということを意味している。生活の質を問題にするときに常にこのことを念頭において考える必要がある。本章では，第二次世界大戦後の家族のあり方の変化と住まいの対応について概観し，標準設計方式が大量住宅供給に果たした役割と、その仕組みによって提供された住宅の質について考察する。	本間　博文（放送大学副学長）	本間　博文（放送大学副学長） ゲスト：亀田紀子（放送大学大学院修了者）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
4	居住環境整備における自立と共生	戦後の住宅供給を担った旧「住宅公団」も改組され，供給の第一線から退いたことに示されるように，標準設計方式による大量供給はすでに時代の要請から外れ，多様なライフスタイル，ライフステージの居住者に対してどのように対応していくかが問われている。そのような観点から注目されているスケルトン・インフィル方式の考え方を、NEXT21のプロジェクトを通じて紹介し、さらにこの考え方を取り入れたスケルトン定借マンション方式を介して住まいづくりにおける共生のあり方を探る。	本間　博文（放送大学副学長）	本間　博文（放送大学副学長）
5	21世紀の住まいづくりに求められるもの	21世紀の居住環境整備における重要な課題の一つは老朽化したマンションの建て替えである。この事業はまさに居住者主体の集合住宅づくりそのものである。この事業過程をトレースし，円滑に事業を進めるための条件を検証した結果，有能な事業コーディネータ（専門家）の存在と，集合住宅についての客観的であり，国民が容易に理解可能な性能表示制度の確立が必要であること，そしてこのような条件が整備されて初めて自立と共生が意味を持つことを述べる。	本間　博文（放送大学副学長）	本間　博文（放送大学副学長）
6	安全で安心できる消費生活　その1　商品・サービスの安全性確保と情報伝達	自然災害，犯罪，交通事故，消費する食品，生活用品，悪質商法，振り込め詐欺など生活のさまざまな場において，安全を脅かす事件や事故が続発している。それを過大あるいは過小に報道するマスコミの影響もあって，危険であるにもかかわらず多くの人々が安心している事例あるいはその逆の事例もある。商品・サービス消費にかかわる事故においても，危険の程度と人々の不安が対応していないものがある。とりわけ商品・サービス消費においては同じような事故が繰り返し起きており，この事故情報の収集とその伝達によって再発防止を推進する行政，事業者，生活者の役割を探る。	藤原　康晴（放送大学客員教授）	藤原康晴（放送大学客員教授） ゲスト： 中谷延二（放送大学教授）
7	安全で安心できる消費生活　その2　生活用製品による事故と使用者	生活用製品の事故が多発している。その事故原因の30%以上が使用者の不注意や誤使用によるものである。製品の使い方には，取扱説明書に記載されている「正常使用」，社会通念に反した無謀な「非常識な誤使用」およびその境界に「予見可能な誤使用」があり，これらの使用方法と責任所在について紛争処理の実態を取り上げて考察する。さらに，生活用製品による事故の未然防止，再発予防に向けて，行政，製造者の取り組みとともに実際の事故事例をもとに，使用者が自分の安全のために，そして他者の安全のために取り組まねばならないことは何かについて考える。	藤原　康晴（放送大学客員教授）	藤原　康晴（放送大学客員教授）
8	低炭素社会に向けた生活スタイル	地球温暖化が急速に進行しており，その原因とされている温室効果ガスの排出削減が緊要である。しかし，家庭部門のエネルギー消費は増大を続けており，低炭素社会の実現に向けた生活スタイルの創出が求められている。ここでは，家庭から排出されるCO_2を削減するため，生活系ごみのリディースを推進する市民，環境研究者，行政の協働した先進的な取組みを紹介する。さらに，日常生活のなかで排出しているCO_2の量を認識することによる生活者一人ひとりのエネルギー消費削減の実践とその効果を考察する。	藤原　康晴（放送大学客員教授）	藤原康晴（放送大学客員教授） ゲスト： 奈良由美子（放送大学准教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
9	健康生活とケアニーズ	医学の進歩、保健医療福祉の充実、また経済的発展は、日本に世界一の長寿社会をもたらしたが、一方では、急速な高齢化や高度医療技術の進歩を背景に、必ずしも皆が「健康」でいるわけではない。慢性疾患の増加、健康生活に対する欲求の高まりは、常に人々を健康不安に陥らせており、むしろ「病い」や「障がい」とともに健やかに生きるという考え方が求められつつある。本章では、健康や保健医療の領域で20世紀後半に起こった考え方の変遷にはどのようなものがあるのか、またそれに応じて登場した「クオリティ・オブ・ライフ」という概念の導入を歴史的に理解することで、人々の生活の自立・自律と「クオリティ・オブ・ライフ」を高めるケアニーズとはどのようなものかを考察する。	井上 洋士(放送大学准教授)	井上 洋士(放送大学准教授)
10	チームケアと看護活動の拡大	医療技術など治療医学の発展は、さまざまな疾病の原因の究明と治療に貢献し、平均寿命を飛躍的に延ばした。最新の治療も加わり、これまで治せなかった多くの患者の命を救っている。しかし、長期にわたるケアが重要な社会的課題になっており、それに対応する形でチームケアの必要性が出てきている。本章ではまず、チームケアとは何か、その一端を理解したうえで、チームケアの中心的な担い手である看護師は、チームの調整者としてどのように活動し役割を果たしているのか、具体的な事例を見ながら理解する。患者・家族や市民のチームケアへの参加とそれに向けてのレディネスについても考察を深める。	井上 洋士(放送大学准教授)	井上洋士(放送大学准教授) ゲスト: 高崎絹子(放送大学教授)
11	健康づくりに向けたプライマリケア体制の構築	人々のプライマリケアは，わが国では，疾病の治療は保険料を財源とした保険制度，そして疾病の予防は税金を財源とした自治体の保健事業という，ふたつの体制によって担われてきた。そして，充実したプライマリケア体制が確保され，平均寿命の大きな伸びがあり，結果として生活習慣病の増加が人々の健康づくりの深刻な課題になっている。そのような中で，平成18年6月に高齢者医療確保法が制定され，わが国のプライマリケア体制は，新たな段階を迎えているといえる。本章では，西洋医学のあゆみとそれを支えてきた体制，わが国のプライマリケア体制の特性と課題，また人々の健康づくりに向けた，今後のプライマリケア体制の構築をどのように展望するのか，それらのことを中心に学ぶ。	多田羅浩三(放送大学教授)	多田羅浩三(放送大学教授)
12	わが国の保健事業の史的展開 ―管理型から自発型へ―	わが国では、昭和12年に保健所法が制定され、医療施設から独立して、衛生思想、衛生体制の充実、疾病予防に特化した事業を担う機関として保健所が生まれた。昭和57年に老人保健法が制定され、市町村の保健事業が，人々の健康づくりの基盤として大きな役割を果たしてきた。その実績の上に、平成12年3月に健康日本21が発表され、平成14年には健康増進法が制定された。そして平成20年4月には，高齢者医療確保法が施行され，メタボリック・シンドロームを対象とした特定健診・保健指導が、医療保険制度の保険者によって実施されることになった。本章では，わが国における保健事業体制の特徴、推進されてきた主な保健事業の内容、その概容、特徴について学び、特定健診・保健指導が実施されることになったことの歴史的意義について考える。	多田羅浩三(放送大学教授)	多田羅浩三(放送大学教授)

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
13	利用者主体の社会福祉	2000年以降の社会福祉制度においては、措置制度(行政処分による福祉サービス)から利用制度(利用者主体の契約選択)への移行が目指されている。そこで推進されているのは、個人の選択を尊重した制度、質の高いサービスの拡充、個人の自立生活を総合的に支援する地域福祉の充実である。しかし、社会福祉が特別なニーズをもった一部の人を対象にするものではなく、広範な人々の自立支援のために利用されるものに移行する中で多く問題も発生している。特に自立支援の理念と方法の揺らぎの中で雇用への誘導が過度になされたり、サービスの質量が不足して家族の負担が過重になっている等、利用者主体の社会福祉の実質化には程遠い状況がみられる。新たな理念と枠組みの社会福祉の現状と課題を整理し、有効な生活支援策になるために必要な福祉環境について検討したい。	松村 祥子(放送大学教授)	松村 祥子(放送大学教授) ゲスト: 大曽根 寛(放送大学教授)
14	社会福祉の担い手	社会福祉の政策・制度を立案する者、公私の諸機関で社会福祉制度の運営に係わる者、相談・コーディネイトに携わる者、サービス提供に直接従事する者等、多くの種類と数の担い手によって社会福祉は実施されている。少子高齢化、情報化、国際化等の社会変化と個人や家族の生活変化の中で、社会福祉は大きな転換期にある。拡大するニーズと制限される社会資源の狭間にあって、社会福祉が人々の生活の質向上に資するためにはどのような社会福祉の担い手が必要であろうか。社会福祉の担い手が現在、直面している問題と課題を明らかにし、これからの社会福祉の担い手のあり方について検討したい。	松村 祥子(放送大学教授)	松村 祥子(放送大学教授) ゲスト: 大曽根 寛(放送大学教授)
15	つながりがもたらす「生活の質の向上」	家族，地域，職場等における人と人のつながりが生活満足度，充実感，安心感を与えていることが知られている。しかし，経済社会の変化やライフスタイルの多様化等によって人々のつながりが希薄化し，「生活の質」や社会にさまざまな影響を与えている。この科目の最後となるこの回では，生活者とその人的，物的，保健医療，社会福祉環境との共生を考えるとともに，社会福祉分野，次世代育成分野，環境保全分野，交通安全，防犯・防災分野，保健医療分野，看護分野，地域活性化分野など生活の各分野におけるつながりの構築に向けた活動を取り上げ，つながりの再構築のために何が必要であるかを考える。	藤原康晴(放送大学客員教授) 多田羅浩三(放送大学教授) 井上 洋士(放送大学准教授) 松村祥子(放送大学教授)	藤原康晴(放送大学客員教授) 多田羅浩三(放送大学教授) 井上 洋士(放送大学准教授) 松村祥子(放送大学教授)

事務局記載欄	開講年度	２００９年度	科目区分	大学院科目	科目コード	8910502	履修制限	無	単位数	2

科目名（メディア） ＝ 家族生活研究 （’０９）＝ （R）

〔主任講師（現職名）：宮本みち子（放送大学教授）〕

〔主任講師（現職名）：清水新二（奈良女子大学教授）〕

講義概要

現代の家族変動は激しく、21世紀のゆくえは家族のあり方を抜きにしては論じられないといわれるほど、その動向は重要テーマとなっている。講義では、家族の歴史的推移を整理し、そのなかに現代家族を位置付ける。また、制度、集団、家族生活としての家族の実態と理論的アプローチの方法を述べる。各章は家族理論と家族の実態を、研究の具体例を紹介しながら整理する。

授業の目標

家族現象に関して、生活者として、また、地域、行政、企業で家族や人間生活にかかわる仕事をしている担当者が、動きつつある家族の実態を多角的視点から柔軟に認識し、科学的知識や理論を修得し、家族をミクロ・マクロの両レベルから理解できることをねらいとする。また、個人・地域・公共の場で必要とされる家族をめぐる問題理解を深め、その対応についても社会的サービスや行政政策の観点から視野を広げる。

履修上の留意点

学部開講科目の「現代世界の結婚と家族('08)」「人口減少社会の生活像（'07）」「家族のストレスとサポート('08)」「ジェンダーの社会学('08)」を合わせて学習すると理解が深まる。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	家族をいかに観察するか	家族のありようは、社会構造の影響を受けるとともに、家族のありようが社会構造に変化をもたらす。また、家族のありようは個人のライフコースを規定すると同時に、後者からも影響を受ける。本章では、家族のありようを社会と個人との関係から、歴史的に概観する。多元的に家族をとらえることで、われわれがかつての家族について抱いているステレオタイプな理解から脱却することが可能になる。 【キーワード】 世帯、親族、直系家族制度、夫婦家族制度、家族認知、サラリーマンと専業主婦からなる世帯	嶋崎尚子（早稲田大学教授）	嶋崎尚子（早稲田大学教授）
2	集団としての家族	生活主体としての個人、生活システムとしての家族、社会構造の関連性から明らかになった実態は、どのように理解し、説明できるのか。その理論的枠組みを、制度、文化、規範、関係性、人間行為力をキーワードに整理する。ライフコース理論による家族研究を学習する。 【キーワード】 核家族、核家族の機能、家族の非社会性、家族周期モデル、家族発達モデル	嶋崎尚子（早稲田大学教授）	嶋崎尚子（早稲田大学教授）
3	ライフコースと家族	個人の発達過程と家族のライフコースを実証研究から考察する。家族は時間の経過のなかで、発達的に変化することを理解する。そのさい、現代日本社会の家族をとりあげるだけでなく、欧米社会の家族を比較対象としてとりあげる。 【キーワード】 ライフコース、ライフイベント、ライフコースの（脱）標準化、ライフコースの（脱）制度化、ライフコースの個人化	嶋崎尚子（早稲田大学教授）	嶋崎尚子（早稲田大学教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
4	社会システムとしての家族	現代社会における生活システムと家族システムとの相互連関について解説したうえで、子どもを生活主体と捉えて、子どもの育ちを支える子育ちシステムと子育ちシステムにおける家族（親）の役割について問題提起をおこなう。 【キーワード】 生活システム、家族システム、子育ち支援システム	神原文子（神戸学院大学教授）	神原文子（神戸学院大学教授）
5	相互作用としての家族	家族の相互作用研究を概説する。特に家族ストレス論（ABC－Xモデル、二重ABC－Xモデル、FAARモデルへの理論的進展）、「病」や「問題」を生み出す相互作用研究、そして演技や感情から家族の相互作用をみていく視座などを説明する。 【キーワード】 家族ストレス論、演技としての相互作用、感情としての相互作用	上野加代子（徳島大学教授）	上野加代子（徳島大学教授）
6	ネットワークのなかの家族	個人をとりまくネットワークの一部として家族をとらえる。個人のアイデンティティが固定化されるにはネットワークが供給する「重要な他者」が不可欠であり、重要な他者の供給装置としての家族の意義を概説する。そしてアジアの女性の国際移動と携帯やパソコンを利用したネットワーク、彼女たちのアイデンティティの変容についてもみていく。 【キーワード】 個人のネットワーク、アイデンティティ、国際移動の女性化	上野加代子（徳島大学教授）	上野加代子（徳島大学教授）
7	家族の個人化	家族の個人化という観点から動きつつある現代家族の実態とその背景を説明する。「家族の個人化」研究を紹介すると共に、近代家族から現代家族への推移を、家族の個人化、個別化、私事化などの傾向と関連させつつ述べる。 【キーワード】 家族の個人化、個別化、私事化、近代家族、個人単位の社会	清水新二（奈良女子大学教授）	清水新二（奈良女子大学教授）
8	生活者にとっての家族ライフスタイル	生活者にとっての家族ライフスタイルの多様なとらえ方と、家族ライフスタイルが多様化することの意味を解説するとともに、家族ライフスタイルの多様化を左右するライフチャンスについて問題提起する。とりわけ、健常者のみならず、子どもも障がい者も、だれもが生きる権利を尊重されるためのライフチャンスの条件整備を喚起したい。 【キーワード】 生活者、家族ライフスタイル、ライフチャンス	神原文子（神戸学院大学教授）	神原文子（神戸学院大学教授）
9	職業と家族	家族は職業・労働を通して所得を得て家族生活を再生産している。この回では家族と職業・労働をどのように結びつけて捉えるかを整理する。さらに、時代の推移とともに、職業と労働とがどのように発展し、そのことが家族にどのような影響を及ぼしてきたかをみていく。 【キーワード】 職業分類・職業・家族経営・雇用システム・日本型雇用・女性労働	宮本みち子（放送大学教授）	宮本みち子（放送大学教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
10	ジェンダーと家族	近代化にともなう「近代家族」の誕生が、ジェンダー関係にどのような影響を及ぼしたかをみる。また、子育てや介護などのケア・ワークに焦点を当てて、ジェンダーの視点からみる。最後に、家族の仕事・時間・お金を、ジェンダーの切り口で整理する。 【キーワード】 ジェンダー・性役割分業・家父長制・近代家族・アンペイド・ワーク	宮本みち子（放送大学教授）	宮本みち子（放送大学教授）
11	現代社会と家族ストレス	家族が体験する家族ストレスに焦点をあて、関連する概念の整理をしながら家族がどのようにストレスに向き合い、対処をしていくのかを学ぶ。あわせて、現代の家族が直面しやすい家族ストレスの社会的背景についてABCXモデルの枠組みを使いつつ説明し、理解を深める。 【キーワード】 家族システム、家族ストレス、ストレス対処戦略、家族危機、家族生活の二面性	清水新二（奈良女子大学教授）	清水新二（奈良女子大学教授）
12	家族と病い	病いが決して個人的事柄ではなく周囲をも含めた社会的な事柄、とりわけ家族にとってしばしば大きな生活上の出来事となって影響をおよぼすことを確認する。そのうえで病者本人と周囲の相互作用について学び、これを家族の生活に当てはめて考えるとどうなるかを検討する。 【キーワード】 欲求充足の相互規定性、分配正義、疾病利得と病者役割、共依存、アダルト・チルドレン	清水新二（奈良女子大学教授）	清水新二（奈良女子大学教授）
13	別れと遺族支援	家族生活に焦点をあわせながら、別れと悲嘆、そしてそこからの回復について、自死（自殺）遺族の場合を取り上げ、その実態、直面する苦悩、課題を理解する。その上でそうした家族問題への社会的対応一般について学び考える機会とする。 【キーワード】 喪失と悲嘆、曖昧な別れ、封印された死、自死遺族、自殺対策基本法	清水新二（奈良女子大学教授）	清水新二（奈良女子大学教授）
14	人口構造と家族	わが国の人口構造は、少産少死という歴史的な転換期の最終段階にあるが、「超少子化」といわれる低い出生率の状態が続いている。このような少子高齢化は社会の様相を大きく変えつつある。その実態をおさえ、少子高齢化がマクロレベルとミクロレベルでどのような世代間関係と関わっていうのかを整理する。 【キーワード】 人口高齢化・人口転換・合計特殊出生率・第2の人口転換・少子化対策	宮本みち子（放送大学教授）	宮本みち子（放送大学教授）
15	社会政策と家族	家族にかかわる社会政策の構成と、それが家族とどのような関連性を有しているのか、近年の社会政策の特徴をみていく。また、現代家族が生活保障システムとどのようにかかわりながら変容を遂げ、そこにどのような課題があるのかを検討する。 【キーワード】 社会政策・家族政策・福祉国家・脱商品化・脱家族化・稼ぎ手モデル・個人モデル・ジェンダー政策	宮本みち子（放送大学教授）	宮本みち子（放送大学教授）

事務局記載欄	開講年度	２００９年度	科目区分	大学院科目	科目コード	8910510	履修制限	無	単位数	2

科目名（メディア）＝　食健康科学　（’０９）＝（ＴＶ）

〔主任講師（現職名）：中谷　延二　（放送大学教授）　〕

〔主任講師（現職名）：小城　勝相　（奈良女子大学大学院教授）　〕

講義概要

高齢化した日本の社会において「健康」は最も関心の高い課題のひとつである。食生活は人間の生命と活動、健康を支えるもっとも基本的で重要な生活行為である。本科目ではヒトの健康の基盤となる重要な食品成分を解説し、生活の質“QOL”の向上に寄与することを目指した食の科学を論ずる。具体的には食品の機能（栄養機能、嗜好機能、生体調節機能）を概説し、食品素材に含まれる各機能を有する成分について解説し、動脈硬化、糖尿病、がんなどいわゆる生活習慣病の予防、食習慣の改善、機能性を発揮する食品（特定保健用食品、機能性食品など）について論究する。あわせて大きな社会的脅威と不安を与えた食品の安全性に関する問題と食環境の重要性を論ずる。

授業の目標

健康を目指した食生活を構築するためには食物（食品）に含まれる成分の基本的機能を理解する。栄養素の化学と機能をを習得し、さらに多種類の食材に含まれる微量な非栄養素の生体に有効にはたらく機能成分の理解を目標とする。あわせて嗜好性を豊かにする食品成分を知る。

履修上の留意点

化学と生物学の基礎を学んでおくこと、さらに栄養学、生化学関連の科目を履修していることが望ましい。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	食品の機能と健康	人間生活のなかで「食」はヒトの健康を支える最も重要な位置を占める。生命の維持、活動エネルギーの補給に食物（食品）を摂取する。食品には3つの機能（栄養機能、嗜好機能、生体調節機能）があり、食品に含まれる成分が機能を発現する。これら機能成分について概説する。 【キーワード】 食品の機能、栄養機能、嗜好機能、生体調節機能、特定保健用食品	中谷延二（放送大学教授）	中谷延二（放送大学教授）
2	糖質の科学	糖質（炭水化物）は主としてエネルギー源としてはたらく。日常的に摂取する穀類、イモ類、豆類に多く含まれるデンプンが主なエネルギー源である。糖質は単糖類，少糖類（オリゴ糖）、多糖類に分類され、それぞれの有効な機能を紹介する。消化、吸収、代謝機構を述べ、エネルギー産生機構を解説する。 【キーワード】 糖質、単糖類、少糖類、多糖類、グルコース、デンプン、オリゴ糖、食物繊維、エネルギー産生	中谷延二（放送大学教授）	中谷延二（放送大学教授）
3	脂質の科学	脂質は水に不溶で、有機溶媒に溶解する脂溶性食品成分である。高エネルギー栄養素である。脂質を構成する脂肪酸類の化学的特性を述べ、脂質の酸化反応および生合成経路を解説する。脂質の消化、吸収機構、機能についても述べる。 【キーワード】 脂質、脂肪酸、不飽和脂肪酸、コレステロール、過酸化脂質	中谷延二（放送大学教授）	中谷延二（放送大学教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
4	タンパク質の科学	タンパク質は生命を維持する上で重要な機能を担う。タンパク質を構成するのは20種類のアミノ酸であり、グリシンを除くとすべてL型と呼ばれる立体構造を持つ。地球生命におけるL-アミノ酸の起源からタンパク質の構造、酵素反応、機能について解説する。 【キーワード】 L-アミノ酸、必須アミノ酸、タンパク質、酵素、ヘモグロビン	小城勝相（奈良女子大学大学院教授）	小城勝相（奈良女子大学大学院教授）
5	ビタミンとミネラルの科学	これらは体内では合成できず、食物から摂取する必要のある栄養素である。ビタミンは、化学的性質はそれぞれ異なるが、すべて微量成分で、生命の維持・調節に不可欠な役割を持っている。ミネラルは1日あたり100 mg以上摂取すべきマクロミネラルと必要量がそれ以下のミクロミネラルに分類できる。体の中で1 kgも存在するカルシウムから、極微量しか存在しないセレンやコバルトまで多彩である。これらの化学と機能を解説する。特にカルシウムの機能と骨の健康について解説する。 【キーワード】 ビタミン、ミネラル、カルシウム、鉄、コバルト、セレン	小城勝相（奈良女子大学大学院教授）	小城勝相（奈良女子大学大学院教授）
6	嗜好成分の科学 香り成分の科学	「おいしさ」は食品、ヒト、環境などの因子によって決定される。それらの相互関係を概説するとともに、食品由来因子のひとつである「香り成分」を取り上げ、ヒトが香りを感知するしくみ、食品由来の香り成分、調理過程で生成する香り成分の化学的特性および機能性について論じる。 【キーワード】 おいしさを決定する因子、香り成分、香り成分の生成	菊﨑泰枝（大阪市立大学大学院准教授）	菊﨑泰枝（大阪市立大学大学院准教授）
7	呈味成分の科学	食品に含まれる呈味成分は、食品のおいしさを決定する最も重要な食品由来因子である。ヒトが味を感知するしくみを概説し、呈味成分（甘味、塩味、酸味、苦味、うま味の5基本味、および辛味、渋味）の化学的特性と機能性について論じる。 【キーワード】 甘味、塩味、酸味、苦味、うま味、辛味、渋味	菊﨑泰枝（大阪市立大学大学院准教授）	菊﨑泰枝（大阪市立大学大学院准教授）
8	食品色素の科学	食品に含まれる色素は構造上、ポルフィリン系、カロテノイド系、フラボノイド系などに分類できる。それぞれについて化学的特性、機能性について論じるとともに、褐変など食品の保存、加工、調理過程で生じる色素についても解説する。 【キーワード】 ポルフィリン系色素、カロテノイド、フラボノイド、褐変	菊﨑泰枝（大阪市立大学大学院准教授）	菊﨑泰枝（大阪市立大学大学院准教授）
9	生体内酸化ストレスと疾病	地球上のほとんどの生命は酸素を使ってエネルギーを得ている。エネルギーを使って生命は高い秩序を維持することができる。さらに環境汚染物質や医薬品などは肝臓で酸素を使った酸化反応によって解毒しているし、体内に侵入した病原菌などは酸素を使って殺している。一方、酸素は細胞内で活性酸素になって、老化、癌、動脈硬化などいわゆる生活習慣病を引き起こすと考えられている。あとで述べられる生活習慣病との関連において、望ましい酸化と望ましくない酸化、両方について化学的に解説する。 【キーワード】 酸化ストレス、ATP、恒常性、ラジカル反応、活性酸素、生活習慣病	小城勝相（奈良女子大学大学院教授）	小城勝相（奈良女子大学大学院教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
10	活性酸素による生活習慣病と食による予防	第9章でのべた、望ましくない酸化、即ち、活性酸素によって起こると考えられる生活習慣病の食による予防について解説する。 【キーワード】 活性酸素、動脈硬化、メタボリックシンドローム、生活習慣病、抗酸化系食品、特定保健用食品、コレステロール、高血圧	小城勝相（奈良女子大学大学院教授）	小城勝相（奈良女子大学大学院教授）
11	糖尿病の食による予防と是正	糖尿病は戦後急速に増加し、その予備軍まで含めると40歳以上の国民3人に1人に達する。急増の主因は、食の欧米化と身体活動量の低下である。糖尿病は血糖が上昇する疾患であるが、自覚症状がないまま進行し、網膜、腎臓、神経の障害、動脈硬化疾患などの合併症を発生させ、患者の生命と生活の質を脅かす。食事は、運動・薬物療法と並ぶ糖尿病治療の三本柱であり、量とバランスが考慮された糖尿病の食事療法は、すべての生活習慣病の予防・治療の基本となる。 【キーワード】 肥満、インスリン、HbA1C、食事療法、運動療法、食品交換表、管理栄養士	曽根博仁（お茶の水女子大学人間文化創成科学研究院准教授）	曽根博仁（お茶の水女子大学人間文化創成科学研究院准教授）
12	動脈硬化の食による予防と是正	食は健康の源であり、その量とバランスの乱れはさまざまな生活習慣病に結びつく。特に動脈硬化による脳卒中と心臓病は日本人の死因の三分の1を占めるが、糖尿病と共に、この動脈硬化を強く促進する脂質異常症（高脂血症）と高血圧の進行においても、身体運動と並び食習慣が深く関与している。現代に生きる我々は、これらの生活習慣病に対応するために、その食生活を根本的に見直すことが求められる。 【キーワード】 LDLコレステロール、HDLコレステロール、トリグリセリド、血圧、生活習慣病	曽根博仁（お茶の水女子大学人間文化創成科学研究院准教授）	曽根博仁（お茶の水女子大学人間文化創成科学研究院准教授）
13	メタボリックシンドロームとその他の生活習慣病の食による予防と是正	メタボリックシンドロームとは、放置されがちな初期の高血糖・高血圧・脂質異常症（高脂血症）が、肥満を背景に同一人に重なり、動脈硬化疾患が多発する状態である。その根本的原因は、過食と運動不足によるエネルギーバランスの乱れであり、解決には生活習慣の是正が必須である。他にもアルコール性肝疾患、痛風、一部の癌などについても食生活との関連が指摘されている。一方、科学的根拠が薄い健康食品の氾濫も問題になっており、消費者側も科学的エビデンスに基づく適切な判断が必要である。 【キーワード】 リスクファクター、診断基準、内臓脂肪、インスリン抵抗性	曽根博仁（お茶の水女子大学人間文化創成科学研究院准教授）	曽根博仁（お茶の水女子大学人間文化創成科学研究院准教授）
14	わが国で頻発する食品由来疾患	食の安全について、刹那的な情報に振り回されて不安を感じる者が非常に多い。本講義では、消費者として注意すべき食品由来疾患を患者数に基づいてランク付けし、各疾患の原因と対策について概要を説明する。 【キーワード】 ノロウイルス、カンピロバクター、サルモネラ、腸炎ビブリオ、下痢原性大腸菌	西川禎一（大阪市立大学大学院生活科学研究科教授）	西川禎一（大阪市立大学大学院生活科学研究科教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
15	健康な食生活	摂食の意義、食物の生体へのはたらき（食品成分の機能）について把握する。「何をどのように食べたらよいか」に関し、食生活指針、食事摂取基準、食事のバランス、食事バランスガイドを概説する。これからの栄養学として遺伝子学を取り入れたニュートリゲノミックス（栄養遺伝子学）を語る。 【キーワード】 食品機能、食事摂取基準、食事バランスガイド、遺伝子、ニュートリゲノミックス	中谷延二（放送大学教授）	菊崎泰枝（大阪市立大学大学院准教授） 小城勝相（奈良女子大学大学院教授） 曽根博仁（お茶の水女子大学人間文化創成科学研究院准教授） 中谷延二（放送大学教授）

＝　生活科学Ⅱ（‘０６）＝（TV）

―住民主体の居住環境整備―

〔主任講師（現職名）：　本間　博文（放送大学副学長）　〕
〔主任講師（現職名）：　小林　秀樹（千葉大学教授）　〕
〔主任講師（現職名）：　藤本　信義（宇都宮大学名誉教授）〕

全体のねらい

居住環境整備は２１世紀の日本社会が取り組むべき重要な社会課題の一つである。従来のように行政や民間のディベロッパーなど供給者側に依存した整備手法は、様々な限界を露呈し近年急速に居住者参加型のプロジェクトが増えつつある。本講義では、このような住まいづくり、まちづくりに参加する住民に対し、有効な知識や様々な情報並びに手法を提示し、プロジェクトの推進を支援しようとするものである。２章から８章までが住まいづくり、９章から１５章までがまちづくりと２部構成になっている。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	居住者参加の意味	集合住宅づくり、並びに居住地環境整備における居住者参加の意味を解説し、講義全体の狙いを述べる。２回目以後は、前半を住まいづくり、後半を居住地環境整備について論じる。	本間博文（放送大学副学長） 藤本信義（宇都宮大学名誉教授）	本間博文（放送大学副学長） 小林秀樹（千葉大学教授） 藤本信義（宇都宮大学名誉教授）
2	世界のコープ住宅	居住者組合（housing co-operative）による住宅供給は、欧米、カナダで盛んに取り組まれており、その全体像を概観する。併せて日本の居住者参加型集合住宅の位置づけを明らかにする。 海外取材映像を活用する。	小林秀樹（千葉大学教授）	小林秀樹（千葉大学教授）
3	日本のコーポラティブ住宅	日本のコーポラティブ住宅の歴史と特徴を紹介する。とりわけ、最近企業やコーディネーター主導の企画型コープが増えてきているが、現地ロケなどの映像を交えてその実態を解説する。 ゲスト　中林由行氏（NPO コープ住宅推進協議会事務局長）	本間博文（放送大学副学長）	本間博文（放送大学副学長）
4	スケルトン定借マンションの事業プロセス	スケルトン定借マンションは、居住者参加が必須の条件ではないが、通常のコーポラティブ住宅に比べて土地取得のハードルがない分、参加型の事業が大半を占める。この新しい住宅供給システムの紹介と事業プロセスを解説する。 ゲスト　田村誠邦㈱アークブレイン代表	小林秀樹（千葉大学教授）	小林秀樹（千葉大学教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
5	居住者参加による環境共生住宅	環境と共生することにより、都市への建物の環境負荷を出来るだけ軽減し、出来るだけ良好な状態で自分たちの居住環境を造ろうとする運動がコープ住宅と一体となって実現している。居住者参加による環境共生住宅の現状を紹介する。 ゲスト　甲斐徹郎　㈱チームネット代表	本間博文（放送大学副学長）	本間博文（放送大学副学長）
6	コレクティブハウジング	家族形態の多様化を受けて生活の一部を共同化する住まい方を求めたコ・ハウジング（スウェーデンではコレクティブハウス）が欧米を中心に定着している。現地での取り組みと近年の日本での展開を紹介する。	小谷部育子（日本女子大学教授）	小谷部育子（日本女子大学教授） 小林秀樹（千葉大学教授）
7	住民参加による公共住宅の再生	公共住宅の建て替えや大規模改修にあたり、居住者参加を重視する動きが出てきている。その背景と課題について事例を交えて考察する。	横山俊祐（大阪市立大学大学院教授）	横山俊祐（大阪市立大学大学院教授） 本間博文（放送大学副学長）
8	マンション建て替え	老朽化するマンションの建て替えは今後重大な社会問題に発展する可能性が高い。当然居住者参加によって事業を進められることになるが、参加のあり方が大きな課題になる。近年の事例を紹介しながら、今後の取り組みへの指針を探る。 ゲスト　田村誠邦㈱アークブレイン代表	本間博文（放送大学副学長）	本間博文（放送大学副学長）
9	まちづくりワークショップ（1）参加型まちづくりの手法	参加型まちづくりの手法として、ワークショップは広く適用されるようになっているが、その種類、内容、適用範囲は多岐にわたっている。まず、ワークショップとは何かを明らかにしたうえで、米国の事例に学びながら適用の実態を整理し、実際の企画と運営方法等について論じる。	藤本信義（宇都宮大学名誉教授）	藤本信義（宇都宮大学名誉教授）
10	まちづくりワークショップ（2）ワークショップの実際	ワークショップが参加型まちづくりにどのように有効なのか、留意点は何か等について、経験してみないと実感としてなかなかとらえにくい。そこで、参加型まちづくりを進めているひとつの事例を採り上げ、ワークショップの具体的な進め方にふれてもらい、初歩的な理解に資する。	藤本信義（宇都宮大学名誉教授）	藤本信義（宇都宮大学名誉教授）
11	「つなぎ」の戦略によるまちづくり	「まちづくりはヒトづくり」であるが、モノづくりとコトおこしが連動している。モノ・ヒト・コトをつなぐことによって活き活きとしたまちづくりができることを、具体例で提示する。都市農村交流や、昔と今をつなぐまちづくりについても、その必要性を明らかにする。	藤本信義（宇都宮大学名誉教授）	藤本信義（宇都宮大学名誉教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
12	NPO によるまちづくり	NPO によるまちづくりへの取り組みが盛んになりつつあることに焦点をあて、NPO の活動領域をまず概観し、実際にまちづくり活動を展開している NPO の位置づけを行う。具体的な事例としては、特定地域のまちづくりに関わる NPO と、全国を視野に入れて都市農村交流を図る NPO の２つを紹介する。	藤本信義（宇都宮大学名誉教授）	藤本信義（宇都宮大学名誉教授）
13	景観に配慮したまちづくり	欧米に比べて遅れをとってきた我が国の景観行政も、「景観法」の公布・施行によって、良好な景観を国民資産として守り育てることを明らかにした。景観に配慮したまちづくりを行うためには、市民が景観をどのように評価し、どのように行政との協働を図るべきかを、先進的な自治体の取り組みをもとに検討する。また、景観規制の厳しいフランスの事例から、景観計画の視点を学ぶ。 ゲスト　和田幸信（足利工業大学教授）	藤本信義（宇都宮大学名誉教授）	藤本信義（宇都宮大学名誉教授）
14	グラウンドワーク	行政依存により身近な居住環境と関わることが希薄化してしまった現代社会で、ボランティアなどコミュニティやＮＰＯの力を引き出し、企業や行政と連携して身近な居住環境をコミュニティが創造していく動きをつくろうとするのがグラウンドワークである。1980 年代はじめに英国に端を発し日本のみならず世界に広がりつつあるグラウンドワークの考え方と実践方法を紹介する。 ゲスト　小山善彦（バーミンガム大学講師）	三橋伸夫（宇都宮大学教授）	三橋伸夫（宇都宮大学教授）
15	グリーンツーリズムと農家民宿	過密な大都市に生まれ育ち、時間に追われてストレスを抱える都市生活者が増えるにつれて、緑豊かな田園環境でゆったりとした時間を家族や友人と過ごすグリーンツーリズムが注目され、こうした人々を引き受け交流するため農家が自らの居住環境を整える農家民宿が増えつつある。その動きを先進地のひとつである英国やわが国の事例を通して紹介しながら今後のあり方を探る。 ゲスト　青木辰治（東洋大学教授）	三橋伸夫（宇都宮大学教授）	三橋伸夫（宇都宮大学教授）

事務局記載欄	開講年度	２０１０年度	科目区分	大学院科目	科目コード	8910570	履修制限	無	単位数	2

科目名（メディア） ＝ 健康科学の史的展開 （’１０）＝ （ＴＶ）

〔主任講師（現職名）：多田羅浩三（放送大学教授）〕

〔主任講師（現職名）：高鳥毛敏雄（大阪大学大学院特任教授）〕

講義概要

平均寿命世界一の社会は、世界一多様な健康状態の人たちが生活する社会であり、そのような社会が求めている新しい科学の役割こそ、「健康科学」が担わなければならないか。そうした課題に対し、歴史的な視点に立って、講義ではヒポクラテス以来の人類の医学のあゆみ、また人々の健康を支える制度の構築に先駆的な取り組みをすすめてきたイギリスのプライマリケア・システムの発展の系譜や現状、またわが国の現代の地平について学ぶ。そして健康科学の新しい展望について、21世紀の健康科学が、人々の多様な健康状態を支える科学として、どのような課題に直面し、どのような方向に向かっているのか、考えたい。

授業の目標

「健康科学」が、どのような道を歩んで築かれてきたのか、現在どのような地平にあるのか、21世紀にどのような方向を展望すべきか考察することによって、人々の保健、医療を担う専門職の人たちが、高齢社会の中で直面する今日の人々の多様な健康課題に対し、より広く、より長期の展望のもとに、より自立的な対応をすすめることができるよう、見識を培って欲しい。

履修上の留意点

健康科学は、対象とする領域が非常に広い。これに対し、歴史的な視点や海外の経験に学ぶという観点から、アプローチして欲しいという考えから、本講義では、健康科学の原点である医学の歴史、社会保障制度の母国とされるイギリスのプラマリケア発展の系譜、現状を最初に取り上げることにした。そのことに留意して履修いただきたい。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	Ⅰ．医学の歩み 1．ヒポクラテスの医学	西洋医学の父といわれ、医神アスクレピオスを奉じて活躍した、ヒポクラテスの医学の、症状の観察、液体病理学、瘴気論という方法と考え方、またヒポクラテスの医学を継承したローマ時代の医師、ガレノスの生気論を中心に、その内容、特徴について学び、西洋医学の原点を確認したい。 【キーワード】 ヒポクラテスの医学，症状の観察，液体病理学，瘴気論，生気論	多田羅浩三（放送大学・教授）	多田羅浩三（放送大学・教授）
2	2．液体病理学・瘴気論	人間の発見をモットーとする、ルネッサンスという時代を迎え、ヴェザリウスの解剖学が生まれ、ハーベイ、ラマッツィーニ、モルガーニ、ビシャー、シュヴァン、ウイルヒョウらによって刻まれた、ヒポクラテスの液体病理学から細胞病理学へのあゆみを通じて得られた、人間の疾病の本態についての理解、その特徴について考えてみよう。またヒポクラテスは空気が悪いから病気になる，環境が悪いから病気になると考えた。この瘴気論との闘いに，最初に名乗りをあげたのが，ジョン・スノーである。スノーがどのような手法によって、瘴気論の世界を突破する地平を開いたか学ぶ。 【キーワード】 解剖学，血液循環論、働く人々の病気、一般解剖学、細胞病理学，コレラへのたたかい	多田羅浩三（放送大学・教授）	多田羅浩三（放送大学・教授）
3	3．瘴気論・症状の医学	パスツールによる免疫学、コッホの細菌学、フレミングによる抗生物質の発見によって、瘴気論への挑戦がすすみ、ナイチンゲールの新しい病院機能、看護学校の創設、ペッテンコーフェルの衛生学によって瘴気論が継承された。それらの実践の中ですすめられてきた疾病への闘いのあとをたどる。ヒポクラテスの医学において、最も重視された手法は症状の詳細な観察と記録である。産業革命を背景に登場してきた病院を舞台に区分収容という方法を取り入れ、ブライトが症状の中に疾病を発見するという診断学の手法を明らかにした。診断学を教える場所として病院附属の医学校が創設され、現代の医学を担う医師が養成されてきた。 【キーワード】 免疫学，細菌学，抗生物質，看護学校，衛生学、病院、区分収容、診断学	多田羅浩三（放送大学・教授）	多田羅浩三（放送大学・教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
4	Ⅱ. イギリスのプライマリケアの歩みに学ぶ 4. 人々の健康を支えるシステム	イギリスでは、1911年の国民健康保険制度の制定以降、公衆衛生、一般医の医療の上に、病院の医療が重ねられるよう、プライマリケアの管理システムをどのように構築するか、1948年の国民保健サービスの実施を経て、100年に近い取り組みがすすめられてきた。現地にオックスフォードシャー・プライマリケア・トラストを訪問し、話を聞いた。システム構築の歩みについて学び、トラストの現状や成果、課題について紹介したい。 【キーワード】 国民健康保険制度、国民保健サービス、ドーソン報告、国民保健サービス・地域ケア法，プライマリケア・トラスト	多田羅浩三（放送大学・教授）	多田羅浩三（放送大学・教授）
5	5. 人々の健康を支える施設	プライマリケアの中核を担っているヘルスセンター、地域ケアの拠点施設として幅広い役割を果たしているコミュニティ・ホスピタル、多様な住民を対象とした母子保健事業の拠点となっている小児センター、在宅ケアを受けている難病の子どもたちのためにかけがえのない役割を担っている小児のホスピス、これらの施設が、人々の身近にあって、広くイギリスの人々のプライマリケアを担っている。オックスフォードに設置されている、これらの施設を訪問し、話を聞いた。これらの施設の発展の系譜について学び、施設の役割や特徴について紹介したい。 【キーワード】 ヘルスセンター，コミュニティ・ホスピタル，小児センター，子どものホスピス	多田羅浩三（放送大学・教授）	多田羅浩三（放送大学・教授）
6	6. 人々の健康を支える多様な専門職	疾病のみではなく健康状態を診るという理念のもとに活躍している一般医、また地域の健康課題のよき相談相手として活躍してきた保健師、ナイチンゲール以来の伝統をもち、在宅ケアを担っている地区看護士など、多様なる保健専門職によって、イギリスの人たちの健康は支えられている。オックスフォードを訪問し、これらの専門職の人たちに会って、話を聞いた。プライマリケアを担う専門職の人たちの発展の系譜について学び、彼らが担うサービスの現状や特徴について紹介したい。 【キーワード】 一般医、保健師、地区看護師、地区新生児臨床看護師	多田羅浩三（放送大学・教授）	多田羅浩三（放送大学・教授）
7	Ⅲ. 現代の地平 7. 現代社会の健康課題	明治期に入り、産業化をすすめる中で、貧困問題、労働者の健康問題、不衛生の問題が生じてきた。これに対するために社会制度が整えられ様々な健康課題を克服してきた。高度経済成長期には公害などの環境汚染問題が課題となった。近年は生活習慣病が健康課題として大きな課題となっている。生活習慣病に対するには制度を整えるだけではなく、人々が主体的に健康を守る社会づくりが大切である。ヘルスプロモーションが社会運動として進められてきている理由もここにある。明治時代からの健康課題の推移を学び、現代社会における健康課題の現状を鳥瞰し、それに対する社会のあり方や重視されている考え方について学ぶ。 【キーワード】 天然痘，コレラ，結核，脳卒中、がん、生活習慣病、メンタルヘルス、ヘルスプロモーション	高鳥毛敏雄（大阪大学大学院特任教授）	高鳥毛敏雄（大阪大学大学院特任教授）
8	8. 人口政策と母子保健	わが国は多産多死型からは少産少死型の社会になってきている。人口政策、母子保健の対策は、社会、国家の存亡に関わる重要な問題である。 人口政策、母子保健活動の歩みを振り返ってみる。人口政策の点からは合計特殊出生率も低下し、少子化に対する対策が課題となっている。母子保健領域においては、乳児死亡率、妊産婦死亡率は大幅に改善しているが、子育て支援、乳幼児に対する虐待防止対策、発達障害者に対する支援など、新たな難しい課題に対する対策が求められてきている。これらについて学ぶ。 【キーワード】 人口政策、乳幼児死亡、合計特殊出生率、保健師、保健所、母子保健法、地域保健法、自治体	高鳥毛敏雄（大阪大学大学院特任教授）	高鳥毛敏雄（大阪大学大学院特任教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
9	9. 労働者の健康への挑戦	農耕、狩猟生活をしていた人々の中から鉱工業の労働者として生活する者、また工場労働者、勤務者、自営業者などとして働らく人々が登場してきた。働らく人々の健康問題は現代社会におけるの重要な健康課題となっている。労働と健康、職場と健康について歴史的経過及び労働者の健康保護制度を理解する。働く人々の健康管理体制、健康増進対策、また労働災害、職業病、作業関連疾患の予防を取り巻く状況について考える。 【キーワード】 農耕社会，労働者，勤務者，自営業者	高鳥毛敏雄（大阪大学大学院特任教授）	高鳥毛敏雄（大阪大学大学院特任教授）
10	10. 都市と健康	先進国における「都市と健康」の歴史を振り返ってみる。都市の健康問題は労働者人口の増加により生じてきた。都市には商人、様々な自営業者、労働者が存在し、現在フリーター、ネットカフェ難民、ホームレスなどの不安定生活者の健康管理も課題となっている。欧米諸国の大都市には移民などの外国人の問題が大きい状況にある。HIV感染症、薬物汚染、多量飲酒者、暴力・虐待などの問題も生じている。社会的な要因を踏まえた都市の新たな健康政策を進める運動が進められている。都市と健康について歴史的な流れの中で現代社会における都市と健康について学ぶ。 【キーワード】 都市、不安定就労者、結核問題，HIV感染者，ホームレス、移民、ヘルシーシティーズ	高鳥毛敏雄（大阪大学大学院特任教授）	高鳥毛敏雄（大阪大学大学院特任教授）
11	11. 健康の危機管理	わが国の健康危機管理体制としては、保健所体制の中で食品・環境衛生、母子保健、結核対策が進められてきた。しかし、地域保健法が成立してから、阪神淡路大震災などの自然災害、腸管出血性大腸菌O157の流行、バイオテロの脅威、SARSや新型インフルエンザなどの新感染症の発生に際し、国民の健康を保護するための公衆衛生制度の再構築が課題となってきている。ここでは、わが国のこれまでの健康危機事例に基づき、健康危機管理体制の現状や課題について紹介する。また、イギリスにおける新たな健康危機組織について学ぶ。 【キーワード】 伝染病対策，食品衛生，環境衛生，自然災害、大腸菌O157、バイオテロ、SARS、食品安全、新感染症	高鳥毛敏雄（大阪大学大学院特任教授）	高鳥毛敏雄（大阪大学大学院特任教授）
12	12. 人々の健康を支える事業	人々の健康を支えるため事業は、社会の様々な組織や団体の人々によって実施されている。健康事業は、保健所、自治体、地域医師会などに属する医師、歯科医師、薬剤師、保健師、看護師、栄養士、理学療法士などの専門職の人々によって担われている。学校や事業所においても健康事業が行われている。地域の人々の健康に関わるNPOなど民間団体が担う役割が大きくなってきている。また、地域の健康づくりに関わる市民組織や地域組織の活動も重要である。人々の健康を支える事業について紹介する。 【キーワード】 健康支援、医療保健専門職，専門職団体，民間団体，自助組織，公衆衛生活動	高鳥毛敏雄（大阪大学大学院特任教授）	高鳥毛敏雄（大阪大学大学院特任教授）
13	Ⅳ. 21世紀の展望 13. 公衆衛生の役割と展望	現代の公衆衛生は、産業革命を背景とした人口の都市への集中と国際的な経済交流の発展を背景とした感染症の流行という事態に直面して生まれた社会の制度である。フランクやチャドウイック、ラムゼイ、シモン,長与専斎らの活躍によって構築されてきた、公衆衛生の伝統について学ぶ。とくに社会の関与が人々の健康に対し、どのような地平を開いてきたかについて考える。 【キーワード】 フランク，チャドウイック，ラムゼイ，シモン，長与専斎、社会の関与，4つの地平	多田羅浩三（放送大学・教授）	多田羅浩三（放送大学・教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
14	14. 健康日本21の開く地平 ―制度と知恵をつなぐ―	西洋医学は、人類の疾病への闘いに大きな成果をあげてきた。その現代の優等生は日本である。1986年には男女ともに平均寿命世界一の記録を達成した。そのような実績にもかかわらず、わが国の生活習慣病による死亡数は激増している。平均寿命世界一の社会は、最も多様な健康状態の人たちが生活している社会である。結果として、人々の生活習慣、医療保険制度、保健事業や福祉事業のあり方が厳しく問われている。現代の健康科学は、新たな展開を厳しく求められているといえる。そのような状況の中ですすめられている、健康日本21の推進、特定健診・保健指導実施の意義について考える。 【キーワード】 平均寿命世界一，生活習慣病，医療保険制度，保健事業，健康日本21、特定健診・保健指導	多田羅浩三（放送大学・教授）	多田羅浩三（放送大学・教授）
15	15. 社会を支える制度の歩みと展望	人類の歴史の中で生まれ発展してきた制度の中で、とくにイギリスの歴史にみられる、陪審制度、議会制度、大学、修道院の解体と救貧法、プロフェッションの誕生などにフォーカスをあてて、長い歴史の中で人々の社会を支える制度が築かれてきた歩みについて学ぶ。そして講義の最終回として、21世紀の今日、社会を支える制度のあり方について、社会保障の母国といわれるイギリスにおける歩みから何を学ぶか、何を展望するか考えたい。 【キーワード】 陪審制度，議会制度，大学，救貧法，プロフェッション，社会の制度，人々の知恵	多田羅浩三（放送大学・教授）	多田羅浩三（放送大学・教授）

事務局記載欄	開講年度	２０１０年度	科目区分	大学院科目	科目コード	8910553	履修制限	有	単位数	2

科目名（メディア） ＝ 精神医学特論 （’１０）＝ （R）

〔主任講師（現職名）：石丸 昌彦（放送大学教授）〕

〔主任講師（現職名）：仙波 純一（さいたま市立病院精神科部長）〕

講義概要

精神医学は、頭や心の働きの変調や障害に関する知識の集大成であり、精神疾患の診断や治療のあり方を検討する深くて広い学問である。本科目は臨床心理士養成コース大学院の科目であるので、専門的な医学的な知識がなくとも理解できるよう工夫がなされている。今日見られる代表的な疾患を広くとりあげて事例をあげつつ紹介し、診断ばかりでなく治療の基本的な流れを解説することに力点が置かれている。

授業の目標

主な精神疾患について、症状・経過・診断・治療など基本的なことがらを正しく理解習得する。そのことを通じ、精神障害をもつ人々がどんな困難を抱えているかを知るとともに、適切な援助を行うにはどうすればよいか具体的に工夫できる力を養う。また、医学・医療において精神医学が担っている役割を理解し、今日の社会において精神障害者福祉が抱えている課題や将来展望を自ら考える姿勢を身につける。

履修上の留意点

あらかじめ学んでおく科目として特に指定するものはないが、日頃から健康や医学の問題に関心を持ち、家庭医学書や新聞・書籍などを通じて心身の健康についての基礎知識を養っておくことが望ましい。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	精神医学とは何か	医学において精神医学の占める位置を確認しつつ、精神医学の歴史と現状を展望する。精神症状を把握するための面接法、臨床検査法、診断法についての基本的な考え方を学ぶ。 【キーワード】 精神医学、従来診断、DSM-Ⅳ、ICD-10	石丸 昌彦（放送大学教授）	石丸 昌彦（放送大学教授）
2	気分障害(1)	従来の診断名では躁うつ病と呼ばれる気分障害をとりあげ、その疫学、症状、推定されている成因などについて学ぶ。今日の精神医療において最も重要なテーマのひとつである。 【キーワード】 気分障害、躁うつ病、うつ病	仙波 純一（さいたま市立病院精神科部長）	仙波 純一（さいたま市立病院精神科部長）
3	気分障害(2)	気分障害の治療法を構成する薬物療法と精神療法の役割を述べる。抗うつ薬・気分安定薬など主な治療薬の特徴と注意点、精神療法の基本原則のほか、電撃療法や認知療法などにも言及する。 【キーワード】 抗うつ薬、気分安定薬、認知療法	仙波 純一（さいたま市立病院精神科部長）	仙波 純一（さいたま市立病院精神科部長）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
4	統合失調症（1）	かつて精神分裂病と呼ばれていた統合失調症は、現在でも精神医療の大きな課題である。その概念、疫学、症状、診断基準、成因仮説、最近の動向などについて学ぶ。 【キーワード】 統合失調症、精神分裂病、ドーパミン仮説	石丸 昌彦（放送大学教授）	石丸 昌彦（放送大学教授）
5	統合失調症（2）	統合失調症の治療法すなわち、薬物療法、精神療法、作業療法、SSTなどについて述べる。抗精神病薬の作用・副作用と使用の意義を理解するとともに、疾患の特徴を踏まえた援助のあり方について考える。 【キーワード】 抗精神病薬、作業療法、SST	石丸 昌彦（放送大学教授）	石丸 昌彦（放送大学教授）
6	不安障害と関連事項（1）	従来の診断名では神経症と呼ばれる疾患群を不安障害としてとりあげ、その主なものについて、疫学、症状、治療法などを述べる。本章ではパニック障害、強迫性障害、恐怖症などを扱う。 【キーワード】 神経症、不安障害、パニック障害、強迫性障害、恐怖症	石丸 昌彦（放送大学教授）	石丸 昌彦（放送大学教授）
7	不安障害と関連事項（2）	第6章に続き，不安障害と関連事項について学ぶ。本章ではヒステリー、適応障害、心的外傷後ストレス障害（PTSD）などに焦点を合わせ、ストレスと心の健康の関係についても考える。 【キーワード】 ヒステリー、転換性障害、解離性障害、適応障害、心的外傷後ストレス障害（PTSD）	石丸 昌彦（放送大学教授）	石丸 昌彦（放送大学教授）
8	身体疾患による精神障害	身体疾患にともなって生じる精神障害は、精神医学においてはきわめて重要なテーマである。代表例を通じてその特徴を学び、現代における意義を考える。てんかんについても簡単に言及する。 【キーワード】 症状性精神病、器質性精神病、てんかん	石丸 昌彦（放送大学教授）	石丸 昌彦（放送大学教授）
9	小児期の精神障害	小児期に明らかとなる広汎性発達障害、学習障害、注意欠陥多動性障害などについて述べる。これらの障害は今日注目を集めており、正しく理解することが必要である。 【キーワード】 発達障害、広汎性発達障害、自閉性障害、学習障害、注意欠陥多動性障害（ADHD）	市川 宏伸（東京都立梅ヶ丘病院院長）	市川 宏伸（東京都立梅ヶ丘病院院長）
10	思春期・青年期の精神障害	思春期・青年期にはさまざまな精神障害が発症・顕在化する。その中で特にこの時期に特徴的な疾患としてパーソナリティ障害と摂食障害をとりあげ、概念、症状、診断、治療などについて学ぶ。 【キーワード】 パーソナリティ障害、摂食障害、神経性無食欲症、神経性大食症	石丸 昌彦（放送大学教授）	石丸 昌彦（放送大学教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
11	壮年期の精神障害	壮年期の精神障害は、職場や家庭での社会的責任やストレスと関連するものが多い。本章では心身症とアルコール依存症をとりあげ、その概念や症状について学びつつ今日の現状を展望する。 【キーワード】 心身症、アルコール依存症、物質関連障害	石丸 昌彦（放送大学教授）	石丸 昌彦（放送大学教授）
12	老年期の精神障害	わが国が直面している超高齢化社会では、高齢者の心の健康はきわめて重要な課題である。本章では老年期認知症を中心に、老年期の精神疾患の特徴や注意点を学ぶ。 【キーワード】 老年期認知症、アルツハイマー型認知症、血管性認知症、うつ病	石丸 昌彦（放送大学教授）	石丸 昌彦（放送大学教授）
13	精神科治療（1）	精神科治療薬の種類とその推定される作用機序について述べる。個々の治療薬の特徴を知るとともに、精神科の薬物療法において注意すべき点を学ぶ。 【キーワード】 向精神薬、臨床試験、EBM	石丸 昌彦（放送大学教授）	石丸 昌彦（放送大学教授）
14	精神科治療（2）	精神科面接の基本的な進め方について学び、面接そのものが持つ治療効果について理解する。また、精神疾患の特徴に応じた精神療法のあり方について、いくつかの例を通して理解する。 【キーワード】 精神科面接、心理教育、疾患に応じた精神療法的配慮	石丸 昌彦（放送大学教授）	石丸 昌彦（放送大学教授）
15	日本の精神医療の現状	日本の精神医療の歴史と現状を行政・法律や社会意識の面から検討する。本人の同意なしに治療を行う場合の人権保護の問題や、精神障害者の社会復帰を支える援助のあり方を含む。 【キーワード】 精神保健福祉法、強制入院、患者の人権、社会復帰	石丸 昌彦（放送大学教授）	石丸 昌彦（放送大学教授）

事務局記載欄	開講年度	２００９年度	科目区分	大学院科目	科目コード	8910537	履修制限	無	単位数	2

科目名（メディア） ＝ 看護ケアの倫理学 （’０９）＝ （R）

〔主任講師（現職名）：髙﨑絹子（放送大学教授）〕

〔主任講師（現職名）：山本則子（東京医科歯科大学教授）〕

講義概要

近年、医学や科学技術が進歩するなかで、医療における倫理的課題への関心は、先端 的医療や医療事故等の問題に止まらず、また、医療従事者や医療を受ける患者や病弱者 だけでなく、一般の人々の間にも高まっている。それは、医療は予防から急性期・慢性 期治療、リハビリテーション、さらにターミナルに至る人生のあらゆるステージで、人々の生老病死に密接に関わりをもち、QOLに深く関連しているからである。現実的な健康課題や医療的ニーズを満たすために、そこに生ずる倫理的課題を理解して看護ケアを提供することである。本科目では、医療倫理の原則、看護倫理の課題を理解し、一人一人がどのように判断し、看護ケアを提供することが必要かについて考察する。

授業の目標

医療倫理や看護倫理の歴史と原則を踏まえて、看護ケアを提供する場の特徴と倫理的課題について理解し、解決のためのプロセスを考える。倫理的課題は、医療従事者、患者・病弱者及び家族それぞれの価値観や判断とそのズレ、さらに、医療や日常生活を取り巻く環境や制度・政策の状況等に深く関連していることを理解する。できるだけ事例を多く取り上げるとともに、理論的な検討を行うことを目指す。

履修上の留意点

医療倫理、看護ケアの倫理的課題の特質から、個々の倫理的課題に対応する明確な解 答を求めるのではなく、課題をめぐる様々な状況を含めて、アセスメント能力、判断能 力を高めるのが重要であることを理解する。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	看護ケアの特質と看護倫理	保健医療福祉の場においては、cure（治療）とcare（ケア）が両輪となって機能することが重要である。しかし、治療や療養生活の方針をめぐって、患者・クライアント、医師や他のスタッフ、あるいは家族との間に意見の違いが生じ、さまざまな問題や倫理的課題が起こる。看護者は、その解決をめぐってさまざまなジレンマに直面するが、ここではCareを第一義的な役割とする看護者は、患者・看護・医師との間の人間関係や職場環境の調整を含め、問題解決のためにどのように倫理的責任と役割を果たすことができるかを考察する。	髙﨑絹子（放送大学教授）	髙﨑絹子（放送大学教授）
2	医療における倫理的原則	「ヒポクラテスの誓い」を嚆矢とするローカル色強く師弟継承的な誓約は、時代下るとともに同業職能集団の自己規定的な内視へと発展してきた。現代にいたって、そこに医療を受ける側の人々の権利という視点が導入されることとなった。医療従事者ばかりでなく、市民、法学者・司法者や行政者、そして倫理学者が望ましい医療のあり方を模索し、これまで実に様々な倫理的な綱領、宣言、原則が提出されてきた。しかしこれらすべてが矛盾なく調和しているわけではないし、医療従事者が個々のケースにそれらをただ機械的に適用することで倫理問題を必ず解消できると期待することはできない。そこで倫理的原則の厳選・適用範囲・制約を探っていく必要がある。	服部健司（群馬大学大学院医学研究科教授）	服部健司（群馬大学大学院医学研究科教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
3	医療倫理学と看護倫理学	医療倫理の「医療」を医師法に定められた医業を指すとみると、医療倫理は医師の振舞い方をめぐる規範としてとても狭く理解されることになる。他方、「医療」を広くとらえるならば、医療倫理は看護倫理をも包含するものとみなされる。その場合、看護倫理に特異的な要素というものは何なのだろうか。他の医療職種にとっての倫理と看護倫理とが決定的に違う点はあるのだろうか。それらが衝突し合うことはないのだろうか。看護師は看護倫理のみを問い求め、考えていさえすれば十分なのだろうか。こうした問いに答えるためには、医療と看護との関係、倫理と倫理学の意味やはたらきといった基本的な事柄に立ち返って考えてみる必要がある。	服部健司（群馬大学大学院医学研究科教授）	服部健司（群馬大学大学院医学研究科教授）
4	看護倫理の理念	看護ケアの実践では倫理的判断を求められる場面が多く、看護ケアの倫理は看護の専門性と深くかかわっている。ここでは看護倫理の歴史とその位置づけ、看護倫理の原則、看護師の倫理綱領について概観し、看護ケアの倫理における理念とは何か、またそれはどのような特質をもつかを考える。	大西香代子（三重大学医学部看護学科教授）	大西香代子（三重大学医学部看護学科教授）
5	看護ケアにおける倫理的課題	看護ケアにおける倫理的課題に気づき、適切な倫理的判断を行うために必要な概念やモデルについて概観する。またプライバシー保護や機密保持、インフォームド・コンセント、意思決定支援など、患者・クライアントや家族に対する看護ケアの実践にとって普遍的な倫理概念について考える。	大西香代子（三重大学医学部看護学科教授）	大西香代子（三重大学医学部看護学科教授）
6	成人期の看護ケアと倫理（1）ー急性期の看護を中心としてー	ライフサイクルにおいて成人期は、個人的にも家族・社会的にも重要な役割を担っており、特に成人期の疾病は重大な影響をもたらす。成人期の急性期にみられる倫理的な課題には、救急患者のインフォームド・コンセントと代理決定、脳死と臓器移植などがあげられる。これらの内容と現状について理解し、倫理的課題に直面した場合に看護者が取り得る態度や行動を、既存の理論などを用い、事例を通して考察する。	山本則子（東京医科歯科大学大学院保健衛生学研究科教授）	山本則子（東京医科歯科大学大学院保健衛生学研究科教授）
7	成人期の看護ケアと倫理（2）ーガン看護を中心としてー	ガンは生命に関わる疾患であり、ガン患者の治療の過程においては、告知やインフォームド・コンセント、治療の進め方から死の迎え方まで、様々な倫理的課題が生じる。以前に比べると、診断や治療は格段の進歩を遂げ、緩和ケアを実施するところも多くなってきたが、選択肢の増加などにより新たな倫理的課題も生じている。ガン看護で患者や家族の苦しみに寄り添う看護者が、どのように倫理的役割を果たすことができるかを事例を通して考察する。	大西香代子（三重大学医学部看護学科教授）	大西香代子（三重大学医学部看護学科教授）
8	母子看護ケアと倫理（1）ー母性看護の倫理を中心としてー	人が生まれるプロセスは、長期の妊娠期間とドラマチックともいえる出産に象徴される。このプロセスには、妊産婦の身体的、心理的な問題だけでなく、家族的、社会的的な状況が影響しており、そこには多くの倫理的課題が含まれている。医学技術の発達により、妊娠出産に伴う危機から多くの命が救われるようになったが、一方では、生む生まないの選択、人工流産、不妊治療、さらには遺伝子診断、対外受精や代理出産の問題等の先端医療技術も医療倫理課題をより複雑にしている。こうした様々な背景や治療とケアの問題に伴う倫理的課題を理解し、援助するために看護者の果たす倫理的役割を、事例を通して考察する。	石井トク（日本赤十字北海道看護大学学長）	石井トク（日本赤十字北海道看護大学学長）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
9	母子看護ケアと倫理(2)ー小児看護の倫理を中心としてー	子どもがこの世に生を受け、心身ともに健康に成長して社会人として育つまでには、母親や家庭だけでなく、多くの人々のあたたかい支援が必要である。特に、疾病や傷害をもつ子どもは、医療だけでなく、様々なケアを必要とするが、家族の養護や育児能力が十分でなかったり、環境が整っていない場合には、生命の危機など、基本的な生存権を奪われる場合もある。看護者は、子どもや母親などの養護者の状況を的確に把握し、適切な援助を行うとともに、倫理的課題の解決を図るために何をする必要があるかについて事例を通して考察する。	石井トク（日本赤十字北海道看護大学学長）	石井トク（日本赤十字北海道看護大学学長）
10	精神科看護ケアと倫理	精神科看護ケアにおいては、患者本人の意思が不明瞭であったり、家族の意向や社会の要請との間にギャップを生じたりすることが多い。また、非自発的な入院治療や隔離・拘束が認められるている領域であることから、患者の立場はきわめて弱く、特に倫理的配慮の必要な領域といえる。看護者が患者を暴力的に支配した負の歴史もふまえながら、その人権擁護における看護者の役割について、事例を通して考察する。	大西香代子（三重大学医学部看護学科教授）	大西香代子（三重大学医学部看護学科教授）
11	高齢者看護ケアと倫理(1) ー急性期における看護を中心としてー	身体的、心理的、社会的のいずれの側面にも自立能力が低下した高齢者は、権利や尊厳が侵されやすい立場におかれることが多い。特に、治療が優先される医療の場では、しばしば治療方針と高齢者や家族のニーズとの間にギャップが生じ、緊急を要する手術や人工呼吸器の装着、あるいは臓器移植や高度医療に伴う濃厚な治療が行われる場合、倫理的問題が生じることが多い。高齢者をめぐる倫理的課題を理解し、高齢者の健康と安全,QOLを守るために、看護者の倫理的役割は何かについて既存の理論を用い、事例検討を通して考察する。	山本則子（東京医科歯科大学大学院保健衛生学研究科教授）	山本則子（東京医科歯科大学大学院保健衛生学研究科教授）
12	高齢者看護ケアと倫理 (2) ー認知症の看護ケアを中心としてー	認知症をもつ人とその家族をケアする際には、多くの倫理的課題に直面する。治療や各種セラピーに関する意思決定、社会資源の利用に関する意思決定、療養の場と生活に関する決定などである。これらの課題の構造と現状について理解し、倫理的課題に直面した場合に看護者がとり得る態度や行動を、既存の理論などを用い、事例検討を通して考える。併せて認知症をもつ人への権利擁護の活動や成年後見制度などについて学ぶ。	髙﨑絹子（放送大学教授）	髙﨑絹子（放送大学教授）
13	在宅ケアと倫理	家庭はプライベートな場であり、他者の介入には限界がある。このため在宅ケアにおける倫理的課題は、施設における課題とは異なる様相を呈する。家族の介護責任についての考え方、家族による介護放棄・虐待の問題、社会資源の利用に関する意思決定などである。これらの課題の構造と現状について理解し、倫理的課題に直面した場合に看護者がとり得る態度や行動を、既存の理論を用い、事例検討を通して考察する。	山本則子（東京医科歯科大学大学院保健衛生学研究科教授）	山本則子（東京医科歯科大学大学院保健衛生学研究科教授）
14	看護研究と倫理	人間を対象とする研究を行う際には、研究の目的やその結果がもたらす影響を十分考慮するとともに、研究の対象となる人へのインフォームド・コンセントや、安全に配慮して行う必要がある。医学・医療の発展の歴史においては、多くの研究が行われてきたが、研究の対象となる人の安全と権利を守るために、ヘルシンキ宣言が採択された。看護分野においても看護研究の倫理指針が定められているが、医学研究に参画したり、看護研究を行う際の看護職の倫理的配慮と役割について考える。	髙﨑絹子（放送大学教授）	髙﨑絹子（放送大学教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
15	看護倫理の課題と展望	医療・看護を取り巻く状況は急速に変化し、また、人々の生活様式や価値観も時代の影響を受けて多様化している。医療サービスに対するニーズも多岐にわたり、要求レベルが高まっているが、倫理的問題も増加している。医療の学際的な協力、国際化が求められるなかで、チームケアの中心的な役割を担う看護者は、人々のQOLの向上を目指して、様々なジレンマを乗り越え、看護の倫理的意思決定のプロセスにおけるアセスメントや判断能力を向上させることにより、問題の解決と倫理的役割を果たすことであることを学ぶ。	髙﨑絹子（放送大学教授）	髙﨑絹子（放送大学教授）

事務局記載欄	開講年度	２００９年度	科目区分	大学院科目	科目コード	8910545	履修制限	無	単位数	2

科目名（メディア） ＝ スポーツ・健康科学 （’０９）＝ （R）

〔主任講師（現職名）：樋口　満　（早稲田大学教授）〕

〔主任講師（現職名）：福永　哲夫（鹿屋体育大学長）〕

講義概要

はじめに、今日、私たちがスポーツを日常生活のなかに積極的に取り入れることの意義を歴史的視点から概説する。次に、運動・スポーツの生理学的基礎、及び健康の保持・増進という視点から運動・スポーツの理論について解説する。さらに、運動・スポーツが子どもや女性の健康の保持増進、中高年者の生活習慣病の予防に及ぼす効果を解説する。また、生活習慣病の運動療法、老化防止・介護予防に及ぼす運動・スポーツの有効性について、社会経済的視点とも関連させて解説する。

授業の目標

我々が生活する現代社会は、日常生活において身体活動が著しく不足する傾向があり、さまざまな生活習慣病の発症を助長している。そのため、子どもから高齢者に至るすべての年齢階層において、意識的に運動・スポーツを組み込んだライフスタイルの構築が必要である。そこで、全15回の講義を通して、運動・スポーツの生理学的基礎理論の理解を踏まえて、全生涯にわたっての運動・スポーツを取り入れた生活が、健康の保持・増進にとっていかに重要であるかを理解し、自発的、積極的な運動・スポーツ実践や運動・スポーツ指導につながることを目標とする。

履修上の留意点

「身体福祉論（’07）－身体運動と健康－」を学んでおくと、本講義の理解が容易になるので望ましい。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	はじめに －健康の保持・増進という視点から運動・スポーツを科学する－	現代社会において、運動・スポーツが健康の保持・増進、生活習慣病予防のために重要であることを理解するために、人間の生活史について解説する。日本の健康づくりの沿革について解説する。 【キーワード】 運動不足病、生活習慣病、メタボリックシンドローム、運動基準2006、運動指針2006	樋口　満（早稲田大学スポーツ科学学術院・教授）	樋口　満（早稲田大学スポーツ科学学術院・教授）
2	運動・スポーツの生理学(1) 呼吸・循環器系機能と運動・スポーツ	呼吸・循環器系の構造と機能の理解を踏まえて、一過性運動時の喚気応答、心拍数、心拍出量、酸素摂取量の変化を理解する。そして、持久性トレーニングによる最大酸素摂取量の増加と持久性運動能力の向上について説明する。 【キーワード】 呼吸器系、循環器系、最大酸素摂取量、持久性トレーニング	宮地元彦（(独)国立健康・栄養研究所・プロジェクトリーダー）	宮地元彦（(独)国立健康・栄養研究所・プロジェクトリーダー）
3	運動・スポーツの生理学(2) 神経・骨格筋系機能と運動・スポーツ	神経系の構造と機能、脳の運動中枢、及び運動の発現と制御、運動が脳・神経系に及ぼす効果を解説する。骨格筋の構造と機能、骨格筋の力学的特性（筋線維特性）、及び運動トレーニングが骨格筋の構造と機能に及ぼす影響について解説する。 【キーワード】 脳・神経系、運動の発現と制御、骨格筋の力学的特性	福永哲夫（鹿屋体育大学・学長）	福永哲夫（鹿屋体育大学・学長）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
4	運動・スポーツの生理学(3) エネルギー代謝機能と運動・スポーツ	エアロビック、及びアネロビックな一過性運動時のエネルギー代謝と関連する栄養素の機能、及び運動時の各種ホルモン動態、さらに疲労の発現について解説する。また、トレーニングによるエネルギー基質の代謝的変化について解説する。 【キーワード】 エネルギー代謝、エネルギー源栄養素、運動時のホルモン動態	樋口 満 (早稲田大学スポーツ科学学術院・教授)	樋口 満 (早稲田大学スポーツ科学学術院・教授)
5	健康の保持・増進のための運動・スポーツの理論(1) トレーニング概論	トレーニングの理論とトレーニング条件(強度・頻度・期間)について概説するとともに、暑熱環境下におけるトレーニング時の水分補給の重要性について健康管理という視点から解説する。 【キーワード】 トレーニングの法則、トレーニング強度、トレーニング頻度、トレーニング期間、暑熱環境	福永哲夫 (鹿屋体育大学・学長)	福永哲夫 (鹿屋体育大学・学長)
6	健康の保持・増進のための運動・スポーツの理論(2) エアロビックトレーニング	持久性運動(エアロビックエクササイズ)の各種強度指標について解説する。各種エアロビックトレーニングによる最大酸素摂取量の変化とその要因について健康の保持・増進という視点から解説する。 【キーワード】 エアロビック運動、最大酸素摂取量、%V02max、METS(メッツ)	谷口有子 (国際武道大学・教授)	谷口有子 (国際武道大学・教授)
7	健康の保持・増進のための運動・スポーツの理論(3) レジスタンストレーニング	筋力と筋量増強に及ぼすレジスタンストレーニングの効果について、健康の保持・増進という視点から解説する。 【キーワード】 レジスタンス運動、筋パワー、筋持久力	福永哲夫 (鹿屋体育大学・学長)	福永哲夫 (鹿屋体育大学・学長)
8	運動プログラムの管理と運動負荷試験	運動プログラムを実施するに当たって必要なメデイカルチェック、及び運動負荷試験と心電図モニタリングについて解説する。また、服薬者における運動プログラムについても解説する。 【キーワード】 運動プログラム、メデイカルチェック、運動負荷試験、心電図モニタリング	坂本静男 (早稲田大学スポーツ科学学術院・教授)	坂本静男 (早稲田大学スポーツ科学学術院・教授)
9	健康の保持・増進と運動・スポーツ(1) 子どもの発育・発達と健康	少年期から思春期を経て青年期に至る身体の形態発育、及び機能発達と、それらに影響を及ぼす運動習慣と各種運動・スポーツの効果について、健全発達と健康管理という視点から解説する。 【キーワード】 発育、発達、暦年齢、生理学的年齢	谷口有子 (国際武道大学・教授)	谷口有子 (国際武道大学・教授)
10	健康の保持・増進と運動・スポーツ(2) 女性の健康と性ホルモンの影響	女性の身体的特徴とその加齢変化について、女性ホルモンの役割と関連させて概説する。そして、女性の健康・体力と、それに影響を及ぼす運動・スポーツの効果について、食習慣とも関連させて解説する。 【キーワード】 女性の身体的特徴、女性の体力、性ホルモン	谷口有子 (国際武道大学・教授)	谷口有子 (国際武道大学・教授)

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
11	生活習慣病予防と運動・スポーツ(1) 肥満・高脂血症	メタボリックシンドロームの概念と定義を概説し、その基礎疾患としての内臓脂肪型肥満、肥満判定について解説する。また、肥満、高脂血症の予防や運動療法について減量と関連づけて解説する。 【キーワード】 メタボリックシンドローム、内臓脂肪型肥満、高脂血症、減量	坂本静男 (早稲田大学スポーツ科学学術院・教授)	坂本静男 (早稲田大学スポーツ科学学術院・教授)
12	生活習慣病予防と運動・スポーツ(2) 高血圧症・動脈硬化	高血圧症、動脈硬化の発症メカニズムとそれらの運動による予防と運動療法について解説する。 【キーワード】 高血圧症、動脈硬化	宮地元彦 ((独)国立健康・栄養研究所・プロジェクトリーダー)	宮地元彦 ((独)国立健康・栄養研究所・プロジェクトリーダー)
13	生活習慣病予防と運動・スポーツ(3) 糖尿病	糖尿病の定義と分類、および2型糖尿病の発症メカニズムについて概説する。一過性運動時の糖代謝の変化、及び持久性トレーニングによる糖代謝機能改善効果について解説する。 【キーワード】 糖尿病、血糖値、インスリン、GLUT4	樋口 満 (早稲田大学スポーツ科学学術院・教授)	樋口 満 (早稲田大学スポーツ科学学術院・教授)
14	生活習慣病に対する適切な運動療法	生活習慣病に対する適切な運動療法について、各種有疾患者に対する注意点と運動処方の実際について解説する。 【キーワード】 生活習慣病の有疾患者、運動処方、運動療法	坂本静男 (早稲田大学スポーツ科学学術院・教授)	坂本静男 (早稲田大学スポーツ科学学術院・教授)
15	老化防止・介護予防と運動・スポーツ	高齢社会における介護予防、QOL向上という視点から、高齢者に対する運動・スポーツの有効性について解説する。また、その社会・経済的効果について解説する。 【キーワード】 高齢社会、老化防止、介護予防、QOL	宮地元彦 ((独)国立健康・栄養研究所・プロジェクトリーダー)	宮地元彦 ((独)国立健康・栄養研究所・プロジェクトリーダー)

事務局記載欄	開講年度	２０１０年度	科目区分	大学院科目	科目コード	8910588	履修制限	無	単位数	2

科目名（メディア）＝　社会福祉研究　（’１０）＝（R）

〔主任講師（現職名）：松村　祥子　（放送大学　教授）　〕

講義概要

転換期にある社会福祉の現状と課題を明らかにし、生活者にとって効果的なものにする為の研究方法を示す。社会福祉の専門家にとってだけでなく、医療・保険及び生活分野の専門職にとっても有効な教材とする。

第一に、現在の社会福祉研究の背景と課題を明らかにする。経済、社会、家族環境の下で進行中の福祉改革によって変化する社会福祉が抱える課題を明らかにする。第二に、社会福祉研究のテーマと研究方法について、人々の生活の質の向上と生活改善という尺度でみた場合、どこが評価でき、どこに問題があるのかについて検討する。第三に現在の社会福祉が目標とする「利用者主体の社会福祉」を実現するために不可欠な「生活者モデル」の構築と展開を示す。第四に、社会福祉の方法・技術の展開の課題を他領域も視野に入れながら、検討する。第五に社会福祉研究の発展の為の要点を明らかにする。

授業の目標

生活健康科学プログラムの1つの柱である「社会福祉研究」は主として社会福祉分野の研究テーマをもつ人だけでなく、家族・生活経営、消費科学、健康科学（医療、保健、スポーツ科学）を研究テーマとする人にも履修して頂きたい。

履修上の留意点

学部の社会福祉関係の科目の他、社会学、経済学、法律学関係の科目も履修すると、社会福祉研究の深さと広さがよく理解できるであろう。

	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
Ⅰ.	研究の背景			
1	日本の社会福祉の背景	長寿化、男女共同参画、流動化する雇用環境への対応は、21世紀の社会福祉にとっての試金石である。人口構造、家族構造、雇用構造などの変化と社会福祉の関係を明らかにする。 【キーワード】	松村　祥子（放送大学教授）	松村　祥子（放送大学教授）
2	福祉国家体制の変化	先進国の少子高齢化、家族の変化、政府の債務の累積、グローバル経済の拡大により福祉国家を巡る環境は大きく変化した。戦後の福祉国家の変遷を社会・経済環境の変化との対応から説明する。 【キーワード】	駒村　康平（慶應義塾大学　教授）	駒村　康平（慶應義塾大学　教授）
3	社会福祉理論の動向と課題	社会福祉の本質は何か，社会福祉の社会的意義は何か，という問いに答えるのか社会福祉理論の一つの役割である。社会福祉は，実学であり，実践に直結していない抽象的な理論など必要ないと思われるかもしれない。しかし，社会が変動している今こそ，社会福祉の歴史的社会的役割を明らかにして，時代に流されない社会福祉独自の視点を必要としているのである。これまでの社会福祉の主要な理論動向を概観し，現代における課題を明らかにする。 【キーワード】	岩崎　晋也（法政大学教授）	岩崎　晋也（法政大学教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
Ⅱ．研究テーマと研究方法				
4	社会福祉行政をめぐる問題	中央政府主導型の社会福祉は、現在のように相違の大きくなった地域での生活を支援していくためには有効ではない。社会福祉の地方分権化及び地域福祉の推進の中でも、地域間格差や責任主体の不明確化等多くの問題が発生している状況を明らかにする。 【キーワード】	松村 祥子（放送大学教授）	松村 祥子（放送大学教授）
5	社会福祉の経済問題	社会保障・社会福祉も資源を使う必要がある以上、経済の制約から逃れることができない。市場メカニズムが機能しない社会保障・社会福祉においても、財政制度からの制約や市場経済からの影響を受けることになる。社会保障・社会福祉における資源の配置問題を経済学の視点から考える。 【キーワード】	駒村 康平（慶應義塾大学 教授）	駒村 康平（慶應義塾大学 教授）
6	社会福祉の専門性	社会福祉の専門性に関する論議では、社会福祉援助におけるスペシャリティ（高度専門知識や技術）は何かということよりも、社会福祉援助の固有性は何か、あるいは、社会福祉援助職独自の視点や方法、役割は何かというものが目立つ。本講義では、専門職資格問題、利用者主体の時代における援助職の役割、多職種協働、といったテーマをもとに、固有性/独自性とスペシャリティに関する論点を整理し、その研究課題を提示したい。 【キーワード】	副田 あけみ（首都大学東京 教授）	副田 あけみ（首都大学東京 教授）
7	対象分析	社会福祉研究は、実践を科学するところから始まる。具体的には、社会福祉の施設、機関等で行われている実践をその対象とする。その前提として、さまざまな生活上の困難や問題をもっている人々がどのようなプロセスで社会福祉実践の対象となるに至ったか、いかなる社会システムがさまざまな生活上の困難や問題を生み出したのかについても検討する必要がある。本講義では、社会福祉研究がこれまでどのように対象を捉え分析してきたのか、また、新しい対象分析の方法や最近の動向を紹介する。 【キーワード】	山田知子（大正大学教授）	山田知子（大正大学教授）
8	理念・価値の転換に関して	社会福祉実践・運動は，それ自体が「福祉」の実現という価値を含んでいる。だが，何が「福祉」という価値なのかは自明ではない。むしろ，歴史的社会的状況に応じて変化してきたと言えるであろう。そこで，社会福祉が前提としてきた基本的な人間観・社会観を明らかにした上で，近代市民社会において社会福祉が実現しようとしてきた理念や価値を明らかにする。 【キーワード】	岩崎 晋也（法政大学教授）	岩崎 晋也（法政大学教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
Ⅲ. 社会福祉研究の基盤－生活者モデルの構築と展開－				
9	生活者モデルの必要性と構築	生活が多様化し、生活不安の高まる現在の日本においては、個人や家族の生活問題を社会的ネットワークの中で解決していくための生活者モデルが必要である。 【キーワード】	松村 祥子（放送大学教授）	松村 祥子（放送大学教授）
10	生活者モデルの展開	社会福祉研究の中心に生活者あるいは当事者をおくこと、いわゆる生活モデルからの発想は、福祉を研究するときの基本的視点としてきわめて重要である。なぜなら、それまで、政策供給サイドや心理的側面や疾病や障害という側面からのみみることで見失われがちであった当事者の生活上の問題の総合性や複層性を浮き立たせ、当事者にとってもっともよい方法を内側から見出すことができる、と同時に、埋もれているあらたな問題性や政策的盲点を明らかにすることもできるからである。その結果、社会福祉関連の制度や政策、サービスの組み換えの方向性を当事者の目線で、具体的に明らかにすることができる。本講義では、生活モデルの具体的展開方法について、生活を空間と時間、さらに生活を支える関係性といった複層的なアプローチを紹介しながら、生活モデルの探究の方法とその問題も検討したい。 【キーワード】	山田 知子（大正大学教授）	山田 知子（大正大学教授）
Ⅳ. 社会福祉の方法・技術の展開と課題				
11	ソーシャルワーク	ソーシャルワーク研究の昨今のトレンドに、ポストモダン・アプローチの可能性、根拠にもとづく実践対内省的実践、実践の理論化、感情労働論などがある。本講義では、それぞれのトレンドの社会的背景と意義を論じたうえで、研究事例を紹介し、研究上の論点を整理する。 【キーワード】	副田 あけみ（首都大学東京 教授）	副田 あけみ（首都大学東京 教授）
12	ケアワーク	高齢社会の到来、要介護者や認知症高齢者の増大で、ケアワークはますます重要になっている。しかし、その概念規定は多様であり、定まっているとはいえず課題が多い。加えて、業務の多面的研究、賃金や労働条件といった労働という側面からの研究、歴史的、国際的比較研究など、研究の蓄積は決して多いとはいえない。この理由は、ケアワークが家庭内労働、いわゆる家事労働と近いところで、女性の非専門的な仕事あるいは奉仕活動（ボランティア）として行われてきたため、社会的な仕事として認知されることなく、研究対象となることが遅れたためと考えられる。ケアワークを担ってきたのは、女性たちである。ケアワークの研究は、まず、女性とケアワーク、すなわち、ジェンダーという視点を抜きには前に進むことは許されないだろう。本講義では、まず、ケアワークの概念をめぐる最近の動向をみる。次に、ケアワークを研究するいくつかの代表的アプローチ、ジェンダーとケアなどについて紹介する。さらに、国際比較の研究動向について、福祉国家のあり方とケアワークなどについても言及したい。 【キーワード】	山田 知子（大正大学教授）	山田 知子（大正大学教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
13	社会福祉の管理・運営	地域ケアの時代にあっては、個別事例への援助において、組織間の連携やチームアプローチによる支援が、また、地域資源の活用のためのネットワークづくりが必要となってくる。本講義では、子ども虐待や高齢者虐待を取り上げ、チームアプローチやネットワーク構築に関する研究を紹介し、実践上の課題と研究上の課題を論じる。 【キーワード】	副田 あけみ(首都大学東京 教授)	副田 あけみ(首都大学東京 教授)
V.社会福祉研究の発展のために				
14	社会福祉の総合化	社会福祉は社会・経済から強い影響を受ける。今日の直面している社会福祉を巡る財政問題、人材問題などがその例である。社会福祉を経済・政治・行政のなかでどのように位置づけ、関連づけていくか述べていきたい。 【キーワード】	駒村 康平(慶應義塾大学 教授)	駒村 康平(慶應義塾大学 教授)
15	研究者の立場	これから社会福祉を研究する者が有するべき基本的な視点や問題意識について述べる。特に社会福祉学が担わなければならない新たな研究課題にどのように取り組むべきなのか，将来の社会福祉研究者への期待をこめて述べていきたい。 【キーワード】	岩崎 晋也(法政大学教授)	岩崎 晋也(法政大学教授)

事務局記載欄	開講年度	２０１０年度	科目区分	大学院科目	科目コード	8910561	履修制限	無	単位数	2

科目名（メディア）＝　現代の福祉政策　（’１０）＝　（R）

－担い手の役割と責任－

〔主任講師（現職名）：大曽根　寛（放送大学教授）〕

講義概要

社会福祉は、政策や制度を立案する者、公私の諸機関で実施にかかわる者、市民の福祉へのニーズを制度につなげる者、多様なサービス供給に携わる者、ボランティアなど、多様な種類と多数の担い手によって運営されている。また、社会福祉制度も大きな構造的変革を遂げつつある現在、その担い手は多分野にわたるようになっており、多くの資格制度とも関連している。時代の変革期にあって、もっとも必要なことは、政策・制度と市民の間にあり、社会福祉を有効に機能させる担い手の役割である。その役割と責任を明らかにし、養成のプロセスを打ちだしてくことは、現代の福祉政策の中心的な課題である。

授業の目標

この教材では、まず福祉政策が構造的な変容を遂げるとともない、担い手の議論をする必要が生じてきたことを確認する。そして、政策の立案と運営を担当することとなる機関において働く職員、例えば、公務員、法人職員の位置と機能を明確にする。また、立法・行政・司法機関に働きかける運動についても、地域における実践家の養成も、忘れることは出来ない。次に、担い手の労働と生活について検討しつつ、さらに担い手の養成に関しても議論を深め現代的な課題に応えようとする。最終的には、担い手が政策に従属する忠実な遂行者として活動するというよりも、政策を形成し変革し続ける主体となることを目指

履修上の留意点

この教材は、社会福祉の入門書ではない。社会福祉についての基礎知識を有し、介護や実践にかかわっている方たちへの更なる前進の手がかりを提供しようとするものである。したがって、学部における社会福祉関係科目の履修を前提として作成されていることに留意されたい。

回・章	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	社会福祉の構造と担い手	この教材の目的が、現代の社会福祉の理念と技術を確立するとともに、福祉政策の形成と運営に寄与する担い手の役割と責任を論ずることにあることを理解する。また、政策の形成・運用は市民の活動が立法・行政・司法など国家の機能に影響していることについても学習する。 【キーワード】 福祉政策、担い手、市民	大曽根　寛（放送大学教授）	大曽根　寛（放送大学教授）
2	福祉職の形成過程	戦後日本社会における福祉専門職の形成過程を、四つの時期区分を設け概観する。また、福祉専門職の「専門性」や「専門職制度」を「属性モデル」や「プロセスモデル」の概念から、その性質や可能性を検討する。 【キーワード】 専門性、属性モデル、プロセスモデル	三好　禎之（愛知新城大谷大学准教授）	三好　禎之（愛知新城大谷大学准教授）
3	国家の変容と担い手の多様性	社会福祉は、政策や制度の立案者、実施にかかわる者だけではなく、より広い範囲の人々によって担われている。そのことを、日本における司法制度改革を実例として取り上げながら、社会福祉へのニーズを法制度につなげる役割を果たす「担い手」について考える。 【キーワード】 国家、法人、裁判	大曽根　寛（放送大学教授）	大曽根　寛（放送大学教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
4	地域社会と自治体	福祉基礎構造改革の流れにおいて、自治体の役割も変化しつつある。福祉政策における国・都道府県・市町村の役割分担を考えるとともに、自治体と協働する立場にある、NPO・ボランティア・地域自治会などの団体の役割についても考えたい。 【キーワード】 公助・共助・自助、地方自治体、地域団体、協働	金川めぐみ（和歌山大学准教授）	金川めぐみ（和歌山大学准教授）
5	立法・行政・司法機関と運動	地域福祉における当事者・支援団体と行政の連携のかたちをホームレス支援から考える。ホームレス自立支援のための立法・行政・司法機関と運動の連携はどのように始まったのか、また現在のホームレス自立支援がかかえる課題は何か考えることを通じて、「運動」と「政策」の接点をさぐる。 【キーワード】 ホームレス、当事者、特別措置法、ネットワーク、自立支援	金川めぐみ（和歌山大学准教授）	金川めぐみ（和歌山大学准教授）
6	実践から制度・施策への展開	高次脳機能障害者のリハビリテーションの実践において、現場の問題意識から出発し国のモデル事業を経て、新たな制度・施策へと展開した過程を捉える。 【キーワード】 高次脳機能障害、多職種チーム、実態調査、モデル事業	阿部順子（岐阜医療科学大学教授）	阿部順子（岐阜医療科学大学教授）
7	当事者・家族と専門家の役割	セルフヘルプグループである脳外傷友の会の設立と活動において、専門家が果たした役割と当事者が当事者能力を発揮して福祉の担い手になっていった経過から、当事者・家族と専門家の協働について考える。 【キーワード】 脳外傷友の会、当事者能力、協働	阿部順子（岐阜医療科学大学教授）	阿部順子（岐阜医療科学大学教授）
8	福祉職の実践と労働	戦後社会における老人福祉に関する法制度の形成や処遇内容を概観する。また、戦後混乱する社会のなかで、養老院などが、いかに老衰者や生活困窮者らを支えてきたのかを整理する。加えて、特別養護老人ホームが創設された背景を概観する。 【キーワード】 看護ホーム、特別養護老人ホーム、生活の場、介護実践	三好　禎之（愛知新城大谷大学准教授）	三好　禎之（愛知新城大谷大学准教授）
9	雇用・労働条件と労働法	日本においては長時間労働や低賃金など介護労働者が厳しい労働条件に置かれていることが知られ、社会福祉分野において担い手の労働条件の改善に関心が持たれている。福祉の担い手に関わる、労働基準法や最低賃金法など労働法の概要とその問題点を探る。 【キーワード】 最低賃金、労働契約法、労働者派遣	高橋賢司（立正大学専任講師）	高橋賢司（立正大学専任講師）
10	福祉職の労働条件のあり方	近時、福祉関係職の労働条件、とりわけ介護保険法や障害者自立支援法下における福祉専門職の労働条件の問題は深刻である。そこで、障害者自立支援法の仕組みがいかに福祉専門職の労働条件と関わっているのかを例に雇用条件の問題を考えていきたい。 【キーワード】 応益負担、日割り計算、横だし行政	高橋賢司（立正大学専任講師）	高橋賢司（立正大学専任講師）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
11	福祉職と社会保険	福祉職の労働基盤を確保するためには、生活リスクに対応する社会保険の存在が不可欠である。ここでは社会保険のあらましを概説するとともに、社会福祉における担い手に関する社会保険の適用状況から、問題点と課題を探る。 【キーワード】 社会保険、被扶養者、パートタイム労働者、職業病	金川めぐみ（和歌山大学准教授）	金川めぐみ（和歌山大学准教授）
12	福祉職養成の実態と展望	現代社会における福祉専門職養成の現状とその課題を整理しつつ、次世代福祉専門職養成のあり方を検討する。とりわけ、中核的な役割を担う社会福祉士及び介護福祉士養成の現状と課題を明らかにする。 【キーワード】 社会福祉士、介護福祉士、養成教育	三好　禎之（愛知新城大谷大学准教授）	三好　禎之（愛知新城大谷大学准教授）
13	学びのプロセスを伝える養成研修	障害者ケアガイドライン試行事業に取り組む中で、「ニーズのとらえ方」、「社会資源を開発する方法」を伝えるための演習方法を編み出した。障害者ケアマネジメント養成研修における演習が人材養成に果たした役割とその限界について考える 【キーワード】 障害者ケアマネジメント、ニーズ、社会資源、演習	阿部順子（岐阜医科大学教授）	阿部順子（岐阜医科大学教授）
14	社会福祉におけるトラブルと責任	福祉の担い手は、人間の生活の全体性にかかわるため、その行いが、人の生命、人生、生活を大きく変えてしまうことがある。このとき、担い手は、どのような法的責任や倫理的責任を負うこととなるのだろうか。いくつかのトラブルを念頭に置きながら考えてみよう。 【キーワード】 トラブル、権利侵害、責任	大曽根　寛（放送大学教授）	大曽根　寛（放送大学教授）
15	専門家と市民の成長	福祉政策と担い手のあり方は、強い関係性を持っているのであるが、専門職・専門家やスペシャリストと呼ばれる方々だけでなく、市民もまた成長していく必要があることを確認する。このことを、専門性と市民性の関係についての議論を通じて明らかにする。 【キーワード】 市民活動、生涯学習、放送大学	大曽根　寛（放送大学教授）	大曽根　寛（放送大学教授）

事務局記載欄	開講年度	平成20年度	科目区分	大学院科目	科目コード	8940282	履修制限	無	単位数	2

科目名（メディア）＝　教育経営論　（’０８）＝（R）

〔主任講師（現職名）：小川　正人（放送大学教授）〕

〔主任講師（現職名）：勝野　正章（東京大学大学院准教授）〕

講義概要

現在、日本では教育改革が進行中であるが、今日の改革が従来と大きく異なるのは、国の教育行政から学校単位の経営に至るまであらゆるレベルで問題が生起し、それらに対応した改革が同時進行的に取り組まれている点である。講義では、国、自治体、学校の各段階における教育システムの現状と問題、改革の論議・動向等を概観し、これからの教育システムの改革と経営・運営上の課題を考える。現在の教育システムとそれが直面する諸問題、そして、それらに対する対応策＝政策課題について、教育の経営・管理という観点から学習することを目的とした科目である。

授業の目標

全15回の講義を通じて、国、自治体、学校の教育システムの実情と問題、改革の動向と政策課題を理解できるようにすることを目標とする。受講対象者としては、現職教職員、教育管理職、教育行政職等を想定した講義内容であるが、教育改革に関心をもつ保護者、市民等の学習者にとっても広く日本の教育システムと経営・管理の問題、課題を学べるものとしたい。放送教材では、国、自治体の教育政策・行政の担当者や学校関係者等からの取材等も多く取り入れるなど具体的な事例を通して学べるものとしたい。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	転換期の教育経営	本講義の総論として、本講義全体で考えていきたいことを明らかにするために、教育経営をめぐる近年の行政環境の変容と教育政策の変化を考える。 【キーワード】 教育経営、教育政策	小川　正人	小川　正人 勝野　正章
2	国の教育行政機関と教育政策過程	旧来の国の教育行政組織と教育政策決定過程の構造や特徴を概観したうえで、2000年以降の中央省庁再編によってそれがどのように改革され変化したのかを解説する 【キーワード】 教育行政、文部科学省、与党、内閣府	小川　正人	小川　正人
3	地方分権改革による国と地方自治体関係の変化	2000年地方自治法大改正に結実した地方分権改革により、文部科学省と地方自治体・教育委員会の教育行政関係がどのように変化したのかを学ぶ。 【キーワード】 地方分権、地方自治法、地方自治体、中央地方関係	小川　正人	小川　正人
4	国の教育経営手法の変化と自治体教育経営の課題	2000年以降の中央省庁再編と地方分権改革等によって国・文部科学省の教育経営手法がどのように変化してきているのか、それら変化の下で自治体の教育経営はいかなる課題を担うことを期待されているのかを考える 【キーワード】 教育経営手法、出口（成果・結果）管理、評価	小川　正人	小川　正人

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
5	自治体教育経営と教育委員会改革	自治体教育経営の要とされる教育委員会制度に対して、近年、廃止を含めた見直しの論議が浮上しているが、それら改廃論議を吟味しながら教育委員会制度の改革方策と可能性を考える 【キーワード】 教育委員会制度、教育委員会改革、地方教育行政法	小川　正人	小川　正人
6	公立学校改革の動向と課題	今日、学校選択やコミュニテイ・スクール、学校評価等、多様な手法による公立学校改革が進行中であるが、その改革の社会経済的背景と考えながら、公立学校改革の争点と課題を探る。 【キーワード】 公立学校、学校選択制、学校参加	小川　正人	小川　正人
7	教員給与改革の動向と課題	教育問題は教員問題といわれるが、学校組織・経営や教員人事管理の見直し政策の要として現在進行中の教員給与改革の動向と課題を考える 【キーワード】 教員の処遇、人材確保法、教職調整額、超過勤務	小川　正人	小川　正人
8	学校経営と社会的環境の変化	今日の学校経営をめぐる社会的環境の変化は著しいものがある。それらを概観しながら、今日の学校経営に求められている改革について考える。 【キーワード】 グローバル経済、新経営主義、格差社会	勝野　正章	勝野　正章
9	学校経営をめぐる政策動向	学校経営は競争的環境のなかで自主性・自律性を発揮し、教育効果をあげることを求められるようになっている。こうした政策・制度的動向について、主要な政策提言などを参照しながら検討する。 【キーワード】 公教育の機能不全、教育の市場化、学校の自主性・自律性	勝野　正章	勝野　正章
10	学校の組織と文化	学校は合理性が重視される官僚制組織という側面とともに、価値・規範や感情などによって構築される文化的組織という両面性を持っている。学校経営の基礎理論として、この両面性について考える。 【キーワード】 システム論的組織観、緩やかな結合	勝野　正章	勝野　正章
11	学校リーダーシップ論	自律的な学校経営が求められるようになるにつれて、リーダーシップに対する注目が強まっている。学校の教育力を高めるために求められるリーダーシップのとはどのようなものか、スクールリーダー養成・研修をめぐる最近の動向も参考にしながら考える。 【キーワード】 教授的リーダーシップ、変革的リーダーシップ、民主主義とリーダーシップ	勝野　正章	勝野　正章

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
12	学校評価と学校改善	教育活動についての説明責任を果たすことと、組織の活性化を目的とする学校評価の重要性が強調されるようになっている。学校改善という観点から、その現状と課題について検討する。 【キーワード】 マネジメントサイクル、学校評価のマイクロ・ポリティクス、学校改善	勝野　正章	勝野　正章
13	教員の評価と専門職としての成長	従来の勤務評定に代わる新たな教員評価の一つの特徴は力量向上を明確な目的として掲げている点にある。教員評価は専門職としての成長にどのように貢献しうるのかを国内外の研究を参考にしながら考える。 【キーワード】 人的資源経営、教員評価の職能成長モデル、目標管理	勝野　正章	勝野　正章
14	学校財務経営と学校職員	学校の自立的経営を支える財政的側面に注目して、裁量予算の拡大などの動向を検討する。あわせて、学校事務職員など教員以外の職員に関する政策・制度改革の動向についても検討する。 【キーワード】 学校裁量予算、家庭の教育費負担、学校職員	勝野　正章	勝野　正章
15	開かれた学校づくり	今日、開かれた学校づくりの名のもとに地域住民・保護者によるクラブ活動や授業に対する協力から学校経営への参加まで多様な実践が取り組まれている。ソーシャル・キャピタル（社会関係資本）という理論的視点を参照しながら、このような実践の課題と可能性について考える。 【キーワード】 学校参加、パートナーシップ、社会関係資本	勝野　正章	勝野　正章

事務局記載欄	開講年度	２００９年度	科目区分	大学院科目	科目コード	8920508	履修制限	無	単位数	2

科目名（メディア）＝　人間発達論　（’０９）＝（R）

〔主任講師（現職名）：住田　正樹（放送大学教授）〕

〔主任講師（現職名）：田中　理絵（山口大学准教授）〕

講義概要

発達を人間の生涯にわたる変化の過程として捉え、その生涯過程を発達社会学の視点から考察していく。発達社会学の視点から人間の生涯過程を見ると、社会的役割の移行過程として捉えることができる。そしてその移行過程は、社会的役割の学習過程、社会的役割の遂行過程、社会的役割を喪失する喪失過程という3つの過程の段階に区分できる。社会的役割のなかでも特に主要な役割は職業的役割と家庭的役割であり、この2つの社会的役割を中心に考察を進めていく。

人間の発達過程のなかでも学習過程の段階がもっともドラスティックな変化を示す。そのため人間発達研究は学習過程の段階を中心に取り上げるのが、これまでの一般的な考察方法であった。しかし本講義では、遂行過程および喪失過程にも比重をおいて考察していく。

授業の目標

人間の発達過程が社会的・文化的条件によって規定されることはいうまでもない。人間の発達は、生物学的現象や心理学的現象だけではなく、社会学的現象でもある。本講義は、人間の発達過程を分析していくための発達社会学の基礎的概念と方法を学び、人間の発達現象が生起していく過程を考察していくための社会的視点を得ることを目的とする。

履修上の留意点

発達社会学は、人間の発達過程に対して社会的・文化的な文脈や環境がどのような影響を与えているのかを解明していく学問である。これに類似した学問に発達心理学（または生涯発達心理学）がある。 発達心理学は年齢に伴う行動や心的機能の変化を研究する学問である。同じ人間の発達過程を対象にしても発達社会学と発達心理学ではアプローチも異なり、分析方法も異なり、分析の方向も異なる。だが、だからこそ多産的な学問的成果を産む。発達社会学と発達心理学とのアプローチの相違、分析方法や分析の方向の相違に留意しつつ人間の発達過程についての考察を深めていただきたい。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
第Ⅰ部　人間発達と社会的役割				
1	人間の発達過程と役割移行過程 －発達社会学の視点から－	発達とは誕生から死に至る全生涯の変化をいう。この、生涯にわたる人間の変化の過程を発達社会学の視点から見ていく。発達社会学の視点から人間の生涯をみると社会的役割の移行過程、すなわち社会的役割の学習（役割学習準備期、役割学習期、役割猶予期）、社会的役割の遂行（役割遂行期）、社会的役割の喪失（役割喪失期）という過程として捉えることができる。社会的役割のなかでも職業的役割と家庭的役割はその中核である。 【キーワード】 発達、社会化　社会的役割、役割移行、発達社会学、職業的役割、家庭的役割	住田　正樹（放送大学教授）	住田　正樹（放送大学教授） 田中　理絵（山口大学准教授）
第Ⅱ部　社会的役割の学習過程				
2	言語の獲得と自我形成 －役割学習準備期－	言語の獲得と自我形成は人間発達の基盤であり、人間発達にとって最も重要な側面である。意識の未分化な状態で生まれてきた子どもは家族とのコミュニケーションを通して自他の区別を意識するようになり、次第に自分自身に気づき始める。それが言語を獲得するようになると明確に自他を区別するようになり、他者の観点から自分自身を対象化して認識し、自我を形成していく。 【キーワード】 言語の獲得、シンボル、自我形成、重要な他者、コミュニケーション	住田　正樹（放送大学教授）	住田　正樹（放送大学教授） 田中　理絵（山口大学准教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
3	社会的ネットワークの形成と拡大 ー役割学習期(Ⅰ)ー	子どもは児童期にさしかかると、それまでの家族中心の人間関係は拡大し、新たなネットワークを形成していく。近隣の大人や、同年代の遊び仲間、教師や同級生などとの関係である。この新たなネットワークを通して、子どもはフォーマル、インフォーマルに社会化されていくが、特に遊び仲間は強い社会化の影響力をもつ。こうした人々とのネットワークを通して子どもは自己を相対化していき、自己中心的な思考から脱却していく。 【キーワード】 社会化　仲間集団、役割取得、一般化された他者	田中　理絵(山口大学准教授)	住田　正樹(放送大学教授) 田中　理絵(山口大学准教授)
4	性役割の分化 ー役割学習期(Ⅱ)ー	性別は、それぞれの社会の文化によって異なるけれども、いずれの社会にあっても最も基本的な区分である。だから性役割を学習し、性別にしたがった行動をとるようになっていくことは子どもの社会化にとって基本的で重要なこととなる。性役割の学習は両親、仲間、他の大人との関係を通して、またメディアを通してなされていく。そして性役割に結びついた性的行動の意味を学んでいく。 【キーワード】 性の社会化、性役割、ジェンダー・アイデンティティ	田中　理絵(山口大学准教授)	住田　正樹(放送大学教授) 田中　理絵(山口大学准教授)
5	自我覚醒と自己探索 ー役割猶予期(Ⅰ)ー	青年期に人は自分自身の将来や進路を模索する。そして「自分とは何か」を問い、自省するようになる。自己を対象化して、自己を見つめるようになるわけである。そのためにそれまで安定的だった自我は揺れ動き、深刻な葛藤や不安に陥ることもあるが、しかしこうした過程を経て、新たな自己に気づき、自己を再構築していく。いわゆるアイデンティティの確立の問題である。 【キーワード】 自我覚醒、自己探索、役割混乱、モラトリアム、アイデンティティ、	田中　理絵(山口大学准教授)	住田　正樹(放送大学教授) 田中　理絵(山口大学准教授)
6	職業と配偶者の選択過程 ー役割猶予期(Ⅱ)ー	職業的役割と家庭的役割は社会的役割の中核をなすが、学校教育を修了すると青年は職業に就き、また配偶者を得て新たな家族を形成して、自立した生活を営む。そのための職業的役割の選択と配偶者の選択の試行の時期が、この段階である。分業が進み職業が多様化し、そしてまた私的交際の自由な現代において、職業と配偶者の選択はどのような社会的要因に規定され、どのような過程を経て決められていくだろうか。 【キーワード】 職業的役割、家庭的役割、職業の選択、職業アスピレーション、配偶者選択	住田　正樹(放送大学教授)	住田　正樹(放送大学教授) 田中　理絵(山口大学准教授)
第Ⅲ部　社会的役割の遂行過程				
7	職業キャリアの形成 ー役割遂行期(Ⅰ)ー	職業的役割を選択・決定し、実際にその職業に就いたとしても直ちに職業的役割を遂行できるわけではない。職業役割を遂行していくためには、その遂行に必要な知識や技術、価値観や行動様式を習得しなければならない。そのための準備と試行、初歩的職務の遂行といった職業キャリア形成の期間が必要である。と同時に、この期間はその職業が自分の適性に合っているかどうかを判定するための職業的役割遂行の試行期間でもある。 【キーワード】 能力開発、職業的役割、職業的社会化、職業キャリア、職業文化	住田　正樹(放送大学教授)	住田　正樹(放送大学教授) 田中　理絵(山口大学准教授)

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
8	家族の形成と親役割 ―役割遂行期(Ⅱ)―	配偶者を得て結婚し、新たな家族(生殖家族)を形成すると、それまでの習慣的行動(定位家族における役割行動)を調整して、夫婦間で新たな行動パターンを形成することになる。夫婦間での役割配分である(新婚期)。その後、出産・育児によって親は親になったことを自覚し、親としての役割期待や役割義務、また両親性の価値について学び、親役割を形成していく(育児期=第一子の誕生から就学までの時期)。 【キーワード】 定位家族、生殖家族、夫婦役割、親役割、家族の変容、育児支援	田中 理絵 (山口大学准教授)	住田 正樹 (放送大学教授) 田中 理絵 (山口大学准教授)
9	職業キャリア・パターンの確立と安定 ―役割遂行期(Ⅲ)―	一定の職業に継続的に従事することによって、職業的役割を遂行していくための動機づけと行動パターンは明瞭になり、職業キャリア・パターンは確立し、安定化する。終身雇用・年功序列という日本型雇用慣行のもとで、これまでは多くの人たちは「会社人間」として働いてきた。しかしそのためにいろいろな問題も生じてきた。そして今職場環境が大きく変化して、人々の働き方も変化してきている。 【キーワード】 職務満足度、集団帰属意識、日本型雇用慣行、会社人間、役割葛藤、職務ストレス	住田 正樹 (放送大学教授)	住田 正樹 (放送大学教授) 田中 理絵 (山口大学准教授)
10	家族の拡大と子どもの教育 ―役割遂行期(Ⅳ)―	第一子の就学、第二子の誕生と、家族は拡大期に入り、親役割は育児から子どもの教育に移る。子どもの教育を巡ってさまざまな問題が生じ、親は何かと気を揉み、不安に陥る時期である。また、子どもの教育費をはじめ経済的負担が増す時期でもあり、育児負担が減って時間的余裕が生まれた母親の再就職も増える。一方、父親の仕事は充実・多忙化する時期で、父親不在となることも多い。 【キーワード】 親役割、青少年問題、父親不在、ワーク・ライフ・バランス	田中 理絵 (山口大学准教授)	住田 正樹 (放送大学教授) 田中 理絵 (山口大学准教授)
11	多様な女性の生き方 ―役割遂行期(Ⅴ)―	かつての女性の生き方は、伝統的な性別役割意識に支えられ、固定的・画一的だった。現在、こうした性別役割意識は次第に薄れ、女性の生き方の選択肢は大幅に増加した。しかしその一方で、性役割は明確な社会規範としてなおも存在し、女性のライフスタイルは錯綜している。少子化などの問題とも関連が指摘される女性の生き方の多様化とはどういう事態なのだろうか。 【キーワード】 女性のライフサイクルの変容、性別役割分業、性役割の錯綜	田中 理絵 (山口大学准教授)	住田 正樹 (放送大学教授) 田中 理絵 (山口大学准教授)
第Ⅳ部 社会的役割の喪失過程				
12	職業役割の喪失 ―役割喪失期(Ⅰ)―	仕事から引退し、職業役割を喪失する時期。したがって労働時間は短くなり、経済的報酬は減少し、職業的役割に結びつく人間関係は希薄となる。また子どもも独立し、脱親役割期(post-parental period)でもあるから、家庭的役割といっても夫婦関係に限れら、したがって夫婦関係の繋がりが強まっていく。しかし定年に対する多くの高齢者のイメージはこれまでとは異なり、アクティブなイメージへと変わってきている。 【キーワード】 定年制、引退過程2段階説、代替的役割、アクティブ・エイジング、伴侶性	住田 正樹 (放送大学教授)	住田 正樹 (放送大学教授) 田中 理絵 (山口大学准教授)

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
13	高齢者の社会参加と生きがい ー役割喪失期（Ⅱ）ー	全ての仕事から引退して職業生活から離脱する。だが職業は社会的地位を決定する主要な要因であるだけに、その代替的役割が不在であれば、孤独感を感じるようになる。だが、多くの高齢者は職業的役割の代替的役割として地域の社会活動に参加し、その活動を生きがいとして、アクティブな生活を送っている。社会的責任が減り、個人的自由が増大して自分の望むことが可能な時代である。高齢者はどのような生活を望み、どのように生活しているか。 【キーワード】 離脱理論と活動理論、第二の人生、社会参加、生きがい	住田　正樹 (放送大学教授)	住田　正樹 (放送大学 教授) 田中　理絵 (山口大学准教授)
14	老齢化と病気・死 ー役割喪失期（Ⅲ）ー	人間も生物有機体である限り、確実に衰退し、老衰の道を辿る。罹患率も高くなる。老齢化による罹患はそのまま死を迎えることを意味する。それまで所属していた集団からは離脱せざるを得ず、また配偶者の病気・死によって最も親密な関係にあった夫婦関係も消滅する。こうした社会的繋がりの喪失は孤独をもたらすことにもなる。やがて避けることのできない死に向かう。高齢者は死をどのように受け入れるのか。 【キーワード】 老化、孤立、孤独感、不安感、病気、生活習慣病、死ぬ過程	住田　正樹 (放送大学教授)	住田　正樹 (放送大学 教授) 田中　理絵 (山口大学准教授)
第Ⅴ部　人間発達研究の課題				
15	人間発達研究の課題	これまでの発達研究は、人間の誕生から成人期に至るまでの時期を中心に進められてきた。この時期が最もドラスティクに変化する期間だからである。だが、発達は人間の生涯にわたる継続的な過程である。成人期に至るまでの過程で形成された特性が成人期以降もそのまま保持されるとは限らない。発達概念および発達研究の方法が再検討されなければならない。 【キーワード】 生涯発達、発達社会学、社会的役割、役割移行過程、縦断的方法	住田　正樹 (放送大学教授)	住田　正樹 (放送大学 教授) 田中　理絵 (山口大学准教授)

事務局記載欄	開講年度	２０１０年度	科目区分	大学院科目	科目コード	8920540	履修制限	無	単位数	2

科目名（メディア） ＝ 才能と教育－個性と才能の新たな地平へ （’１０）＝ （ＴＶ）

〔主任講師（現職名）：岩永　雅也（放送大学教授）　〕

〔主任講師（現職名）：松村　暢隆（関西大学教授）　〕

人間発達科学プログラム

講義概要

才能教育は、世界各国で公教育体系の中の特殊教育の一環として実施され、研究も蓄積されている。その背景には、すべての子どもには才能を発現し開花させる権利と可能性があり、また、才能は社会の共有財産であるという信念がある。教育の形式的平等を強調してきた戦後日本では、公的な才能教育とその研究は全く低調であったが、教育への要請が多様化し、個性を活かす教育が求められている現在では、才能の正しい理解を基礎に、発達障害児も含めたすべての子どもの才能を見出して適切に対応することが求められている。本講義では、才能とその発見、社会的意味、そして才能を伸ばす指導について考えていく。

授業の目標

学校教育や乳幼児保育、家庭教育に携わる、あるいは関心を持つ学習者が本講義の対象である。まず、従来のエリート教育とは異なる才能教育の概念を正しく理解する。ついで、障害児も含めたすべての子どもが何らかの才能をもつ可能性を認識し、その上で、それを見出す多様な方法を知る。さらに、才能教育の実践方法として、アメリカをはじめ諸外国では、得意を伸ばし苦手を補うため、個性を活かす多様な方法が存在することを理解する。そして、日本社会で今後、通常教育や特別支援教育で展開しうる才能教育のあり方について考えることを目指す。

履修上の留意点

本講義の受講にあたっては、学部における基礎的な教育学関連の科目、例えば、教育原論、教育心理学、教育社会学、教育技術学、教育行政学といった分野の諸科目を履修していることが望ましい。その上で、学校臨床や特別支援教育に関する科目の履修も勧めたい。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	現代社会と才能教育	科目のイントロダクションとして、現代の日本では才能がどう捉えられているのか、その教育はどう見られているのかを概観した上で、才能教育を論じる必要性と今日的意義について考察し、科目全体を通して伝えたいことをプレビューする。 【キーワード】学力格差　進学校　受験　塾　早期教育　エリート教育　平等主義　教育政策　個性化教育	岩永雅也（放送大学教授）	岩永雅也（放送大学教授）・松村暢隆（関西大学教授）
2	才能観の系譜	才能というものに対する人々のまなざし、つまり才能がどのようなものと考えられてきたか、そして、そのまなざしがどのように変遷してきたかを見ておく。人々が才能をどう見るかは、その社会がどのような社会か、才能に対してどのような視点を持っているか、そしてどのような才能をどう受け入れるかによって左右される。才能の本質とその社会的意味がどのように捉えられてきたのか、これまでの才能観の系譜を俯瞰する。 【キーワード】天才　狂気　ロンブローゾ　クレッチマー　ゴールトン　知能テスト　ビネ　ターマン　知能指数　IQ　エリート　メリトクラシー	岩永雅也	岩永雅也
3	心理学的概念としての才能	才能教育の前提となる才能の概念について、心理学的アプローチから考える。才能と才能教育の用語や実践に対して、一般にもたれるイメージを確認した上で、専門用語として「才能教育」という用語を用いるべきことを認識する。アメリカの法律における才能の定義を踏まえ、才能は多様な領域に現れることを理解して、才能があるとはどういうことかを考える。 【キーワード】才能の概念　才能教育のイメージ　英才教育　才能の定義　才能と知能	松村暢隆	松村暢隆

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
4	才能の発見と評価	才能教育で、プログラムの対象者となる子どもの多様な才能を見つける際に、前提の概念となる、「多重知能」(MI)の理論と「知能の三輪概念」、およびそれらに基づいた才能の発見、認定の方法について述べる。そして、アメリカの学校でよく用いられる、才能の認定の手順として、テストや観察など多様な方法、手段が用いられることを理解する。 【キーワード】 才能の認定　多重知能(MI)理論　才能の三輪概念　回転ドア認定モデル　才能全体ポートフォリオ	松村暢隆	松村暢隆
5	才能教育のタイポロジー	才能教育に取り組む諸国、諸地域では、現在、さまざまな形態の教育実践を見ることができる。その国や地域の社会の在り方に応じ、また子どもたち一人一人の才能の特性にも対応するため、それらの実践の形態は実に多様である。しかし、最も基本的なところで分別するならば、それらは大きく2つの類型にまとめられると考えられる。そのタイポロジーについて、特に才能教育の最先進国であるアメリカを中心に、詳しく見ていく。 【キーワード】 早修(アクセラレーション)　拡充(エンリッチメント)　飛び級　飛び入学　タレント・サーチ　カリキュラム短縮　プルアウト　螺旋	岩永雅也	岩永雅也
6	早修の方法と意義	才能教育の実施方法の一つである上位学年の学習内容の先取り学習のうち、上位学年に暦年齢よりも早く移る措置としての早修について、アメリカのナショナル・レポートを基に概観する。飛び入学をともなわない早修としてのアドバンスト・プレースメントにも言及する。さらに、日本の飛び入学についても取り上げ、その現状と意義を論じる。 【キーワード】 早修　飛び入学　飛び級　アドバンスト・プレースメント　教育上の例外措置　早期大学入学	岩永雅也	岩永雅也
7	拡充の方法とモデル	才能教育の拡充の代表的な方法とモデルを、アメリカを例に紹介する。まず、多重知能(MI)を生かす拡充として、「MI実践」について述べる。つぎに、「全校拡充モデル」(SEM)と、その学習法の「拡充三つ組モデル」について述べる。すべての子どもたちを対象にした拡充によって、一人一人の特性に応じた学習を提供でき、その中で多様な優れた才能も伸ばせることを理解する。 【キーワード】 拡充　多重知能(MI)　全校拡充モデル(SEM)　拡充三つ組モデル　本物の学習　ポートフォリオ評価	松村暢隆	松村暢隆
8	諸外国の才能教育(1)法的根拠と政策	「本格的に系統的な」才能教育の実践に、どのような要件が必要か検討する。その要件を満たして才能教育を実践する、各国や地域の才能教育制度の法的根拠、政策、現状や、政治的、経済的、社会的背景などについて説明する。 【キーワード】 機会平等　公教育　義務教育期間　全学習教科　教育法規　本格的に系統的　日本　カナダ　アメリカ　韓国　台湾　香港　シンガポール　オーストラリア　イギリス	本多泰洋(帝京短期大学教授)	本多泰洋
9	諸外国の才能教育(2)教育実践の現状	「本格的に系統的な」才能教育の教育実践制度を類型化し、それぞれの類型の特徴と現状を、オーストラリアのサウスオーストラリア州、ニューサウスウエールズ州、韓国の才能教育の実践制度を事例として取り上げて説明する。 【キーワード】 拠点型　分散型　折衷型　オーストラリア　イグナイト・プログラム　オポチュニティー学級　選抜ハイスクール　韓国　才能学級　才能教育院　特殊目的高校　科学才能学校	本多泰洋	本多泰洋

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
10	理数科の才能と教育	才能教育の教育実践の効果が顕著に現れるのが、数学や科学の分野である。ここでは主に、日本の算数、数学や科学の教育実践やその制度を取り上げ、その特徴と現状から、実質的な拡充教育による才能教育であることを説明する。 【キーワード】 総合科学技術会議　科学技術政策　科学技術基本計画　SSH　ノースカロライナ科学数学高校　韓国科学高校・科学才能学校　出張授業　算数・数学・国際科学オリンピック	本多泰洋	本多泰洋
11	芸術の才能と教育	才能を活かせる分野として、とくに芸術に注目し、その歴史的な背景や社会的意味について理解した上で、日本における芸術分野での才能教育の現状を見る。さらに、美術や音楽分野での才能を早期から見出して育てる方法や、優れた指導者の特徴と条件について検討する。 【キーワード】 芸術　独創性と法則性　音楽　音大教育　ソルフェージュ　美術　美大教育　デッサン　早期教育　コンクール	岩永雅也 池亀直子（蒲田保育専門学校専任講師）	岩永雅也 ゲスト：池亀直子
12	スポーツの才能と教育	才能を活かせる分野として、とくにスポーツに焦点を合わせて、その現状を知り、背景や社会的意味について検討する。スポーツ分野における才能を早期から見出して育てる方法や、優れた指導者の特徴を分析する。 【キーワード】 スポーツ、身体能力、測定、記録、オリンピック	平野裕一（国立スポーツ科学センター・主任研究員）	平野裕一
13	発達障害と才能	才能と発達障害は、同じ子どもに共存することがある。才能と発達障害の両面への特別支援が必要な「二重に特別な」（2Eの）子どもの存在を認識する必要がある。発達障害の子どもの才能を見つけて、それを学習に活かすという「2E教育」の理念・方法と、アメリカの2E教育の実践について概観して、日本の教育への示唆を考える。 【キーワード】 発達障害　特別支援教育　2Eの（二重に特別な）子ども　2E（二重の特別支援）教育　認知発達の凸凹　得意と苦手　発達障害の天才　サヴァン	松村暢隆	松村暢隆
14	個性化教育で才能を活かす	すべての子どもの才能を学習に活かすために、個性化された学習が有効な方法となる。まず、アメリカの「授業の個性化」の概念と方法を述べる。そして、日本でも長年実践されてきた「個性化教育」を才能教育に位置づけて概説する。小学校での実践方法をまとめて見ながら、すべての子どもの特性に応じて学習を個性化するという、日米共通の理念で教育が可能なことを検討する。 【キーワード】 個性化教育　指導の個別化　学習の個性化　オープン・スクール　完全習得学習　順序・課題選択学習　課題設定学習　学習環境	松村暢隆	松村暢隆
15	個性と才能が活きる社会へ	最終回として、日本の才能教育に「残された問題」を検討する。才能教育を今後の日本の教育に適切に根付かせるために、発展性のある実践を紹介しながら、社会的および教育制度上の条件、問題点を考える。各分野の極めて優れた才能を育てるだけでなく、すべての子どもの個性と才能を活かす教育を推進するために、必要・可能なことを論じる。 【キーワード】 早修　拡充　特別措置　個性化教育　異学年混合学習　マイノリティ　多文化教育　女性	松村暢隆	松村暢隆・岩永雅也

事務局記載欄	開講年度	２０１０年度	科目区分	大学院科目	科目コード	8920532	履修制限	無	単位数	2

科目名（メディア）＝　コミュニティ教育論　（’１０）＝（ＴＶ）

〔主任講師（現職名）：岡崎　友典（放送大学准教授）〕

〔主任講師（現職名）：玉井　康之（北海道教育大学教授）〕

講義概要

学校・家庭・地域の連携・協力・融合が今日的な課題になっている。本科目では、学校教育、社会教育そして家庭教育が地域社会のなかでどのような形で実践されているかについて「コミュニティ教育」という新たな概念を用いて考察する。地域社会が急激に変動するなかで、さまざまな「教育問題」が多発化している。学校や家庭だけでは解決できない多様かつ深刻な問題の解決を図るために、今、「地域の教育力」が求められている。専門科目として、教育学、教育社会学の理論を学ぶとともに全国各地の実践事例を詳細に検討しつつ、その解決の糸口を探りたい。

授業の目標

家庭での子育てや学校教育をめぐり、様々な問題が提示されているが、「家庭崩壊」や「学校崩壊」などセンセーショナルな表現で指摘される教育問題は、家庭や学校単独で起きる現象ではない。本科目のねらいは、人間の成長・発達といった社会的な作用（教育）を中心的に担う家庭・学校と人間の共同生活の場面としての「地域コミュニティ」との関係を、生涯学習・教育の視点から明らかにすることにある。とくに人間のもっとも基本的な教育環境である家庭と学校が地域住民の諸組織や機関との連携協力により、どのような形で地域社会＝コミュニティ形成の担い手（主体）を生み出しているかについて、「現代日本の教育課題」として提示することを目的としている。

履修上の留意点

この地域社会＝コミュニティレベルでの教育を担う専門職者、また民間の地域教育人材（コーディネータ、マイスター、ファシリテータの呼称で呼ばれる）の養成・育成に資するものである。したがって、大学院の関連科目だけでなく、学部段階の教育・心理学関連科目、とくに地域教育社会学、地域コミュニティ論などについてあらかじめ学習しておいてほしい。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	教育環境としての「地域コミュニティ」～コミュニティとは何か～	第二次世界大戦後のわが国の地域開発政の展開過程に即して、地域社会と教育の関係について、地域社会の教育環境を類型化することによって、多様な形態のコミュニティが存在することを明らかにし、さらにそこに内在する教育上の課題について提起する。 【キーワード】 地域性　共同性　地域開発　地域コミュニティ　教育環境	岡崎友典 （玉井康之）	岡崎友典 玉井康之
2	生涯学習と地域コミュニティの形成	家庭教育、学校教育、社会教育が人々のライフステージによって、どのような形で展開していくか。個人の生涯教育・学習といった視点とともに、急激に変動する地域社会の再編・再生＝地域コミュニティの形成」といった観点から考察することにより、コミュニティ教育の今日的課題を提示する。 【キーワード】 ライフサイクル　家族周期　生涯学習　生涯教育	岡崎友典	岡崎友典 玉井康之
3	学校と地域社会（1）～近代学校の成立とコミュニティ～	近代学校の成立過程、とくに公教育としての学校の役割について、初等教育・中等教育学校を中心に、その歴史的展開に即して、地域社会との関係を地域共同体＝「地域コミュニティ」の視点から考察する。 【キーワード】 公教育　近代学校　学制　義務教育　教育機会　通学区	岡崎友典	岡崎友典 玉井康之

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
4	学校と地域社会(2) ～コミュニティスクールの源流～	コミュニティスクールの概念を歴史的に明らかにするために、高度経済成長前に地域共同体が有していた教育力とそれが失われてきた社会的背景をとらえる。また学歴社会の中で、学校に求められる機能が変化してきたことをとらえる。コミュニティスクールの内実として求められる学校と地域の関係を提示しつつコミュニティスクールの現代的な役割と可能性について明らかにする。 【キーワード】 生活変化　地域共同体の崩壊　学歴社会　学校機能の変化　伝統文化の解体　学校外活動	玉井康之	玉井康之 岡崎友典
5	地域の子どもの遊び・生活と教育コミュニティ	子どもの遊び・体験活動などの遊び集団が持つ意義をとらえ、それが教育コミュニティの条件づくりともなることを明らかにする。また遊びが集団的に展開しなくなった現段階においては、居場所や遊びを意識的に作っていくことも必要性もとらえる。とりわけ学校を拠点としたサタデースクール、放課後の居場所づくりなどの必要性やコミュニティの果たす役割について、生活指導の視点から考察する。 【キーワード】 教育コミュニティ、地域遊び集団、集団遊び、ギャング・エイジ期、遊び集団、体験学習　放課後子どもプラン　居場所	玉井康之	玉井康之 岡崎友典
6	総合的な学習とまちづくり	総合的な学習のあり方は、よりいっそう地域の身近な素材を取り上げるようになっている。総合的な学習の一つの在り方として、地域のあらゆる課題を取り上げつつ、まちづくりをテーマにした総合的な学習も重要な方法となっている。このまちづくりをテーマにした総合的な学習の意味づけと地域への還元の方法を提示する。 【キーワード】 総合的な学習、まちづくり、地域づくり、地域調査、地域調べ学習、地域課題、地域貢献活動　学力	玉井康之	玉井康之 岡崎友典
7	地域福祉とコミュニティ教育	福祉が社会的な課題となる社会（福祉社会）において、教育を成り立たせる条件としての福祉について、現代家族の特徴を踏まえたうえで、児童に関わる福祉施設の保育所（園）や児童養護・自立支援施設、また高齢者対象の施設など、地域レベルでの具体的な実践を通して考察する。 【キーワード】 地域福祉　福祉教育　児童福祉　養護施設　子育て支援	岡崎友典	岡崎友典 玉井康之
8	PTAと地域住民組織 ～学校とコミュニティをつなぐ役割～	保護者によって組織されるPTAを、子どもを媒介として成立する成人の学習組織と捉え、さらに保護者が地域社会の中堅世代として地域社会形成に主要な役割を担うといった視点から、大人の教育責任について検討する。 【キーワード】 PTAの現代的役割　大人の教育責任　親父の会　町会・自治会	岡崎友典	岡崎友典 玉井康之
9	コミュニティと学校の説明責任	保護者・学校への説明責任が求められるようになったが、これは単に学校が地域に説明することに留まらず、地域が学校の味方になるようにコーディネートすることを含めている。また説明責任の一環として、学校評価を導入する学校が増えてきた。この学校評価の基本的な目的と方法を明らかにする。学校が説明責任を果たし、地域の関係者を学校の味方にしていく必要性と効果をとらえる。 【キーワード】 説明責任、アカウンタビリティ、コーディネート力、学校評価、学校運営協議会、自己評価、学校関係者評価学校評価、学校評議員　学校運営協議会、説明責任	玉井康之	玉井康之 岡崎友典

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
10	学校と地域を結ぶ地域コーディネーターの役割	学校と地域を結び学校教育を活性化するためには、コミュニティの教育活動を企画・調整・助言する役割を果たす「地域コーディネーター」の役割が重要である。地域コーディネーターは、教師が行き届かない地域の素材や名人の発掘も担うことができるからである。地域社会の中から教育人材が子ども達に直接指導することによって、学校も地域も教育活動が高まっていくこと、それを調整する地域コーディネーターの役割を明らかにする。 【キーワード】 地域コーディネーター、学校支援ボランティア、コーディネート力、学校支援地域本部事業	玉井康之	玉井康之 岡崎友典
11	開かれた学校と生涯学習施設	学校の校舎も地域開放型の構造を採用する学校も増えている。このような学校施設を地域に開放する教育的意義を明らかにする。また地域の行事や活動や公民館事業なども、学校施設を活用することによって、学校教育とコミュニティ教育が相互補完的に発展・活性化する可能性について考察するとともに、コミュニティセンターとしての学校の教育機能についても考察する。 【キーワード】 学校開放施設、生涯学習施設、複合施設、地域交流棟、開かれた学校、オープンスペース、社会教育、コミュニティセンター	玉井康之	玉井康之 岡崎友典
12	中山間地の学校と地域コミュニティ	中山間地の学校は地域にとって非常に大きな役割を果たしている。中山間地の小規模学校の教育実践が、小規模の特性を活かすとともに、地域コミュニティと緊密な関係を持ちながら展開することにより、子どもだけでなく住民の生活をも支えていることをとらえる。また山村留学などの学校を支える活動が子ども・学校・地域に与える教育効果をとらえる。 【キーワード】 コミュニティ教育、山村留学、特認校、中山間地、へき地、統廃合問題、地域教育力、小規模校教育	玉井康之	玉井康之 岡崎友典
13	コミュニティ形成と地域文化	地域生活のなかから生み出される「生活文化」について、文化の基本的な概念を押さえたうえで、文学や地域の産業（地場産業や観光）などの具体的な事例、とくに新たに創造される文化がコミュニティの形成に重要な役割をもつことを明らかにする。 【キーワード】 地域文化　地場産業　新旧住民の交流　住民の学習運動	岡崎友典	岡崎友典 玉井康之
14	移住・定住とコミュニティ～同窓会・同郷会の役割～	学校の卒業生によって組織される同窓会や同郷の出身者が組織する県人会や郷友会などの、地域コミュニティとの関係について考察する。とくに移住地においてこれら組織が人々の生活に果たす役割について、生涯学習の視点から明らかにする。 【キーワード】 移住と定住　人材の養成と移動　同窓会　県人会　郷友会　郷土意識	岡崎友典	岡崎友典 玉井康之
15	コミュニティの教育的再編～まとめと課題～	地域社会の教育が、学校と家庭そして地域住民との共同作業・営みによって続けられることの必要性を、各回で学習した内容をもとに、「地域教育の創造」と「学習社会」における「地域社会の教育的再編」といった視点から「教育の課題」として提示する。 【キーワード】 学習社会　生涯教育　教育の再生　教育改革	岡崎友典 （玉井康之）	岡崎友典 玉井康之

科目名（メディア）＝　学校システム論（‘０７）＝（TV）

〔主任講師（現職名）：竹内　洋（関西大学教授）〕

講義概要

「学校」という言葉も実態もいまのわれわれには自明視されている。しかし、学校は人類の歴史のある段階で発明された人工装置である。学校という人間形成装置が社会の変化のなかでどのように変貌してきたのか、そしていまなにゆえ学校の秩序の揺らぎが問題化されるのであろうかを講義する。

授業の目標

文明としての学校の可能性と問題を浮かびあがらせ、これからの学校像を描きたい。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	学校が輝いたとき	敗戦後、日本人は教育の拡大によって悲惨と不幸の脱出を願った。新潟県佐渡島両津町（現、佐渡市）を事例としながら戦後の貧困のなかから新制高等学校創設に立ち上がった人々の希望と努力の跡をふりかえる。	竹内　洋（関西大学教授）	竹内　洋（関西大学教授）
2	高度成長・教育拡大・大衆勉強社会	１９５５年から７３年までは、年平均１０％以上の経済成長がつづいた。日本社会は急激に豊かになり、多くの人々が義務教育以上の高等学校そして大学に進学できるようになった。こうして生じた教育拡大のメカニズムについて考える。	竹内　洋（関西大学教授）	竹内　洋（関西大学教授）
3	大衆受験社会の誕生と衰退	教育拡大は、大衆勉強社会と大衆受験社会をもたらした。過熱した大衆受験社会の隠れたカリキュラムについて考えるとともに、少子化による近年の受験圧力の低下がどのような学校に入学するのかではなく、なにを学ぶのかの学校の力の重要性を立ち上げていることを探る。	竹内　洋（関西大学教授）	竹内　洋（関西大学教授）
4	教育問題の変貌：学校外部から学校内部へ	１９７０年前後までは、学校は希望の場として内部が問われることはなく、教育問題は、学校をとりまく、外部（社会）におかれた。しかし、しだいに学校そのものが教育問題の場としてまなざしをそそがれるようになる。このような教育問題のまなざしの変化とその背景について考える。	竹内　洋（関西大学教授）	竹内　洋（関西大学教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
5	学校への疑惑；脱学校論と社会的再生産理論	学校という装置そのものへの疑惑理論の代表的なものは、学校は自発的学びを衰弱させるとする「脱学校論」（イヴァン・イリッチ）と学校は社会の階級構造を再生産するという「社会的再生産理論」であるが、これらの理論について検討する。	竹内　洋（関西大学教授）	竹内　洋（関西大学教授）
6	葛藤の場としての学校：『坊ちゃん』と夏目漱石	学校組織のモデルには教師や生徒の統合された配置がなされており、学校内の逸脱や葛藤を従とする機能モデルと学校組織の本質は内部に矛盾をかかえた葛藤のほうが主であるとする葛藤モデルとがある。夏目漱石の「坊ちゃん」などを題材にしながら、学校を考える視角について講述する。	竹内　洋（関西大学教授）	竹内　洋（関西大学教授）
7	パブリック・スクールというノスタルジア（1）	英国のパブリック・スクールについては全人教育がなされる学校の理想として多くの国々でモデルとされてきた。なにゆえパブリック・スクールが学校の模範とされたかを、パブリック・スクールの誕生と展開のなかで探る。	竹内　洋（関西大学教授）	竹内　洋（関西大学教授）
8	パブリック・スクールというノスタルジア（2）	前回の続きを講述し、さらに変化の激しい現代社会のなかで学校の模範とされたパブリック・スクールはどのようにして伝統を守り、２１世紀に適応しているのか。教育における保守と革新について考える。	竹内　洋（関西大学教授）	竹内　洋（関西大学教授）
9	反抗少年トニー・ブレアとパブリック・スクール	英国のブレア首相はパブリック・スクール、フェテス校出身である。規律の厳しいパブリック・スクールの中での苦悩と反抗の青春がたくましい人間形成につながったことを、ブレア首相を教えたフェテス校教師のインタビューなどを通じて、考える。	竹内　洋（関西大学教授）	竹内　洋（関西大学教授）
10	プレイ・バック旧制高等学校（1）：旧制高等学校とは	戦前日本には、パブリック・スクールに対応したエリート学校としての旧制高等学校があった。旧制高等学校もよき学校のモデルとされている。旧制高等学校の誕生と展開を探る。	竹内　洋（関西大学教授）	竹内　洋（関西大学教授）
11	プレイ・バック旧制高等学校（2）：社会移動か社会的再生産か	パブリック・スクールとの比較もまじえながら旧制高等学校教育の功罪について考える。	竹内　洋（関西大学教授）	竹内　洋（関西大学教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
12	プレイ・バック旧制高等学校（3）：教養主義という学生文化	旧制高等学校は、教養主義のメッカだったといわれる。教養主義という学生文化はどのようなものであったか。教養主義の現代的意味はなにかなどについて考える。	竹内　洋（関西大学教授）	竹内　洋（関西大学教授）
13	教育問題の考え方：実証主義的アプローチと解釈主義的アプローチ	教育問題の考え方を実証主義的アプローチと解釈主義的アプローチのちがいで切り口がちがってくることを説明する。登校拒否やいじめ問題を例にして講術する。	竹内　洋（関西大学教授）	竹内　洋（関西大学教授）
14	ＰＩＳＡショック	PISAの学力テストでフィンランドは世界一だった。しかし、フィンランドの生徒の学校外学習時間が特に多いというわけではない。フィンランドの学校を訪ねながら、どのようにしてこのような成果を挙げているか学校力や教師力の成功についてみる。	竹内　洋（関西大学教授）	竹内　洋（関西大学教授）
15	教育への信頼：伝統の創造力	学校と教育、学びの意味について総括的に考える。	竹内　洋（関西大学教授）	竹内　洋（関西大学教授）

＝　学校臨床社会学（‘０７）＝（Ｒ）

〔主任講師（現職名）：酒井　朗（大妻女子大学教授）〕

講義概要

学校臨床社会学は今日の学校教育や児童生徒が抱える種々の問題の社会学的理解とそれへの対応や支援の取り組みの意義や課題を社会学的な視点や方法論を用いて検討する新しい学問領域である。この講義では、マクロな視点から急激な社会変容が学校教育や個々の児童生徒に及ぼす影響を論じるとともに、具体的問題の実相を現場に即して解明する。それと同時に問題への対応や支援の在り方とその効果・課題等について論じる。

授業の目標

1）学校教育や児童生徒が抱える諸問題への社会学的洞察力を養う
2）研究方法論のバリエーションを理解し、それぞれの有効性と留意点を把握する。
3）学校や児童生徒への支援に対して社会学的視点を採り入れることの意義を理解する。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	学校臨床社会学とは何か	学校臨床社会学の学問的視座や「臨床」の意味合いを解説するとともに、そうした新しい学問が要請されている社会的背景を説明する。また、２回目以降に取り上げるトピックについて概説するとともに、それらを通じて深めていきたい中心的テーマを紹介する。	酒井　朗（大妻女子大学教授）	酒井　朗（大妻女子大学教授）
2	学校の秩序のゆらぎ	従来は自明のように維持されてきた学校内における秩序が、近年「学級崩壊」「私語の蔓延」などの形でゆらぎ始めている。こうした現象を通じて、学校の秩序の脆さと、秩序の再生がいかにして可能かについて考える。	伊藤茂樹（駒沢大学教授）	伊藤茂樹（駒沢大学教授）
3	不登校をどう見るか	近年不登校という現象は、矯正すべき病理としてよりも、調整や介入の必要な問題という位置づけに変化しつつある。このように至った経緯やそこで行われている取り組み、それらがもたらす新たな問題などについて、多面的に考える。	同　上	同　上
4	「総合的な学習の時間」と授業の課題	2002年度より学校現場で「総合的な学習の時間」が完全実施となった。「総合的な学習の時間」への学校現場の取り組みを紹介するとともに、その実践が抱えている課題を概観し、併せて、その実践を通して学校教育や教師がどのように変わろうとしているのかを検討する。	紅林伸幸（滋賀大学教授）	紅林伸幸（滋賀大学教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
5	教師の抱える問題と教師の成長	教師のバーンアウトや不適格教員が社会問題化する一方で、「生きる力」の育成や学力の向上に効果的に取り組むことができる、実践力のある教師が強く求められている。多様な課題を抱えて成長していく教師のあり方と、彼らの成長を支える教師集団の《協働性》について考察する。	同上	同上
6	保健室の構造・機能・意味	1990年代初頭、「保健室登校」のことばとともに学校の保健室が社会的に注目されるようになった。なぜ保健室なのか、子どもたちにとって保健室はどのような場所なのか。そこでは、どのように日々子どもと向き合っているのか。その基本的なメカニズムを会話分析的に可視化し、保健室のリアリティを明らかにする。	秋葉昌樹（龍谷大学准教授）	秋葉昌樹（龍谷大学准教授）
7	演劇的手法を用いた会話分析研究の実際	臨床的研究において重要なポイントは、〈いま・ここ〉の当事者性にいかにアプローチするかというところにある。演劇的手法と会話分析を組み合わせたアプローチによって、当事者性を可視化しつつ、研究する者自身が当事者の〈いま・ここ〉を再体験する研究法について、具体例を交えつつ紹介していく。	同上 （協力：中根真（龍谷大学短期大学部准教授）））	同上 ゲスト：中根真（龍谷大学短期大学部准教授）
8	現代高校生の進路選択と支援の取り組み	フリーターやニートの問題が注目される今日、高校の進路指導の在り方が問われている。こうした中で、筆者自身がとり組んでいる進路選択支援の取り組みを踏まえ、高校生の進路選択意識のあり様と、その変容にむけた支援の在り方を検討する。	酒井朗 （協力：千葉勝吾（都立高校教諭）））	酒井朗 ゲスト：千葉勝吾（都立高校教諭）
9	学校不適応問題に対する校種間連携の意義と課題	学校不適応の要因の１つとして指導や学校文化が校種毎に違うことが指摘されている。その現状と問題の背景を読み解くとともに、幼小連携、小中連携の意義とその実践にむけた原理的検討を行う。	同上	同上
10	ニューカマーと学校教育	「ニューカマー」と呼ばれる外国人児童生徒の学校経験、およびかれらを受け入れた学校現場における対応のありように注目することで、日本の学校教育の特質と課題が明らかになる。外国人児童生徒への支援を実りあるものとするには、何をどのように認識し、どのような問いの立て方をする必要があるのかを検討したい。	児島明（鳥取大学准教授）	児島明（鳥取大学准教授）
11	学校教育とジェンダー問題	近年の学校現場では、男女の望ましい関係やそれを達成するための取り組みに関して、異なる見解が錯綜している。様々な見解を類型的に把握することで、学校現場でのジェンダーをめぐる混乱の背景を理解し、ジェンダー問題とどう向き合うべきかを考える。	多賀太（関西大学教授）	多賀太（関西大学教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
12	青年期とジェンダー	青年期の葛藤や問題行動の多くは、その様相が男女で大きく異なるが、そうした男女差が生じる社会的背景が改めて問われることは少ない。ジェンダーの視点からとらえ直すことで、青年期の諸問題を多角的に理解し、問題への取り組み方を考える。	同　上	同　上
13	少年非行と学校	近年その増加や凶悪化が喧伝される少年非行は、学校との関連で論じられることが多い。しかしこれはどこまで妥当なのだろうか。少年非行と学校の関連を冷静にとらえなおし、学校現場で何ができるか、何をすべきかを考える。	伊藤　茂樹	伊藤　茂樹
14	ケータイ、インターネットと青少年	社会の情報化の進展が青少年の生活や人間関係に及ぼす影響を、ケータイ、インターネットを例に検討するとともに、予想される問題とそれへの対応について検討する。	酒井　朗 （協力：千葉　勝吾（都立高校教諭）） ゲスト：千葉　勝吾（都立高校教諭）	酒井　朗
15	まとめ－社会変容とこれからの学校教育	授業の目標に掲げた３点に沿って、この講義で扱った各トピックの意味や意義を整理する。それとともに、学校臨床社会学研究の今後の発展の可能性ならびに実際に研究を進めて行く上での倫理問題について検討する。	同　上	同　上

科目名（メディア）＝　市民性形成論（‘０７）＝（Ｒ）

〔主任講師（現職名）：二宮　皓（広島大学名誉教授）〕

講義概要

現代社会が価値観の多様化、社会の階層構造化、地球的広がりの中でのグローバル化、技術の先端化、揺らぎを見せる民主主義の問題など急激な変動に直面し、一人ひとりの市民の政治的社会化、とりわけシティズンシップと呼称される市民性形成をどのように推進・支援すべきかが社会政策・教育政策の重大な課題となっている。本講義では現代社会に投影される「市民性（市民的資質）」を考え、諸外国における市民性形成論やそのシステム並びにプログラムを検証しながら、「21 世紀の市民性」形成のあり方を探る。

授業の目標

「市民性」概念を多面的に理解し、諸外国の市民性形成の歴史、システム及びプログラムを学び、21 世紀の社会に求められる「市民的資質」をどのように捉えることができるかその方法論を学び、わが国の市民性形成のあり方について各自の考え方を構築することを基本的な狙いとする。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	市民性概念を探る	市民性（Citizenship）について、「市民権」「国民」「公民」「エスニシティ」の問題と対比しながら、その概念を探り、いまなぜ市民性形成論なのかその意義を探り、21 世紀の市民性形成論の課題を検討する（講義と対談形式）。	二宮　皓（広島大学名誉教授）	二宮　皓（広島大学名誉教授）
2	市民性形成論（１）―民主主義的市民性形成論	民主主義的市民性(Democratic Citizenship)の概念、政治的社会化理論の問題、民主主義的市民性形成論の展開、「能動的で責任ある市民性(Active and Responsible Citizenship)」の形成論、及び民主主義的市民性形成の課題について検討する。	二宮　皓（広島大学名誉教授）	二宮　皓（広島大学名誉教授）
3	市民性形成論（２）―グローバル市民性形成論	グローバル市民性(Global Citizenship)の形成論及び世界市民性（World Citizenship）の形成論を検討し、世界市民性形成の一つの方法論としての「討議・熟慮に基礎をおくカリキュラム（Deliberation-based Curriculum）」の適用可能性を検討する。	二宮　皓（広島大学名誉教授）	二宮　皓（広島大学名誉教授）
4	市民性形成論（３）―多文化主義的市民性・ポストモダン的市民性・メディア時代の市民性・ジェンダーと市民性	急激に変化する社会における市民性形成について、新たな挑戦としての多文化主義的市民性（Multi-cultural Citizenship）、ポストモダンと市民性概念、メディア時代における市民性論、そしてジェンダーと市民性の関係などについて講義し、新たな市民性形成への挑戦について検討する。	二宮　皓（広島大学名誉教授）	二宮　皓（広島大学名誉教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
5	日本の市民性形成論—公民教育から新たな市民性形成論へ	公民教育の歴史展開を簡単に振り返り、現在の公民教育と市民性形成論について考察し、新たな動向としての品川区の「市民科」導入の問題や学校における市民性形成のためのカリキュラムを検討し、一つの事例としてクロス・カルチュラル・コンピテンシー理論に依拠する市民性形成を提案する。	二宮　皓（広島大学名誉教授）	二宮　皓（広島大学名誉教授）
6	アメリカの市民性形成論（1）—市民性概念の歴史的・社会的文脈	アメリカ合衆国における市民性概念の歴史的展開を概観し、その形成論を考察する。	棚橋健治（広島大学教授）	棚橋健治（広島大学教授）
7	アメリカの市民性形成論（2）—初等・中等教育における市民性形成	アメリカ合衆国の初等・中等学校における市民性教育の具体的なプログラムを取り上げ、そこで形成が目指される市民性の内実とその形成の論理ならびに課題など考察する。	棚橋健治（広島大学教授）	棚橋健治（広島大学教授）
8	フランスの市民性形成論（1）—歴史的・社会的文脈	「人権宣言」は個人を身分制から解放して「市民」を創出し、すべての者を市民として育てることが公教育の役目となった。フランス独特の市民性概念の生成・変容と、市民性形成をめぐる種々の問題を検討する。	藤井佐知子（宇都宮大学教授）	藤井佐知子（宇都宮大学教授）
9	フランスの市民性形成論（2）—学校での教育の展開	第三共和制期に始まった学校での公民教育は、幾多の姿を変えながら 1985 年以降段階的に再興がはかられてきた。知識のみならず、態度、価値を含めることを課題としている市民性教育の具体的なプログラムとそれらをめぐる教育的諸問題を考察する。	藤井佐知子（宇都宮大学教授）	藤井佐知子（宇都宮大学教授）
10	イギリスの市民性形成論（1）—歴史的・社会的文脈	イギリスにおける市民性概念の歴史的変遷について自由主義および公民的共和主義の伝統を概観する。続いて今日の政治的・社会的状況と市民性形成について考察する。	新井浅浩（城西大学大学院教授）	新井浅浩（城西大学大学院教授）
11	イギリスの市民性形成論（2）—学校での教育の展開	イギリスにおける市民性形成のための学校教育の取り組みについて、歴史的展開を概観する。その上で、近年のイギリスの教育政策について論じ、その論理やシステムあるいは具体的なプログラムについて初等中等教育を中心として講義する。	新井浅浩（城西大学大学院教授）	新井浅浩（城西大学大学院教授）
12	ＥＵの市民性形成論	ヨーロッパ（ＥＵ）における新たな市民性形成のための教育について概観する。欧州連合やユネスコ、ＯＥＣＤ、欧州評議会などの国際機関によって提言され、推進されている市民性教育のプログラムを考察し、各国の取り組みの動向を講義する。	新井浅浩（城西大学大学院教授）	新井浅浩（城西大学大学院教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
13	アジアの市民性形成論（1）―タイを中心として	タイ国における市民性形成について、日本との比較を念頭におきながら、国家教育法の分析、カリキュラムの分析、児童生徒への意識調査結果の分析から考察し、これからの市民性教育のモデル案を提案する。	平田利文（大分大学教授）	平田利文（大分大学教授）
14	アジアの市民性形成論（2）―ムスリム（イスラーム教徒）の市民性形成論	タイにおける少数派であるムスリム(イスラーム教徒，タイ国民の約4％）の世界観や，ムスリムを対象として実施した市民性に関する意識調査結果の分析等から，ムスリムの市民性形成論を探る。	平田利文（大分大学教授）	平田利文（大分大学教授）
15	提言：21世紀の市民性形成論を問う―「多次元的市民性」論を中心として	21 世紀の市民的資質の把握、「多次元的市民性（Multi-dimensional）」論に基づいて新しい市民性形成論を提案する。それと同時に諸外国の事例などから日本における市民性形成論が何を学ぶことができるか、今後の課題は何かについても話し合いを行い、21 世紀の市民性形成論をについて検討する（講義と対談形式）。	二宮皓（広島大学名誉教授）	二宮皓（広島大学名誉教授）

事務局記載欄	開講年度	２０１０年度	科目区分	大学院科目	科目コード	8920559	履修制限	無	単位数	2

科目名（メディア）＝　生涯学習の理論と実践　（’１０）＝（ＴＶ）

〔主任講師（現職名）：三輪 建二（お茶の水女子大学教授）〕

講義概要

生涯教育や生涯学習が主張されるようになって40年もの年月が経過している。生涯学習の施策化や制度化が国、都道府県、市町村レベルで進みつつある反面、知識基盤社会を迎えている今日、生涯学習の果たすべき役割はいっそう増している。本講義では、以上のような今日的状況をふまえ、一方では社会全体が生涯学習に求める諸課題について、地域、学校教育、大学からのアプローチをふまえて整理する作業を行う。他方で、海外の生涯学習政策との比較、および学び手である学習者（成人学習者）あるいは成人教育者（学習支援者）にとっての生涯学習の意義と課題についても言及する。

授業の目標

生涯学習の基本理念については、現在進行形である多様な生涯学習政策、生涯学習事業、学習活動を読み解くことのできる基本的な視座を身につけることを目標とする。また、生涯学習活動や実践についての幅広い理解を得ることも目標とする。さらに、放送大学における本講座の受講が、受講生にとっての生涯学習であることに示されるように、生涯学習の意味を、単に研究対象として考察するだけではなく、自らの学習に引き付けて考える思考法を身につけ、自らの学習を省察する習慣を習得することも本授業の目標となる。

履修上の留意点

専攻科目である岩永雅也『生涯学習論』履修者も受講可能である。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	生涯学習の理念(1)	日本における生涯学習の理念について、戦後から平成20年に至るまでの流れを概観する。社会教育、生涯教育、学習社会、知識基盤社会などの類似の概念との関係を明らかにすると同時に、生涯学習の理念自体が、ノンフォーマルな学習やインフォーマルな学習形態、学校教育の包摂などを含めて変遷かつ拡大しつつあることを明らかにする。 【キーワード】 社会教育、生涯教育、学習社会、知識基盤社会、ノンフォーマルな生涯学習	三輪 建二	三輪 建二
2	生涯学習の理念(2)	平成20(2008)年に、中央教育審議会答申「新しい時代を切り拓く生涯学習の振興方策について～知の循環型社会の構築を目指して」が出され、生涯学習についての新しい理解と政策課題が示された。そこで、この答申の特徴について、知識基盤社会、知の循環型社会、個人の要望と社会の要請とのバランス、持続可能な社会の発展、連携・ネットワークの構築などの観点から明らかにすると同時に、答申がもつ課題についても言及する。 【キーワード】 知識基盤社会、知の循環型社会、社会の要請、学習成果の評価、連携・ネットワーク	三輪 建二	三輪 建二
3	生涯学習の学習論(1)	生涯学習は広範囲な概念であるが、生涯にわたる学習という考え方を「学習論」として整理してみると、どのようになるだろうか。ここでは、生涯学習の主な担い手である成人学習者の特性を活かした「アンドラゴジー」について検討する。M・ノールズのアンドラゴジーを中心とするが、アンドラゴジーのアイディアを拡大した成人学習論（ポスト・アンドラゴジー）についても言及する。 【キーワード】 アンドラゴジー、ノールズ、ポスト・アンドラゴジー	三輪 建二	三輪 建二

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
4	生涯学習の学習論(2)	生涯学習の概念はフォーマルな学習活動から、ノンフォーマル、インフォーマルな学習活動へと領域的、形態的な拡大を含んでおり、それにともなって新しい学習論が登場している。ここでは「省察的実践」(ショーン)「状況的学習」「実践コミュニティ」(ウェンガー)などについて検討し、それらの学習論が生涯学習にとってもつ意義について考察する。 【キーワード】 省察的実践、状況的学習論、実践コミュニティ	三輪 建二	三輪 建二(ゲスト:倉持伸江 東京学芸大学講師)
5	学校・家庭・地域の連携	第2章で述べた答申は、社会全体の教育力の向上を目指しため「学校・家庭・地域が連携するための仕組みづくり」について言及している。学校・家庭・地域との連携が求められる社会的背景、連携の仕組みづくりについて考察すると同時に、「放課後子どもプラン」や「学校支援地域本部」「学校支援ボランティア」などの施策を取り上げ具体的に検討する。 【キーワード】 学校・家庭・地域との連携、放課後子どもプラン、学校支援地域本部、学校支援ボランティア	三輪 建二	三輪 建二(ゲスト:佐藤晴雄 日本大学教授)
6	NPO・ボランティア	1990年代から生涯学習分野においても非営利団体(NPO)の役割が注目されるようになった。社会教育事業を担当するNPOや指定管理者となるNPOの存在の他、NPOの活動自体がNPO内外の関係者にとって(ノンフォーマル、インフォーマルな)生涯学習になっていることが背景にある。NPOやボランティアと生涯学習との関係について、以上の観点から検討する。 【キーワード】 NPO、NPO法、指定管理者、NPOと生涯学習	三輪 建二	三輪 建二(ゲスト:田中雅文 日本女子大学教授)
7	学習する組織	日本の社員教育や官公庁の研修等はOJTを中心に展開してきたが、知識・技能の急速な発展は終身雇用を前提とするOJT中心の教育・訓練の転換をせまっている。キャリア開発、エンプロイアビリティなどに言及し、組織全体が「学習する組織」として発展してく可能性と課題について考察する。 【キーワード】 OJT、終身雇用、キャリア開発、エンプロイアビリティ、学習する組織、P. センゲ	三輪 建二	三輪 建二(ゲスト:中村香 東京学芸大学非常勤講師)
8	高等教育機関の役割	大学は生涯学習に冷淡と言われてきたが、少子高齢化の中で、社会人に門戸を開放するようになっている。社会人への受け入れシステムの発展、大学・短大・専門学校、大学開放センターの役割について考察する。放送大学にも言及する。 【キーワード】 大学開放、社会人学生、大学開放センター、専門職大学院、放送大学	三輪 建二	三輪 建二(ゲスト:山本健慈 和歌山大学長)
9	行政の生涯学習支援とネットワーク	学習者が地域における学習資源を有効に活用していくためには、生涯学習機関や施設、団体の連携とネットワークが求められる。生涯学習を担当する行政の役割は、学級・講座の提供から学習情報の提供へ、さらには連携・ネットワークの構築へと転換しつつあることについて検討する。 【キーワード】 学習情報の提供、連携・協働、ネットワーク行政	三輪 建二	三輪 建二(ゲスト:倉持伸江 東京学芸大学講師)

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
10	生涯学習の評価	これまでの生涯学習では、学習の成果としてのアウトプットが語られないことが多かった。第2回で述べた中央教育審議会は、生涯学習において学んだ成果を地域などで活かすことを軸に据えた「学習成果の評価」に言及している。評価の理論をふまえつつ、履修証明制度等の活用にも触れながら、学校教育モデルとは異なる生涯学習の評価のあり方について考察を深める。 【キーワード】 学習成果、教育評価、学習評価、履修証明制度	三輪 建二	三輪 建二
11	海外の生涯学習(1)韓国	日本の生涯学習の動向を考える上で、他の諸国の生涯学習の理念と現状を理解することは、比較的考察を進める意味で重要である。3回にわたって世界各国の生涯学習の理念と現状、特色や課題について紹介する。まず、アジアの隣国である韓国の平生教育を取り上げることとし、平生教育の実務者の養成・研修についても言及する。 【キーワード】 韓国、社会教育、平生教育、平生教育士	三輪 建二	三輪 建二(ゲスト:イ・ビョンジュン 釜山大学教授)
12	海外の生涯学習(2)ドイツ・フィンランド	2回めは、生涯学習の先進国ともいうべきヨーロッパ諸国から、特にドイツおよびフィンランドの生涯学習を取り上げる。1990年代以降のEU統合の中での生涯学習政策(例えばグルントヴィ計画など)をはじめ、社会文化センターでの事業(ドイツ)、成人教育理念をふまえた活動理論の展開(フィンランド)に言及する。 【キーワード】 成人教育、継続教育、グルントヴィ計画	三輪 建二	三輪 建二
13	海外の生涯学習(3)発展途上国	アジアをはじめとする発展途上国における成人教育(生涯学習)は、識字教育を意味することが多い。3回目は、発展途上国の成人基礎教育、成人識字教育の現状と課題について言及する。また日本のNPO・NGOが途上国の識字教育に果たしている役割についても検討する。 【キーワード】 成人基礎教育、成人識字教育、NGO、バングラデシュ	三輪 建二	三輪 建二(ゲスト:座波 圭美 ユネスコ・アジア文化センター)
14	生涯学習と格差	いつでも、誰でも、どこでもという生涯学習の理念の実現は困難に直面している。一つは生涯学習の入口段階における学歴社会の存在であり、他方では、生涯学習によりますます経済的・社会的格差が発生しうるという問題である。また、成人の実践知と大学の学問知との相違を大学教育が再生産するという問題もある。生涯学習が格差是正にどの程度貢献しうるものなのかを考察する。 【キーワード】 格差社会、学歴社会、格差是正	三輪 建二	三輪 建二(ゲスト:岩永 雅也 放送大学教授)
15	生涯学習の展望と課題	日本のみならず世界各国で、フロント・エンド・モデルからの脱却と、生涯にわたる質の高い学習・教育を保証する教育システムの構築が希求される。生涯学習社会の実現への模索が続くものの、多くの克服すべき課題が未解決のまま残されている。前回の格差問題に続き、残された課題について検討すると同時に、講義全体のまとめを行う。 【キーワード】 フロント・エンド・モデル、生涯学習社会、学習観の転換	三輪 建二	三輪 建二(ゲスト:岩永 雅也)

＝　認知行動科学（‘０６）　＝（TV）
－心身の統合科学をめざして－

〔主任講師（現職名）：西川　泰夫（放送大学教授）〕

全体のねらい

人の心や行動を解明しようと取り組む分野は、現状多岐にわたる。なかでも、心理学が果たしてきた役割は大きいが、一方では、哲学的思索や思弁をふまえながらも、現在では、認知科学、行動科学、数理言語学、情報科学、コンピュータ科学、そして脳神経科学や物理学などからの科学的取り組みが新たな地平を開いている。こうした分野を統合して、認知行動科学と総称する。その背景、基盤、応用、そして新たな展開状況を解説し、自らの自己実現から心身の健康さらに安全で豊かな社会の実現に向けて、各自がこの問題解決に創造的に取り組むさいに欠かせない基本的概念体系や論拠を提示する。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	プロローグ	認知行動科学―心身の統合科学を目指して―。 常識問題―フレーム問題―。パラダイム・シフト。 認識の源泉―ボトム・アップかトップ・ダウンか―。 パターン認識。問題解決。創造の源、計算力。 認知行動科学への導入。記述、解説用語のレベル。 意味論のはざま。演繹論理と形式論理。	西川泰夫（放送大学教授）	西川泰夫（放送大学教授）
2	認知行動科学の背景（1）	心身をめぐる思弁と思索から。 デカルトの心身二元論。心とは。身体とは。 心身問題。言葉と自由意志。動物は言葉を持つか。 クレバー・ハンスの事例。条件反射学。実験行動分析学。機械は知性を持つか。チューリング・テスト。 脳、ニューラル・ネットワーク。カントの呪縛。	同上	同上
3	認知行動科学の背景（2）	心身をめぐる思索から科学的実証へ。 ホッブスの心身一元論。推理、心は名辞の計算機。 オートマトンの系譜。動物霊気の正体。 ガルヴァーニの起死回生実験。デカルトの心身問題の解消に向けて。精神物理学。三段論法。アリストテレスの形式論理学。形式化、抽象化、そして数学化の意義。論理学の基本ルール。関係構造。 同一律、矛盾律、排中律。逆、対偶、反対関係。	同上	同上
4	認知行動科学の背景（3）	現代記号論理学、命題論理学と述語論理学。 命題論理学。文章と文章を結び付ける４つの規則。 真理値、真理値表、真理関数。論理関係構造、演算。 論理代数の基本法則。矛盾、トートロジー。 述語論理学。主語の変数化、述語化。文章の関数化。 一変数関数、二変数関数、多変数関数。量化、量化記号。公理系の無矛盾性、完結性。	同上	同上

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
5	認知行動科学の背景（4）	「反射」の仕組みから「脳」のモデルへ。精神的分泌現象。パヴロフの条件反射学。無条件刺激と無条件反応の結びつき。条件付け操作、強化、消去、消去抵抗、自然回復。精神的分泌の正体。高次条件付け。一次信号系、二次信号系。洞察対試行錯誤。ケーラーのチンパンジーの知能テスト。ソーンダイクのネコの問題箱。条件反応を引き起こすメカニズム。神経系のタイプ。パヴロフの脳モデルの制約、限界とその後の展開。脳神経細胞は、非線形閾値素子。	同上	同上
6	認知行動科学の基盤（1）	行動（の）科学。行動心理学。ワトソンの行動主義。行動主義宣言。行動主義者の綱領。心理学の数学化。行動科学としての心理学。心は白紙。経験論。環境論。学習。情動条件付け―アルバート坊やの事例―。ワトソンの心理科学史の上での評価。新行動主義者たちの取り組みから―操作的概念の役割と意義。ミラーの獲得性動因論、不安とは。動因低減、動機論。	同上	同上
7	認知行動科学の基盤（2）	実験行動分析学―オペラント心理学―。スキナーの略年譜。スキナーの排除する「理論」とは。三項関係。機会刺激―オペラント行動―強化の随伴性。弁別刺激。強化子（正、負、罰）。強化のスケジュール。スキナー箱。累積記録器。日常場面での行動分析。刺激制御下にある自発オペラント行動。環境は、行動を淘汰する。相互間の刺激制御。	同上	同上
8	認知行動科学の基盤（3）	人間情報処理システム。入力情報の変換・伝達・処理・伝達・再変換・情報の出力過程。情報の流れの中で。情報伝達容量。ＳＮ比。情報量。情報量の単位。負のエントロピー。秩序と無秩序。対数関数。サイバネティクス。フィードバック・システム。ホメオスタシス。サーボ・メカニズム。情報伝達経路としての人。魔法の数「７±２」。情報の処理とは。チャンク化、コード化。語の冗長性。	同上	同上
9	認知行動科学の基盤（4）	認知過程論。情報処理システム・モジュール。直接記憶範囲。注意の範囲。スパーリングの実験から。部分報告法。全体報告法。記銘。直後再生。遅延再生。感覚貯蔵。リセット機能。パターン認識。セルフリッジ・モデル。パンデモニアム・モデル。おばあさん細胞説。ネットワーク説。ボトム・アップ・プロセス。トップ・ダウン・プロセス。予期図式。創造性、創造的問題解決。	同上	同上
10	認知行動科学の基盤（5）	記憶システム。一次記憶、二次記憶。行動論と記憶。エビングハウスの忘却曲線。無意味つづり。節約率。記憶崩壊と干渉理論。順行・逆行抑制。緊張理論。抑圧理論。短期記憶過程と長期記憶過程の分離。系列位置曲線。初頭効果。親近性効果。短期記憶情報の検索過程。高速悉皆走査直列処理。中途打ち切り走査。長期記憶過程。確率過程論モデル。	同上	同上

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
11	認知行動科学の基盤（6）	中央制御システム。脳のモデル。形式ニューロン。シナプス結合荷重（係数）。閾値。シグモイド関数。形式ニューラル・ネットワーク。パーセプトロン。分類。誤り訂正学習法。ヘッブの疎通原理。パーセプトロンの計算。パターン変換計算。学習収束原理。隠れ層。排他的ｏｒ計算。非線形力学系モデル。ホップフィールド・モデル。エネルギー関数。極小値。ボルツマン・モデル。	同上	同上
12	認知行動科学の応用（1）	動物モデル。行動療法。薬理療法。行動医学。パヴロフの分化条件付け。実験神経症。消去法。消去抵抗。拮抗条件付け。系統的脱感作法。葛藤のタイプ。マッサーマンの実験。心的ストレス。ワトソンの情動条件付け。刺激汎化。スキナーのオペラント技法。行動修正・変容法。応用行動分析学。教育工学。エア・クリブ。行動薬理学。生活習慣病。刺激制御。自己制御。環境設計（ユートピア論）。	同上	同上
13	認知行動科学の応用（2）	動物モデル。認知行動療法。心身問題。ブラディ実験。ストレス刺激・ストレス反応。心身症。心的疲労。ストレスと免疫機構。ワイス実験。三つ組み法。統制群、実験群、ヨークト群。回避・回避葛藤。心因性胃障害。セリグマン実験。学習性絶望感。無力感。心因性うつ症モデル。信念、世界観。自己制御。経験の後遺症。対処可能性。認知行動的対処法。認知行動的免疫法。認知行動的耐性強化法。ハイテク導入技法。バイオ・フィードバック法。薬理法。	同上	同上
14	認知行動科学の応用（3）	動物モデル。比較認知行動科学。スキナーのコロンバン・シミュレーション計画。ハトによる認知過程のシミュレーション。二羽のハトによる言語を用いた会話。創造的問題解決過程。高い天井につるしたバナナをつつくハトの洞察。短期記憶過程。ハトのメモ取り。自己認識。自己認識実験パラダイム。ハトの鏡像理解。応用比較認知行動科学。行動工学。	同上	同上
15	エピローグ	認知科学の成立基盤再考。人間の知性再考。心の記号・計算論。論理関係構造。四則演算。文法。人工知能研究（ダートマス会議）。情報科学セミナー。情報処理システム。記述のレベルと用語。形式体系。チューリング・マシンの計算。デネットの計算論を巡る論理地図。高教会派計算主義。禅的全体論。ドレイファスの反記号論・反計算論。身体・文脈・意図、志向性。サールの中国語の部屋思考実験。意味の役割。チューリング・テスト再考。ペンローズの反人工知能論。ゲーデルの不完全性定理。おわりに。	同上	同上

科目名（メディア）＝　認知過程研究（‘０７）＝（Ｒ）
－知識の獲得とその利用－

〔主任講師（現職名）：稲垣　佳世子（千葉大学教授）　〕
〔主任講師（現職名）：鈴木　宏昭　（青山学院大学教授）〕
〔主任講師（現職名）：大浦　容子　（新潟大学教授）　〕

講義概要

ここでは高次の認知（思考）過程における知識の獲得と利用に焦点をあてる。日常場面や教育場面での私たちの活動の多くは問題解決と理解の過程として捉えられるが、上手な問題解決や、物事のよりよい理解には「理解力」や「問題解決力」といった一般的能力ではなく、その領域に関する「知識」が重要な役割を果たしていることを示す。さらに認知の主体としての人間（幼児、児童、大人）が頭の中にモデルを構成し、それを通して外界に対処する能動的な存在であることを示す。

授業の目標

（1）　認知過程に関する主要な研究成果・最近の研究成果を伝えること
（2）　学生が認知過程についての研究をみずからおこなう時の手助けになること

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	認知過程を研究するとは	「認知過程」を研究するとはどのようなことかについての道案内をする。教育場面や日常場面での私達のさまざまな活動の多くは問題解決と理解の過程と捉えられること、認知過程研究で使われる知識や推論など重要な概念について解説する。	稲垣佳世子（千葉大学教授）	稲垣佳世子（千葉大学教授）
2	子どもが世界を理解する仕方	子どもはかなり早い時期から特別教えられていないにもかかわらず、世界の重要な諸側面を切り分け、それぞれに異なる因果的な説明を適用できるという点で、今まで考えられてきたよりも有能な存在であることを示す。	稲垣佳世子（千葉大学教授）	稲垣佳世子（千葉大学教授）
3	概念変化：知識の大幅な組み替え	日常生活場面や学校場面で獲得する知識の多くは、新しく情報を取り入れるたびに少しずつ改変されるが、時を隔ててみると知識の大幅な組み替えが生じていることがある。日常場面と学校場面におけるこうした概念変化について解説する。	稲垣佳世子（千葉大学教授）	稲垣佳世子（千葉大学教授）
4	熟達者と初心者のちがい	熟達者と初心者はどこがどう異なるのだろうか。主にスポーツや芸術、職業場面での熟達者を例にしながら、熟達者の豊かで構造化された知識を明らかにする。	大浦容子（新潟大学教授）	大浦容子（新潟大学教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
5	熟達化の社会・文化的基盤	初心者が熟達者になっていく過程は、初心者が熟達者のコミュニティに実践活動を通じて参加していくことである。熟達化の過程で他の人々や文化がつくり出した道具についてのメンタルモデルを作っていくことを明らかにする。	大浦容子（新潟大学教授）	大浦容子（新潟大学教授）
6	問題解決の基本図式	問題解決を問題空間内での探索として定式化する見方を解説する。次に、探索を制御するヒューリスティクスについて解説を行う。最後に、問題解決で得られた知識の転移について説明を行い、問題表象の重要性を指摘する。	鈴木宏昭（青山学院大学教授）	鈴木宏昭（青山学院大学教授）
7	教科学習における問題解決と転移	算数や理科などの教科における問題解決プロセスの特徴についてまず解説を行う。次に、教科の学習を困難にする原因を、知識表象の性質、素朴概念の観点から検討する。最後に、こうした困難を克服するために有効な心理メカニズムを紹介する。	鈴木宏昭（青山学院大学教授）	鈴木宏昭（青山学院大学教授）
8	外的資源を用いた問題解決と学習	人間は、通常さまざまな外的資源（道具、メモ、図表、他者）を意識的、無意識的に利用しながら問題解決を行っている。外的資源を用いた問題解決の事例を紹介しながら、それらが認知プロセスにおいて果たす役割を明らかにする。	鈴木宏昭（青山学院大学教授）	鈴木宏昭（青山学院大学教授）
9	創造的問題解決	洞察、発見を含むような創造的問題解決においては、通常の問題解決とは異なり、非定型的な問題表象をつくり出す必要がある。ここでは創造的問題解決を認知の多様性及びその評価という観点から捉えて、ひらめきの生じるメカニズムを解説する。	鈴木宏昭（青山学院大学教授）	鈴木宏昭（青山学院大学教授）
10	推論の諸相	人間の思考において問題解決と同様に重要なのが推論である。ここではまずさまざまな推論(演繹、帰納、類推)の区別を行う。次に、日常的思考において、演繹、帰納、類推がどのように関連しあうかを論じる。	服部雅史（立命館大学教授）	服部雅史（立命館大学教授）
11	判断・推論におけるバイアス	人々が事象について行う推論にはさまざまなバイアス（偏り）があることが知られている。その主なもの（カーネマン、トヴァスキー、ギーゲレンツァーなどの研究）を紹介し、それらがなぜ簡単には消去されないかを考える。	楠見孝（京都大学大学院准教授）	楠見孝（京都大学大学院准教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
12	批判的思考とメタファ的思考	人は論理的な規準にもとづいて批判的に思考し、推論におけるバイアスを最小限にしようとしている。他方では，類似性や近接性にもとづく比喩を使って理解したり，新たな表現を生み出しており，このメタファ的思考は文学作品だけでなく，日常生活でも発揮されている。	楠見　孝（京都大学大学院准教授）	楠見　孝（京都大学大学院准教授）
13	認知と社会的相互作用	推論は個人の頭の中で生じるとはいえ、その個人をとりまく文脈、とくに異なる立場の他者の存在によって強く影響されること、逆に他者との相互作用を通して推論や認知が促進されることをしめす。	大浦容子（新潟大学教授）	大浦容子（新潟大学教授）
14	談話理解	談話理解の研究のために、いわゆる認知心理学でとりあげられてきた実験はどのようなもので、そこから明らかになったことは何か、未解決な問題は何かを検討する。合わせて談話の産出（作文など）についてもふれる。	秋田喜代美（東京大学大学院教授）	秋田喜代美（東京大学大学院教授）
15	教室における談話	教室学習における教師と生徒、生徒同士の談話を調べることによって生徒の思考を促す教師のことばや子どもの発言がどのようなものかを検討する。こうした談話については文化差のあることも知られている。	秋田喜代美（東京大学大学院教授）	秋田喜代美（東京大学大学院教授）

科目名（メディア）＝　発達心理学特論（‘０７）＝（TV）

〔主任講師（現職名）：　内田　伸子（お茶の水女子大学副学長）　〕
〔主任講師（現職名）：　氏家　達夫（名古屋大学大学院教授）　〕

講義概要

「生涯発達」・「生涯学習」の視点に立って、ヒトの発達過程を、気質、感情、対人関係、自己意識、言語、思考などの諸相から最新の知見を紹介しながら講義する。臨床知と学問知を架橋するためのコラムを手がかりにして人間の生涯発達過程について理解を深め、さらに発達研究の実証的な方法を知ること、さらに発達研究の方法論について考察する。

授業の目標

ヒトは回りの人々との対人的なやり取りを通して人間化、文化化へ道程をたどる。生涯発達の過程では生物学的制約を受けながらも、環境からの入力によって、さらに自分自身の自己意識や自由意志の力によって発達を遂げる。人間は生涯発達し続け、自己をつくりかえていく存在である。講義から人間発達の可塑性の大きさを実感すると共に、自分自身の生き方を省察し、生きることの意味に到達することが目標である。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	発達をとらえる：生得−経験論争	発達心理学では、生まれか育ちか、経験か生得かをめぐる２０世紀の間に心理学における「発達」の捉え方がどのようにかわってきたか、１９６０年頃から盛んになった相互作用説、さらに１９８０年代から出てきた文化文脈説、２１世紀に意識されはじめた歴史的視点の導入など、言語と認識の起源を探るための方法論を例として取り上げ、発達研究に進化心理学や比較行動学、歴史心理学の視点の意義を述べる。これを踏まえて、今後、発達心理学はどのような方向に発展していくべきかについて論考を進める。	内田伸子（お茶の水女子大学副学長）	内田伸子（お茶の水女子大学副学長）
2	子どもは変わる、大人も変わる：人間発達の可塑性	ヒトとして生まれても、生物学的要因、社会・文化的要因の一つでも十分に機能することなしには人間にはなれない。発達心理学領域では遺伝か環境かをめぐる論争が繰り返されてきた。本章では人間発達を規定する要因は遺伝か環境か、発達はどこまで可塑的なのかについて考察する。現代社会は大人にとってストレスがきわめて高い。そのしわよせは無力な子どもたちに向かう。子どもの自律を阻む過保護の親、幼児初期から子どもの将来へのレールを敷いて塾に通わせ、文字や数の訓練を開始する親がいる。その一方で、親自身も孤立し養育放棄や虐待に走る。過保護と虐待、現象的には反対だが、子どもを支配し、その発達を阻む点ではどちらも同じである。このような歪んだ環境の中で心身ともに深く傷つきながらも見事に立ち直り発達を遂げていく子どもたち。彼らの姿は、人間の発達がいかに可塑性に富んでいるかを劇的に示してくれる。	同上	同上

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
3	感じる心：情動の発達	情動の研究がさかんに行われるようになってきた。情動の脳モデルや進化心理学が注目されているし、情動の機能主義的モデルがますます広く受け入れられるようになった。この章では、情動の理論として、これらのモデルや考えを紹介する。情動の機能主義的モデルによれば、情動は個人の行動やそれにともなう環境との関係の変化と連動しながら発達する。発達のプロセスで起こっていることを示す研究やデータを紹介しながら、情動発達の仕組みについての考察を進める。最後に、情動と社会的行動や問題行動との関係を取り上げる。	氏家達夫（名古屋大学大学院教授）	氏家達夫（名古屋大学大学院教授）
4	思い出はどこから：出来事の記憶と想起	幼児は２，３歳になると，見たことや体験したことの記憶を話すようになる。また，多くの大人にとって，過去を振り返り思い出すことができるのは，２，３歳頃からの記憶である。日常的な些細な出来事から人生を左右するような重大な出来事まで，特定の時間，場所で起きた，体験や出来事の記憶は「自己」の履歴となり，現実感を維持し，将来への展望をつくりだす。このようなエピソード記憶の成立を支える要因は何か。体験を分かち合うことを促す対話，自己の感覚，そして，いつどこで体験したかという情報源の特定が重要な要因として考えられている。	仲真紀子（北海道大学大学院教授）	仲真紀子（北海道大学大学院教授）
5	想像する心：思考と談話の成立	ことばは象徴機能を基礎にして成立し、人とのやり取りの手段として、また内的なモデル（表象）を構成する手段となる。やがて、象徴機能を基礎として想像力が開花し幼児期を通して発達するのと軌を一にして、ディスコース（談話や物語）が生成されるようになる。人は、世界を語り、自己を語る。ことばは世界を認識し、自己意識を形成する有力な手段となる。	内田伸子（お茶の水女子大学副学長）	内田伸子（お茶の水女子大学副学長）
6	情報を分かち合う：出来事の報告と目撃証言	双方向コミュニケーションの多くは，質問，あるいは情報提供の依頼と応答，すなわち情報提供からなっている。大人と子どものコミュニケーションも同様であり，多くの場合，大人が質問や問いかけを行い，子どもがそれに答える。日常生活ではこれでうまく事が運ぶことが多い。しかし，例えば事故や事件の報告を求めるなど，子どもしかもっていない特定の情報を大人が得ようとする場合には，このようなコミュニケーションの形態が妨害として働くことがある。質問，とくにクローズ質問を繰り返すと答えが変わってしまう，前に尋ねた質問の内容が次の質問の答えに反映されるなど，種々の弊害が知られている。こういった問題を踏まえ，自発的な報告を主体とした面接法が開発され，実用にも付されている。	仲真紀子（北海道大学大学院教授）	仲真紀子（北海道大学大学院教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
7	心を読み取る：心の理論の発達	幼児期の子どもたちにおいて、自分が知っていることは人も知っていると思っているかのような行動がごく普通に見られる。「自己中心的思考」とか「自ー他の区別の未分化」などと呼ばれてきた問題は、この四半世紀余の間に「心の理論」というテーマで研究が進展してきた。心を理解するということは、物を理解するということとは違った別の難しさをはらんでいる。しかし、子どもたちは幼児期の４歳から６歳の間に、心を読み取る能力獲得の最初のステップに立ち、そのことが子どもの思考や行動を豊かにしていく。心を読み取る能力は、集団生活を送る人間が進化の過程で身につけてきた能力であり、霊長類研究やロボット研究においても、ますます重視されるようになっている。	子安増生（京都大学大学院教授）	子安増生（京都大学大学院教授）
8	心をはぐくむ：自律性の発達	人間の発達を自律性の側面からとらえることができる。子どもは、養育者との関係の中で自律性を発達させる。自律性の発達にとって、子どもの行動発達や気質特徴が重要な意味をもつ。子どもの運動能力や認知能力の発達にともない、子どもは自分の行動や情動の制御のパターンを変化させるし、養育者の子どもに対する行動も変化する。養育者の行動と子ども自身の特徴との間には交互作用があることもわかっている。また、子どもの行動に対する親の行動は、親が所属する文化や社会的条件の影響を受ける。	氏家達夫（名古屋大学大学院教授）	氏家達夫（名古屋大学大学院教授）
9	才能をはぐくむ：多重知能理論と教育	人の能力は、相対的に独立したいくつかの機能単位（モジュール）から成り立っているという考え方が、この 20 年ほどの間に有力視されるようになってきた。多重知能理論では、人間の能力を学校知能、社会的知能、芸術的知能に大別する。心にモジュール性があるということは、それぞれの知能が相互に独立して発達するということである。特定の才能を発達早期から鍛える英才教育と、さまざまなモジュールを広く満遍なく育てる全人教育は、一見すると正反対の目標に立っているようだが、いずれも知能のモジュール説からみれば妥当な考え方である。すなわち、知能のモジュール説を学ぶことは、教育のあり方を考える上で大きな示唆を与えてくれるものである。	子安増生（京都大学大学院教授）	子安増生（京都大学大学院教授）
10	三つ子のたましい：幼児教育の実践の特徴	今日ではほとんどすべてのこどもが何らかの幼児教育の経験を経ている。ここでは、家庭における養育や親子関係が幼稚園や保育園での経験とどのようにつながっていくのかを考えたい。また、日本の幼児教育における指導の方法やその基礎にある教師たちの信念の特徴を主にアメリカと比べてより明確にしたい。	臼井博（北海道教育大学教授）	臼井博（北海道教育大学教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
11	学びを学ばせる：学校文化の談話構造	幼児期の終わり頃までには、子どもは二次的ことば、すなわち、読み書きの世界への第一歩を踏み出す。読み書きを媒介にして子どもの世界は時間・空間を隔てた伝達を可能にし、子どもの意識は「今」「ここ」を超えて広がるようになる。また、文字はことばについてメタ的に捉えることを可能にする。児童期の終わりにはメタ認知能力と思考操作の深化に伴い、三次的ことばに変化し、考える手段としてのことばは一層確実なものになる。個人的なやり取りの中で育まれた生活言語は質的に改変され、公共性の高い言語を獲得するようになる。本章では子どもが読み書き能力をどのように獲得していくか、また、読み書き能力の獲得が子どもの認識過程にどのような影響を及ぼすか、書くことと考えること、感じること、さらに振り返ることとの関係について考察することにより、学校文化の学びの意味を考える。	内田伸子（お茶の水女子大学副学長）	内田伸子（お茶の水女子大学副学長）
12	メディアからの学び：子ども文化と発達	現代の子どもたちは、生まれたときから、テレビ、ビデオ、テレビゲーム、コンピュータ、携帯電話などさまざまなメディアに取り囲まれて生活している。子どもたちは、このようなメディアからどのようなことを学んでいるのだろうか。子ども向けの番組でも、それをきちんと理解するには、映像文法の理解など、多くの前提を必要としている。また、メディアの中には、子どもの発達を妨げたり、歪めたりするものはないのだろうか。本当に「2歳までの子どもにテレビを見せてはいけない」のだろうか。子どもの発達にとってメディアはどのような役に立つのだろうか。この章では、子どもの文化の中に根づいているさまざまなメディアと発達の関係について考えてみよう。	子安増生（京都大学大学院教授）	子安増生（京都大学大学院教授）
13	学びつづける心：小学校6年間の発達	学童期という名称があるように、この時期の子どもの生活時間のなかで一番多くの時間を学校で過ごす。ここでは主に小学校の6年間の子どもの発達の姿を見ていきたい。この時期の重要な発達課題の一つは、社会の構成メンバーとして必要な基本的な知識や技能の習得であり、それは学校の全体的なカリキュラムを通じてなされるが、授業がそのもっとも中心的なものである。その授業の特徴、そこでどのようなことが学ばれているのかを見ていきたい。また、学習に対する動機づけの性質とその学童期を通じての変化についても考えてみたい。	臼井博（北海道教育大学教授）	臼井博（北海道教育大学教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
14	子どもと大人のはざま：青年期の意味	青年期の課題を自律－自立の問題と捉える。学童期から青年期にかけて、参照集団が親から仲間へと変化する。しかし、親の提供する行動基準や価値は役割を失うわけではない。早期の自由は必ずしもよい結果を生まないし、非行などの問題行動に対する仲間の影響は、親との関係で緩衝される。自律—自立の問題は、アイデンティティの問題でもある。青年は社会からの認証と自分らしさの間の葛藤を解消しなければならない。アイデンティティ確立のプロセスを、それを妨害する要因と関連づけて考察する。	氏家達夫（名古屋大学大学院教授）	氏家達夫（名古屋大学大学院教授）
15	幸せを求めて：生病老死の発達心理学	加齢についての研究がさまざまな角度から進められている。この章では、加齢がわれわれの心の状態や能力にどのような影響を及ぼすのかを検討する。加齢は、基本的に生物学的現象である。しかし、加齢による変化には大きな個人差があることがわかっている。その個人差は、部分的に遺伝子レベルや物質代謝のレベルで理解されるが、心理学的要因が大きく関与していることも事実である。この章では、加齢の生物学モデルを前提に、加齢の個人差に対する心理学的要因の効果を検討することで、サクセスフル・エイジング（アンチ・エイジング）のための心理学的条件を明らかにする。	氏家達夫（名古屋大学大学院教授）	氏家達夫（名古屋大学大学院教授）

事務局記載欄	開講年度	２００９年度	科目区分	大学院科目	科目コード	8920524	履修制限	無	単位数	2

科目名（メディア）＝　学校臨床心理学特論　（’０９）＝（ＴＶ）

〔主任講師（現職名）：滝口俊子（放送大学教授）〕

〔主任講師（現職名）：高石浩一（京都文教大学教授）〕

講義概要

我が国における学校臨床心理学の発展は、1995年の公立中学校に対するスクールカウンセラーの試験的配置に始まり、現在小中高校など約10000校にスクールカウンセラーが配置されていることによって示されている。またその活動内容についても、特別支援教育や適応指導教室、緊急支援などにまで多岐にわたり、ますますその幅を広げつつある。これまでの学校臨床心理学の成果を概観すると同時に、今後のそのあり方を諸外国の例や識者の意見をもとに探っていきたい。

授業の目標

全15回の講義を通して、多岐にわたる学校臨床心理学の活動を概観し、特にスクールカウンセラーが具体的にどのように関わっていけるかを理解すると共に、今後目指すべき方向性を模索する姿勢を学ぶことを目標にする。学校現場で単に受身に起こってくる事態に対処するだけでなく、自ら能動的に動くことができる臨床心理士の養成を最終目標とする。

履修上の留意点

「スクールカウンセリング（’05）」、「乳幼児・児童の心理臨床（’07）」を参考に履修することが望ましい。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	我が国の学校臨床心理学	我が国の学校臨床心理学が、どのように発展してきたか、その推移と、スクールカウンセラーのシステム作りの工夫について、紹介する。さらに学校臨床心理学の今後について考える。 【キーワード】 教育と心理臨床、文部科学省、学校臨床心理士専門委員会	滝口俊子（放送大学教授）	滝口俊子（放送大学教授）
2	学校臨床心理学の実践～小・中学校の場合	子どもの成長の課題について、小学生・中学生の問題や昨今の子どもの傾向などを紹介する。問題の低年齢化、家庭環境の変化などに伴い、幼児期のカウンセリングの要請も多いので、保育カウンセリングについても取り上げる。 【キーワード】 スクールカウンセリング、保育カウンセリング、発達課題、発達障害、家庭環境、友人関係	滝口俊子（放送大学教授）	滝口俊子（放送大学教授）
3	学校臨床心理学の実践～高校・大学の場合	義務教育以降の高校・大学における学校臨床は、その進学率の高さから、小中学校の義務教育機関と同様の問題を抱えながら、同時に機関の特殊性に基づいて休退学の容易さ、その後のフォローのあり方など、対応に微妙な違いがある。そうした機関の特殊性を考慮した学校臨床のあり方を論じる。 【キーワード】 休退学、学生相談	高石浩一（京都文教大学教授）	高石浩一（京都文教大学教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
4	不登校をめぐる支援	近年、不登校状態の子どもたちの背景となる心理的・社会的な状況が多様化してきている。この現状について整理した上で、学校教育システムの中での多面的な不登校支援の仕組みについて、適応指導教室、別室登校、スクールカウンセラーからの支援の役割について論じる。 【キーワード】 不登校、適応指導教室、別室登校	香川克（京都文教大学准教授）	香川克（京都文教大学准教授）
5	いじめ・非行をめぐる支援	昨今、教育現場で起こる自殺などの、大きな引き金として注目されているいじめ、非行といった問題に対して、どのように考え、具体的に対処していけばよいかを考える。とりわけ、加害者・被害者双方の支援のありかたといった観点から、単なる悪者探しに終わらない支援の方向性を探求していきたい。 【キーワード】 いじめ、加害者・被害者支援	吉田圭吾（神戸大学准教授）	吉田圭吾（神戸大学准教授）
6	発達障害をめぐる支援	落ち着かない子ども・対人関係に問題を抱える子ども・学習に困難を抱える子どもに、LD・ADHD・高機能広汎性発達障害など発達障害の観点から、「特別支援教育」が学校教育の中で始められている。学校臨床心理士は発達障害やその周辺の子どもたちに対して、どのような支援が出来るかについて論じる。 【キーワード】 発達障害、特別支援教育	香川克（京都文教大学准教授）	香川克（京都文教大学准教授）
7	危機介入と緊急支援	事件・事故・災害など、学校システム全体が揺らぐような事態が生じる場合、システム全体を視野に入れながら心理的な支援活動を行うことを“緊急支援”と呼ぶ。また、暴力被害や非行など、当該の児童生徒や家族に対して、個別的ではあるが緊急性の高い“危機介入”を求められる場合もある。このような際のスクールカウンセラーの活動について論じる。 【キーワード】 学校システム、緊急支援、危機介入	香川克（京都文教大学准教授）	香川克（京都文教大学准教授）
8	諸外国の学校心理臨床	諸外国、とりわけ学校臨床の先進国である欧米の学校臨床心理学的支援の展開、現状について学習すると同時に、実際の学校臨床心理学的支援について、体験者などのお話をもとに、我が国でも導入可能な学校現場における心理臨床の方向性を探る。 【キーワード】 スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー	高石浩一（京都文教大学教授）	高石浩一（京都文教大学教授）
9	教師との連携・支援体制づくり	スクールカウンセラー制度はかなり定着してきたが、スクールカウンセラーと教師との連携は学校ごとに大変難しい場合もある。教師とスクールカウンセラーがお互い十分納得して連携するために必要な条件や校内教育相談システムについて議論し、合わせて学校の保護者・子どもへの支援体制づくりについて考察する。 【キーワード】 スクールカウンセラー、教育相談、教師との連携	吉田圭吾（神戸大学准教授）	吉田圭吾（神戸大学准教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
10	保護者への対応	近年学校を揺るがす保護者からの教育現場への過剰な要求、それに対応する教師の悩みが数多く報告されている。“困った親”にはどのようなタイプがあるのか、タイプごとの教師の対応の仕方、“困った親”に対する基本的な態度などを論じながら、保護者との連携の基本原則について多面的に考察していく。 【キーワード】 “困った親”、保護者の罪悪感、保護者との連携	吉田圭吾（神戸大学准教授）	高石浩一（京都文教大学教授）
11	学校を越えて―家庭訪問、メール	教育現場は学校だけではない。教育委員会や適応指導教室、さらには地域の不登校児を受け入れるNPOなどさまざまな団体、病院や保健所との連携もまた、学校臨床の視野に入りつつある。インターネットの利用や家庭訪問など、学校という枠を越えるスクールカウンセラーの活動について考察する。 【キーワード】 家庭訪問、メール、適応指導教室	高石浩一（京都文教大学教授）	高石浩一（京都文教大学教授）
12	学校臨床のアセスメント	学校臨床心理学におけるアセスメントとは、児童生徒のアセスメント、保護者や教師のアセスメントに加えて、学校システム全体に関するアセスメントも含まれる。その具体的な方法や姿勢、さらには学校臨床への活用の仕方について、守秘義務との関連も視野に入れながら考察する。 【キーワード】 学校アセスメント、心理テスト	高石浩一（京都文教大学教授）	高石浩一（京都文教大学教授）
13	スクールカウンセラーの研修	学校臨床心理士（スクールカウンセラー）は、面接室で児童・生徒・保護者・教職員に面接すると共に、面接室外での諸活動がある。多様な要請に応えられるスクールカウンセラーとして不可欠な研修、心理臨床の力量をあげるために不可欠なスーパーヴィジョンについても、詳述する。 【キーワード】 大学院教育、事例検討会、研修会、スーパーヴィジョン	滝口俊子（放送大学教授）	滝口俊子（放送大学教授）
14	スクールカウンセラーへの期待（1）	学校臨床心理学は研究も大切であるが、子どもたちの成長・発達に役に立たなくては意味がない。子どもの関係者の声に耳を傾ける。 【キーワード】 信頼関係、連携、広い深い視野	滝口俊子（放送大学教授）	滝口俊子（放送大学教授）
15	スクールカウンセラーへの期待（2）	教育に深くかかわる方に、スクールカウンセラーへの期待と要請を語っていただく。 【キーワード】 教育の未来、教育委員会、学校文化、宗教性	滝口俊子（放送大学教授）	滝口俊子（放送大学教授）

事務局記載欄	開講年度	２００９年度	科目区分	大学院科目	科目コード	8920516	履修制限	無	単位数	2

科目名（メディア）＝　心理・教育統計法特論　（’０９）＝（R）

〔主任講師（現職名）：福田　周　（東洋英和女学院大学准教授）〕

〔主任講師（現職名）：卯月　研次　（大正大学准教授）〕

講義概要

臨床心理学研究や発達・教育研究において、その研究法には、「数量的」研究と「質的」研究の2つの枠組みで捉えられることが多い。特に臨床心理学では、事例研究を中心とした質的研究がその主たる研究法として取り上げられることが多いが、「数量的」研究法もまた臨床心理学研究になじまない方法では決してない。あくまでも臨床実践に生かされるような「数量的」研究を行うにはどのような統計法が有効であるのか、実際的な研究事例を用いながら解説していく。具体的には調査研究で多く用いられる多変量解析法、実験を用いた仮説検証型の臨床研究などを取り上げて考察していく。

授業の目標

全15回の講義を通じ、心理学における統計法の手法を身につけるとともに、臨床実践の中での数量的研究視点のもち方、仮説検証型の研究方法の利点と欠点などを理解し、実際の研究アイデアに生かせるようになることを目標とする。さらに、理論的理解だけではなく、実際に演習を行いながら、数量的分析を行えるようにしていく。

履修上の留意点

研究法の全体的な基礎を習得するために、「臨床心理学研究法特論」を学んでおくことが望ましい。また、発達研究や質的研究に関しては、「発達心理学特論」を合わせて学んでおくことが望ましい。統計法そのものの基礎的な知識に関しては、学部「心理学研究法」、「計量心理学」などを参考にするとよい。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	数量的研究とは	統計学の歴史を概観しながら、臨床心理学研究に統計学がどのように取り入れられてきたかを解説する。さらに仮説検証型の研究方法を用いた研究スタイルの特徴を説明し、数量的分析の基本的手順について理解を深める。 【キーワード】 統計学、確率論、仮説検定、推測統計、帰無仮説、対立仮説、検定力、標本集団、母集団	福田　周（東洋英和女学院大学・准教授）	福田　周（東洋英和女学院大学・准教授）
2	基礎統計	ここでは、心理・教育統計法で扱う「データ」について理解を深める。尺度の種類による数値の性質の違いを理解した上で、統計の基礎概念である平均値や標準偏差、正規分布などの考え方を確認しておきたい。 【キーワード】 尺度の種類、記述統計、代表値、標準偏差、不偏分散	卯月　研次（大正大学・准教授）	卯月　研次（大正大学・准教授）
3	推測統計	推測統計における帰無仮説の意味を説明し、さらに推測検定の仕組みを解説する。その上で統計学における確率、推測といった基本概念についてt検定を例に取り、理解を深める。 【キーワード】 推測統計、標準化、有意差、帰無仮説、対立仮説、第1種の過誤、第2種の過誤、t検定、t分布	卯月　研次（大正大学・准教授）	卯月　研次（大正大学・准教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
4	t検定	推測統計の中でも基礎的な検定であるt検定を取り上げ、その種類や留意点などを説明する。また、対応のあるデータと対応のないデータの違いやF検定についても説明する。 【キーワード】 対応のあるデータ、対応のないデータ、対応のあるt検定、ウェルチの法、F検定	卯月　研次（大正大学・准教授）	卯月　研次（大正大学・准教授）
5	分散分析	分散分析の基本的な考え方と使い方を説明する。まず実験・研究計画の種類や要因・水準について説明し、一要因の分散分析で計算の仕組みと結果の見方を学ぶ。さらに、二要因の分散分析と交互作用についても理解を深める。 【キーワード】 分散分析、要因、水準、被験者間計画、被験者内計画、多重比較、交互作用	卯月　研次（大正大学・准教授）	卯月　研次（大正大学・准教授）
6	名義尺度の検定—χ^2検定	臨床心理学の研究においては、得られるデータが名義尺度であって、それぞれのカテゴリーにあてはまる人数の比率の差を統計的に検定したい場合が多くある。この回では、このような場合の検定法として、最も一般的な$\chi 2$検定について解説する。 【キーワード】 名義尺度、期待度数、観測度数、Fisherの直接法	藤田悟郎（科学警察研究所・室長）	藤田悟郎（科学警察研究所・室長）
7	順序尺度の検定	臨床心理学の研究においては、厳密な間隔尺度や比率尺度を用いた測定にはそぐわない性質の変数を扱うこともよくあり、その場合は用いられる質的データの分析に有効となる統計的検定はノンパラメトリック法である。名義尺度については、第6回の$\chi 2$検定がその方法であるが、この回ではおもに順序尺度を用いた場合のノンパラメトリック法を解説する。 【キーワード】 マン・ホイットニーのU検定，ウィルコクソンの順位和検定，ウィルコクソンの符号付き順位検定，クラスカル・ウォリスの検定，フリードマンの検定	福田　周（東洋英和女学院大学・准教授）	福田　周（東洋英和女学院大学・准教授）
8	相関研究	相関は、2つの変数どうしの関連を探る指標である。人間の営みにおけるさまざまな行動や反応は普通、ひとつの変数の要因だけで決定されることはない。その背後にあるさまざまな要因がお互い関連しあった結果としてひとつの反応が生じる。ここでは、相関に関する基本的な概念とその計算方法、そして相関の結果の解釈の仕方について解説する。 【キーワード】 相関図、ピアソンの積率相関係数、順位相関、無相関検定、擬似相関	福田　周（東洋英和女学院大学・准教授）	福田　周（東洋英和女学院大学・准教授）
9	多変量解析の概説	臨床心理学における研究では、ある事象に関係する多様な要因を同時に分析し、その複雑な関係からある一定の傾向や因果関係を推測していく研究スタイルがとられることが多い。その際によく用いられる解析手法として多変量解析法について説明し、その有効性と留意点を理解していく。 【キーワード】 外的基準，目的変数，説明変数，外生変数，内生変数	福田　周（東洋英和女学院大学・准教授）	福田　周（東洋英和女学院大学・准教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
10	重回帰分析	臨床心理学の研究においては、例えば、子供や成人の不安や精神健康などの適応の水準を調査し、適応に影響を与える複数の要因を同時、あるいは別に調査して、適応の水準と要因との関係を分析することがよくある。この回では、このような場合の分析方法として、最も一般的に用いられる重回帰分析について解説する。 【キーワード】 ダミー変数、標準偏回帰係数、重相関係数、決定係数	藤田悟郎（科学警察研究所・室長）	藤田悟郎（科学警察研究所・室長）
11	因子分析	因子分析は，複数の観測された変数の背後にある共通の要因を探る統計技法であり，心理学では頻繁に使用されている多変量解析の一つである。この回では，因子分析の研究例を紹介した上で，因子分析の基本的な考え方や分析の手順について解説する。 【キーワード】 因子分析，潜在変数，共通因子，独自因子，因子負荷量，単純構造，因子得点	堀井俊章（横浜国立大学・准教授）	堀井俊章（横浜国立大学・准教授）
12	主成分分析	主成分分析は，多くの変数を縮約し，新しい合成変数を作り出すための手法である。この回では，主成分分析の研究例を紹介した上で，その基本的な考え方や分析の手順について解説する。また，因子分析との違いについても説明する。 【キーワード】 主成分分析，合成変数，主成分，主成分負荷量，固有ベクトル，主成分得点	堀井俊章（横浜国立大学・准教授）	堀井俊章（横浜国立大学・准教授）
13	共分散構造分析	臨床心理学の研究においては、質問票などで調べた複数の構成概念について、やや複雑なモデルを仮定して構成概念間の因果関係を明らかにしたい場合がある。このような場合に使われる、共分散構造分析について解説する。 【キーワード】 観測変数、潜在変数、パス係数、適合度、パス解析	藤田悟郎（科学警察研究所・室長）	藤田悟郎（科学警察研究所・室長）
14	質的変数の多変量解析	臨床心理学の研究においては、質問票などにより、質的データを数多く集め、変数間の関係を同時に分析したい場合が、比較的多くある。このような場合に利用可能な分析方法である、ロジスティック回帰分析、判別分析、コレスポンデンス分析について解説する。 【キーワード】 ロジスティック回帰分析、判別分析、多重コレスポンデンス分析、数量化Ⅲ類	藤田悟郎（科学警察研究所・室長）	藤田悟郎（科学警察研究所・室長）
15	総括－数量的研究法の活用の際の留意点	これまでの研究手法を総括しながら、臨床実践における数量的研究方法の活用の際、実際に気をつけるべき点を考えていく。特に、実証的研究のデータ収集方法に関する配慮を中心に解説する。 【キーワード】 因果関係、実験的研究、相関的研究、実験計画、剰余変数、被験者配置、無作為配置、ワーディング	福田　周（東洋英和女学院大学・准教授）	福田　周（東洋英和女学院大学・准教授）

＝　臨床心理学特論（‘０５）＝（Ｒ）

〔主任講師：橘　　玲子（新潟青陵大学大学院教授）〕
〔主任講師：齋藤　高雅（放送大学教授）　　〕

全体のねらい

臨床心理学特論では心理臨床活動の基礎となるさまざまな考え方（パラダイムや学派）や心理臨床で必要な知識や技法を述べる。心理臨床は多様な現場を持っているので（たとえば教育臨床とか病院臨床など）、それぞれの対象によって違いはみられるものの、こころの専門家として理解しておかなければならない基本的な視点が存在する。このような観点から、臨床心理学的知識や技法が心理臨床活動にどのように生かされていくのか、心理臨床行為の特異性は何か、また倫理の重要性などについて論ずる。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	臨床心理学とは	臨床心理学の研究分野、心理臨床家の活動領域、臨床活動と倫理の問題、心理臨床の教育と訓練について論ずる。	橘　玲子（新潟青陵大学大学院教授）	橘　玲子（新潟青陵大学大学院教授）
2	臨床心理学と精神医学　1 臨床心理学の歴史	臨床心理学の誕生と精神医学との関係についてふれ、臨床心理学が確立する過程をアメリカと日本の例で述べる。	同　上	同　上
3	臨床心理学と精神医学　2 心の病：神経症	心の病、特に神経症について、神経症の概念やその特徴、発症機制、治療について述べる。	馬場　謙一（放送大学客員教授）	馬場　謙一（放送大学客員教授）
4	臨床心理学と精神医学　3 心の病：精神病	精神病の分類、主な精神病である統合失調症（精神分裂病）、躁うつ病、非定型精神病の紹介をする。	同　上	同　上
5	臨床心理学と精神医学　4 心の病：心身症	心理的な負荷やストレスによって生ずる身体症状、心身相関の問題、心身症の種類、特異な心身症などについて述べる。	同　上	同　上
6	臨床心理学と近接領域	臨床心理学にはたくさんの近接領域があるが、ここでは特に哲学と文化人類学について述べる。	橘　玲子	橘　玲子

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
7	臨床心理パラダイム	臨床心理学にかかわる4つのパラダイム、生物学的、精神分析的、認知・行動論的、人間学派的パラダイムについて述べる。	橘　玲子	橘　玲子
8	心のはたらき1 無意識の発見	心のはたらき方には無意識の問題を避けて通れない。無意識の発見、精神分析学的立場からとらえる人間像について述べる。	齋藤　高雅 (放送大学教授)	齋藤　高雅 (放送大学教授)
9	心のはたらき2 自我と無意識の関係	無意識のはたらきでは、特に自我との関係が重要になってくる。不安と防衛、自我の防衛機制、症状形成などについて述べる。	同　上	同　上
10	心のはたらき3 イメージと身体	無意識には意識に至るさまざまなチャンネルがある。その中からイメージと身体感覚を取り上げ、心理臨床との関連を述べる。	橘　玲子	橘　玲子
11	心と身体： 性を考える	心と身体に直接係わるものとして、性がある。性について臨床心理学の観点から考えてみる。	同　上	同　上
12	ライフサイクル論1 乳・幼児期	発達の課題と心の問題について、精神保健および精神分析的発達論の観点から乳幼児期について述べる。	齋藤　高雅	齋藤　高雅
13	ライフサイクル論2 児童期	先に続いて、児童期の精神保健と臨床心理学的特徴について述べる。	同　上	同　上
14	ライフサイクル論3 思春期・青年期	思春期・青年期の臨床心理学的特徴について述べる。	同　上	同　上
15	ライフサイクル論4 中年期	成人期・中年期の臨床心理学的特徴について述べる。	同　上	同　上

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
16	ライフサイクル論5 老年期	老年期の臨床心理学的特徴について述べる。	齋藤　高雅	齋藤　高雅
17	心理アセスメント1 アセスメントとは	心理臨床とアセスメント活動について、特にアセスメント面接、心理検査、観察について述べる。なお、精神医学的診断についてもふれ、心理臨床家のアセスメントと比較検討する。	橘　玲子	橘　玲子
18	心理アセスメント2 アセスメント面接	アセスメント面接の目的、すすめ方、その必要性など具体的な説明をする。さらに治療面接との違いにもふれる。	同　上	同　上
19	心理アセスメント3 心理検査	パーソナリティの説明、パーソナリティの全体的理解について述べる。これらとの関連で、心理検査のめざす点、テストバッテリー、心理テストの理論にもふれる。	同　上	同　上
20	心理アセスメント4 知能検査・質問紙法	知能検査の歴史、知能の概念と検査の関連、利用上の留意点について述べる。質問紙法については、各質問紙法の構成と特徴を代表的検査で紹介する。さらに心理測定の考え方についてもふれる。	同　上	同　上
21	心理アセスメント5 投映法	よく利用されている投映法であるロールシャッハ法、TAT、SCT、描画法を紹介する。投映法の特徴を知り、利用上の留意点を述べる。事例で心理テストの実践にふれる。	同　上	同　上
22	心理療法1 精神分析療法	フロイト,S.に始まる精神分析療法について概説する。治療関係、抵抗、転移、逆転移、行動化、その他重要な概念について述べる。	馬場　謙一	馬場　謙一
23	心理療法2 分析心理学的心理療法	ユング,C.G.に始まるユング派心理療法について、そのもっとも基本的なところを紹介する。	大場　登 (放送大学教授)	大場　登 (放送大学教授)

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
24	心理療法3 認知・行動療法	認知・行動療法における心理的援助活動の多様な方法について述べ、さらに心理臨床で使われる認知・行動療法の代表的な概念を説明する。ゲストを招いて放送する予定。	橘　玲子	橘　玲子 ゲスト 嶋田　洋徳 (早稲田大学教授)
25	心理療法4 来談者中心療法	ロジャーズ,C.による来談者中心療法の展開と特徴、その理念などについて述べる。ゲストと共に、ロジャーズの人柄や理論を紹介する。	同　上	橘　玲子 ゲスト 村山　正治 (九州産業大学大学院教授)
26	心理療法5 森田療法と内観療法	日本で発展した二つの心理療法、森田正馬が確立した森田療法と吉本伊作が開発した内観療法について紹介をする。	同　上	橘　玲子
27	心理療法6 臨床動作法	成瀬が発展させた臨床動作法について、特に身体を通しての心理的援助という視点を紹介する。ゲストと共に放送する。	同　上	橘　玲子 ゲスト 鶴　光代 (秋田大学教授)
28	心理療法7 児童の心理療法	児童の心理的な問題に対して行われる遊戯療法の紹介をする。また、養育者との面接の必要性と留意点について述べる。	滝口　俊子 (放送大学教授)	滝口　俊子 (放送大学教授)
29	心理療法8 集団心理療法	集団で行われる心理療法について、その考え方と実施の方法、個人療法との違い、適用範囲、今後の展開などについて述べる。	橘　玲子	橘　玲子
30	コミュニティと心理臨床	学校臨床、被害者支援、HIVカウンセリングなど、コミュニティの中で展開する心理臨床は、これまでの心理臨床とは異なる視点が必要になっている。これらの代表的なテーマについて述べる。	同　上	同　上

科目名（メディア）＝　臨床心理面接特論（‘０７）＝（Ｒ）

〔主任講師（現職名）：大場　登　　（放送大学教授）〕
〔主任講師（現職名）：小野　けい子（放送大学教授）〕

講義概要

心理療法を行う臨床心理士には、外科手術のためのメスも、化学的に身体（脳）に働きかける薬も与えられていない。基本は、クライアントの心身が訴える声に耳を傾けること・セラピストの心身で受けとめること。しかし、この「心身が訴える声に耳を傾けつづけること」が如何に困難な営みであるか、そして、逆に、「一人の生きた人間（セラピスト）が、長期間にわたって耳を傾けつづける・受けとめつづけること」によって、クライアントの心身がゆっくりとではあるが、確実に「変容」の歩みを始めるものであることを、30章（４単位）にわたって詳細に論じる予定である。

授業の目標

実際の心理臨床の現場で臨床心理学的面接、ないし、心理療法を行ってゆくにあたって、臨床心理士にとって、もっとも基本となる姿勢・留意点、そして、心理療法技法論の基礎について体系的に学習することを目的とする。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	はじめに：心理療法とは？	心理療法とは一体どのようなものであるのだろうか？	大場　登（放送大学教授）	大場　登（放送大学教授） ゲスト：川戸　圓（大阪府立大学教授・ユング派分析家）
2	耳を傾ける	悩みや問題をもって来談した方に、忠告や説得をしても、それが効を奏するのは、よほど問題の軽い場合である。心理療法において、サイコセラピスト（以下セラピストと略）は、クライアントの話にまず耳を傾け、そこに示される感情を受け入れてゆく。	小野けい子（放送大学教授）	小野けい子（放送大学教授）
3	心理療法の器（1）	心理療法という営みは、基本的にはセラピストとクライアントの間で生起するが、この営みを抱え、保護するものとして「心理療法の器」が必要である。セラピストの守秘義務から始まって、面接時間・面接室・面接頻度・料金といった、「治療的枠組み」について考える。	小野けい子（放送大学教授）	小野けい子（放送大学教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
4	心理療法の器(2)	「器」に保護される中で、心理療法のプロセスは初めて進行する。セラピスト自身もまた、心理的変容過程を守り保護する「心理療法の器」であるということができる。前章で述べた面接室、面接時間等に続き、本章では,「心理療法の器としてのセラピスト」について述べる。	小野けい子(放送大学教授)	小野けい子(放送大学教授)
5	トピックス:心理臨床の現場から--①児童相談所	本講義では、トピックスとして、様々の心理臨床現場での実際の心理療法、個々の現場固有の特徴・経験・感動・困難さについても紹介してゆくことにしている。第一回の今回は、児童相談所における臨床心理士の仕事を紹介してみることにしたい。	大場　登(放送大学教授)	大場　登(放送大学教授) ゲスト:高浪恵介(埼玉県南児童相談所)
6	初回面接	「初回面接」はその後の長い心理療法の第一歩である。クライアントにとっても、このセラピストとやってゆくことができるかどうかを見極める機会であるのと同時に、もちろん、セラピストも面接を引き受けることにするか否かを決定する大切な面接である。	大場　登(放送大学教授)	大場　登(放送大学教授) ゲスト:森さち子(慶應義塾大学医学部精神神経科学教室)
7	心理療法とアセスメント(1)-成人の場合	心理アセスメントは心理療法を開始するにあたって必要不可欠である。アセスメントが確実になされることが、その後の心理療法にとっての基盤となる。	齋藤　高雅(放送大学教授)	齋藤　高雅(放送大学教授)
8	心理療法とアセスメント(2)-子どもの場合	年齢や性格によっては、心理検査を用いるアセスメントも行われるが、幼い子どもの場合は、プレイセラピーをしながらのアセスメントになる。また、親面接による情報も子どものアセスメントの素材となる。	滝口　俊子(放送大学教授)	滝口　俊子(放送大学教授)
9	他職種との連携	医療機関で心理療法を行う場合に限らず、医師を始めとする他職種との連携は一つの大きなテーマである。学校領域での心理臨床業務の遂行には学校の教職員(クラス担任、養護教諭、教員、事務職員など)、場合により児童相談所、教育相談所、あるいは警察関係者等における他職種との連携は重要な課題である。	齋藤　高雅(放送大学教授)	齋藤　高雅(放送大学教授)

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
10	トピックス：心理臨床の現場から―②医療機関	医療機関における臨床心理士の業務について検討するとともに、放送授業では実際の現場の臨床心理士　染谷利一先生をゲストにお迎えしてインタヴューを行いたい。	齋藤　高雅（放送大学教授）	齋藤　高雅（放送大学教授） ゲスト：染谷利一（東京大学医学部付属病院精神神経科）
11	セラピストによる「仮説」の設定	クライアントの姿・語ること・症状に「耳を傾け」ていると、セラピストの心に、いろいろな疑問・連想・イメージ、見立てや仮説も、そして、時にはその見立てと抵触するイメージが浮かんでくることもあろう。	大場　登（放送大学教授）	大場　登（放送大学教授）
12	セラピストの「問いかけ」と「コメント」	「共感的に傾聴」することが、サイコセラピーの一方の柱だとすれば、仮説に基づいて、クライアントの反応を慎重に見守りつつ「問いかけ」をしてゆくことが、もう一方の柱と言えるだろうか。	大場　登（放送大学教授）	大場　登（放送大学教授）
13	セラピストとクライアントの関係性（1）	クライアントの訴え・セラピストによる傾聴・両者の個性が「器」の中で次第に「煮詰まって」くるにしたがって、クライアントの心の中の様々な「外的・内的人物像」は、心理療法で相対している「セラピスト」像と微妙なつながりを持ち始める。	大場　登（放送大学教授）	小野けい子（放送大学教授）
14	セラピストとクライアントの関係性（2）	クライアントから投げかけられるクライアントの心の中の「外的・内的人物像」、そして、その「人物像」に伴う複雑で、濃密、時に圧倒的な様々の感情は、セラピストの心に一定の心理的影響を及ぼさずにいることは決してない。かくして、セラピストの心もまた、「器」の中の「心理的なプロセス」に必然的に関与してゆくことになる。	大場　登（放送大学教授）	小野けい子（放送大学教授）
15	トピックス：心理臨床の現場から―③保育カウンセリング	心理臨床の新しい領域、「保育カウンセリング」について紹介するとともに、現場の臨床心理士をお迎えして、インタヴューを行う。	滝口　俊子（放送大学教授）	滝口　俊子（放送大学教授） ゲスト：坂上頼子（日野市保育カウンセラー）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
16	意識と無意識	心理療法に携わる中で、人間の心には、意識している部分の他に、無意識の領域が存在すると仮定したほうが理解しやすいという経験に遭遇する。治療論的にも、意識の統制力をやや弱めることによって、内面的なものに向かい、自己治癒力を活性化する方法がとられることについて論じる。	小野けい子（放送大学教授）	小野けい子（放送大学教授）
17	箱庭療法	内面的なものを言語に頼らず自由に表現する方法として、描画法、遊戯法などがあるが、ここでは箱庭療法を取り上げて、この方法を紹介するとともに、箱庭の中で自己表現をすることによる自己治癒力の働きについても論じる。	小野けい子（放送大学教授）	小野けい子（放送大学教授）
18	家族面接	心理療法においては、様々な問題を顕在化しておられる本人ではなく、そのご家族が面接にみえることも多い。また、本人とご家族両方への面接が求められることも多い。それらをどう考え、どうすれば良いのかについて取り上げる。	小野けい子（放送大学教授）	小野けい子（放送大学教授）
19	若者たちと心理療法	思春期～青年期にあたる若者たち特有の心性と、いくつかの臨床現場でのセラピストとのやり取りを中心に論じていきたいと思う。思春期～青年期と出会う臨床現場での実際を織り込む予定である。	佐藤仁美（放送大学准教授）	佐藤仁美（放送大学准教授）
20	トピックス：心理臨床の現場から―④犯罪被害者支援	「犯罪被害者支援」の立場で、警察という職場で相談活動をしておられる臨床心理士の業務についてご紹介するとともに、放送授業では、実際の現場の臨床心理士伊藤可奈子先生をゲストにお迎えして、インタヴューを行いたい。	小野けい子（放送大学教授）	小野けい子（放送大学教授） ゲスト：伊藤可奈子（広島県警察本部警務部警察安全相談課被害者対策室）
21	夢と癒し	古代ギリシャで、人々が心身の病に見舞われると、人々はアスクレピオス医神の神殿を訪ねた。斎戒沐浴の後、彼らは神殿最奥の小部屋で眠り、「癒しの夢」の訪れを待った。日本の古代・中世においても、人生の困難や病に出会った人々は、「貴船」や「石山」に詣でたり、「観音」さんに篭って、「癒しの夢」の到来を待った。	大場登（放送大学教授）	大場登（放送大学教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
22	心理療法と夢(1)	古代ギリシャ・アスクレピオス神殿で当時の人々が夢による癒しを求めた営みはインキュベーションと呼ばれるが、Meier, C. A. によれば「このインキュベーションが2000年の眠りを経てFreud, S. の診察室・自由連想のカウチで復活した」と言われる。	大場　登(放送大学教授)	大場　登(放送大学教授)
23	心理療法と夢(2)	たしかに心理療法で、我々がクライアントの話に耳を傾けていると、「そう言えば今朝こんな夢を見ました」と報告されることが多い。「耳を傾ける」とは、この意味で、「心の最奥からの声」あるいは、「人間の意識を超えた領域からの声」に対してのことでもあるのかもしれない。	大場　登(放送大学教授)	大場　登(放送大学教授)
24	心理療法とコンステレーション(布置)	心理療法の面接でクライアントの語ることを注意深く聴いていると、クライアントの内界で問題となっているテーマと見事に対応する外界の出来事が、クライアントの周囲で生じていることをよく経験する。だからこそ、一見「外的・日常的」だけと思われるクライアントの経験にも我々は、大きな関心を寄せて傾聴することができるとも言えよう。	小野けい子(放送大学教授)	小野けい子(放送大学教授)
25	トピックス：心理臨床の現場から―⑤ＨＩＶカウンセリング	今回のトピックスでは、いわゆるHIVカウンセリングにあたっている心理臨床の現場を紹介したい。HIV心理臨床の実際・チーム医療・仕事の困難さ・セクシュアリティ・日頃感じていること・いわゆるＨＩＶ感染者の方々やエイズ患者の方々との出会いを通して考えさせられたことなどが紹介される予定である。	大場　登(放送大学教授)	大場　登(放送大学教授) ゲスト：仲倉高広(国立病院機構　大阪医療センター　免疫感染症科)
26	困難な事例との出会い	心理療法の営みを続けていると、セラピストは、必ずといってよいほど圧倒的な難しさ・無力感・不安を感ぜざるを得ないようなクライアントに出会うものである。人間の心の闇は恐ろしい程に圧倒的で、且つ深いものである。	大場　登(放送大学教授)	大場　登(放送大学教授) ゲスト：川戸　圓(大阪府立大学教授・ユング派分析家)

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
27	心理療法の面接と記録	面接記録には、クライアントのことよりは、セラピストを自称してきた自分の不安や無力感、あるいは面接の行われた晩に眠れぬ中で垣間見た「恐ろしい夢」が書き留められることも多いであろう。そもそも面接記録は、一体どのようなことを、どの程度書いたらよいのだろうか。	大場　登（放送大学教授）	大場　登（放送大学教授）
28	スーパーヴィジョン	心理臨床の研修にとって不可欠な体験として、スーパーヴィジョンがある。個人スーパーヴィジョンとグループスーパーヴィジョンの比較、スーパーヴァイザーの選び方や、スーパーヴィジョンの料金、期間について。さらに個人分析との異同についても述べる。	滝口　俊子（放送大学教授）	滝口　俊子（放送大学教授）
29	トピックス：心理臨床の現場から―⑥心理療法機関	臨床心理士が企画運営する心理療法機関を紹介し、臨床心理士・西村寛子先生をゲストに迎えてインタヴューを行う。	大場　登（放送大学教授）	大場　登（放送大学教授） ゲスト：西村寛子（山王教育研究所）
30	おわりに：講師からのメッセージ	30回にわたる授業の最後は、今後さらに心理臨床の勉強を続け、将来的に心理臨床領域において臨床心理士として仕事をしてゆこうとする受講生に向けた主任講師からのメッセージとなる予定である。	大場　登（放送大学教授）	大場　登（放送大学教授） 小野けい子（放送大学教授）

＝　臨床心理学研究法特論（‘０６）＝（Ｒ）

〔主任講師（現職名）：齋藤　高雅（放送大学教授）〕

全体のねらい

臨床心理学研究の困難さと重要性について解説する。臨床心理学においては、臨床実践や調査研究とプライバシーを含む倫理面の問題および研究から得られる公共性との両立と相克が重要なテーマである。究極的には、クライエントの利益に還元されることが優先される。これらの点について留意しながら、臨床心理学研究法について解説する。具体的には、量的研究と質的研究、研究のプロセス、面接法・観察法、質問紙調査法、投影法、事例研究法、アセスメント、家族、グループ、コミュニティ・アプローチ、評価研究などである。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	臨床心理学の領域と研究法	臨床心理学の領域と研究法についてアセスメント、心理療法、家族、グループおよびコミュニティなど主な項目を取り上げ、そのアウトラインを述べる。臨床心理学研究として重要なことは、研究目的の明確化である。それによって、研究方法が自ずと絞られてくるからである。また、臨床心理学研究の基本的問題である、1）クライエントの利益の優先、2）プライバシーや倫理的な問題の重要性についてふれる。	齋藤　高雅（放送大学教授）	齋藤　高雅（放送大学教授）
2	研究法の種類　量的研究と質的研究	近年、研究対象の現象の背後にある重要な鍵概念を抽出したり、現象の構造的特徴を記述できるモデルや仮説を構築することに主眼をおいた「質的研究」への関心が高まっている。「量的研究」と「質的研究」の方法論上の特徴を研究例を通して概説する。	名取　琢自（京都文教大学教授）	名取　琢自（京都文教大学教授）
3	研究の基礎　研究のプロセス	臨床現場で問題を感じ、その問題意識を研究として遂行していく研究のプロセスについて概説する。文献検索、文献レビューを通じて先行研究の文献的検討、さらに研究方法・対象を検討し、具体的な研究計画の立案と実施など、一連の研究の過程について触れる。	齋藤　高雅（放送大学教授）	齋藤　高雅（放送大学教授）
4	研究法①　面接法・観察法	臨床的面接と調査的面接に大別し、それぞれの面接の特質を概説する。面接・観察は、臨床実践としての活動に欠かせないが、同時に臨床心理学研究の研究方法論としても欠かせない手法である。近年、多く用いられるようになってきた構造化面接、半構造化面接ならびに観察法について触れる。	齋藤　高雅（放送大学教授）	齋藤　高雅（放送大学教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
5	研究法② 質問紙調査法	質問紙を用いた調査は、様々な研究で使われている。多変量解析を用いて、多次元的な質問紙尺度を構成する方法について解説する。	香川　克 (京都文教大学准教授)	香川　克 (京都文教大学准教授)
6	研究法③ 投影法	投影法の特徴を、質問紙法などの他の方法と比較しながら説明し、その意義について考察する。代表的な投影法として、ロールシャッハ法研究の実際について紹介し、それを通じて投影法研究にまつわる留意点について解説する。最後に、大学院生が投影法研究をする際のポイントについてもふれる。	津川　律子 (日本大学教授)	津川　律子 (日本大学教授)
7	研究法⑤ 実験法	臨床心理学においても、実験による研究は重要である。その古典的1例として、ユングによる言語連想実験をとりあげ、心理学的事実を明らかにするための数量化の意義について解説する。また、実験研究を実施する際の基本概念(実験群・統制群など)についても説明する。	名取　琢自 (京都文教大学教授)	名取　琢自 (京都文教大学教授)
8	研究法⑥ 事例研究法	事例研究法は臨床心理学において最も重要な研究法の1つである。本講では、知識伝達と技術習得のちがい、概念的知識と手続き的知識のちがいに注目しながら、臨床の場において人間を統合的にとらえる実践的方法として洗練されてきたこの事例研究法の意義と限界について検討したい。	名取　琢自 (京都文教大学教授)	名取　琢自 (京都文教大学教授)
9	領域と研究法① 心理療法	主に個人を対象とした心理療法における研究のトピックスを取りあげる。治療の場における治療構造の問題、見立てにおけるこころの病理学の役割、セラピスト－クライエント関係における職業的役割関係と転移・逆転移の問題、心理療法における過程研究、スーパービジョン・教育、治療効果判定などについて取りあげる。	齋藤　高雅 (放送大学教授)	齋藤　高雅 (放送大学教授)
10	領域と研究法② アセスメント	臨床心理学におけるアセスメントについて概説し、その重要性について述べる。主に面接におけるアセスメント、心理検査によるアセスメントなど心理アセスメントの諸方法を紹介し、留意点について述べる。また、アセスメント面接、心理査定などの方法を活用した研究についての概説を行う。	齋藤　高雅 (放送大学教授)	齋藤　高雅 (放送大学教授)
11	領域と研究法③ 家族	家族療法の歴史を概観し、最近の動向として、ナラティブ・アプローチと心理教育について概説する。家族を研究する方法として、家族の構造や関係性を視覚化する方法や、家族成員の感情表出の評価方法、家族を評価する質問紙法について解説する。	上別府圭子 (東京大学大学院准教授)	上別府圭子 (東京大学大学院准教授)

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
12	領域と研究法④ グループ・アプローチ	グループを利用して、個人の成長や適応に資する活動が広い領域で活発に適用されており、グループ・アプローチ、集団心理療法などと呼ばれている。これらの活動の意義や特徴を明らかにする研究法について解説する。	香川　克（京都文教大学准教授）	香川　克（京都文教大学准教授）
13	領域と研究法⑤ コミュニティ・アプローチ	近年、学校や地域社会における心の問題が社会的に関心を集めている。臨床心理学はこの領域に様々な接近を試みている。その接近法から明らかにされる諸側面を概説する。	香川　克（京都文教大学准教授）	香川　克（京都文教大学准教授）
14	評価(効果)研究	心理療法やコミュニティ・アプローチの効果を明らかにすることは、臨床心理学にとって重要な課題の一つである。心理療法の効果研究、対人サービス支援のシステマティックな評価研究、メタ分析について概説する。また、これらの効果評価を通して実践活動をどう改善していくかについてもふれていきたい。	元永　拓郎（帝京大学大学院准教授）	元永　拓郎（帝京大学大学院准教授）
15	総括：臨床心理学研究の難しさと重要性について	臨床心理学研究法のまとめとして、研究の難しさと重要性について述べる。難しさに関しては、クライエントのプライバシーや利益、倫理問題が関わっていることがあげられる。重要性については、研究によって臨床的な活動が公共の知識として活用され、ひいてはクライエントに貢献することができることを概説する。	齋藤　高雅（放送大学教授）	齋藤　高雅（放送大学教授）

事務局記載欄	開講年度	２００９年度	科目区分	大学院科目	科目コード	8950504	履修制限	有	単位数	2

科目名（メディア）＝　　社会心理学特論　　（’０９）＝（ＴＶ）

〔主任講師（現職名）：細江達郎（岩手県立大学教授）〕

〔主任講師（現職名）：菊池武剋（東北大学名誉教授）〕

講義概要

①心理学と社会学（文化人類学）の境界領域の科学としての社会心理学の学的な発展をたどり、その特質や研究方法を概説する。②社会心理学の視点からのパーソナリティー、社会（集団）、文化について、さらに社会心理学的人間理解の重要な視点である社会化、生涯発達についてそれぞれ論考する。③社会心理学の基本的方法である、フィールドワークの方法に基づく、研究例（社会変動と個人の発達・身体表現、占い、職業伝承、医療などを）を具体的に提供する。④臨床社会心理学的な視点から、犯罪・非行、被害者支援の課題をとりあげ社会心理学と臨床心理学の接点との関係を明らかにする。

授業の目標

心理学と社会学の境界領域の科学としての社会心理学の研究視点は日常のレベルでの人間理解の視点でもある。人は個人として心身の過程を持つとともに、他者との社会的関係、その関係を規定するさまざまな規範・文化との関係で実際の行動を起こしていく。本講義ではこの多面性そのものを探求する社会心理学的アプローチを理解するとともに、そのことが臨床心理学的課題のみならず、多くの人間生活上の課題の理解に適切な枠組みの提供となることを明らかにしていく。

履修上の留意点

臨床心理学的課題がさまざまな社会適応上の課題であるという視野を持ち、社会的日常的な問題に常に関心をもちながら履修されることを願っている。各授業名称や提供される素材の表面的な関心だけでなく、それぞれが持つ、人間生活理解への意味づけおよび人間科学の全体的な枠組みへの位置づけなどを常に意識した履修を期待したい。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	社会心理学の対象と方法	1）全体の講義の概要、2）社会心理学の成立の歴史、対象とする人間、方法の特殊性を概説する。本社会心理学特講全体で一貫して扱われるフィールドワーク的社会心理学の方法について説明し、人間生活上の諸課題の理解にもつ意味を明らかにする。 【キーワード】 社会心理学史、研究方法、フィールドワーク、	細江　達郎（岩手県立大学）	細江　達郎（岩手県立大学）
2	社会心理学とパーソナリティ	社会心理学とパーソナリティ心理学という隣接する2つの立場から行われてきた「パーソナリティ」研究の史的展開について簡潔に論じるとともに、両者の統合にむけた、人と状況の相互作用論に基づくコヒアラント（coherent，統合的）なアプローチの重要性について、行動指紋、ライフコース、自己物語研究等の具体研究例を示しながら解説する。 【キーワード】 パーソナリティ、相互作用論、コヒアランス	堀毛　一也（岩手大学）	堀毛　一也（岩手大学）
3	集団の社会心理学	1）個人と社会（集団）の関係、2）他者へのさまざまな影響関係の中での「集団」の位置づけ、3）集団の諸特徴、を概説する。4）集団の諸特徴がある状況下では目的達成に阻害的な働きをしてしまう例を見て明らかにする。 【キーワード】 群集、集団過程、服従、同調、集団浅慮	細江　達郎（岩手県立大学）	細江　達郎（岩手県立大学）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
4	文化と社会心理学 ～ねだられた民族誌家(エスノグラファー)～	社会心理学など人文社会科学において、文化への接近法(アプローチ)として大別して2種類ある。外在的アプローチと内在的アプローチである。外在的アプローチとは普遍的な心理学的プロセスを想定し、アウトプットの違いを文化によって説明する。内在的アプローチとは文化を身をもって、内部から理解しようとする。本章では実際にどのように文化理解が進むか、そのプロセスをアフリカ牧畜民トゥルカナの人びとのやりとりとみていく。人間存在の理解を旨とする社会心理学にとって、文化への内在的アプローチの重要性を指摘する。 【キーワード】 規範、価値、文化の諸理論	作道 信介 (弘前大学)	作道 信介 (弘前大学)
5	社会化の社会心理学	人・社会・文化の交差点で人間形成をとらえる社会化研究は社会心理学の基本概念の1つであるが、その学際性の故に多種多様な研究課題、アプローチと理論を抱えることになった。ここでは社会化研究に現れた主要な概念、理論、研究領域を整理し解説する。 【キーワード】 社会化	大江 篤志 (東北学院大学)	大江 篤志 (東北学院大学)
6	生涯発達の社会心理学	人間の発達は成人期までに留まらず、生涯にわたって続く。これは社会心理学的な人間理解にとって特に重要な視点である。それぞれの段階での発達課題をどのように達成し、ひとは人生を歩んでいくのか理解のための理論的枠組みを提供する。 【キーワード】 発達課題	菊池 武剋 (東北大学)	菊池 武剋 (東北大学)
7	ポジティブ心理学の発展	最近急速に注目を集めているポジティブ心理学の研究動向について概説する。ポジティブ心理学は、従来の心理学が疾病モデルを中心に、病気や障害からの回復に焦点を合わせてきたという反省のもとに、人間の長所や強さを積極的に探求しようという方向性をもつ心理学的動向を指す。ここでは主観的充実感(subjective well-being)の概念を軸に、ポジティブな認知様式の特質や、対人関係・健康との関連について論じる。 【キーワード】 ポジティブ心理学、主観的充実感、ポジティブ認知	堀毛 一也 (岩手大学)	堀毛 一也 (岩手大学)
8	社会変動の社会心理学	個人の進路・職業選択などの分岐点での選択行動は、その基盤となる社会の変動と関わる。戦後日本の団塊の世代といわれる人々の人生、特に社会変動経済変動に大きな影響を受けた地方出身層の長期にわたる追跡調査を素材にして社会心理学的視点で見ていく。 【キーワード】 団塊の世代、戦後社会、集団就職、職業的社会化	細江 達郎 (岩手県立大学)	細江 達郎 (岩手県立大学)
9	地域の社会心理学	多くの地域社会はいま深刻な過疎化、高齢化という変化のなかにある。本講義では宮城県の小離島である江島をフィールドとして取り上げ、地域社会の変化を解き明かす鍵となるような活動をとおして、過疎-高齢化の過程を世代間の社会化の相互作用という視点からみていく。 【キーワード】 地域社会、進路選択、伝統的社会化システムの解体と再編、伝統漁撈	大江 篤志 (東北学院大学)	大江 篤志 (東北学院大学)

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
10	交渉・治療儀礼・占い ～北西ケニア・トゥルカナの問題対処～	社会はそれぞれ問題対処の独特の方法をもっている。本章では北西ケニア・牧畜民トゥルカナにおける問題対処の論理と方法を交渉、治療儀礼、占いにみる。まず、日常的な問題は相手に援助を求める交渉で、病気については家畜を使った儀礼が頼りにされている。解決できないような問題は占いに委ねられ、背後に「他者の怒り」があるとされる。そこには牧畜という生業を支える「協働原理」を見いだすことができる。 【キーワード】 牧畜社会、交渉、儀礼、占い	作道 信介 (弘前大学)	作道 信介 (弘前大学)
11	社会変動と身体 ～「糞肛門」の出現～	1980年代にアフリカ牧畜民トゥルカナの間に新しい病気が出現した。「糞黄門」である。この病気は干ばつ以後の食生活の変化によって引き起こされた病気であるという。私たちは新しい病気に対して免疫など生物学的適応をおこなうだけではない。社会文化的に意味づけ、対処法をあみだす。本章ではこの「糞肛門」を、トゥルカナの人びとが干ばつ以後の社会変動にたいして身体をこしらえなおすことで対応した例として提示する。 【キーワード】 社会変動、マッサージ、体現化と身体化	作道 信介 (弘前大学)	作道 信介 (弘前大学)
12	犯罪・非行の社会心理学	犯罪・非行の原因論は，人を犯罪に向かわせる要因をとらえようとしてきた。特に青少年非行の場合，その当事者である少年に対して焦点が当てられてきた。しかし非行という行動そのものが社会関係の中ではぐくまれ，起こっているのであるから，単に当事者だけを見ていては，この問題を理解することはできない。一つの研究を取り上げて吟味することで，青少年非行の問題に社会心理学的に接近することの意味を考える。 【キーワード】 非行	菊池 武剋 (東北大学)	菊池 武剋 (東北大学)
13	被害者支援の社会心理学	犯罪や非行という行動は，加害者・被害者・第三者の相互影響関係の中で発生する。被害者に目を向けることで，加害者・被害者の関係，犯罪・非行場面の力動的な理解がなされる。さらに近年，大きな課題となっている「被害者支援」について考察する。被害者支援は被害者にとって必要であるが，このことは加害者の更正・矯正にとっても大きな意味があることである。 【キーワード】 被害者支援	菊池 武剋 (東北大学)	菊池 武剋 (東北大学)
14	臨床心理学と社会心理学	人と人との相互作や影響関係扱う社会心理学と心理・行動の障害の治療や援助をめざす臨床心理学とは、本来、相互に補完しあえる関係にありながら交流は少なかった。近年、この二つの心理学のインターフェイス(境界領域)を積極的に開拓しようとする新しい分野が「臨床社会心理学」と呼ばれて関心が高まってきている。 【キーワード】 インターフェイス、臨床社会心理学	菊池 武剋 (東北大学)	菊池 武剋 (東北大学)
15	社会心理学のめざすもの:講義の総括	1)講義全体をまとめ、本社会心理学特論が目指すものを再確認する。 2)特に普通の人間生活のレベルを理解する社会心理学的な接近や枠組みの重要性についてあらためて明らかにする。 【キーワード】 人間生活、フィールド研究、社会心理学の応用、しろうと理論	細江 達郎 (岩手県立大学)	細江 達郎 (岩手県立大学)

事務局記載欄	開講年度	２０１０年度	科目区分	大学院科目	科目コード	8950512	履修制限	無	単位数	2

科目名（メディア）＝　　家族心理学特論　　（’１０）＝　（R）

〔主任講師（現職名）：亀口憲治（東京大学特任教授）　　〕

講義概要

近年の少子高齢社会、高度情報化社会の中で、私たちを取り巻く社会環境は大きな変貌を遂げようとしている。こうした時代背景の中で、現代の家族には、これまでにない新たな課題が生じている。その一方で、いかなる時代、文化においても普遍的な課題を有してもいる。本講義では、まず今日の家族が抱えるさまざまな課題について検討し、次に、この課題が果たせなかった場合に生じうる諸問題について取り上げることにする。そして、このような諸問題に対する家族療法を始めとする最新の援助法の理論的背景と具体的な技法について概説する。

授業の目標

家族関係の心理的な仕組みについて、その発達の初期から生涯に及ぶ長い変化の過程として理解できるようになることを目標とする。また、家族がかかえるさまざまな心理的問題の社会的背景との相互影響についても見識を深めることが期待される。さらに、家族療法の理論と技法を学ぶことにより、具体的な家族への心理援助の専門的基礎を形成することが目標となる。

履修上の留意点

発達心理学や臨床心理学、あるいは社会心理学については、本講義の受講前後に学習することが望まれる。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	家族心理学の役割	家族心理学は、主に個人の心理を対象として発展してきた心理学に、家族関係などの「関係」の心理的メカニズムを解明する新たな専門領域を確立しつつある。さらに、既存の臨床心理学、発達心理学、教育心理学、社会心理学、あるいは老年心理学等の領域で得られた知見を、「関係系」の視点から統合する役割も期待されている。 【キーワード】 関係の心理　複合的視野　統合的役割	亀口憲治 東京大学特任教授	亀口憲治 東京大学特任教授
2	家族人生周期	個人の発達が新生児期から老年期までの生涯にわたる視点で探求されるようになってきている。さらに、個人の心理的発達の過程を人生という時間軸で捉えるだけでなく、家族関係というある種の空間軸を取り入れた総合的な人間発達についての認知的枠組みが紹介される。 【キーワード】 生涯発達　人生周期　家族人生周期	亀口憲治 東京大学特任教授	亀口憲治 東京大学特任教授
3	家族システム論	「家族システム」は、家族を単に個人の寄せ集めとみるのではなく、固有の関係性や特徴をもつ特異な集団（ペットも含む）として理解する家族心理学の基礎をなす概念である。この回では、理論的基盤である家族システム論が詳しく解説される。 【キーワード】 家族システム論　入れ子構造　関係系の心理学	亀口憲治 東京大学特任教授	亀口憲治 東京大学特任教授

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
4	家族内コミュニケーション	家族心理学の強みは、日常生活に密着した家族成員間の情緒的コミュニケーションの仕組みを解明し、さらにその問題点を解決する実践的な手法を積極的に開発し、普及することを目標にしている点にある。ここでは、具体例を踏まえながら、家族内コミュニケーションの病理や解決法について解説する。 【キーワード】 コミュニケーション　情緒的コミュニケーション　家族内コミュニケーションの病理　コミュニケーションの改善	亀口憲治 東京大学特任教授	亀口憲治 東京大学特任教授
5	家族関係の心理査定	心理的問題を正確に把握するために各種の心理査定法が存在するものの、家族関係の心理査定法は数が少ない。そこで、代表的な家族心理査定法を紹介し、その実践上の問題点を明らかにする。 【キーワード】 心理査定法　家族心理査定　家族イメージ法(FIT)	亀口憲治 東京大学特任教授	亀口憲治 東京大学特任教授
6	家族心理の深層構造	個人心理の深層に家族関係の問題が潜むことは、フロイトによる精神分析の創始以来、一般にも良く知られた事柄である。家族心理学の隣接領域である家族臨床心理学は、個人のみならず、家族全体の深層心理のメカニズムを解明し、さらに具体的な心理援助の手法を提案してきている。 【キーワード】 家族臨床心理学　深層心理　家族的無意識	亀口憲治 東京大学特任教授	亀口憲治 東京大学特任教授
7	社会の中の家族	個人やその集合体としての家族にとって、心理的環境としての現代社会から受ける影響を無視することはできない。そこで、激変する社会環境の視点から家族を見た場合の問題点と、逆に個人や家族の側から見た少子高齢化などの社会的問題を対比させる試みを提示する。 【キーワード】 心理的環境　少子高齢化　社会と家族	亀口憲治 東京大学特任教授	亀口憲治 東京大学特任教授
8	個人の中の家族イメージ	個人の内界における「内なる家族像」の果たす役割については、多くの検討がなされてきた。家族心理学の立場からこの問題を再考すれば、どのような新局面が浮上するのだろうか。ここでは、幼児期に複雑な家庭環境を体験した夏目漱石の人物像と作品を手がかりに、個人にとっての幼児期からの家族体験の影響を深く掘り下げる。 【キーワード】 家族体験　家族イメージ　夏目漱石　心理描写	亀口憲治 東京大学特任教授	亀口憲治 東京大学特任教授
9	家族療法の理論	1950年代に欧米で誕生した家族療法は、家族心理学の成立に大きな影響を与えた。ここでは、家族療法の成立に関わった主要なパイオニアや理論を概観し、その時代背景についても言及する。また、わが国における家族療法や家族カウンセリングの発展の過程や現状の課題についても触れる。 【キーワード】 家族療法　家族療法家　家族カウンセリング	亀口憲治 東京大学特任教授	亀口憲治 東京大学特任教授

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
10	家族療法の技法Ⅰ	家族療法は1980年代以降、世界的な広がりを見せている。その原動力となったのが、構造的家族療法であり、わが国を含め、家族療法の基礎を学ぶ上で、必須とされている。そこで、構造的な面接技法を中心とする主要な技法を紹介する。悪循環に陥っている家族の関係が、どのような援助的介入によって改善されるのであろうか。 【キーワード】 構造的家族療法　S・ミニューチン　ジョイニング	亀口憲治 東京大学特任教授	亀口憲治 東京大学特任教授
11	家族療法の技法Ⅱ	1990年代以降の家族療法は、それまでのシステム論に忠実な理論的枠組みにこだわらず、むしろ物語論的なアプローチへと大きく軌道修正した。ある点では、家族支援における歴史的側面の再評価がなされたともいえる。この変化によって、対立的であった個人療法の各学派との対話が促進されるようになった。 【キーワード】 物語的家族療法　物語的(ナラティヴ)アプローチ　時間的展望	亀口憲治 東京大学特任教授	亀口憲治 東京大学特任教授
12	家族療法の技法Ⅲ	家族療法が世界的に広がるにつれ、多文化的あるいは多世代的な側面への関心が高まっている。同時に、個人療法との統合を図る動きが活発となりつつある。さらに、多様な専門職間の協働の必要性も指摘されるようになり、この面でも統合的視点に立った技法の重要性が増している。 【キーワード】 統合的家族療法　多文化　多世代　協働	亀口憲治 東京大学特任教授	亀口憲治 東京大学特任教授
13	夫婦療法の理論と技法	夫婦療法は、家族療法ともに発展を遂げつつあるものの、わが国では未開拓の分野である。しかし、少子高齢化によって、その必要性が高まりつつあるのも事実である。夫婦という親密で独特な人間関係の問題を理解し、解決するための実証的で具体的な知見を紹介する。 【キーワード】 夫婦療法　親密さ　分化　アサーション	亀口憲治 東京大学特任教授	亀口憲治 東京大学特任教授
14	家族療法の実際	家族療法の有効性が期待される不登校、家庭内暴力、ひこもり、摂食障害などの事例を紹介し、危機に立つ家族の具体的な支援の実際に関わる実践過程について解説する。また、家族相談士や家族心理士などの専門家の資格や養成についての情報も提供する。 【キーワード】 不登校　ひきこもり　家族相談士　家族心理士	亀口憲治 東京大学特任教授	亀口憲治 東京大学特任教授
15	家族心理学の未来	家族心理学は、激変する現代社会において人間が直面する諸課題を真正面から受け止め、狭義の心理学に留まらず、学際的な知見を取り込み、あるいは発信することが求められる先端的な学問領域として発展することが期待されている。そのいくつかの萌芽について、最新の情報を提供する予定である。 【キーワード】 学際性　少子高齢化　ワーク・ライフ・バランス	亀口憲治 東京大学特任教授	亀口憲治 東京大学特任教授

事務局記載欄	開講年度	平成20年度（第2学期）	科目区分	大学院科目	科目コード	8950245	履修制限	無	単位数	2

科目名（メディア） ＝ 障害児・障害者心理学特論 （’０８）＝ （R）

〔主任講師（現職名）：佐藤新治（別府大学教授）〕

〔主任講師（現職名）：田中新正（大分大学教授）〕

〔主任講師（現職名）：古賀精治（大分大学教授）〕

講義概要

様々な障害のある人に臨床心理学的援助を提供するに当たって必要な基本的知識を全15回にわたって講義する。各障害について理解するために、先ず、障害の概念（状態像）やアセスメントの方法について説明し、さらに、発達的視点からみた障害のもつ意味、社会的視点からみた障害のもつ意味について説明し、障害のある人の心理学的援助のあり方について講義する。

授業の目標

全15回の講義を通じて、各障害について定義（概念）を明確にし、それぞれの障害に特有の発達上の課題、社会生活上で生じてくる様々な問題を理解すること、そして問題解決のための心理学的援助のあり方を理解することを目標とする。また、このことを通して人にとっての障害の意味について考えることを目標としたい。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	特殊教育から特別支援教育へ	2007年4月より「特殊教育」から「特別支援教育」に法改正が行われ施行された。今回の改正により転換された理念や、見直しされた学校制度や教員免許制度について、従来の理念・制度と比較しながら解説する。 【キーワード】 特別支援教育・特別支援学校・センター的機能	田中新正（大分大学・教授）	田中新正（大分大学・教授）
2	発達早期における障害	乳児幼児期における障害児の心理的問題を中心に解説し、発達の基礎となる時期であることを踏まえ早期発見・早期治療の重要性や親の支援のあり方について述べる。 【キーワード】 早期教育・早期発見、遺伝子、代謝障害、染色体異常、心身障害児施設	佐藤新治（別府大学・教授）	佐藤新治（別府大学・教授）
3	視覚障害児・者の理解と心理的援助	視覚障害の概念、分類について概説した後、心理的特性として、触覚の発達、言語発達、行動等について説明し、様々な困難に対する心理的援助のあり方について述べる。 【キーワード】 視覚障害、盲、弱視、点字、歩行、バーバリズム、ブラインディズム	佐藤新治（別府大学・教授）	佐藤新治（別府大学・教授）
4	聴覚障害児・者の理解と心理的援助	聴覚障害の概念、分類について概説した後、心理特性として、コミュニケーション、認知、学習、社会性等について説明し、様々な困難に対する支援のあり方について述べる。 【キーワード】 聴覚障害、ろう（聾）、難聴、言語発達、聴能、手話、伝音難聴、感音難聴、補聴器、人工内耳	佐藤新治（別府大学・教授）	佐藤新治（別府大学・教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
5	知的障害児・者の理解	まず知的障害にかかわる用語について整理する。次に米国精神遅滞協会における知的障害の定義と分類について述べた後、わが国の医学、教育、福祉における知的障害の定義と分類について解説する。 【キーワード】 AAMR(2002)、AAMR(1992)、DSM-Ⅳ-TR、就学基準、療育手帳	古賀精治（大分大学・教授）	古賀精治（大分大学・教授）
6	知的障害児・者への心理的援助	米国精神遅滞協会のマニュアルに基づいて知的障害のある人に必要な援助の全体像について概説した後、臨床心理の専門家に求められる援助としての心理アセスメント、心理療法、発達援助法について解説する。 【キーワード】 支援、知能検査、適応行動の検査、行動障害	古賀精治（大分大学・教授）	古賀精治（大分大学・教授）
7	肢体不自由児・者の理解	肢体不自由の定義、分類、主な起因疾患について概説した後、脳性まひの運動発達の特徴、そして認知と学習、発語と言語の問題、身辺自立、情緒・社会性等の発達上の特徴について解説する。 【キーワード】 脳性まひ、随伴障害、ADL、水蛭子	田中新正（大分大学・教授）	田中新正（大分大学・教授）
8	肢体不自由児・者への心理的援助	肢体不自由があるひとの発達過程における心理的援助について解説する。早期発見について紹介した後、早期療育について医学的立場と心理学的立場について解説する。家族への心理的援助についても解説する。 【キーワード】 早期療育、動作法、体験様式、ピア・カウンセリング	田中新正（大分大学・教授）	田中新正（大分大学・教授）
9	重度重複障害児・者の理解と心理的援助	重度重複障害児の特性を紹介し、重複障害児の教育の場と教育課程について解説する。重度重複障害児の多くが受けている「訪問教育」について解説し、心理的立場からの援助の考え方と事例を紹介する。 【キーワード】 重度重複障害、重症心身障害、訪問教育	田中新正（大分大学・教授）	田中新正（大分大学・教授）
10	病弱児・者の理解と心理的援助	病弱者の定義と、病弱・虚弱児教育の歴史および病気の概要について解説し、2002年に改正された就学基準と、病弱教育対象児童生徒の病気の種類の推移について解説する。ホスピタリズムや家族支援について解説する。 【キーワード】 病弱教育の歴史、病気の推移、ホスピタリズム	田中新正（大分大学・教授）	田中新正（大分大学・教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
11	発達障害児・者の理解と心理的援助－ADHD(注意欠陥／多動性障害)－	発達障害の概念について整理した後、医学と教育におけるADHDの定義と分類について解説する。それからADHDの原因や併存障害などについて概説し、最後にADHDのアセスメントとADHDのある人への基本的な援助のあり方、家族への支援等について論じる。 【キーワード】 不注意、多動性、衝動性、自尊心の低下	古賀精治(大分大学・教授)	古賀精治(大分大学・教授)
12	発達障害児・者の理解と心理的援助－自閉症－	医学と教育における自閉症、高機能自閉症、アスペルガー症候群の定義、自閉症と他の障害との鑑別等について述べた後、自閉症のある人に特有の物の見方や考え方に応じた専門的な援助方法のいくつかについて解説する。 【キーワード】 対人的相互反応の質的な障害、コミュニケーションの質的な障害、反復的で常同的な行動や興味、構造化、ソーシャルスキルトレーニング	古賀精治(大分大学・教授)	古賀精治(大分大学・教授)
13	発達障害児・者の理解と心理的援助－LD(学習障害)－	LDの概念に関する歴史的経緯、そしてわが国の教育と医学におけるLDの定義と分類について解説した後、LDのある人の学習上の諸問題に対する心理学的アセスメントに基づく教育・心理的な援助の方法について述べる。 【キーワード】 読む、書く、計算する、認知処理特性	古賀精治(大分大学・教授)	古賀精治(大分大学・教授)
14	障害の受容	障害の受容は、障害のある人々、及び家族にとって最も大きな課題である。障害の受容とは何か、受容のプロセスなど心理臨床的課題を中心に、援助のあり方について考える。 【キーワード】 障害受容、価値の転換、ステージ理論	佐藤新治(別府大学・教授)	佐藤新治(別府大学・教授)
15	地域社会と障害 －社会参加－	障害のある人々の社会参加は、今日の大きな課題である。バリアフリー、ノーマライゼイションが叫ばれてきたが、障害者を取り巻く環境はまだまだ厳しく、その中で障害者の苦悩は大きく渦巻いている。そのような悩みについての心理臨床的援助について述べる。 【キーワード】 国際障害分類(ICIDH)、国際生活機能分類(ICF)、自立、社会参加、バリアフリー、障害者雇用促進法	佐藤新治(別府大学・教授)	佐藤新治(別府大学・教授)

科目名（メディア）＝　臨床心理地域援助特論（‘０７）＝（Ｒ）

〔主任講師（現職名）：　箕口　雅博（立教大学教授）〕

講義概要

社会（コミュニティ）とのかかわりのなかで生活している人間の心理社会的問題を解決するためには、人の環境への適応を援助するだけでなく、その個人をとりまく環境を人に適合するように改善していく働きかけが重要であると考える。本講義では、「臨床心理アセスメント」「臨床心理面接」に次いで、心理臨床実践の第三の柱と位置づけられる「臨床心理地域援助（コミュニティ援助）」の考え方と方法をコミュニティ心理学の視座から追求する。

授業の目標

講義の前半では、臨床心理地域援助の定義、歴史、理論的背景、基本的発想、介入・援助の方法などについての概論的な解説をおこない、後半では、予防的介入、危機介入、コンサルテーション、社会的支援とネットワークづくり、他職種との協働などに焦点を当て、臨床心理地域援助の実際について、さまざまな領域における実践例を通して体験的理解を得ることを課題とする。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	現代社会と心の問題―臨床心理地域援助の視座	「社会（コミュニティ）の変化に呼応する形で噴出している今日のさまざまな心理社会的問題の解決に心理臨床家がどのように応えられるか」について、コミュニティ心理学の立場から検討する。	箕口雅博（立教大学教授）	箕口雅博（立教大学教授）
2	臨床心理地域援助とは何か―定義・理念・発想・独自性・サービス提供のあり方―	「心理アセスメント」「心理面接」に次いで心理援助活動の第三の柱である「臨床心理地域援助（コミュニティ援助）」の定義・理念・発想・独自性・サービス提供のあり方について質疑応答形式で概説する。	箕口雅博（立教大学教授）	箕口雅博（立教大学教授） 対談：大学院生
3	予防の概念と予防的介入	コミュニティ・アプローチと伝統的心理臨床のそれとの大きな違いは、「治療より予防を重視する」点にある。ここでは、精神保健領域における予防の概念について明らかにし、予防的介入の実際について概説する。	久田　満（上智大学教授）	久田　満（上智大学教授）
4	危機理論と危機介入	日常生活で危機に直面している個人や集団に迅速で即効的な援助的介入をおこなうことは、独自の理論と目的をもった心理援助の方法のひとつであり、コミュニティ援助を進めていくうえで欠かすことのできないものである。ここでは、「脅威査定・管理」という新たな危機介入の枠組みも紹介しつつ、危機介入の理論と実際について概説する。	箕口雅博（立教大学教授） 資料提供：毛利　元貞（モリインターナショナル）	箕口雅博（立教大学教授） 対談：毛利　元貞（モリインターナショナル）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
5	コンサルテーションによる介入と援助	コミュニティ援助を進めていくうえの基本的な介入方法であり、実践上の重要な戦略のひとつである、心理コンサルテーションの理論と実践について、事例を交えながら概説する。 ※現場インタビュー	箕口雅博（立教大学教授）	箕口雅博（立教大学教授）
6	ソーシャル・サポート・ネットワーキング―連携と協働による援助―	コミュニティのなかで、どのような人びとと手をたずさえ、どのような人びと対象に、どのような方法でアプローチすれば、心理臨床が役に立つのかについて、「ソーシャル・サポート・ネットワーキング」、「連携」と「協働」をキーワードとしながら検討する。次に、ソーシャル・サポート介入の実際として、中国帰国者の心理社会的適応援助に関するアクションリサーチを紹介する。	箕口雅博（立教大学教授） 高畠克子（東京女子大学教授） 資料提供：丹羽郁夫（法政大学教授）	箕口雅博（立教大学教授） 高畠克子（東京女子大学教授） 対談：丹羽郁夫（法政大学教授）
7	学校臨床における臨床心理地域援助	今日、学校現場では、不登校・いじめ・学級崩壊・切れる子ども・LD・ADHDなどの問題が起こるだけでなく、学校内外での子どもの安全も脅かされる状況が発生している。このような学校コミュニティへの多様なアプローチをどのように展開していくかについて、スクールカウンセラーの立場から検討を加える。 ※現場インタビュー	箕口雅博（立教大学教授） 資料提供：藤後悦子（立教大学講師）	箕口雅博（立教大学教授） 対談：藤後悦子（立教大学講師）
8	軽度発達障害の子どもへの地域援助―特別支援教育を中心として―	LD（学習障害）、ADHD（注意欠陥多動障害）、高機能自閉障害など、いわゆる「軽度発達障害」と呼ばれる子どもたちを、学校・地域ぐるみでどのように支援していくかは、今日、心理臨床家が取り組むべき重要課題のひとつとなっている。これらの課題について、応用行動分析および行動コミュニティ心理学の立場から述べる。 ※現場インタビュー	大石幸二（立教大学准教授）	大石幸二（立教大学准教授）
9	子育て・保育支援におけるコミュニティアプローチの実際	育児をめぐる不安と子どもを虐待する母親の増加、家庭内離婚と夫婦（異性）間暴力の問題などにみられるように、家庭の機能は孤立化し、親と子は閉ざされた環境の中で向かい合っている。多くの親たちは、子育てに関して体験的な知識をほとんどもてず、苦労や喜びを分かち合う仲間も少ないなかで悪戦苦闘している。こうした問題への多様かつ予防的介入として、心理臨床家のおこなうコミュニティ援助の実際をとりあげる。 ※ 現場インタビュー	箕口雅博（立教大学教授） 資料提供：藤後悦子（立教大学講師）	箕口雅博（立教大学教授） 対談：藤後悦子（立教大学講師）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
10	暴力・犯罪に関するコミュニティ問題へのフェミニスト・アプローチ	児童虐待、異性間暴力（DV）、暴力犯罪の被害者とその家族など、暴力・犯罪の関与する心理社会的問題へのアプローチについて、「フェミニストセラピィ」および「脅威査定管理」の枠組みから検討を加える。 ※現場インタビュー	高畠克子（東京女子大学教授）	高畠克子（東京女子大学教授）
11	大学キャンパスにおける学生支援—コミュニティモデルにもとづく留学生支援を中心に—	大学キャンパスで展開しうる学生支援活動の実際について、学生相談室・留学生センターにおける心理臨床家の立場から検討する。 ※留学生、ボランティア学生インタビュー	加賀美常美代（お茶の水女子大准教授）	加賀美常美代（お茶の水女子大准教授）
12	精神障害者へのコミュニティ援助	精神障害者が地域コミュニティで生活するためには、「生活する場」「仲間づくりの場」「働く場」が保証されていなくてはならない。ここでは、地域精神保健の領域で、その活動の基盤としている代表的な現場におけるコミュニティ援助について述べるとともに、そこで働く心理臨床家の他職種との連携と協働のありかたについて検討する。 ※現場インタビュー	高畠克子（東京女子大学教授）	高畠克子（東京女子大学教授）
13	医療・保健・福祉領域におけるコミュニティ援助	医療・保健領域におけるコミュニティ援助として、ターミナルケア・HIV カンセリングをとりあげ、心理臨床家の活動の実際を述べる。福祉領域におけるコミュニティ援助の実際として、高齢者の地域ケア活動および児童相談所・児童福祉施設それぞれの場における児童虐待問題へのアプローチを中心にとりあげる。 ※現場インタビュー	箕口雅博（立教大学教授）	箕口雅博（立教大学教授）
14	産業領域におけるコミュニティ援助—ＥＡＰ活動を中心として—	産業領域におけるコミュニティ援助として、主にEAP（従業員支援プログラム）活動の実際をとりあげ、その効用と意義について述べる。 ※現場インタビュー	箕口雅博（立教大学教授） 資料提供：松本桂樹（ジャパンＥＡＰシステムズ）	箕口雅博（立教大学教授） 対談：松本桂樹（ジャパンＥＡＰシステムズ）
15	臨床心理地域援助の課題と展望—研究と実践の統合をめざして—	臨床心理地域援助（コミュニティ援助）を今後どのように展開していくかについて座談会形式で検討する。主なテーマとしては、「対象と領域ごとの展望」「理論と実践方法の検討」「教育と訓練」「職業倫理」「研究と実践の統合」などを扱う予定である。	箕口雅博（立教大学教授）	座談会：箕口雅博 高畠克子 久田　満

事務局記載欄	開講年度	２０１０年度	科目区分	大学院科目	科目コード	8930562	履修制限	無	単位数	2

科目名（メディア）＝　　公共哲学　　（’１０）＝　（R）

〔主任講師（現職名）：山岡　龍一（放送大学准教授）　　〕

〔主任講師（現職名）：齋藤　純一（早稲田大学教授）　　〕

講義概要

現代社会における「公共性」の諸問題を、新たに問い直し、新たな解決法を考えていく方法を検討する。「公共哲学」という、近年再定義・再考察が試みられている視角・考え方を、理論的なレベルで紹介・解説しつつ、さらには、いくつかの具体的な問題に関する公共哲学的なアプローチを紹介・解説する。狭義の「哲学」ではなく、社会科学的な知のあり方の刷新の方法を、批判的に紹介することで、講義全体が公共哲学の展開の事例となる予定である。

授業の目標

本講義の目標は、公共性に関する特定の教義を提供したり、公共的な問題を取り扱う特定の方法を教え込むことではない。むしろ、「公共性」を再考察する可能性を示し、学生が自らの具体的な問題を基に、独自でありかつ他に開かれた仕方で、「公共性」に関する考えを身につけられるようにすることが目標である。社会・人文科学的な知の基礎を提供することも目標であるが、それ以上に、すでに何らかの学問を習得した学生が、それを批判的に展開し、他の学問や実践的課題との連関を理解、もしくは創造できるような知の提供を目指している。

履修上の留意点

履修の上で、特に必要な知識はない。もちろん、既に何らかの社会科学になじみをもっているなら、より理解が容易になるであろう。社会経営科学プログラム以外のプログラムに属する学生にも、その学習の成果を公共的な仕方で生かすために、積極的に履修してもらいたい。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	公共哲学とは何か	「公共哲学」という視角・考え方の概要を示す。「公共性」に関する思想史的説明を基に、「公共性」という概念を多様にとらえる可能性を提示する。隣接科学（政治・社会哲学、公共経済学、公共政策、公法学等）との違いや連関を考えつつ、現代社会においてなぜ、「公共哲学」という視角・考え方が必要になるのかを考える。 【キーワード】 「公共性」の概念、「哲学」の概念、系譜学、個人の分断化、社会の液状化	山岡龍一（放送大学・准教授）	山岡龍一（放送大学・准教授）
2	公共哲学の原像：リップマンとデューイ	公共哲学という問題提起の原初的形態として、W. リップマンとJ. デューイの論争を取り上げる。古典古代の理想である公共性の概念を、20世紀アメリカのような社会において追求する際に生じる問題性と可能性を考えることで、非国家的公共性の現代的意義を検討する視点を獲得する。 【キーワード】 大社会、世論、大衆と公衆、デモクラシー、アカウンタビリティ	山岡龍一（放送大学・准教授）	山岡龍一（放送大学・准教授）
3	公共哲学の提唱：アーレントとハーバーマス	公共哲学にとっての古典的なテキスト、H. アーレントの『人間の条件』とJ.ハーバーマスの『公共性の構造転換』を取り上げ、意見の複数性を重視する公共性の理解と市民による意思形成と国家の活動に対する批判的監査を重視する公共性の理解を検討する。 【キーワード】 意見交換、複数性、市民的公共性、批判的公開性	齋藤純一（早稲田大学・教授）	齋藤純一（早稲田大学・教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
4	公共哲学の展開（Ⅰ）：ロールズとサンデル	社会を統合する原理として社会正義を論じたJ. ロールズの『正義の理論』を取り上げる。その上で、ロールズ批判の文脈から新たな公共哲学を共和主義の伝統に依拠しながら提示するM. サンデルの試みを検討し、後期ロールズの政治的リベラリズムにおける公共性の概念を評価する。 【キーワード】 公正としての正義、負荷なき自己、共和主義、理に適った多元性、自由主義の公共文化	山岡龍一（放送大学・准教授）	山岡龍一（放送大学・准教授）
5	公共哲学の展開（Ⅱ）：テイラーとコノリー	一方で人々の価値観が多様であることを認め、それを推し進めさえしながら、他方で一つの社会としての統合が果たされることを可能にするのは、はたしてどのような「公共性」なのだろうか。現代の二人の哲学者、Ch. テイラーとW. コノリーの論争を手がかりにして探究する。 【キーワード】 アイデンティティ、差異、承認、穏やかな専制、民主制下の当事者能力	田中智彦（東京医科歯科大学・准教授）	田中智彦（東京医科歯科大学・准教授）
6	公共哲学の展開（Ⅲ）：経済学のアプローチ	経済学の視点から公共性について論じる。合理的に行動する個人が構成する社会において、公共的な価値の実現や集団的意思決定をめぐって生じる諸問題について考察する。従来の経済学の考え方を超える方向性にも言及する。 【キーワード】 合理的選択理論、公共経済学、公共財、社会的選択理論、ケイパビリティ・アプローチ	神事直人（京都大学・准教授）	神事直人（京都大学・准教授）
7	憲法と公共性	立憲主義と民主主義とを同時に標榜する近代国家は近代的憲法によって構成されている。その憲法は、世俗化と善の多様性を前提とした政治の運営の原則を示すものである。その前提として、市民の対等な関係によって成り立つ私的な領域と、市民が国家権力と対峙する関係にある公的な領域の区別がなされている。純粋に私的でもなく、また国家権力自体でもない公共的なものを憲法理論はそもそも想定しているのであろうか。 【キーワード】 主権、人権、近代立憲主義、表現の自由、公私区分論、市民社会、公共の福祉	川岸令和（早稲田大学・教授）	川岸令和（早稲田大学・教授）
8	マス・メディアと公共性	自由で民主的な社会においてマス・メディアが果たしている、あるいは果たすべき役割を通じてその公共性の問題を考える。現代の社会においては影響力のある表現主体としてマス・メディアの果たす役割は大きい。報道機関は、世界で起きている事実を人々に伝え、人々の意見の形成にかかわる。新聞を中心とした印刷メディアとテレビを中心とした電波メディア、さらに伝達技術の発達により、通信と放送が融合している最近の状況を法的観点から検討する。 【キーワード】 表現の自由、ジャーナリズム、報道の自由、取材の自由、編集権、反論権、記者クラブ、通信と放送の融合、インターネット	川岸令和（早稲田大学・教授）	川岸令和（早稲田大学・教授）
9	生命・身体と公共性	何にもまして「私的」に思われる生命・身体――しかしそれらをめぐる「生命倫理」が目指すのは、「公共政策における基準策定」でもある。こうした「公」と「私」の交錯は、私たちの生命・身体にとって何を意味するのだろうか。過去と未来の間で検討してゆく。 【キーワード】 自己決定権、生命倫理、生権力、生政治、生命科学技術	田中智彦（東京医科歯科大学・准教授）	田中智彦（東京医科歯科大学・准教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
10	労働と公共性	急増する「ワーキング・プア」と後を絶たない「製品偽装」――労働をめぐりこうした問題が起きたのは、労働をたんなる「商品」、消費のための「私的な手段」とみなしてきたことに関係があるのではないだろうか。労働とは何かを「公共性」の観点から再考する。 【キーワード】 労働の義務と権利、贈与と交換、市場、貧困、自己責任	田中智彦（東京医科歯科大学・准教授）	田中智彦（東京医科歯科大学・准教授）
11	社会保障と公共性	社会保障は人びとが相互の生活を支え合うための公共の制度である。社会保障制度の意義を明らかにするとともに、今後憤権されるべき社会保障制度の条件と方向についても検討を加えたい。 【キーワード】 社会保障、社会的連帯、福祉国家	齋藤純一（早稲田大学・教授）	齋藤純一（早稲田大学・教授）
12	デモクラシーと公共性	公共性とデモクラシーは不可分の関係にある。排除のない公共の議論は、政治的な意思形成-意思決定が正統であるための条件であり、また、政府に説明責任を求め、その活動を批判的に監査するための条件でもあることを明らかにする。 【キーワード】 討議デモクラシー、民主的正統性、民主的統制、公共的理由	齋藤純一（早稲田大学・教授）	齋藤純一（早稲田大学・教授）
13	ローカルな公共性	地域や地方自治体が直面する公共的価値をめぐる問題について考察する。廃棄物処理場や原子力発電所の立地など、いわゆるNIMBY (Not In My Back Yard) 問題を取り上げる。また「共有地の悲劇」の含意についても論じる。 【キーワード】 NIMBY問題、迷惑施設の立地、共有地の悲劇	神事直人（京都大学・准教授）	神事直人（京都大学・准教授）
14	グローバルな公共性	グローバルな公共性の問題として、温暖化をはじめとする地球環境問題を取り上げる。社会的ジレンマや公共財の供給問題などを手がかりに、その発生メカニズムと問題の構造を考察し、解決方法を模索する。 【キーワード】 地球温暖化、生物多様性、社会的ジレンマ、多国間環境協定	神事直人（京都大学・准教授）	神事直人（京都大学・准教授）
15	公共哲学の課題と展望	14回の講義内容を踏まえ、国際社会が直面している諸問題に公共哲学がどのようにアプローチしうるかを明らかにするとともに、親密圏やインターネットなど現代の公共性にとって重要なピックスにも言及する。 【キーワード】 親密圏、インターネット、国際社会、政治的責任	齋藤純一（早稲田大学・教授）	齋藤純一（早稲田大学・教授）

事務局記載欄	開講年度	２００９年度	科目区分	大学院科目	科目コード	8930503	履修制限	無	単位数	2

科目名（メディア）＝　　経済政策　　（’０９）＝（ＴＶ）

※この科目は「経済政策Ｉ（’０５）」を一部改訂した科目です。
改訂回は１，９，１０，１２，１３，１４，１５回です。

〔主任講師（現職名）：林　敏彦（放送大学教授）　　〕

講義概要

政府の経済政策は、民間経済活動が円滑に行われるための制度的及び経済的基盤を整え、市場制度を補完し、必要に応じて自ら市場に参加して、効率的で、公正で、よりよい資源配分の実現を目指すことを目標とする。この科目では、前半で現代の経済政策が果たすべき役割に関する基礎理論を学習し、後半では7つの個別分野の政策課題について検討する。

授業の目標

政治を志す人、国や地方自治体の政策担当者、さらに政策の最終的判断者である一般市民を対象として、「温かい心情と冷静な頭脳」(マーシャル)を備えた政策論争の作法を身につけることを目的とする。

履修上の留意点

学部共通科目「経済学入門('04)」または「経済学入門('08)」、および学部専門科目「現代経済学('04)または「現代経済学('08)」を学んでおくことが望ましい。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
1	経済政策はなぜ必要か **(※改訂回)**	政府が行う施策のうち、人々の経済生活に直接影響するものを経済政策と呼ぶ。日本のような市場経済において、経済政策はなぜ必要なのだろうか。シカゴ学派の考え方と制度学派の考え方を比較検討してみよう。 【キーワード】 政府の役割、新古典派、制度学派	林敏彦 (放送大学教授)	林敏彦 (放送大学教授)
2	社会の厚生	政策効果は、社会全体の構成を基準にして判断されなければならない。社会厚生は、市民主権の原則のもとに、効率性と公正さを追求することにより高まる。経済政策決定、実行過程への参加のあり方も重要な政策評価の対象となりうる。 【キーワード】 効率性、公正さ、社会的厚生関数	林敏彦 (放送大学教授)	林敏彦 (放送大学教授)
3	カルドア＝ヒックス基準	政策が人々の全員一致で支持される場合には問題ないが、一般にある政策がとられれば、それによって新しく利益を受ける人と利益を失う人が現れる。利害得失を超えた政策判断はどのような基準に基づいて行えばよいのだろうか。 【キーワード】 パレート効率性、カルドア＝ヒックス基準、費用便益分析	林敏彦 (放送大学教授)	林敏彦 (放送大学教授)

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
4	市場の成功と失敗	市場メカニズムによって最適な資源配分が実現されるというのはどういうことだろうか。市場はどのような場合に成功し、失敗するのだろうか。どのような財でも市場取引に委ねることで社会的最適が実現されるのだろうか。 【キーワード】 社会的余剰、市場の成功、独占	林敏彦（放送大学教授）	林敏彦（放送大学教授）
5	外部効果と政府の役割	企業や消費者の経済活動が、契約当事者以外の第3者に影響を及ぼすことを外部効果という。外部効果の例にはどのようなものがあり、外部効果が存在すれば市場が失敗すると言われるのはなぜだろうか。 【キーワード】 外部効果、コースの定理、市場の失敗	林敏彦（放送大学教授）	林敏彦（放送大学教授）
6	公共財	社会の構成員が同じ量だけ消費するしかないサービスは、公共財と呼ばれる。市場は公共財の最適供給に失敗するというのはどういう意味なのか。公共財のただ乗り問題とは何か。公共財は政府が供給すべきなのだろうか。 【キーワード】 純粋公共財、リンダール均衡、ただ乗り問題	林敏彦（放送大学教授）	林敏彦（放送大学教授）
7	不確実性と情報	金融活動に限らず経済活動は絶えず不確実性にさらされている。リスクと不確実性には民間の保険だけで対応が可能だろうか。情報が偏っている場合、市場はうまく機能するだろうか。何らかの政府の介入は必要だろうか。 【キーワード】 期待効用仮説、保険、逆選考、依頼主・代理人関係	林敏彦（放送大学教授）	林敏彦（放送大学教授）
8	政府の失敗	外部効果、公共財、情報の偏在などがある場合、市場は失敗するといわれる。では、それらを補正する役割に担う政府は失敗しないのだろうか。投票のパラドックス、政府の活動に伴う英じぇんしー費用などについて考えてみよう。 【キーワード】 投票のパラドックス、間接民主主義、官僚制度	林敏彦（放送大学教授）	林敏彦（放送大学教授）
9	マクロ経済政策 **（※改訂回）**	政府は景気や雇用、物価や国際収支など、マクロ経済の運営に大きな役割を担うと考えられている。政府は財政政策によってどこまでマクロ経済を制御できるのだろうか。日本銀行が直面する金融政策上の課題は何だろうか。 【キーワード】 財政政策、金融政策、IS-LM分析、総需要、総供給	野間敏克（同志社大学教授）	野間敏克（同志社大学教授）
10	社会保障政策 **（※改訂回）**	年金を含む社会保障制度は、近代国家が担うべき重要な責務となっている。社会保障の基本原理、日本の社会保障の制度的特徴、現状と問題点などについて考える。 【キーワード】 社会保険、社会保障、国民負担率、年金制度	坂井素思（放送大学教授）	林敏彦（放送大学教授） 坂井素思（放送大学教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
11	労働政策	日本の家計所得の8割を占めるのは勤労所得である。労働市場にはどのような変化が起こっているのであろうか。人々の働き方に変化は見られるのだろうか。日本の労働市場政策について考えてみる。 【キーワード】 労働市場の失敗、失業の問題、日本の雇用政策	林敏彦（放送大学教授）	林敏彦（放送大学教授） ゲスト出演 大竹文雄（大阪大学教授）
12	交通産業と経済政策（※改訂回）	交通における産業政策とインフラ整備は重要な公共政策として位置づけられている。本章では交通部門の市場特性と料金設定政策、及び交通社会資本整備における経済学的課題について考察する。 【キーワード】 交通市場、料金決定論、インフラ整備、公共交通政策	新井圭太（近畿大学准教授）	新井圭太（近畿大学准教授）
13	中山間地域政策（※改訂回）	地方自治体も経済政策を担当している。その中から、国レベルとは異なる自治体の政策について、農山村あるいは中山間地域が抱える課題と政策の変遷について考える。 【キーワード】 中山間地域、農業、林業、地域政策	伊藤勝久（島根大学教授）	伊藤勝久（島根大学教授）
14	環境政策（※改訂回）	大量消費・大量廃棄経済は、環境にどのような影響を及ぼしているのだろうか。地球環境と経済活動、大気汚染・土壌汚染・騒音・ヒートアイランド現象やごみ処理システムについても考える。 【キーワード】 外部不経済、静脈産業、環境問題、ごみ処理	坂田裕輔（近畿大学教授）	坂田裕輔（近畿大学教授）
15	国際公共政策（※改訂回）	近年、中国を中心とするアジア諸国の急成長を機に、開発国家戦略、地域経済協力、エネルギー問題、グローバルな環境問題等、国際的な広がりを持つ政策課題の重要性が増している。世界政府なき国際公共政策は可能だろうか。 【キーワード】 日本型経済モデル、政策の国際協調、グローバルな政策課題	林敏彦（放送大学教授）	林敏彦（放送大学教授）

事務局記載欄	開講年度	２００９年度	科目区分	大学院科目	科目コード	8930511	履修制限	無	単位数	2

科目名（メディア） ＝ 途上国の開発政策 （’０９）＝ （ＴＶ）

〔主任講師（現職名）：高木　保興（放送大学教授）〕

講義概要

途上国の貧困問題は、21世紀に入っても改善の兆しを見せていない。スーダン南部のダルフールを中心とする内戦は、未だに終戦への見通しが立っていない。また、ジンバブエの桁外れのインフレは、食糧不足に拍車をかけ、子供や女性に深刻な影響を及ぼしている。この科目では、途上国が貧困から脱出できるためには、どのような点を重視して政策を推進するほうがベターなのかについて、検討を加える。

授業の目標

多くの大学院用のテキストが、基礎の重要性を強調し、分析の厳密性を求めている中で、この授業では、途上国に関する主要問題を毎回取り上げ、その問題を掘り下げていく過程で、修士論文の課題になりうるテーマを示唆するという手法をとる。この科目を学ぶことで、途上国が発展していく上で何が重要かを理解し、各自の修士論文の中に、関連する項目として、少しでも活かすことができれば、目標は達成されたことになる。

履修上の留意点

この科目は、学部開設科目「途上国の開発（’07）」を取得し、ある程度途上国に関する知識を持っていることを前提にしている。したがって、前もって、この学部科目の履修が望ましい。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	不安定なアフリカ諸国	なぜ、アフリカには政治的に不安定な国が多いのか、これが1回目の課題である。アフリカの専門家武内進一氏をゲストとして迎え、過去の植民地時代の残滓、外国の資源を求めての介入、民主主義的制度の移植などが、内戦とどのように結びついているのか、意見を伺っていく。 【キーワード】 アフリカの途上国、政治的不安定	高木保興（放送大学教授）、コラム：ゲスト	高木保興（放送大学教授）、ゲスト：武内進一（アジア経済研究所アフリカ研究グループ長）
2	歪んだ所得分配	なぜ、中南米諸国には、所得分配が極端に歪んだ国が多いのか、これが2回目の課題である。さらに、共産主義活動は、政権をなぜ奪取できなかったのか、についても、中南米諸国の専門家恒川惠市氏に意見を伺っていく。 【キーワード】 所得分配、中南米諸国、社会（関係）資本	高木保興（放送大学教授）、コラム：ゲスト	高木保興（放送大学教授）、ゲスト：恒川惠市（政策研究大学院大学教授）
3	一次産品輸出は促進すべきか	一次産品輸出の拡大は、どのような問題を途上国にもたらすのか、これが3回目の課題である。地下資源では、枯渇と国土荒廃問題を、プランテーションでは国際価格変動との関係を明らかにしたい。 【キーワード】 流通業者、政商、農業社会の不安定化	高木保興（放送大学教授）	高木保興（放送大学教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
4	農業と水不足	途上国の主要産業である農業には、水は無くてはならないものだが、水に関する紛争は耐えない。水不足の主要な問題を議論することが4回目の課題である。1地域の水配分、上流と下流の水配分、そして、都市工業と地方農村の水配分について検討を試みる。 【キーワード】 灌漑事業、貧困削減、社会（関係）資本	高木保興（放送大学教授）	高木保興（放送大学教授）
5	バランスの取れた工業化は望ましいか	バランスト・グロースは望ましい成長・発展の姿か、これが5回目の課題である。3種のバランスト・グロースを紹介し、その検討を試みる。 【キーワード】 バランスト・グロース、コストとベネフィット	高木保興（放送大学教授）	高木保興（放送大学教授）
6	初期工業化戦略	近代工業をスタートさせるのに必要なことは何か、これが6回目の課題である。比較優位産業は何か、輸出に必要なノウハウは何かなど、潜在的企業家に起業させるのに必要な情報を、政府はいかにして提供すればいいのだろうか。 【キーワード】 輸出加工区、経済特区、殖産工業化政策	高木保興（放送大学教授）	高木保興（放送大学教授）
7	輸入代替政策は必要か	輸入代替政策は産業育成に必要か、これが7回目の課題である。日本の自動車産業の成功例は、途上国の見本として活用できるか。タイや台湾は、なぜ、自動車産業の育成に失敗したのか。自国企業と外国企業の区別は必要なのか。これらの問題点について検討する。 【キーワード】 輸出加工区、経済特区、殖産工業化政策	高木保興（放送大学教授）	高木保興（放送大学教授）
8	債務問題はなぜ発生するのか	途上国には、なぜ、債務問題が頻発するのか、これが8回目の課題である。債務問題の発生原因を探ることで、何が明らかにされるだろうか。世界経済の変動による影響を最小に留めるには、途上国政府はどうすればいいのか。 【キーワード】 債務問題、ハイパー・インフレ	高木保興（放送大学教授）	高木保興（放送大学教授）
9	構造調整政策は途上国に有効か	1980年代に世銀によって推進された構造調整政策は、途上国にとって有効と言えるのだろうか、これが9回目の課題である。同時に、政府主導の開発の長所と短所も議論される。 【キーワード】 構造調整、政府主導、	高木保興（放送大学教授）	高木保興（放送大学教授）
10	東アジアに奇跡を起こしたものは	なぜ、東アジアに高度成長国が集中したのか、これが10回目の課題である。東アジア諸国の成長を押し上げた外部要因は何か。内部要因として、世銀は何を指摘しているのか。 【キーワード】 東アジアの奇跡、マクロ経済の安定	高木保興（放送大学教授）	高木保興（放送大学教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
11	東アジアの通貨危機を深刻にした原因	東アジアの通貨危機は、なぜ、深刻になったのか、これが11回目の課題である。アメリカとIMFの対応について、メキシコ(1994年)とタイ(1997年)のケースを比較しながら、政治的要因が色濃く反映されていることを指摘する。 【キーワード】 通貨危機、伝染、地域協力	高木保興(放送大学教授)	高木保興(放送大学教授)
12	途上国にとっての2国間EPAと地域共同体	2国間FTAと地域共同体とは、途上国に異なった影響を及ぼすのか、これが12回目の課題である。同時に、21世紀に入って、2国間FTAが活発になってきたのは、なぜかについても、検討する。 【キーワード】 地域共同体、安全保障、経済連携協定	高木保興(放送大学教授)	高木保興(放送大学教授)
13	援助の考慮点	援助について議論するときに、気をつけなければならない点は何か、これが13回目の課題である。NGOの援助は効果が上がっているが、ODAは適切になされていないという指摘は、的を射ているのか。組織の目的を明確にすることから議論を始める。 【キーワード】 ODA、NGO、組織の目的	高木保興(放送大学教授)	高木保興(放送大学教授)
14	社会的企業と貧困削減	途上国の貧しい人に無担保で融資をしながら、高い返済率を確保して、ビジネスとして継続を可能にする試みが展開されている。なぜ、貧しい人への融資が成功を収めているのか、これが14回目の課題である。 【キーワード】 社会的企業、グラミン銀行、KIVA	高木保興(放送大学教授)	高木保興(放送大学教授)
15	途上国政府の役割	途上国政府は、何を実行し、何をすべきでないのか、これが15回目の課題である。債務問題に対する構造調整政策や通貨危機に対するIMFコンディショナリティに共通することは何か。制度や政策に先進国のものを導入しても、期待通りの結果が生まれない理由は、どこにあるのかが議論される。 【キーワード】 行動決定要因、制度	高木保興(放送大学教授)	高木保興(放送大学教授)

事務局記載欄	開講年度	２００９年度	科目区分	大学院科目	科目コード	8930520	履修制限	無	単位数	2

科目名（メディア）＝　　自治体と政策　　（’０９）＝（ＴＶ）

〔主任講師（現職名）：天川　晃（放送大学教授）　　〕

〔主任講師（現職名）：稲継裕昭（早稲田大学大学院教授）　　〕

講義概要

最初に自治体と政策を検討するための、政治的サイクルと政策的サイクルという枠組みを提示する。次に自治体の政治行政の制度的枠組みと近年の改革について説明をする。さらに、自治体とコミュニティ、住民の関係を概観し、これらをつなぐ自治体の諸政策の課題を検討する。最後に、現代の自治体と政策のあり方を歴史的・比較的文脈の中に位置づける。

授業の目標

分権改革後の自治体は、自治体運営（ガバナンス）の主体としての責任が大きくなった。都道府県、市町村を問わず、それぞれの自治体は、地方制度の枠組みの中で、自らが持つさまざまな資源を活用しつつ住民の求める政策を展開することになった。この科目では、政策主体としての自治体という観点から、自治体が当面する政策課題について、歴史的比較的考察を含めて、検討する。

履修上の留意点

自治体の直面する諸課題について、性急な回答を求めることよりも、理論的・歴史的な考察を踏まえつつ検討することが望まれる。学部の政治学・行政学関係の諸科目を履修していることが望ましい。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	自治体と政策	講義全体のイントロダクション。自治体の活動はあるサイクルを持って展開される。4年毎に行われる選挙のサイクルと、1年毎に編成される予算のサイクルである。また、自治体はさまざまな類型の政策を展開するが、個別政策のサイクルがある。これらがどのように交錯するのかについて検討する。近年、自治体政策をめぐる大きな環境変化が生じつつあり、政策における自治体の役割もあらためて再検討する。 【キーワード】 政治のサイクル、政策のサイクル、政策過程、政策の類型、参加と協働、ガバナンス	天川	天川・稲継
2	分権改革	包括的地方自治ガバナンス改革としての分権改革の実績と課題について検討する。さらに、三位一体改革など税財政改革の背景と意味を含め、今後の改革の課題についても考える。 【キーワード】 分権一括法、三位一体改革、市町村合併、未完の分権改革	稲継	稲継
3	自治体の制度	自治体の制度を二つの角度から考える。一つは都道府県と市区町村の二層制の制度である。これは中央政府と自治体との関係という問題に関わるが、ここでは二層制度が何を期待されていたのかという問題を考える。もう一つは歴史的に一貫する自治体の制度の特徴と制度改革の問題を考え、近年の自治体制度の動きと今後の展望を考えてみる。 【キーワード】 二層制、融合型と分離型、内務省ー府県システム、内閣ー道州制システム、画一化と多様化、地域自治区	天川	天川

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
4	議会と議員	自治体議会の権能・機能、地方議会の構成と運営について考える。議会を構成する議員は、どのような属性の人がついているのか、報酬等はどうなっているのか、また、住民参加と地方議会の関係をどう考えるかについて触れる。 【キーワード】 議会の役割、標準規則、議員報酬、議会と住民参加、地方議会改革	稲継	稲継
5	首長と執行機関	自治体の首長と議会の関係について考える。両者の関係を歴史的、比較的に検討した上で、自治体の内部行政組織にまつわる問題を指摘する。最後に二元代表制と自治体の政策に関する近年の研究について紹介する。 【キーワード】 首長公選制、局部法定主義、執行機関多元主義、二元代表制、政策過程	天川	天川
6	人事行政	地方公務員の種類と数について簡単に見た後、職員の採用・配置と異動・昇進など、人事全般に関する問題を考える。また、人事交流や給与についても扱う。時代環境の変化の中で今後の人事行政はどうなっていくのかについても考える。 【キーワード】 地方公務員、配置と異動、昇進制度、人事交流、給与体系、積み上げ型褒賞システム	稲継	稲継
7	税財政構造と予算管理	マクロな税財政構造を説明した上で自治体の予算編成をめぐる問題を考える。歳入と歳出について基本的な理解を得ると共に、予算編成のスケジュールと決算過程、および最近の自治体における予算改革について理解する。 【キーワード】 地方交付税、国庫支出金、地方税、地方債、予算編成、自治体財政健全化法	稲継	稲継
8	自治体改革	分権改革と並行して進められた自治体自体の改革の諸様相を考える。NPM（ニュー・パブリック・マネジメント）に基づく考え方、行政評価、指定管理者制度、公会計改革などの具体的事例についても検討する。 【キーワード】 集中改革プラン、NPM（ニュー・パブリック・マネジメント）、行政評価、指定管理者制度、公会計改革	稲継	稲継
9	自治体とコミュニティ	少子高齢化社会への変化の中で自治体とコミュニティの関係はどのように変化してきたのか。自治体とコミュニティの関係の再編と再生の課題を検討する。 【キーワード】 少子高齢化、限界集落、コミュニティ、町内会、NPO、中間団体、ソーシャル・キャピタル	天川	天川
10	開発と環境	日本の地域開発は「地域の均衡ある発展」を目標としてきたが、その開発の結果として大都市部の過密と農山村部の過疎という不均衡を生んできた。その後、開発の目標や手法も変化してきた。国家中心の都市計画法も次第に分権化されさまざまな自治体でまちづくりの経験が重ねられてきた。今後必要な都市と農村の関係を含めて発展の方向を模索する。 【キーワード】 国土総合計画、国土形成計画、条件不利地域、持続可能な発展、環境基本法、都市計画、まちづくり、合意形成、自治基本条例	天川	天川

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
11	福祉政策と自治体	自治体の福祉行政をめぐる問題を考える。融合型自治制度の枠組みで、福祉政策を担うのは自治体である。福祉政策の展開を見る中で、また、生活保護を素材として中央地方関係を考える。さらに、福祉政策を担う第一線公務員の行動様式も合わせて考える。 【キーワード】 福祉の磁石、福祉政策の展開、生活保護、第一線公務員	稲継	稲継
12	警察と教育	中央一地方関係の観点から見ると、警察行政と教育行政は他の政策分野とは異なる行財政の構造を持っている。これらの政策分野の戦前・戦後の制度改革の経過とも無縁ではない。この制度の歴史的背景を見るとともに、これら行政分野の現状と課題を明らかにする。 【キーワード】 占領改革、内務省解体、自治体警察、公選教育委員、「逆コース」、体感治安、危機管理	天川	天川
13	自治体のネットワーク	自治体は地域的・制度的には独立した存在であるが、近隣の自治体、同種の自治体などとの間にさまざまなネットワークを持っている。自治体間の公式な関係だけでなく、市長や議員、職員、さらには市民団体や個々の市民が持っている個人的なネットワークもある。これらのネットワークと自治体の政策とはどのような関係があるだろうか。 【キーワード】 広域行政、地方六団体、姉妹都市、国際協力、政策ネットワーク、鉄の三角形、政策波及、政策革新	天川	天川
14	地方自治の歴史	「地方自治は民主主義の学校」という理念が語られるが、実際の地方自治の歴史はどうだったのか。近代日本の地方自治の歴史を「民主化」、「国際化」、「現代化」という観点から振り返り、これからの地方自治の方向を考える。 【キーワード】 民主化、国際化、現代化、三新法、市制町村制、大正デモクラシー、戦時体制、「民主主義の学校」	天川	天川
15	国際比較	日本の地方自治のあり方の特質を明らかにするには、諸外国の地方自治との比較検討が必要である。ヨーロッパにおける地方自治の類型化を中心として、さまざまなパターンの地方自治を比較検討し、日本の自治体の特質を考える。 【キーワード】 英米型と大陸型、連邦制国家と単一主権国家、分離型・融合型、内政の総括官庁、活動量、ウルトラ・ヴァイレースの法理	稲継	稲継

事務局記載欄	開講年度	平成20年度	科目区分	大学院科目	科目コード	8930376	履修制限	無	単位数	2

科目名（メディア） ＝ 社会的自我論 （’０８）＝ （R）

〔主任講師（現職名）：船津　衛（放送大学教授）〕

講義概要

自我の社会理論を展開した研究者であるC. H. クーリー、G. H. ミード、H. ブルーマー、R.H.ターナー、K. ガーゲンらの理論を中心に検討し、社会的自我論の問題点を明らかにし、新たな自我論の形成を目指します。

授業の目標

自我に関する理論的研究の流れをフォローし、自我の社会的あり方を理解し、さらに、人間の自我についての新たな見方を身につけることを目標とします。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	社会的自我論の展開	自我に関するこれまでの理論を検討し、自我の社会性を明らかにする社会的自我論の必要性を強調します。 【キーワード】 社会的自我	船津　衛（放送大学・教授）	船津　衛（放送大学・教授）
2	近代的自我論から現代的自我論へ	これまで支配的であった近代的自我論を批判的に検討し、その問題点を明らかにし、そこから現代的自我論のあり方について考えていきます。 【キーワード】 近代的自我	同上	同上
3	現代人の自我のゆくえ	現代に生きる人間の自我の様相として、「アイデンティティの喪失」、「多面的、流動的自我」などについて考察します。 【キーワード】 現代人の自我	同上	同上
4	自我と第一次集団	社会的自我論のスタート台となったアメリカの社会学者C. H. クーリー（cooley）の自我論を取り上げ、自我が第一次集団（primary group）における他者との関わりにおいて社会的に形成されることを明らかにします。 【キーワード】 第一次集団	同上	同上

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
5	「鏡に映った自我」	クーリーの自我論の主要概念である「鏡に映った自我」(looking -glass self)について、その内容を検討し、これまでの批判をふまえて、その問題点を指摘します。 【キーワード】 「鏡に映った自我」	船津 衛(放送大学・教授)	船津 衛(放送大学・教授)
6	自我と「自己感情」	クーリーの自我論において、自我とイコールにされている「自己感情」(self feeling)の具体的内容を検討し、その意義と問題を明らかにします。 【キーワード】 自己感情	同上	同上
7	自我と「役割取得」	自我論を確立したアメリカの哲学者、社会心理学者のG.H.ミード(Mead)の「役割取得」(role taking)による自我形成論をとりあげ、その背景と意義について論じます。 【キーワード】 「役割取得」	同上	同上
8	「主我」と「客我」	ミードの自我論において自我を構成する2側面とされる「主我」(I) と「客我」(me)の概念を検討し、その問題点とこれまでの解釈について問題とします。 【キーワード】 「主我」、「客我」	同上	同上
9	自我とコミュニケーション	ミード理論では、自我とコミュニケーションが深くかかわっており、そこにおいて「意味のあるシンボル」(significant symbol)が大きな役割を果たしていることを明らかにします。 【キーワード】 「意味のあるシンボル」	同上	同上
10	自我とシンボリック相互作用	アメリカの社会学者であり、シンボリック相互作用論(symbolic interactionism)の創始者であるH. ブルーマー(Blumer)の自我論の内容とシンボリック相互作用論における位置について明らかにします。 【キーワード】 シンボリック相互作用	同上	同上
11	自我と「自分自身との相互作用」	ブルーマー理論の主要概念である「自分自身との相互作用」(self interaction)を取り上げ、その内容と意義について論じます。 【キーワード】 「自分自身との相互作用」	同上	同上

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
12	自我と役割形成	ミードやブルーマーの理論を展開したアメリカの社会学者R. H.ターナー(Turner)の「役割形成」(role making)概念を取り上げ、その意義と内容について検討します。 【キーワード】 役割形成	船津 衛(放送大学・教授)	船津 衛(放送大学・教授)
13	自我の社会的コンストラクション	自我論の新しい展開である自我の社会的コンストラクション論について、アメリカの社会心理学者のK. ガーゲン(Gergen)の理論を取り上げ、その意義について論じます。 【キーワード】 社会的コンストラクション	同上	同上
14	自我のナラティヴ・コンストラクション	自我が「ナラティヴ」(narrative)を通じて形成され、変容するというガーゲンの見解を取り上げ、その内容をくわしく検討します。 【キーワード】 ナラティヴ・コンストラクション	同上	同上
15	自我のリコンストラクション	社会的コンストラクション論の中心的テーマであり、社会的自我論の主要テーマである「自我のリコンストラクション」について考察し、そこから新たな社会的自我論の形成を目指します。 【キーワード】 自我のリコンストラクション	同上	同上

事務局記載欄	開講年度	２０１０年度	科目区分	大学院科目	科目コード	8930546	履修制限	無	単位数	2

科目名（メディア） ＝ 社会経済組織論（’１０） （R）

〔主任講師（現職名）：坂井素思（放送大学教授） 〕

講義概要

「社会経営科学」の広い領域を学ぶ上で、社会全体のなかで活動する社会組織体がどのように組織化され、社会構造全体がどのように成り立っているのかを知ることが必要である。

家族、企業、政府などの伝統的な社会組織体に関して組織論の見地から比較検討するだけでなく、近年急速に発達を見た、「社会ネットワーク論」「組織社会学」「組織デザイン論」「中間組織論」などの知見を盛り込みながら、講義を進める。欧州で発達した「サードセクター論」などの社会体制に関する現実論も視野にいれることにしたい。

授業の目標

この科目は、現代の社会組織がなぜ変化を遂げているのかを学んでいただくための講座である。近年、組織間の境界領域があいまいになってきている。このような状況のなかで、「社会経営」分野を学ぶ場合に対象となる「組織体変化」の認識が必須となってきている。そこで、社会組織個別の専門認識も必要であるが、それに加えて、組織体相互の間の関係についての全体認識も重要である。このような全体を見通す考え方を整理する必要がある。従来、個別の企業、政府組織、家族組織については、「企業論」「公共システム論」「家族社会学」などですでに取り上げられているが、公私部門などの組織間の問題や組織の体制・秩序の問題については、既存科目ではあまり取り上げられていない。「社会組織の連関」を考えるという特色を生かした講義を目指している。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
Ⅰ現代社会組織の課題				
1	社会組織とは何か	今日の社会では、個人がバラバラに分離されて活動せざるを得ない、いわゆるアノミー状況が至るところに起こってきている。個人の活動は、社会連鎖のなかで力を持つようになる「社会組織」の存在が問われている。従来の家族や企業や政府などの変化に伴って、個人が社会のなかで、どのような組織力を発揮できるのかについて考える。個人が個々の楽器を演奏するだけでなく、オーケストラの一員としても活動するような状況について注目したい。組織がネットワーク性原理を追究する根本的な理由について問題提起したい。 【キーワード】 個人、社会、組織、アノミー、不確実性、組織秩序、オーケストラ効果	坂井素思（放送大学教授）	坂井素思（放送大学教授）
2	近代社会組織の失敗	近代が社会組織化の手段として考えてきた、市場、国家、産業精神、科学技術などは、近代合理的な傾向を個人に課してきた。そのため、現代に至ってかえって個人活動を阻害する事態も出てきている。なぜ今日の社会組織は柔軟性に欠け、非効率でぎこちなく、個人を不活性化することになってしまっているのだろうか。現代までの組織論の系譜を説明した上で、エージェンシー理論などを取り上げ、その原因を探る。 【キーワード】 社会組織、近代化、合理主義、公式―非公式、営利―非営利、エージェンシー	坂井素思（放送大学教授）	坂井素思（放送大学教授）
3	組織のダウンサイジングと分業モデルの再生	近代組織は、従来ヒエラルヒー組織の有効性を認めてきた。ところが、近年フラット化やアウトソーシングなどの手法を使って、公共組織や企業組織などのダウンサイジング傾向を進めている。なぜ、近代組織ではダウンサイジング傾向を見せるのかについて、この章で見ていくことにする。また、古典的な分業では、ひとつの仕事をふたつに分割することで、生産性の上昇が生ずるとするものであるが、今日の分業論では、必ずしも分割だけが生産性を上げるものとは考えられていない。柔軟な分業論などの、現代的な意味での分業とはなにか、についてこの章で考察する。 【キーワード】 フラット化、アウトソーシング、ダウンサイジング、労働、分業、協業、柔軟性	坂井素思（放送大学教授）	坂井素思（放送大学教授）
4	組織人の葛藤	組織人は、組織に所属すると同時に、個人特有の個性とを持っている。したがって、組織内では常に自分との葛藤を抱えることになる。これらを調整する仕組みとして、影響力の役割が存在する。連合の原則などの影響力は、現代の組織を非公式的に支えている。 【キーワード】 組織人、影響力、非公式、	坂井素思（放送大学教授）	坂井素思（放送大学教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
5	「規模の経済」の限界	この章では、大きな組織と小さな組織の比較を行いたい。組織というものの示す高い生産性の理由は、いくつか存在する。それらのなかで古典的な理由となってきたのは「規模の経済」である。19世紀から20世紀にかけての大企業体制が成立した理由にもなっている。けれども、この時代には、同時に中小企業が興隆した時代でもある。「規模の経済」については、現代においてどの程度有効性があるのだろうか、考えて行きたい。 【キーワード】 規模の経済、硬直性、非効率性、機動性	坂井素思（放送大学教授）	坂井素思（放送大学教授）
6	縦組織の限界（官僚制モデルの非公式的発展）	近代組織では、ルールを定め、それに則って組織化が進められるという「公式化」が進んだ。ここではヒエラルヒー組織が必要とされた。これに対して、非公式的な組織の論理が忘れられてきたという反省が生じ、「あいまいな組織」論などの非公式組織の見直しが進んできた。この章では、これらの非公式組織論を見ていくことにする。 【キーワード】 ヒエラルヒー組織、公式（フォーマル）組織、非公式（インフォーマル）組織、あいまい組織、	坂井素思（放送大学教授）	坂井素思（放送大学教授）
7	横組織の限界（ネットワークモデル）	市場経済では、企業組織の発展が続いたが、他方で営利性への反省から、NPOなどの非営利組織の発展も盛んに行われるようになってきている。なぜ資本主義経済のなかで、非営利組織が発展するのか、この章で考察したい。 【キーワード】 営利性、非営利性、NPO	坂井素思（放送大学教授）	坂井素思（放送大学教授）
8	ピラミッド型組織とフラット組織	組織発生の歴史の教えるところでは、組織原理は「縦型」と「横型」は相互に矛盾するわけではなく、むしろ対立しながらも相互補完的に発展してきた。なぜ縦型と横型の両方が必要とされるのか、について、事例を取り上げながら考えることにする。このことは、市場と組織の問題を考えることにもつながる。 【キーワード】 ピラミッド型、フラット型、マトリックス型、相互補完性、取引費用アプローチ	坂井素思（放送大学教授）	坂井素思（放送大学教授）
Ⅱ個別社会組織の問題				
9	企業組織の特性と限界	企業組織は、現代の市場経済のもとでは、「営利性」に特化した組織としての特徴を持っている。それは、株式会社制度のもとにおいて、利害関係者の了解事項であった。ところが、実際には、企業組織の利害関係者はきわめて多様であり、組織の内外ではさまざまな利害が渦巻いている。組織原理に絞って、企業という組織の特性と限界について考えて行きたい。 【キーワード】 ステークホルダー、多様性、営利性、利潤	坂井素思（放送大学教授）	坂井素思（放送大学教授）
10	企業組織の戦略論	目標を定め、手段を準備し、成果物の評価を行う、という、古典的な戦略論については、さまざまな批判が提出されている。現代の組織における「戦略」とはどのような意味をもっているのだろうか。この章で、現代の戦略論を検討したい。 【キーワード】 マネジャー、企業家、メンター、成果主義	坂井素思（放送大学教授）	坂井素思（放送大学教授）
11	公共組織の特性と限界	公共組織の特性は、非営利の公共性にある。どのような場合に、公共性を追求する組織が必要とされるのか。事例を取り上げながら、公共組織の特徴について考える。 【キーワード】 公共組織、非営利性、公共性	坂井素思（放送大学教授）	坂井素思（放送大学教授）
12	公共組織と民間組織	この章では、公私問題について考察する。近代組織には、それを担う主体が公共団体なのか、民間組織なのかという対立があることが知られている。どのような場合に、公共なのか、民間なのか、については、公共性の議論が発達してきているが、ここでは組織原理の特性からアプローチすることにする。政府の失敗、市場の失敗などの理論的な発展についてみることにする。 【キーワード】 市場の失敗、政府の失敗、契約の失敗、エージェンシー問題	坂井素思（放送大学教授）	坂井素思（放送大学教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
13	家族組織とコミュニティ組織	非公式組織の組織原理について、この章で考察する。家族特有のプーリング原理や、コミュニティの信頼性原理などについてみていく。 【キーワード】 非公式組織、プーリング原理、信頼性	坂井素思(放送大学教授)	坂井素思(放送大学教授)
Ⅲ社会組織のゆくえ				
14	フォーマル組織とインフォーマル組織	「組織の失敗」の原因は、個人が組織といかに結びつくのかについての理解が足りなかったからである。プリンシパル(依頼人)とエージェント(代理人)との間の基本的な特徴が、組織を支配しているのだが、そこでフォーマルな組織だけではうまくいかなくて、インフォーマルな支えが必要であることを示している。 【キーワード】 組織の失敗、フォーマル、インフォーマル	坂井素思(放送大学教授)	坂井素思(放送大学教授)
15	社会組織の再生	社会組織が「組織化」されるためには、それに参加する個人の意欲が存在するだけではうまくいかない。個人の中で起こる「組織との葛藤」を調整したり、個人間の信頼性を確保する、ソーシャル・キャピタルのような仕組みが醸成される必要がある。 【キーワード】 組織化、個人意欲、葛藤、ソーシャル・キャピタル	坂井素思(放送大学教授)	坂井素思(放送大学教授)

＝　法システムⅠ（‘０６）＝（Ｒ）

－生命・医療・安全衛生と法－

〔主任講師（現職名）：中嶋　士元也（放送大学客員教授）　〕
〔主任講師（現職名）：町野　朔　　（上智大学法学研究科教授）〕
〔主任講師（現職名）：野村　豊弘　（学習院大学教授）　　〕

全体のねらい

国民一般ないしは職業に携わる人々（被用者）の生命の維持あるいは健康の保全に係わる法思想、法制度や法理論を解説し、医療・保健をめぐる種々の法律問題を研究しようとするものである。そのうちでも、この印刷教材で取り扱う対象は限定され、国民を対象とする一般医療における医師・医療機関と患者の契約関係をめぐる法律問題ならびに被用者を対象とする産業保健が中心的に考察される。そして、その前提として、生命倫理と医療道徳のあり方と法規範との相互関係を論じなければならない。この観点は、現代の先端医療がはらむ問題との関係で特に重要である。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	生命倫理と法	そもそも、生命倫理・医療倫理を維持するために法律を使うことは許されるか。平成14年にクローン人間の作成を厳罰に処する「クローン技術規制法」の成立をめぐる議論を照会しながら、法と倫理の関係を考察する。	町野　朔（上智大学法学研究科教授）	町野　朔（上智大学法学研究科教授）
2	国境を越える生命倫理	「クローン技術規制法」は、各国はクローン人間禁止のための措置を執るべきだという国際的合意に後押しされて成立したものである。しかし、人クローン胚の作成も禁止されるべきかを巡って、各国の議論は大きく分かれている。生命倫理の国際化を考慮しながら、わが国の生命倫理立法のあり方を探る。	町野　朔（上智大学法学研究科教授）	町野　朔（上智大学法学研究科教授）
3	終末期医療と法	ある場合には国民の生命をも剥奪する刑法は、法律の中でも最も峻厳なものである。医療過誤、患者の自己決定権侵害に対して、日本の刑事司法はどのように対応してきたか、またその刑事立法はどうあるべきか、を検討していく。	町野　朔（上智大学法学研究科教授）	町野　朔（上智大学法学研究科教授）
4	生殖補助医療と民事法	医学の世界では、人工授精・体外受精・受精卵移植等の生殖補助医療技術はめざましい発展をとげている。そこで可能とされる技術のうち、どこまでが法的に認められるのか。日本では、この問題については、医学の専門家集団の判断に委ねられてきた。しかし、法的な観点からの考察は不可欠であり、また、そのような医療技術によって生まれてきた子どもの法的な親子関係をどのように決定するのかという問題を明らかにしなければならない。	野村豊弘（学習院大学教授）	野村豊弘（学習院大学教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
5	医療行為・医療契約	治療に関して、医者と患者との間には、医療契約が締結されると考えられる。しかし、幼児や高齢者について、どのような要件を満たせば、医療契約が締結されると評価できるかが問題となる。また、意識不明の救急患者などのように、患者が意思を表明できない場合に、医療契約がどのように締結されるのか。さらに、医師が治療内容をどのように説明し、それを前提に患者がどのように自己決定するかについても考察する。	野村豊弘（学習院大学教授）	野村豊弘（学習院大学教授）
6	医療過誤紛争	医師の手技上の過失、説明義務の不履行などの医療過誤に基づく損害賠償について考察する。特に、一般的な不法行為の場合とはどのように異なるかに着目する。また、死亡が確実であるような疾患について、診断の遅延があったような場合（適切な時期に診断がなされても、死亡は避けられなかったときもある）などを例に、医療過誤における損害とは何かについても取り上げる。	野村豊弘（学習院大学教授）	野村豊弘（学習院大学教授）
7	職場における安全衛生	労働安全衛生法（安衛法）ならびに付属法令は、労働基準法とあいまって、職場で働く人々の安全と健康を確保し、また系的な職場環境の形成を促進することを目的として制定されている。本章では、これにつき考察する。	中嶋士元也（放送大学客員教授）	中嶋士元也（放送大学客員教授）
8	労働災害（1）－実態と補償の仕組み	安衛法が労災防止のために、膨大な措置を規定しているにもかかわらず、不幸にして労災は絶えず発生している。本章では、労災の歴史や実態について、解説する。	中嶋士元也（放送大学客員教授）	中嶋士元也（放送大学客員教授）
9	労働災害（2）－救済方式	法制度は、不幸にして仕事を原因とする労災が発生した場合に、被災労働者や遺族のために行政ルート（補償）や裁判ルート（損害賠償）をもって、これを救済しようとする。本章では、労災救済の法的仕組みを探る。	中嶋士元也（放送大学客員教授）	中嶋士元也（放送大学客員教授）
10	過労死・過労自殺の予防と救済	労基法や労災保険法は、けがや職業病を補償をもって救済するが、一定の要件の下に、職業病とはいえない作業関連疾病をも救済する。その代表的な疾病が、日本で深刻な問題を提起している、いわゆる過労死・過労自殺である。本章では、これらの法的問題を検討する。	中嶋士元也（放送大学客員教授）	中嶋士元也（放送大学客員教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
11	公衆衛生・感染症・予防接種	これらは、医学としての公衆衛生学・予防医学の対象であるが、法律制度は、これらの分野の効果的な対策のために、どのような仕組みを用意しているであろうか。本章では、この問題を概観する。	中嶋士元也（放送大学客員教授）	中嶋士元也（放送大学客員教授）
12	精神障害者の権利と精神医療	我邦十何万ノ精神病者ハ実ニ此病ヲ受ケタルノ不幸ノ外ニ、此邦ニ生レタルノ不幸ヲ重ヌルモノト云フベシ。これは、1918年、日本の精神医学と精神医療の創始者・呉秀三博士の遺した言葉である。日本の精神医療と精神医療法は、博士の言葉にどのように応えてきたのか。	町野　朔（上智大学法学研究科教授）	町野　朔（上智大学法学研究科教授）
13	医療・健康情報の保護	医療機関においては診療情報や薬剤情報が、また職場での健康診断等を通じて多くの被用者の健康情報が発生する。これら医療・健康情報は、個人情報保護法の下においても、特に厳正な処理の求められている情報である。法的問題点を探る。	中嶋士元也（放送大学客員教授）	中嶋士元也（放送大学客員教授）
14	医薬品の安全と被害の救済	医薬品は、患者の治療に不可欠なものであるが、合成化学物質を素材とする医薬品等は、内在的な危険性をも包蔵している。医薬品事故（薬害）が発生した場合、製薬会社の製造物責任や医師の使用上の過失は法律上どのように扱われるであろうか。	中嶋士元也（放送大学客員教授）	中嶋士元也（放送大学客員教授）
15	食品の安全と被害の救済	食品に含まれる有害物質は、人間にとって一般に危険であるばかりではなく、母親を通して胎児にまで多大な悪影響を及ぼす。すなわち、食品の安全は、全国民の最大の関心事である。法は、これにどのように対処しようとしているか。	中嶋士元也（放送大学客員教授）	中嶋士元也（放送大学客員教授）

科目名（メディア）＝　法システムⅡ（‘０７）＝（TV）
－比較法社会論－日本とドイツを中心に－

〔主任講師（現職名）：　広渡　清吾（専修大学教授）〕

講義概要

日本の法と社会にはどのような特徴がみられるだろうか。その特徴を明らかにする一つの方法としてドイツの法と社会との比較を行う。近代日本の法制度は、ドイツの法制度を模範にして作られ、また、日本法の理論もドイツから継受されてきた。この歴史的な背景に加えて、第二次世界大戦後のドイツと日本は、敗戦国として共通の課題をかかえながら、それぞれに固有の歩みをみせ、国際社会においてもしばしば比較される地位にある。様々な領域と問題に即して、二つの法と社会を比較し、日本の特徴を示したい。

授業の目標

日本とドイツの比較を通じて、日本の社会における憲法の意義、戦後責任の問題、女性の法的地位、労働者と企業をめぐる法的問題、外国人と共生する社会をめぐる法的問題、社会における法と法律家の機能と役割、また、法の形成における市民の役割などについて特徴づけを行い、理解を深める。法制度の内容を把握するとともに、社会のなかで法がどのように機能するか、どのような条件によって法の機能が左右されるかについて考察し、理解を深める。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	比較法社会論は何を問題とするのか	比較法社会論は、日本の法と社会の特徴を明らかにするための方法論である。法と社会の比較の意義とその方法について検討し、ドイツを比較の対象とすることの意味について明らかにする。第２回以降の各論のための総論を提示する。	広渡清吾（専修大学教授）	広渡清吾（専修大学教授）
2	戦後の反省としての憲法	敗戦国としての日本とドイツは、新憲法を制定して戦後の歩みを始めた。新憲法は「戦争」をどのように位置づけるか、「軍事力」をどのように取り扱うかを最大の問題の一つとした。二つの社会の歩みの共通性と差異について考える。	同上	同上
3	「戦後」はどのように終わるのか－戦争責任と戦後責任	日本とドイツの戦争犯罪は、極東国際軍事法廷およびニュールンベルク国際軍事法廷で裁かれた。しかし、戦争が引き起こした問題は、今日に至るまで終わっていない。これについての「責任」のあり方を考える。	同上	同上
4	社会のなかの憲法－統治構造のあり方および憲法と国民の関係	憲法は国家と国民の関係を定める基本法である。では憲法と国民の関係は、具体的にどのようなものであろうか。統治構造のあり方、基本権の位置づけ、憲法裁判の役割、憲法が社会の統合に果たす役割などについて、比較して考える。	同上	同上

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
5	法のなかの女性 ―男女平等の法的意味	近代の法は人の平等を原則にしながらも、性による平等を承認してこなかった。第２次世界大戦後にはおおむね男女の平等が実現するが、抽象的なものにとどまり、なお実質的な平等に向けての問題が法と社会に残る。この流れを整理し、現在の問題を明らかにする。	同上	同上
6	婚姻・家族の変容と法	女性の役割を家庭に閉じこめ、政治や経済活動を男性固有のものとする「性別役割分業」の考え方は、社会において根強くあり、また、法制度を伝統的に規定してきた。婚姻と家族の大きな変容のなかで、法制度の対応が要求されている。その状況を比較的に分析する。	同上	同上
7	アイデンティティとしての氏―夫婦同氏制の問題	日本法は、夫婦と親子（未婚の子）が同じ氏であるべきことを定めている。氏は、「個人の呼称」であるから別氏を認めよとする主張も強い。ドイツはすでに夫婦が別氏を選択することを認めている。同氏制にはどのような根拠があるのか。それぞれの議論を比較しながら考える。	同上	同上
8	企業のあり方と法の役割	ドイツの企業は、「社会国家」という憲法の規定を背景にして、労働者の企業運営への参加を認める独特の制度を法によって与えられている。「共同決定制度」というこの仕組みを中心にして、日本の企業との比較を考える。	同上	同上
9	法からみる労働者の組織と働き方	労働者は集団を組織して労働条件の改善のために企業と交渉する。労働者組織は、企業のなかでの労働者の働き方に大きな影響を及ぼす。法は、労働者組織のあり方や労働者の働き方を規制する。一方で労働者組織、そして他方で法が、労働者の働き方にどのような役割を果たしているか、日本とドイツを比較してみる。	同上	同上
10	国民と外国人の２分法の揺らぎ―国民国家と多様な共生社会	ドイツ社会に住む外国人の比率は１割に近くなっている。日本でも１９８０年代後半から外国人労働者が増加してきた。外国人を国民から区分する法制度の比較しながら検討し、外国人と共生する社会の法制度のあり方を考える。	同上	同上

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
11	グローバル化の下での国際移住と法	グローバル化の下で国境をこえる人々の流れは、ますます増大している。各国は、このような国際移住にどう対応するか、政策と法制度の検討をたえず迫られている。とくに、ドイツも日本も少子化・高齢化への対策として移民の活用が提案されている。国際移住の実態をみながら、日本とドイツの問題と政策、法制度の変化を比較してみよう。	同上	同上
12	社会の法化－社会における法の使われ方	人々の法の利用の程度（裁判所の利用の頻度）を比べるとドイツは、日本よりもはるかに大きい。つまり、ドイツは日本に比べて「社会の法化」が進んでいるといわれる。これは、どのような原因によるものかを法制度や人々の法意識、法についての観念などを比較して考える。	同上	同上
13	社会のなかの法律家－どのように養成され、どのような役割を果たすのか	日本はドイツに比べて法律家の数がはるかに少ない。法律家（弁護士・裁判官・検察官）の養成はどのように行われているか。また、法律家はどのような役割を果たすのか。日本とドイツの近年の法曹養成制度の改革をとりあげながら、社会のなかの法律家をめぐる問題を考える。	同上	同上
14	市民による法形成と司法参加－法における市民の役割－	市民は様々な場面や領域で広い意味での法を形成する役割を果たす。日本で新たに実施される裁判員制度は、その一つである。ドイツでは市民が素人裁判官として活動する。これらを比較しながら、市民の法における役割を考える。	同上	同上
15	変化のなかで「法と社会」をとらえる－講義のまとめ	ドイツと日本の比較は、それぞれの法と社会の特徴を明らかにする。しかし、この相互の特徴は、それぞれ歴史的に形成されてきたものであるが、同時に未来に向けて変化し、ある場合には同じところに収斂する可能性すらある。講義のまとめとして、触れることのできなかった問題を含めて、これからの問題を考えてみよう。	同上	同上

科目名（メディア）＝　国際社会研究Ⅱ（‘０７）＝（Ｒ）
－中国近代政治史－

〔主任講師：　山田　辰雄（慶應義塾大学名誉教授）〕

講義概要

歴史なくして現代を語ることはできない。なぜなら、現代は過去の歴史構造に拘束されているからである。その反面、過去は現代のすべてを説明することもできない。なぜなら、現代は過去に経験しなかった新しい現象を生み出すからである。本講は、現代の中国政治を意識しつつ、20世紀前半の中国近代政治史を扱う。

授業の目標

①各回の教科書に基づく講義は放送の半分とし、後の半分は各回の括弧内の問題について原資料を提示し、学生とともに分析の過程、論理構成、学界の動向等について学ぶ。
②各回の課題は、政治学・政治史の問題として一般性をもたせる。
③全体の流れとして、近代中国政治史に集権・独裁と自由・民主との対比を鮮明にする。
④中華人民共和国の政治を常に意識しておく。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	中国近代政治史を学ぶために	学部での勉強の蓄積を踏まえて、大学院で中国近代政治史を学ぶために必要な問題を取り上げる。分析力・構成力の涵養、課題の選択、資料の収集、参考書、図書館・研究機関・本屋、語学、国際交流等の問題がそれである。（一つの論文ができるまで）。	山田　辰雄（慶應義塾大学名誉教授）	山田　辰雄（慶應義塾大学名誉教授）
2	清末の政治	19世紀の中国の王朝体制は、内なる矛盾と外国の圧力のなかで崩壊の危機に直面していた。この危機をいかに克服するかをめぐって、洋務運動・変法運動・革命運動が生まれ、中国の近代化の潮流が形成された。（改良と革命）。	同　上	同　上
3	辛亥革命	1911年辛亥革命が起こり、清朝が崩壊した。革命勃発の原因と過程、軍隊の役割、議会制民主主義の成立と崩壊、２つの憲法、袁世凱の台頭、革命の指導権などの問題を通して、辛亥革命の性格を論じる。（代行主義）。	同　上	同　上
4	袁世凱の政治	袁世凱は清朝の軍近代化の指導者であり、辛亥革命後政権を掌握した。彼は武力を基礎にして反対派を弾圧、議会制民主主義を破壊して、最後に帝制樹立を試みた。従来革命に対する反動と捉えられてきた袁の政治を現代的観点から再考する。（袁世凱政治の評価について）。	同　上	同　上

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
5	軍閥政治	1916年の袁世凱の死から1928年の国民革命軍による北伐完成までは、軍閥混戦の時期と呼ばれる。軍閥混戦の過程を通して軍閥とは何か、どうして近代中国に軍閥が生まれたのか、軍閥の行動様式と歴史的位置づけを論じる。（人物研究）。	同上	同上
6	中華革命党から中国国民党へ	1919年の中華革命党から中国国民党への転換は、中国革命の変容でもあった。この転換を促した要因として、軍閥の反乱、大衆運動の台頭、ソ連・コミンテルン・中共の働きかけ、帝国主義との対立等があった。（党・軍・大衆）。	同上	同上
7	中国共産党の成立と国共合作への道	1921年の中国共産党の誕生は、新しい社会的変化を反映していた。その背後には第一次世界大戦、ロシア革命、新文化運動と五四運動等があった。誕生間もない中共は労働者・農民の組織を基礎にして国民党に接近していく。（中国共産党の組織論）。	山田　辰雄	山田　辰雄
8	国共合作の政治	1924－1927年国共両党は、反軍閥・反帝国主義の共通の目標の下に統一戦線を形成した（国共合作）。ここでは、国共合作の展開と崩壊の過程を扱い、あわせてその後の両党の発展を示唆する政治路線を明らかにする。（三民主義の解釈について）。	同上	同上
9	蔣介石の台頭と訓政時期の諸問題	国民党は、蔣介石の指導下に1927年反共化し、28年には北伐を完成してひとまず全国を統一した。新政権は、孫文の理論に則り訓政時期（指導された民主主義）を開始したが、その統一の不完全さ故に後年に多くの問題を残した。（訓政・党の指導・大衆の政治参加）。	同上	同上
10	中国共産党のソヴィエト革命	1927年国共分裂後、中共中央は武装闘争に転換した。この基盤は労農兵からなるソヴィエト政権であった。党中央は都市中心の革命に重点を置いたが、国民党の弾圧に破れ、農村を基礎とした毛沢東が台頭する。（李立三と毛沢東）。	同上	同上
11	安内攘外政策と抗日民族統一戦線政策	1931年の満州事変の勃発は、激しく対立する国民党と共産党の再接近をもたらした。日本の侵略に対する両党の対応、民衆の抗日、国際関係と国内建設、西安事件などを通して両党の対立と接近の過程を論じる。（安内攘外論と抗日民族統一戦線論）。	同上	同上

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
12	抗日戦争	1937－45年の時期を扱う。日中戦争は日米開戦により、太平洋戦争に拡大していく。日本軍の侵略、国共両党の協力と対立、戦争をめぐる国際関係が分析の対象となる。国共両党はまたこの戦争を通して戦後の力関係の基礎を築いた。（毛沢東の権力確立過程）。	同上	同上
13	国共内戦	1945年日本の敗戦とともに国共両党の対立は激化する。アメリカによる両党の調停も失敗に帰し、46年から内戦が勃発する。土地革命、知識人の動向、インフレ、国民党の腐敗と軍事的誤りが中共の勝利に貢献した。（中国革命における中間派について）。	同上	同上
14	日中関係の160年	今日、日中間に歴史問題をめぐる対立が絶えない。中国近代政治史を踏まえ、日中両国民が相互に理解しあえる枠組みを提起したい。時代区分、多様な側面（相互依存、競存、敵対）、多国間関係の側面からこの問題を論じる。（日本の基本的立場と新しい枠組みを求めて）。	同上	同上
15	20世紀中国政治の連続性	その時々の現代中国の政治を取り上げ、歴史的観点から分析する。今回は、1989年の天安門事件を、20世紀中国政治の歴史的連続性の観点から分析する。（アイデンティティ、排他的支配、代行主義）。	同上	同上

科目名（メディア）＝　国際政治（‘０７）＝（TV）

〔主任講師（現職名）：藤原　帰一（東京大学教授）〕

講義概要

現代世界の国際関係を解説する。第一部（基礎）では国際政治の基本概念を説明する。第二部（外交）ではより焦点を絞って、外交とは何を目的にどのような手段を行使する政策領域であるのかを考察する。次に、第三部（体系）では国際政治の体系を、横並びの闘争（力の均衡）と縦の支配（帝国と覇権）、さらに横断的な協調の可能性（相互依存）から考察する。第四部（変容）と第五部（統合と紛争）では現代国際関係の特徴を議論する。

授業の目標

現代国際政治に見られるさまざまな現象を、ごく基本的な問題に置き直して検討する。平和は兵隊が保つのか、非西欧諸国は主権国家といえるのか、戦争を制限する試みには意味はあるのかなど、素朴で、トゲのように刺さる問題から議論を起こし、歴史上の事例を踏まえて考えてゆく。ひとつの状況を異なる視点から考え、そのなかでとることのできる複数の選択を構想する能力を身につけることが、この授業の目的である。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	基礎１ 戦争の体系としての国際政治	近代国際政治は国家を主体とし、その国家が戦争を遂行することを当然の手段として認める体系である。どうしてそのような体系が生まれたのか、ヨーロッパ中世末期の状況にさかのぼって、国際政治の誕生を議論する。	藤原帰一（東京大学教授）	藤原帰一（東京大学教授）
2	基礎２ 国際秩序はどう構想されてきたか	国家間の対抗が国際政治の常であるとしても、戦争ばかりが続くわけではない。それでは、戦争がない状態はなぜ生まれるのか、またそれはどのような条件によって支えられるのか。思想家たちの構想にさかのぼって、国際秩序の類型を整理する。	藤原帰一（東京大学教授）	藤原帰一（東京大学教授）
3	基礎３ 誰が国際政治の主体なのか	国際政治は国家を主体とする体系である、といわれる。だが、それにはどんな意味があるのか。国家と市民を主体とする国際政治概念の相克を論じる。	藤原帰一（東京大学教授）	藤原帰一（東京大学教授）
4	外交１ 権力と国益	外交の目的は権力を行使することで自国の国益を最大にすることである。それでは、何が権力として有効に働くのか、また国益とはなにか。それが今回の課題である。	藤原帰一（東京大学教授）	藤原帰一（東京大学教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
5	外交２ 外交政策の類型	外交政策にはさまざまな手段と領域がある。そして、数多い手段のうち、どれを選べばもっともその状況に適切な対応となるのか、その判断が外交政策の当否を決めることになる。外交政策の多様な類型について考察する。	藤原帰一（東京大学教授）	藤原帰一（東京大学教授）
6	外交３ 外交政策はなぜ誤るのか	さまざまな国際問題、特に危機管理に関わる領域では、昔から実に数多くの判断の誤りが繰り返されてきた。なぜ、外交政策は間違えるのか。外交政策の決定を扱うこの回では、その一点に絞って考えてみたい。	藤原帰一（東京大学教授）	藤原帰一（東京大学教授）
7	体系１ 力の均衡とはなにか	国際政治のなかでももっとも基本的な概念が力の均衡であり、現実主義者にとってはほとんど唯一の秩序の観念である。この力の均衡の意味を、それを体現した制度とされるウィーン体制の検討を通して考える。	藤原帰一（東京大学教授）	藤原帰一（東京大学教授）
8	体系２ 同盟の力学	力の均衡を支える政策のなかでも代表的なものが同盟であり、近代国際政治の始まりから冷戦期、さらに米ソ冷戦が終わった後もなお、同盟の役割は失われていない。それでは、この同盟とはいったい何か、その多様な形態と機能について考察する。	藤原帰一（東京大学教授）	藤原帰一（東京大学教授）
9	体系３ 帝国と覇権	大国による他の地域の支配は、ローマ帝国の昔から植民地帝国など数多く行われてきたが、このような「帝国」を概念として明確に捉える試みは、こと国際政治学のなかでは少なかった。この限界を捉えて、帝国の系譜を考察したい。	藤原帰一（東京大学教授）	藤原帰一（東京大学教授）
10	変容１ 国際政治はどのように拡大したのか	１７世紀まで、国際政治とはヨーロッパの大国を主体とした君主の世界であった。これが現在、どう変わったのか。ひとつには、地理的な変化がある。ヨーロッパを主体とした国際政治は、アメリカへ、さらにアジア、アフリカへと主体が地理的に拡大した。また、国内の担い手も変わる。君主や貴族に限られた国際政治の担い手が、国内政治の民主化とともに変化を遂げたからだ。このような国際政治における地理的拡大と身分的拡大についてここでは考えてみよう。	藤原帰一（東京大学教授）	藤原帰一（東京大学教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
11	変容2 ナショナリズム	近代国家とは国民国家とも呼ばれる。それは、国民が共通の伝統と文化によって支えられているというナショナリズムが各国の基礎に置かれているからだが、それではナショナリズムとは何だろうか。そして、ナショナリズムは、国際政治を考える上でどのような意味があるのか。	藤原帰一(東京大学教授)	藤原帰一(東京大学教授)
12	変容3 戦争とその変化	冷戦期の戦争とは、核抑止体制のもとで、核戦争につながる可能性の少ない紛争を大国が熾烈に戦うというものだった。その冷戦も終り、大国の国際政治と地域紛争とのつながりは切れている。そのなかで生まれた戦争のかたち、新しい戦争について考える。	藤原帰一(東京大学教授)	藤原帰一(東京大学教授)
13	統合と紛争1 相互依存は国際政治を変えるのか	長く敵国であったドイツとフランスが同じEUのもとで協力するという変化ほどヨーロッパ統合の成果を示すものはない。それではなぜEUは成立したのか。また、地域統合はヨーロッパに限られた現象なのか。地域統合の過程と条件を考える。	藤原帰一(東京大学教授)	藤原帰一(東京大学教授)
14	統合と紛争2 EUはなぜ生まれたのか	現代国際政治の特徴は、経済分野の争点が、戦争と平和という伝統的課題と並び、時にはそれ以上に重要となった点に求められる。通貨体制と貿易体制について、統合の進展と、その生み出した新たな紛争について解説を加えたい。	藤原帰一(東京大学教授)	藤原帰一(東京大学教授)
15	統合と紛争3 国際政治の制度化	予算を見ても、人員を見ても、国連は世界政府と呼べるようなものではない。だが、国連のような公式の組織ばかりでなく、非公式の協議や機構を見れば、国際関係における制度形成はやはり進んできた。制度化の条件を探ってみたい。	藤原帰一(東京大学教授)	藤原帰一(東京大学教授)

事務局記載欄	開講年度	平成20年度	科目区分	大学院科目	科目コード	8930392	履修制限	無	単位数	2

科目名（メディア） ＝ 大学のマネジメント （’０８）＝ （R）

〔主任講師（現職名）：山本　眞一　（広島大学大学院教授）　〕

〔主任講師（現職名）：田中　義郎　（桜美林大学大学院教授）　〕

講義概要

近年、大学を巡る諸環境は大きく変化し、とくに18歳人口の減少は私学経営に大きな影を投げかけ、また国公立大学においては法人化後の大学運営に格段の工夫が求められている。さらに雇用構造の変化や科学技術の高度化、大学マーケットのグローバル化などに対応するためには、従来の大学事務処理を遥かに超えるマネジメントの革新が求められている。本科目では、これらの変化に対応するための知識や考え方を、大学事務職員を始めとする関係者に身に付けさせることを目的とする。

授業の目標

受講者が現職の大学職員あるいは管理職にある教員であることが多いとの前提の下、できる限り実践的かつ実際的な教育内容を提供するよう努める。このことにより、受講者に広く大学マネジメントに関する知識を提供するとともに、彼らが現実に直面している大学マネジメントの諸課題を適切に解決するための問題設定、解決に至るための複数の代替案の策定、採用すべき解決案の決定、実際のマネジメントへの応用など、幅広い実践力を身につけさせるようにする。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	大学を巡る環境変化	今、わが国では、18歳人口の減少や国際化、知識基盤社会の到来などの社会変化の中で、大学を巡る諸環境は大きく変化してきている。その変化が大学にどのような影響を及ぼすか、とりわけ大学経営にとってどのような意味を持つのかを考察する。 【キーワード】 18歳人口減少、国際化、外国大学との競争、知識基盤社会、大学教育の大衆化、科学技術、競争的環境の進展、国立大学の法人化	山本眞一（広島大学大学院教授）	山本眞一（広島大学大学院教授）
2	大学という組織の特性	大学は、教育・研究を任務とする教員という専門職を多数抱えている組織である。彼らの活動の活性化を図り、かつ大学が社会に説明責任(アカウンタビリティー)を果たすには、どのようにすればよいのか、大学という組織の特性および経営体としてのあり方を念頭に論じる。 【キーワード】 高等教育、学術研究、学問の自由、大学の自治、アカウンタビリティー、教授職、政府と大学、学校法人、国立大学の法人化、市場、意思決定	山本眞一（広島大学大学院教授）	山本眞一（広島大学大学院教授）
3	大学事務職員の現状と能力開発の必要性	近年、大学経営を支える事務職員の役割に関心が高まっている。これまでのアンケート調査等から見た彼らの現状を紹介するとともに、これからの大学経営とって重要な職員の能力開発について論じる。 【キーワード】 事務職員、大学の意思決定、教授会、大学経営、職員の役割、職員の能力開発、学長のリーダーシップ、国立大学の法人化	山本眞一（広島大学大学院教授）	山本眞一（広島大学大学院教授）
4	外国の大学マネジメント(アメリカ)	大学のマネジメントをより効果的にするには、外国の大学事例にヒントを求めることも意味がある。ここではアメリカ大学のマネジメント事例を取り上げ、組織化、意思決定、管理運営の方策など大学経営の諸側面について論じる。 【キーワード】 CEO学長、エグゼクティブズ、理事会、職務記述書、大学経営、大学組織、多様性、競争的環境、アドミニストレーター、ファンドレイジング、大学の大道具	田中義郎（桜美林大学大学院教授）	田中義郎（桜美林大学大学院教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
5	外国の大学マネジメント（イギリス、そしてヨーロッパ高等教育圏）	ヨーロッパ諸国は、ヨーロッパにおける雇用可能性と移動性を高め、高等教育の競争力を強化するために、ヨーロッパ高等教育圏を模索している。ここでは、イギリスの大学、特にオックスフォードの昨今の経営改革を事例に上げつつ、ボローニャ・プロセスへの参加によって期待される大学の活性化について論じる。 【キーワード】 オックスフォード大学、ボローニャ・プロセス、経営組織改革、競争的環境、雇用可能性、移動性、学位の互換性、学部・大学院構造、ヨーロッパ高等教育圏	田中義郎（桜美林大学大学院教授）	田中義郎（桜美林大学大学院教授）
6	大学広報・学生募集戦略	競争的環境が進む中で、大学経営にとって重要なことは、大学の認知度を高め、優秀で意欲ある学生を多数集めることである。ここでは、1980年代にアメリカの大学で広まったマーケティングとエンロールメント・マネジメントの手法の導入とその後、そして今日的課題について、我が国の大学事情に照らして論じる。 【キーワード】 学生募集、大学広報、戦略的思考、個性的大学、競争的環境、多様性、優秀性、大学教育のユニバーサル化、マーケティング、エンロールメント・マネジメント、大学のブランディング	田中義郎（桜美林大学大学院教授）	田中義郎（桜美林大学大学院教授）
7	国公立大学の人事・労務・財務	国公立大学の人事・労務および財務は、これまで公務員制度や国の予算決算システムの制約下にあったが、法人化を機にそれぞれの大学の自主自律に基づく判断と業務の効率的実施が求められるようになった。その新しい制度の枠組みとその実際の運用を解説する。 【キーワード】 公務員法制、労働法制、公的規制と大学の特性、教職員人事、運営費交付金、中期計画、経営の効率化	工藤敏夫（大学評価・学位授与機構理事）	工藤敏夫（大学評価・学位授与機構理事）
8	私立大学の人事・労務・財務	前回取り上げた国立大学に続いて、私立大学について、その経営にとって欠かせない人事・労務・財務の知識とその運用の実際を、専門的・実務的立場から眺め、実務者として必要な知識やノウハウについて教授する。 【キーワード】 労働法制、学校法人会計、教員人事、職員人事、私学経常費補助、運営費交付金、企業会計、経理事務、資金運用、募金戦略、監査	井原　徹（実践女子学園理事・前早稲田大学理事）	井原　徹（実践女子学園理事・前早稲田大学理事）
9	大学の教務・学生サービス	近年の大学教育を巡る環境変化の中で、大学教育の質的向上や学生支援の充実がますます重要性を増している。ここでは、大学経営の根幹である教務および学生サービス・プロフェッションについて、その現状と今後のあり方を論じる。 【キーワード】 教育活動支援、アカウンタビリティー、成績管理、履修管理、カリキュラム管理、研究活動支援、学修指導、学生生活支援、職務記述書、大学の小道具、教育者マインド、大学教育のユニバーサル化、プロフェッショナル化	田中義郎（桜美林大学大学院教授）	田中義郎（桜美林大学大学院教授）
10	大学の研究管理	科学技術の振興が重要な国家戦略となる中、大学における研究活動の役割に注目が集まるようになってきた。産業界との連携、知財関係なども含めて、効率的な研究管理のあり方について実態を踏まえて考える。 【キーワード】 研究資金、大学院、研究室運営、インキュベータ、知財法制、研究マネジメント、産業界との連携、イノベーション	山本眞一（広島大学大学院教授）	山本眞一（広島大学大学院教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
11	評価と大学経営	認証評価の制度化に伴い、大学教育の質保証が求められている。また、資源確保のためにはさまざまな評価を経なければならない。このようにさまざまな評価が始まった今日の大学環境の中で、これにどう対処すればよいのかを論じる。 【キーワード】 大学評価、認証評価、質保証、学位の国際的通用性、国立大学法人、専門職大学院	山本眞一（広島大学大学院教授）	山本眞一（広島大学大学院教授）
12	大学の危機管理	大学マネジメントにとって危機管理のノウハウは必要不可欠である。各種の不祥事、教育・研究上の事件・事故、また長期的には財務上の問題など、大学経営を脅かす各種の要因を如何に軽減し、解決するかについて論じる。 【キーワード】 理事長・学長のリーダーシップ、迅速な意思決定、管理運営組織、広報、危機管理のノウハウ、問題認識	山本眞一（広島大学大学院教授）	山本眞一（広島大学大学院教授）
13	大学改革の実際（国公立大学）	近年、法人化に伴いその変化の著しい国公立大学について、その改革の実際を関係者へのインタビューなども交えて紹介し、またその改革の背景や今後の課題について、さまざまな観点から分析しつつ受講者に紹介する。 【キーワード】 法人化、中期目標・計画、運営費交付金、外部資金、経営マインド、学長のリーダーシップ、社会貢献	山本眞一（広島大学大学院教授）	山本眞一（広島大学大学院教授）
14	大学改革の実際（私立大学）	18歳人口の減少に伴う学生マーケットの縮小、大学教育のユニバーサル化とそれに伴う質の維持の要請など、私立大学を巡る環境は大きく変化している。ここでは、優れて、固有と思われる教育改革の事例を私立大学に求め、担当者へのインタビューなども交えて紹介し、その背景や今後の課題について論じる。 【キーワード】 18歳人口の減少、大学教育のユニバーサル化、全入時代、教育接続、教育プログラム、GPグッドプラクティス、リーダーシップ、競争的環境、個性が輝く大学、教育改革	田中義郎（桜美林大学大学院教授）	田中義郎（桜美林大学大学院教授）
15	21世紀知識社会と大学のマネジメント	これからの知識社会において大学は、知識の生産（研究）・伝達（教育）・活用（社会貢献）において大きな役割が期待されている。経営環境の変化の中で先行き不透明な側面があるが、これらの側面を克服しつつ役割を果たすべき大学の将来とそのマネジメントについて論じる。 【キーワード】 知識社会、生涯学習、雇用環境、科学技術、グローバル社会	山本眞一（広島大学大学院教授）	山本眞一（広島大学大学院教授）

＝ 経営システムⅠ（‘０６）＝（Ｒ）
－企業の公的経営－

〔主任講師（現職名）：佐々木　弘（神戸大学名誉教授）〕
〔主任講師（現職名）：山田　幸三（上智大学教授）　　〕

全体のねらい

受講者が関心をもつテーマや修士論文で取り上げようとするテーマをより広い学習分野の中から選択できるよう「経営システムⅠ」は、講義内容を大きく、二つに分けた。前半の第Ⅰ部では私企業（民間企業）の経営を対象とし、後半の第Ⅱ部では公企業の経営を対象とする部分から構成させるよう努力した。それぞれの分野の重要問題を簡潔に学ぶことにしよう。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
		第Ⅰ部　私企業の経営		
1	環境の中で生きる企業	企業は経済社会という経営環境の中で活動する組織体であり、その環境とのさまざまなやり取りの巧拙が存続に影響を及ぼす。しかし、企業は環境に対して単に受動的に適応するだけではなく、自らの戦略的な活動によって発展・成長を遂げる。	山田　幸三（上智大学教授）	山田　幸三（上智大学教授）
2	経営戦略の策定	経営戦略は、企業と環境とのかかわり方を将来志向的に示す構想であり、能動的な活動によって経営環境に適応していくために不可欠な役割を果たす。ここでは、経営戦略の内容と機能について概観しておくことにしよう。	山田　幸三（上智大学教授）	山田　幸三（上智大学教授）
3	全社戦略	経営戦略は、組織の階層の違いを反映して事業戦略と全社戦略とに分けることができる。全社戦略は事業構造の戦略とも呼ばれ、企業全体に関する課題を広範で長期的な視点から分析して事業戦略間の整合性を検討する。ここでは、全社戦略の内容と課題を説明する。	山田　幸三（上智大学教授）	山田　幸三（上智大学教授）
4	事業戦略	事業戦略は、競争と不可分の関係にあり、「誰に」「何を」「いかに」という３つの問題に答えて差別化を図る必要がある。ここでは、顧客の分析と競争の分析を中心に事業戦略を策定するための基本的な論点について説明する。	山田　幸三（上智大学教授）	山田　幸三（上智大学教授）
5	競争優位と事業システム	持続的な競争優位を構築するためには、製品やサービスのレベルではなく、事業システムという仕組みのレベルで競争相手との差別化を実現することが本質的な課題である。ここでは、事業システムと競争優位に関する基本的な論点を考える。	山田　幸三（上智大学教授）	山田　幸三（上智大学教授）

回	テーマ	内・容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
6	事業システムの設計と構築	事業システムでの競争優位は難しく持続するという性質をもっている。ここでは、事業システム設計と構築のための基本的な選択と事業システムの設計のための基本的な論点について考える。	山田　幸三（上智大学教授）	山田　幸三（上智大学教授）
7	情報化時代の事業システム	1990年代以降の競争では、品質に加えてスピードや俊敏性がキーワードとなっている。情報化の進展は、戦略の実現に必要な組織の俊敏性を高めるために重要な役割を果たす。情報とコンピュータネットワークの特性に見合った事業システム作りが求められている。	山田　幸三（上智大学教授）	山田　幸三（上智大学教授）
8	新事業開発と支援システム	新事業開発は企業の主要な戦略課題であるが、日本企業の成功確率は決して高いとはいえない。ここでは、新事業開発のための戦略と支援システム構築の基本的な論点を説明する。	山田　幸三（上智大学教授）	山田　幸三（上智大学教授）
第Ⅱ部　公企業の経営				
9	公企業とは何だろうか	公企業とは何だろうか。資本主義体制下においても、なぜ私企業だけで、すべてをやれないのか。公企業の存在理由や意義は何か。公企業は（私企業に比して）どのような経営原則に基づいて経営されているのか。	佐々木　弘（神戸大学名誉教授）	佐々木　弘（神戸大学名誉教授）
10	公企業と公益企業	公企業としばしば混同されるものに、公益企業という用語がある。そこで、公益企業とは何か。公企業との相違点はどこにあるのか。具体的にはどのような産業群にみられる企業をいうのか。できれば、近年の公益企業規制改革の動向にも触れてみたい。	佐々木　弘（神戸大学名誉教授）	佐々木　弘（神戸大学名誉教授）
11	公企業の経営形態（その1）	公企業とひとくちでいっても、実際には、公企業は様々な経営形態をまとって存在している。そこで、公企業の経営形態を類型化して示したうえで、その主要な形態のいくつかをとり出して、その特徴や課題を明らかにしていくことが必要となる。	佐々木　弘（神戸大学名誉教授）	佐々木　弘（神戸大学名誉教授）
12	公企業の経営形態（その2）	前章につづいて、ここでは、近年特に世間の広い関心を集めている「第三セクター」形態をとりあげ、その理論と実際、いくつかの問題点などを指摘したい。	佐々木　弘（神戸大学名誉教授）	佐々木　弘（神戸大学名誉教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
13	公企業の経営効率化をいかに促すか（その1）	公企業の経営効率化をいかに促すか。物価安定政策会議や経済企画庁（現内閣府）での議論、さらには、欧米における動向等を参考にしつつ、公企業の経営効率化への方策をいくつかの視点から論じる。	佐々木　弘（神戸大学名誉教授）	佐々木　弘（神戸大学名誉教授）
14	公企業の経営効率化をいかに促すか（その2）	最近、PFI 方式や独立行政法人制度をはじめ、上下分離論方式や多様な経営委託など、公的サービスの供給方式の多様化が注目されるようになった。このような流れの中で、公企業はどうあるべきかを考えてみよう。	佐々木　弘（神戸大学名誉教授）	佐々木　弘（神戸大学名誉教授）
15	公企業の経営改革の方向をめぐって	公企業の今後のあるべき姿、経営改革のめざすべき方向が模索されている。ここでは、その主な立場の一つとして総合規制改革会議の考え方とそれに対する私自身の批判的論文を示すことによって、読者自身に考えてもらう材料を提供することにしたい。	佐々木　弘（神戸大学名誉教授）	佐々木　弘（神戸大学名誉教授）

事務局記載欄	開講年度	２００９年度	科目区分	大学院科目	科目コード	8930538	履修制限	無	単位数	2

科目名（メディア）＝ コーポレート・ガバナンス （’０９）＝ （R）

〔主任講師（現職名）：吉森 賢（横浜国立大学名誉教授）〕

〔主任講師（現職名）：齋藤 正章（放送大学准教授）〕

講義概要

コーポレート・ガバナンスは続発する企業の違法行動、経営破綻などにより国際的に注目を集めている問題領域である。この科目はこのような状況を阻止し、企業の永続的発展を確保するためにコーポレート・ガバナンスの制度化と実践はいかにあるべきかを考察し、提言することを目的とする。

授業の目標

コーポレート・ガバナンスの定義を明らかにし、その背景を歴史、理論的、運用面の視点から考察する。営利企業の最終的成果は利益と企業価値により評価される。このために不可欠な会計、財務情報の理論と実際を理解し、これらに対する株式市場の反応過程を明らかにする。またM＆Aが経営者への規律付けとして果たす役割、不正行為を監視・防止する会計監査、内部統制を把握する。状況依存性の視点から同族大企業と中小企業のコーポレート・ガバナンスの特質を理解する。最後に日独仏におけるアメリカモデルの採用とその実態、収斂の状況を概観し、日本のコーポレート・ガバナンスの将来像を展望する。

履修上の留意点

この科目の分析視角は歴史、理論、実態であり、多面的であるので、履修生には広い視野と高い知的好奇心が望まれる。特に会計、財務および証券市場に関する基礎的知識が重要であるので、学部科目「会計学」、「組織運営と内部監査」、コーポレート・ガバナンスに関しては学部科目「企業統治と企業倫理」、「企業戦略と企業文化」の履修が勧められる。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	コーポレート・ガバナンス総論	会社は「ヒト」なのか「モノ」なのか。会社は誰のものなのか。コーポレート・ガバナンスの意義・目的について解説し、本講義の全体像を俯瞰する。 【キーワード】 コーポレート・ガバナンス（企業統治）、利害関係者、株主、債権者、従業員、消費者、取締役会	放送大学 准教授 齋藤正章	横浜国立大学 名誉教授 吉森賢 放送大学 准教授 齋藤正章
2	コーポレート・ガバナンスの歴史的視点	コーポレート・ガバナンスの問題は17世紀初頭の株式会社の誕生と共に生じていた。当時における所有と経営の分離がどのような結果をもたらしたかをアダム・スミスの指摘と事例により理解する。その後これを是正するためなされた制度的改革がかを概観する。 【キーワード】 株式会社、東インド会社、所有と経営の分離、機会主義的行動	横浜国立大学 名誉教授 吉森賢	横浜国立大学 名誉教授 吉森賢
3	コーポレート・ガバナンスの基本理論(1)	新制度学派の所有権理論とエージェンシー理論を理解し、所有権の歴史的発生過程と機会主義的人間観に基づくエージェンシー理論が日米欧5か国のコーポレート・ガバナンスの現実の問題をどの程度説明しえるかを考察する。 【キーワード】 新制度学派、所有権理論、エージェンシー理論、日米欧比較	横浜国立大学 名誉教授 吉森賢	横浜国立大学 名誉教授 吉森賢

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
4	コーポレート・ガバナンスの基本理論(2)	株式会社の発展を陰で支えてきたのは、会計である。会計にはどのようなコーポレート・ガバナンスの思考が組み込まれてきたのであろうか。会計の本質について考察する。また、会計の大きな役割である「情報提供機能」と「利害調整機能」について解説する。 【キーワード】 貸借対照表（バランス・シート）、資本中心主義、アカウンタビリティ、情報提供機能、利害調整機能	放送大学 准教授 齋藤正章	放送大学 准教授 齋藤正章
5	コーポレート・ガバナンスと企業価値	企業価値とは何か、またその測定方法について解説する。また、コーポレート・ガバナンスと企業価値の関連性についても検討する。 【キーワード】 企業価値、株主価値、DCF法、経済付加価値（EVA）、市場付加価値（MVA）	放送大学 准教授 齋藤正章	放送大学 准教授 齋藤正章
6	株価の形成と指標	株式会社の経営の良し悪しは市場でどのように評価されるのか。株価形成の理論と各種指標について解説する。また、株価の高い企業がコーポレート・ガバナンスに優れているかどうかについても検討する。 【キーワード】 株価、株式市場、ファンダメンタルズ理論、効率的市場理論、需給理論、EPS、PER	高崎経済大学 准教授 阿部　圭司	高崎経済大学 准教授 阿部　圭司
7	M&Aによる市場規律	経営者が経営に失敗すると株価は低迷し、M&A（企業買収）の格好の標的とされる場合がある。これは企業内部のガバナンスがうまく機能しない場合に企業外部からのガバナンスと捉えることも出来る。こうした市場による規律について考察する。 【キーワード】 M&A、敵対的企業買収、ヘッジファンド、プライベート・エクイティ	放送大学 准教授 齋藤正章	放送大学 准教授 齋藤正章
8	企業不祥事と会計監査	会社が作成する会計情報の開示の正確性・透明性を担保するために、会計監査人による監査の充実が重要である。会計監査の概要について解説する。また、会計監査と後を絶たない企業不祥事との関連についても考察する。 【キーワード】 会計監査、会計監査人、監査法人、会社法	放送大学 准教授 齋藤正章	放送大学 准教授 齋藤正章
9	内部統制	金融商品取引法により、平成20年4月1日以後に開始する事業年度より適用されることとなった財務報告に係る内部統制制度について解説する。 【キーワード】 内部統制、金融商品取引法、SOX法、内部統制監査、財務諸表監査	放送大学 准教授 齋藤正章	放送大学 准教授 齋藤正章
10	日米欧の取締役会改革	コーポレート・ガバナンスの最も重要な機関である取締役会に焦点をあて、その構造を日本、アメリカ、イギリス、ドイツ、フランスについて比較する。次いで取締役会の改革がどのような形で実行されているかを概観し、日本の取締役会の有効性向上の参考にする。 【キーワード】 取締役会、社外取締役、単層型取締役会、二層型取締役会	横浜国立大学 名誉教授 吉森賢	横浜国立大学 名誉教授 吉森賢

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
11	同族上場企業のコーポレート・ガバナンス	同族上場企業に焦点をあて、日米欧5か国におけるこれら企業が上場企業全体に占める割合を比較する。同族上場企業の経営成果を非同族上場企業と比較し、同族企業特有の同族内ガバナンスと企業ガバナンスの構造と機能を比較する。 【キーワード】 同族企業、支配の三類型、ウェーバー、正当性、経営成果	横浜国立大学 名誉教授 吉森賢	横浜国立大学 名誉教授 吉森賢
12	中小企業のコーポレート・ガバナンスと事業承継問題	株式会社の9割以上を占める中小の非公開会社のコーポレート・ガバナンスについて考察し、中小企業再生のための手がかりを検討する。また、社長の世代交代によって生じる事業承継問題についても考察する。 【キーワード】 オーナー企業、中小企業庁、事業承継、中小企業会計	放送大学 准教授 齋藤正章	放送大学 准教授 齋藤正章
13	コーポレート・ガバナンスの収斂と課題	アメリカ型コーポレート・ガバナンスの制度的側面が日本、ヨーロッパ諸国においても採用されつつある。これとその前提をなす株主を主権者とする概念は歴史、価値観の異なるアメリカ以外の諸国においてどの程度の普遍妥当性を有するのかを検証する。 【キーワード】 制度、収斂、主権者、規範、資本主義、日米欧比較	横浜国立大学 名誉教授 吉森賢	横浜国立大学 名誉教授 吉森賢
14	コーポレート・ガバナンスの有効性と限界	コーポレート・ガバナンスは重要ではあるが、これのみで企業の永続的発展は期待できない。これと密接に関連する他の経営者機能である企業理念、企業倫理、企業文化、企業戦略を理解し、コーポレート・ガバナンスの役割を正当に評価する。 【キーワード】 経営者機能、企業理念、企業倫理、企業文化、企業戦略	横浜国立大学 名誉教授 吉森賢	横浜国立大学 名誉教授 吉森賢
15	コーポレート・ガバナンスの展望	本講義を総括し、コーポレート・ガバナンスは今後どのような進展をみせるのかについて占う。また、国や自治体、NPOや学校など非営利組織のガバナンスについても言及する。 【キーワード】 コーポレート・ガバナンス、大企業、中小企業、国家、地方自治体、NPO	横浜国立大学 名誉教授 吉森賢 放送大学 准教授 齋藤正章	横浜国立大学 名誉教授 吉森賢 放送大学 准教授 齋藤正章

科目名（メディア）＝　環境工学（‘０７）＝（TV）

〔主任講師（現職名）：　鈴木　基之（放送大学教授）〕

講義概要

環境工学は、環境問題の解決手法開発の学問である。環境問題そのものは、過去半世紀の間に大きく変化し、従ってその問題の解決のための考え方も変化している。工学は単なる個別の技術開発ではなく、将来ビジョンに基づく総合的なシステム確立を目指して、そのために科学技術を総動員することが求められる。本講義においては、いくつかの重要な分野における最先端の研究がどのようになされているのかを紹介し、総合的な見方を身につける助けとしたい。

授業の目標

地球上の限られた資源の量、限られた自然環境の恩恵という制限の中で、ますます人間活動が増大していくことが予想されている現在、人類が活動を持続していくために何が必要とされるのか、何が可能なのかが今問われており、授業を通じて、この答えを見出すための「考え方」を学んで欲しい。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	環境問題とは	人間の活動の拡大・活性化によってそれを取り巻く環境との間に相克が生じてきた。すなわち、人間活動による環境の劣化が人間の生存に制約を与えることとなった。環境問題の発生、変化を概括し、その解決のために工学がどのようにかかわっていくことになるのかを考えてみよう。	鈴木基之（放送大学教授）	鈴木基之（放送大学教授）
2	環境中の物質変化の収支と速度	生産活動、人間活動から環境中に流出した物質はどのような挙動をとるのか、自然界の物質の流れに人間活動がどう影響するのかなどを定量的に理解するうえで基本となる物質収支の考え方、変化の速度などについて基本的な考え方を概説する。さらに物質の変化とエネルギー収支との関係に関して解説する。	同上	同上
3	環境リスク	人間活動に起因する化学物質が環境中に排出され、巡り巡って人体に影響を与えたり、自然生態系の健全性に影響を与えたりすることが懸念される。このような環境リスクには多種多様な要因、その影響も異なった形で現れるものとなるために、どのように評価して、どのような対策を考えるべきなのか、このような種々の環境リスクを総合的に考える手法を理解するようにしよう。	同上	鈴木基之（放送大学教授） ゲスト： 中西準子（産業総合研究所化学物質リスク管理研究センター長）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
4	空気環境	大気・室内の空気を通じて人体、生態系に影響を与える有害物質の存在も重要である。近年重要となっている室内空気環境のおける問題として新しい建材などが原因となっている室内空気汚染に対して工学はどのような対応をしているのかを解説する。	同上	鈴木基之(放送大学教授) ゲスト: 加藤信介(東京大学生産技術研究所教授)
5	水管理(1)上水処理	水環境の劣化に伴い安全な飲料水確保のために種々の技術が用いられる。我が国における飲料水に関する発展の状況を概説するとともに、汚濁水源に対応するなど、飲料水処理に関する新しい浄水技術に関する工学の基礎を解説する。	同上	鈴木基之(放送大学教授) ゲスト: 真柄泰基(北海道大学教授)
6	水管理(2)流域の水管理	環境水域は産業排水や生活排水、さらには都市の降雨排水、農地、山林からの流出水など流域全体から派生する排出水などによる多様な影響を受けて水質や水域生態系の劣化が生じている。水域を健全に守るためには、河川流域の総合的な管理が必要となってきており、それによって下流の海域の保全も可能となる。東京湾流域に関する研究事例を説明する。	同上	鈴木基之(放送大学教授) ゲスト: 渡辺正孝(慶應義塾大学教授)
7	水管理(3)藻場・干潟の生態工学	自然環境は身近なところを考えても、色々な面で人間活動の影響を受け、また同時に環境浄化の面で大きな役割を果たしている。水域環境における種々の機能を活用すると同時に、自然環境も保全するためには人間がどのような工学的な配慮が可能なのか陸域と海の接線である藻場・干潟における浄化機能を例に考えてみよう。	同上	鈴木基之(放送大学教授) ゲスト: 岡田光正(広島大学教授)
8	水管理(4)地球規模の水資源	地球上の水は海域に大量に存在するが、太陽エネルギーを受けて蒸発し、降水となって地上に戻ってくるわずかの水が淡水資源として人間活動、陸上生態系を支えている。食料生産もその持続性は水資源にかかっている。世界的な水危機を迎ええる今、食料生産にかかわる大量の水の仮想的な移動など水問題に工学としてどのようにかかわるのかを考えてみよう。	同上	鈴木基之(放送大学教授) ゲスト: 沖大幹(東京大学生産技術研究所教授)

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
9	資源循環（1）資源生産性	現在の社会は大量な資源の採取、大量な廃棄に支えられている。資源の有効利用を図り、廃棄物をも最小にすることが資源の有効利用と環境保全のために必要である。資源生産性という概念の重要性について考え、循環型社会を構成するための技術的方策、社会的方策などについて考えてみよう。	同上	鈴木基之（放送大学教授） ゲスト：山本良一（東京大学生産技術研究所教授）
10	資源循環（2）固体廃棄物	活発化する人間活動から発生する固体廃棄物は、その処分場の問題や、廃棄物が生む環境影響の問題など多面にわたる問題を生じている。資源化が求められる廃棄物に関する現在の状況と今後の方向をプラスティック廃棄物などを考慮しつつ考えてみよう。	同上	鈴木基之（放送大学教授）
11	資源循環（3）バイオマス地域	循環型社会を構築していくためには自治体、地域、国など種々の単位での検討が必要であろう。このような方向での取り組みの例として千葉県山田町のバイオマスを中心としてたプロジェクトを取り上げ、完結した物質循環を地域において構築していく上での問題などを検討している例をみてみよう。	同上	鈴木基之（放送大学教授） ゲスト：迫田章義（東京大学生産技術研究所教授）
12	資源循環（4）バイオマス・プランテーション	バイオマスの利活用は資源循環・温暖化対策の上でも重要な課題である。大量のバイオマスを利用するにあたっては、バイオマス生産におけるプランテーション、生産物の工業的な変換など持続可能なシステムの設計・構築が必要となる。インドネシアにおけるバイオマス生産、利活用プラントの設計について示す。	同上	鈴木基之（放送大学教授） ゲスト：藤江幸一（横浜国立大学教授）
13	地球環境（1）温暖化の予測	地球環境のように種々の現象が複雑に絡み合った対象の将来予測を行うのは容易ではない。このような場合に有効となる数理モデルはどのように構築されるかを考え、このモデルを用いて地球温暖化のどのような予測がなされているかの例を見てみよう。これによりモデル化の有効性と限界を理解しよう。	同上	鈴木基之（放送大学教授） ゲスト：西岡秀三（国立環境研究所理事）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
14	地球環境（2）温暖化への対策	地球温暖化は主として化石燃料の燃焼に伴う二酸化炭素ガスの発生により大気の温室効果が増すことにその原因がある。この温暖化問題に対応する工学の取り組みを都市から発生する二酸化炭素の問題を例に考えてみよう。	同上	鈴木基之（放送大学教授） ゲスト：花木啓祐（東京大学大学院工学系研究科教授）
15	問題解決型から着地点誘導型へ	人間活動は全ての面で環境と何らかの相互作用を有している。最終的に人類の活動を持続していく条件としてなにを考えていく必要があるのか、有限な資源と環境の下で人間活動のあるべき姿を考えていくためにはどのようなパラダイムの変更が必要なのかを本講義の総括として考えてみよう。	同上	鈴木基之（放送大学教授）

事務局記載欄	開講年度	２０１０年度	科目区分	大学院科目	科目コード	8930554	履修制限	無	単位数	2

科目名（メディア）＝　都市環境デザイン論　（’１０）＝（ＴＶ）

〔主任講師（現職名）：仙田　満　（放送大学教授）　〕

〔主任講師（現職名）：佐藤　滋　（早稲田大学教授）　〕

講義概要

地球環境時代の都市環境デザインは、サステイナブルシティ、コンパクトシティ、防災・復興、そして急速に進む少子高齢化への対応などの現代都市の課題にいかに解答し、その魅力を高められるか問われている。そこで、これらの課題とともに、交通、観光、水・緑、都市の空間演出装置、そして多様性と回遊性といった都市の魅力、そして関係性、統合性、参加性、調和性を持続可能性とともに実現し現代都市を創造する都市環境デザインの手法について論究し、21世紀の都市環境デザインを展望する。
第1編（第1回～第5回）　現代都市の課題
第2編（第6回～第10回）　現代都市の魅力
第3編（第11回～第15回）　現代都市の創造

授業の目標

地球環境時代におけるまちづくりの中心的な課題の一つとして位置づけられる都市環境デザインについて、その理念、歴史、事例、手法などに関する知識を広く習得し、21世紀にふさわしい人間的で環境に優しい都市環境デザインを実現するために社会的に求められる分析力、調整力、組織力、開発力、戦略性などへの理解を深め、現代日本の都市環境デザインを構想する高い企画力と批評性を養う。

履修上の留意点

都市デザイン論（’06）、環境デザイン論（’09）等を履修することが望ましい。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	都市再生と都市環境デザイン	第二次産業を中心とした都市の時代は終焉した。都市再生の思想は、単なる荒廃した産業都市の復興を越え、ヨーロッパにおいては「アーバンルネッサンス」、我が国では「中心市街地活性化」あるいは「都市・地域再生」として、新たな方向を目指し始めている。高松市の事例を示しながら都市再生における都市環境デザインの果たす役割を講義する。 【キーワード】 アーバンルネッサンス、都市再生、中心市街地活性化、創造都市、まちづくり三法 【事例】 高松	仙田　満 佐藤　滋	仙田　満 佐藤　滋
2	サステイナブルシティと都市環境デザイン	サステイナブルシティあるいはその実現をめざすサステイナブル（持続可能）なまちづくりは都市環境デザインにおいてとりわけ重要な理念である。モデル的事例よりサステイナブルシティの条件とこれを実現する地球環境時代の都市環境デザインの課題を考える。 【キーワード】 サステイナブルシティ、サステイナブル（持続可能）なまちづくり、地球環境時代 【事例】 クリチバ、ポートランド、フライブルク、ハイデルベルク、IBAエムシャーパーク、流山市	仙田　満 矢田　努	仙田　満 矢田　努

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
3	コンパクトシティと都市環境デザイン	20世紀に郊外に急速に拡大した都市は、現代の都市問題の根源的な課題である。これに対応して現れた考え方が「コンパクトシティ」である。持続可能でコンパクトな都市の在り方は、それぞれの地域の歴史・文化、地理的風土的条件のもとで、当然のことながら、さまざまな方法があり得る。日本型コンパクトシティのあり方を考える。 【キーワード】 郊外化、歴史的都心、都市骨格、地域性、コミュニティの保全 【事例】 熊本、青森、鶴岡	佐藤　滋	佐藤　滋
4	都市環境デザインと防災・復興	阪神淡路大震災以来、中越、中越沖、岩手・宮地大震災など、大きな地震被害が続いている。また、気候変動の影響とも言われる集中豪雨や台風による大災害も顕著である。しかし、災害に対する防災や、復興まちづくりは新たな都市環境デザインを実践する舞台でもある。歴史と現代の実践、今後の展望を講義する。 【キーワード】 震災復興ビジョン、事前復興まちづくり、協働復興協議会、防災まちづくり 【事例】 関東大震災、阪神淡路大震災復興まちづくり、復興模擬訓練	佐藤　滋	佐藤　滋
5	少子高齢化と都市環境デザイン	少子高齢化社会における都市環境デザインについて、子どもが育ちやすい都市、高齢者も元気に暮らすことのできる都市のあり方を中心に論考する。誰もが安全、健康で心身ともに解放される都市空間を創造するユニバーサルデザインの展開可能性についても考察する。 【キーワード】 少子高齢化、ユニバーサルデザイン、子どもに優しい都市、豊かな成育空間、バリアフリー、安全・安心の都市環境デザイン、都市の中間領域	仙田　満	仙田　満
6	交通と都市環境デザイン	自動車交通がこれまでの交通計画の基本であったが、近年、本来の人間的で環境に優しい都市の移動手段、そしてこれらを組み立てる斬新な都市環境デザインの方法が世界各地で取り組まれている。公共交通を充実させ、歩行者主体の環境デザインが魅力的な都心環境を創出し、自転車や各種の乗り物が調和した豊かな都市環境をデザインする方法を先端的な試みを解説する。 【キーワード】 公共交通、LRT、トランジットモール、交通結接点 【事例】 広島、ストラスブール	望月　真一（アトリエUDI都市設計研究所） 佐藤　滋	佐藤　滋
7	観光と都市環境デザイン	都市の観光は、都市の魅力にふれることをその原点とするが、近年、その概念を大きく広げ、最先端の人々を都市に引きつけ、交流をうながし、新たな産業を生み出す。これを都市観光と位置づけ、その特徴、成立条件および都市環境デザインとしての展開の可能性を考える。 【キーワード】 都市の集客性、遊環構造、観光ポテンシャル、観光満足、グレートスポット 【事例】 フライブルク、IBAエムシャーパーク、広島、北九州、黒川温泉（熊本県阿蘇郡南小国町）	仙田　満 矢田　努	仙田　満 矢田　努

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
8	水・緑と都市環境デザイン	水と緑は都市のうるおいの要素として大切にされてきた。近年、生態学的環境の回復という視点からも、都市環境デザインの中心的な対象の一つとして位置づけられる。近代化の中で破壊された水・緑の環境システムを回復する都市環境デザインの方法と試みを解説する。 【キーワード】 環水都市、緑地の機能、緑地確保の戦略、緑地の創造 【事例】 サンアントニオ、富山県富岸運河環水公園、ポートランド、柳川	仙田 満 矢田 努	仙田 満 矢田 努
9	都市の空間演出装置と都市環境デザイン	集積して都市空間の魅力をつくる都市環境デザイン要素を都市の空間演出装置とし、ストリートファニチャー、照明デザイン、公共交通機関、パブリックアート、音環境、舗装、広告などを取り上げ、黒子としての節度、調整の重要性など、そのあり方を論考する。 【キーワード】 都市の空間演出装置、ストリートファニチャー、照明デザイン、公共交通機関、パブリックアート、音環境、舗装、広告 【事例】 みなとみらい21地区（横浜市）、プラハ 、滝川（北海道）	仙田 満	仙田 満
10	多様性と回遊性の都市環境デザイン	都市環境デザイン要素の多様性とそれらをつなげてその体験を可能とする回遊性が魅力ある現代都市の創造には不可欠である。空間的序列と融合性などの多様性の条件、回遊性のある空間の構成理論および事例などより、これを実現する都市環境デザインの手法を探る。 【キーワード】 多様性、回遊性、空間的序列、機能的融合性、遊環構造、テレビを消してまちに出よう 【事例】 広島、ポートランド、クリチバ	仙田 満	仙田 満 矢田 努
11	参加のまちづくりと都市環境デザイン	都市環境デザインの主体は公共セクター、民間セクターという二律相反的な主体によるのではなく、NPOや社会的企業など、多主体が連携することにより達成出来る。その基礎として市民参加と協働の方法は、普遍的なものになりつつある。具体的実践例を通して参加のデザインの到達点を解説する。 【キーワード】 参加のデザイン、ワークショップ、グラウンドワーク、まちづくりゲーム、地域協働 【事例】 三島源兵川の再生、鶴岡、東向島一寺言問防災まちづくりの会	佐藤 滋	佐藤 滋
12	事業手法と都市環境デザイン	公共事業による都市環境整備は限界が見えており、民間や市民セクターと連携する事業方法が新たな時代の要請になっている。Public Private Partnershipなどによる共同事業方式、関係者による事業組合方式,市民主体のまちづくり市民事業、あるいは複数のプロジェクトを地域として運営するエリアマネイジメントなども含め、多様な事業手法が生み出されている。具体的な事例を通して最先端の方法を講義する。 【キーワード】 PPP、エリアマネジメント、多主体協働、社会的企業、LLP、まちづくり市民事業 【事例】 仙台、高松丸亀商店街、鶴岡	佐藤 滋	佐藤 滋

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
13	設計者・コンサルタントの選定	都市環境デザインの質を高めるには創造性を喚起する社会システムが欠かせない。設計者・コンサルタントの選定方式はその中核をなすものであり、これが都市環境デザインの成否を分けるといってよい。最先端の方式を事例より学び、今後の可能性を検討する。 【キーワード】 コンペティション（設計競技）、プロポーザル、設計者選定委員会、随意契約、QBS方式、設計入札方式の問題、発注方式 【事例】 横浜	仙田　満	仙田　満
14	マスターアーキテクト・マスタープランナー	都市の生き生きとした魅力をつくる多様性、継続性の実現には長期的なマスタープランあるいは全体的な理念の共有、デザインの調整などに関して責任を負う体制が欠かせない。ここにマスターアーキテクト、マスタープランナーの意義があり、その役割を整理する。 【キーワード】 マスターアーキテクト、マスタープランナー、田村明、宮本忠長、ジェレミー・ハリス、ジャイメ・レルネル 【事例】 横浜、小布施、ホノルル、フライブルク、クリチバ	仙田　満	仙田　満 矢田　努
15	現代都市環境デザインの展望	現代都市の課題、魅力、これを創造する都市環境デザインの方法について講義全体のまとめとなる総括的論考を行う。魅力的な都市をつくる総合的な戦略をもつ人、組織、社会的システムを生み出すための将来的な戦略として次世代のための都市環境デザインを展望する。 【キーワード】 機能と生活、健康と意欲、歴史と創造、マスタープランと都市環境デザインの構成要素、継承と変革、サステイナブルなまちづくり、節度と展望、次世代育成環境都市	仙田　満 佐藤　滋 矢田　努	仙田　満 佐藤　滋 矢田　努

事務局記載欄	開講年度	２０１０年度	科目区分	大学院科目	科目コード	8940533	履修制限	無	単位数	2

科目名（メディア）＝　人類学研究　（’１０）＝（ＴＶ）

－環境問題の文化人類学－

〔主任講師（現職名）：内堀基光（放送大学教授）〕

〔主任講師（現職名）：本多俊和（スチュアート ヘンリ）（放送大学教授）〕

講義概要

環境問題を文化の文脈のなかで考えていこうというのがこの講義の眼目である。世界の多様な環境のなかで暮らす人々の伝統的生活様態とその価値観が当該環境の保全に寄与してきたことはよく指摘されているが、外的要因によって環境変化が起きた場合、こうした文化はどのような変容をこうむるか。あるいは文化そのものに環境変化に対処する可能性がひめられているか。これらのことを考えることは、環境問題を単に物質的状況として見るのではなく、人々の生活に意味づけを与える文化の問題として見ることに通じる。これを生態環境の多様性、問題の性質に応じて具体例を示しつつ講義する。

授業の目標

本講義は文化人類学の講義なので、講義の眼目としている環境問題のみならず、この具体的トピックをとおして人類文化というものがいかなる特性をもっているか、その機能はいかなるものかを考えられるようにしたい。大学院の科目としては本講義が文化人類学としては唯一のものなので、自学を促進しうる方向で、受講者に問いかけをおこなうような授業を考えている。この問いかけは、とりあげる多様な生態系と環境の個別性のなかで問題意識を拡散させることを避けるためでもある。

履修上の留意点

授業の目標で述べたとおり、自学を進める意欲をもってほしい。放送教材、印刷教材だけでなく、授業の中で示される文献資料、および文化人類学の基礎的な文献について、一定程度の自習が必要とされる。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	環境問題への文化人類学的アプローチ	環境問題に文化人類学はどのように接近できるかについて導入の講義。文化の中核である生についての価値、生活様式と自然（生態）環境との関係、相互のフィードバックについて考え、文化にとっての環境変化の意味を探る。 【キーワード】 文化、生活様式、環境変化、生態	内堀基光	内堀基光 本多俊和
2	列島の両端：沖縄の自然環境、北海道アイヌ民族の文化環境	比較的身近な日本の環境問題を具体例としてとりあげ、課題の全体像を描く。地域（北海道、沖縄）からの視点を生かす。二風谷地域のアイヌ民族伝統的生活空間イオルを主題に戦前環境の「復元」と、イオルをめぐる社会的環境考察する。沖縄で気候変動の変動が珊瑚礁におよぼす生物学的な影響と、珊瑚礁の変化による地元の生業活動や観光という社会的な側面を取りあげる。 【キーワード】 アイヌ、沖縄、地域文化、イオル、珊瑚礁	本多俊和	本多俊和
3	都市環境と都市文化	都市は現代の人類にとって重要な生活環境である。人類文明史における都市の意義から論をはじめ、南アジア、アフリカの都市生活の環境問題を取りあげる。都市の生活形態そのものがもたらす環境汚染と、それを解決するための生活実践を見る。 【キーワード】 都市、文明、アフリカ、アジア、衛生	内堀基光	内堀基光

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
4	生活用水および大気と居住環境	飲用水と生活用水の確保は、生存にとって重要な問題である。水は環境中の自然循環に由来するために、病原性をもつ微生物や化学物質を含む可能性がある。人類はそれぞれの社会ごとに、飲用あるいは生活に利用するのに「適した水」と「適さない水」を区別し、生物学的・文化的に安全な水を利用できるような仕組みを作り上げてきた。大気は、温暖化・オゾン層の破壊などによって人類全体の環境問題となりつつある。この問題に人類学はどのような貢献ができるだろうか。 【キーワード】 飲料水、生活用水、温暖化、大気、共有地の悲劇	梅崎昌裕（東京大学医学系研究科・准教授）	梅崎昌裕
5	自然災害と環境激変にたえる生活と文化	地震、火山噴火などの大自然災害による環境の激変に住民はどう対処したか。そのなかで文化はどういう役割を果たしえたのか、あるいはこうしたカタストロフィックな事態のなかで、文化はどのような変容を強いられたか。古代における自然災害への対応や、自然災害と文明の盛衰についても考察する。 【キーワード】 地震、火山噴火、自然災害、アエタ、文化の自覚化	稲村哲也（愛知県立大学国際文化研究科・教授）	稲村哲也
6	極北地帯の環境：イヌイト社会と気候変動	極北の事例として、北部グリーンランドの採集狩猟社会と、南部グリーンランドの農業・ヒツジ放牧に気候変動（「温暖化」）がおよぼす影響を比較する。この章では、自然環境と文化・社会的な環境を歴史的な視点から現代の気候変動を考える。 【キーワード】 極北、気候変動、文化・社会環境、経済	本多俊和	本多俊和
7	病気と環境	近代では、地球上における人の流れが加速されたことにより、地域生態系ごとの問題であった感染症は地球規模の疾患となった。食生活および身体活動パタンの変容により、心血管疾患など生活習慣と強い関連をもつ疾患が増加した。本章では、極北イヌイトと南太平洋住民に焦点をあてながら、人類が経験してきた近代化あるいは近代医療の受容と疾病構造の変化のプロセスを紹介する。 【キーワード】 健康、病気、近代化、近代医療、南太平洋、極北	本多俊和 梅崎昌裕	本多俊和 梅崎昌裕
8	河川と湖沼をめぐる環境問題と生活文化	河川と湖沼という陸水をめぐる環境問題と住民の社会文化の変容を、利水、治水という人間の経済活動との関連を中心に論ずる。歴史的に長い視野を含みつつ、現代の文脈では途上国における開発問題との関連で、東アジア、東南アジア、アフリカなどの地域における事象を具体例として取りあげる。 【キーワード】 陸水、アラル海、灌漑、水力社会、開発環境	内堀基光	内堀基光 梅崎昌裕
9	山岳地域の文化と環境問題	アンデスとヒマラヤを取りあげ、多様な環境を内部に有する山岳地域の伝統的な環境利用システムの特徴、複雑で多様な背景を有するグローバルな環境問題、ローカルな環境問題、その相互関係などを検討する。 【キーワード】 山岳、熱帯高地、アンデス、ヒマラヤ、ラクダ科動物、ヤク	稲村哲也	稲村哲也

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
10	草原と砂漠における社会文化と環境問題	国境をはさんで隣接し、異なる社会体制と歴史をもつモンゴル国と中国内モンゴル自治区をとりあげ比較する。乾燥地域に適合した持続的な生業としての遊牧が、近代化や国の政策によって変化し、それが環境問題にどのような影響を与えたか。また環境問題に対処する政策が社会にどのような影響を与えたかを考察する。 【キーワード】 草原、砂漠、モンゴル、内モンゴル自治区、遊牧、生態移民	稲村哲也	稲村哲也
11	森林の環境と文化	森林の保全と地球環境全体の関連を概括し、また人類と森林の関係史を概略する。そこから、熱帯林と北方林に居住する狩猟採集民、農耕民の生態環境利用に論を進め、森林の減退がその生活文化に与えている影響を考える。森林資源の利用に関わる政治的諸主体と現地社会との交渉に着目する。 【キーワード】 商業伐採、焼畑、狩猟採集民、熱帯林、亜寒帯林、政治生態学	内堀基光	内堀基光
12	エコツーリズムと地域社会	自然資源を維持しながら地域の経済にも貢献するエコツーリズムは、現地の社会の伝統的知識を生かしつつ展開されてきたが、外部者からの当該社会と文化への直接的な影響がみとめられる。世界のエコツーリズムを事例にして、その裏面にある現地社会の具体相を考察する。 【キーワード】 エコツーリズム、伝統的知識、環境保全、生態資源、地域経済	池谷和信（国立民族学博物館・教授）	池谷和信
13	野生生物と人びとの暮らし	人類はこれまで食肉用を中心として毛皮や薬など、様々な形で野生動物を利用してきた。その結果、絶滅したり、稀少動物となった種も少なくない。その一方、世界中で獣害も問題となっている。ここでは野生動物と地域住民、ひいては人類との共存の可能性を、住民の視点から考える。ここから環境としての生物界と、生き物にとっての環境としての人間存在という対称性の観点に導く。 【キーワード】 野生動物、獣害、毛皮交易、食文化、狩猟	池谷和信	池谷和信
14	環境保全をめぐる政治と社会	環境破壊、環境劣化を引き起こす諸活動に対抗して、その保全をめざす諸主体のあり方を探る。地域社会の文化に対して、イデオロギーの面を含め、国際組織、NGO、政府機関など組織体の文化というべきものがそこにある。 【キーワード】 政府、国際組織、NGO、住民コミュニティ、環境イデオロギー	池谷和信	池谷和信
15	人類の生存圏と人類文化	まとめ：主任講師2名と担当講師1名による鼎談を軸に講義全体を総括する。環境を、人間にとっての環境としてだけでなく、他の生物種にとっての環境としても見るという拡大した視野をも取り入れることにより、地球上における人類の生存圏のあり方に注目し、現在の環境問題が人類の将来にどのような意味をもつかを考える。 【キーワード】 地球環境、生存圏、人類文化、生物種としての人類	内堀基光 本多俊和	本多俊和 池谷和信 内堀基光

事務局記載欄	開講年度	２０１０年度	科目区分	大学院科目	科目コード	8940568	履修制限	無	単位数	2

科目名（メディア） ＝ 哲学史における生命概念 （’１０）＝ （R）

〔主任講師（現職名）：佐藤康邦（放送大学教授） 〕

講義概要

今日、学問の世界に限っても、様々な領域で生命、生、命という言葉が問題とされている。分子生物学を初めとした生命科学の新たな展開、臓器移植技術の開発、また、多くの生命を脅かす環境問題の深刻化等の現象が、そのきっかけとなっているとも考えられる。しかし、それとは別に、古代以来、生命の問題は哲学の重要な領域であった。取り分け、近代においては、哲学的生の概念が、近代科学に対する何らかの反発の文脈で主張されてきたということもある。そのことをふまえて、生の概念を軸として、哲学というものを捉え直してみる。

授業の目標

生概念を中心に据えた上で、西洋哲学史に関する基本的理解を得られることを目指す。たとえば、近代哲学を代表するカントの哲学の体系を構成する批判哲学の場合、第三番目の『判断力批判』になってようやく生命の問題が出てくるが、それはどのような理由からなのかの理解を目指す。また、ニーチェにおける、またベルクソンにおける生の概念の近代科学にとっての挑戦的意義を明らかにするとともに、それら哲学的生概念の科学論的意義の理解を目指す。

履修上の留意点

この科目で、哲学的生の概念が検討される際、今日の生命にまつわる諸問題は意識されているとは言え、授業の基本は、あくまでも正統的な哲学の研究を目指すものである。したがって、近代哲学を中心にした、哲学の研究に関する興味と基礎的な知識が必要となる。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	序と古代ギリシャ哲学における生命概念(1)神話から哲学へ	この授業では、生命を哲学の立場からどのように捉えていたかを扱うが、それは有機体論の問題へと展開する。その有機体論を通じて、哲学史への展望を得て頂きたいと思う。序に続いて古代ギリシャの生命観の検討が行われる。 【キーワード】 哲学的生命概念、ヘラクレイトス、プシュケー	佐藤康邦	佐藤康邦
2	古代ギリシャ哲学における生命概念(2)プラトンとアリストテレス	プラトンにおけるイデア論に着目する。次にアリストテレスの形相因、目的因、エンテレケイア等の概念において、その有機体論的性格を検討する。最後にガレノスに言及する。 【キーワード】 ピュシス、エイドス、テロス、エンテレケイア	佐藤康邦	佐藤康邦
3	近世哲学における機械論と有機体論	ガリレオ、デカルト、ベーコンの時代は科学革命の時代であり、機械論に先導された近代科学の登場の時代であった。そこでは、生命も、また、機械論の原理によって探究され、その成果がいわゆる「動物機械論」として現れたものである。ここではそれに先行するレオナルド・ダ・ヴィンチの解剖学も検討する。 【キーワード】 動物機械論、還元主義、物理学、解剖学	佐藤康邦	佐藤康邦

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
4	近世哲学における機会論と有機体論(2)	機械論的自然観への反駁の例をパスカルとライプニッツに見る。 【キーワード】 パスカル、ライプニッツ、目的論	佐藤康邦	佐藤康邦
5	ヒュームからカントへ	ヒューム晩年の宗教論における目的論の扱いを見る。それとカントとのつながりを検討する。 【キーワード】 懐疑論、スコットランド倫理学、自然宗教	佐藤康邦	佐藤康邦
6	目的論の観点から見た『純粋理性批判』と『実践理性批判』	カントの批判哲学を目的論との関連の観点から検討する。。 【キーワード】 批判哲学、超越論哲学、認識論、道徳法則	佐藤康邦	佐藤康邦
7	『判断力批判』の研究(1)美と構想力	まず『判断力批判』の全貌が検討される。その上で、第一部、美的判断力の批判の検討に入る。 【キーワード】 趣味判断、構想力、主観的合目的性	佐藤康邦	佐藤康邦
8	『判断力批判』の研究(2)自然の合目的性	『判断力批判』における有機体論が検討される。とりわけ目的論との関わりで検討される。 【キーワード】 目的論的判断力、有機体、オートポイエーシス	佐藤康邦	佐藤康邦
9	『判断力批判』の研究(3)反省的判断力	『判断力批判』における反省的判断力の問題が主題的に検討される。 【キーワード】 反省的判断力、直観的悟性、解釈学循環	佐藤康邦	佐藤康邦
10	『判断力批判』の研究(4)正解の究極目的とヘーゲル哲学における生命概念	世界の究極目的と並んで『判断力批判』の後代への継承の過程が検討される。美と生命が哲学の主題となることの意味を確かめる。ヘーゲルの成立過程と『自然哲学』が検討の対象となる。 【キーワード】 道徳神学、美、自然哲学	佐藤康邦	佐藤康邦

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
11	ヘーゲル哲学における生命概念(2)ヘーゲル哲学	ヘーゲル哲学における生命概念の意義が検討される。国家論だけではなく、論理学においても生命の側から検討される。 【キーワード】 家族、労働、分肢、論理学、必然、偶然、自由	佐藤康邦	佐藤康邦
12	ニーチェの生哲学(1)力への意志	ヘーゲルの体系を最後として、哲学は人文科学の一領域に閉じこもることになる。それ以降、哲学における生命概念は、物理学に指導された近代科学への反発という動機を伴って展開されることになる。その代表的例としてニーチェが扱われる。 【キーワード】 力への意志、キリスト教批判、生哲学	佐藤康邦	佐藤康邦
13	ニーチェの生哲学(2)哲学と音楽	ニーチェの哲学を音楽との関係を通じて検討する。 【キーワード】 ヴァグナー、ディオニュソス的、永遠回帰	佐藤康邦	佐藤康邦
14	ベルクソンの生哲学	ベルクソンの生概念を進化論との関係のもとで扱う。 【キーワード】 純粋持続、エラン・ヴィタール、エントロピー	佐藤康邦	佐藤康邦
15	構造主義と生命科学	構造主義は、文化系の学問として展開された。しかし、その構造概念は、20世紀後半には、生物学者の注目する所となった。ここでは、その構造概念を介しての、文化科学と自然科学の対話の例を追ってみる。 【キーワード】 構造主義生物学、民族学、構造	佐藤康邦	佐藤康邦

事務局記載欄	開講年度	２０１０年度	科目区分	大学院科目	科目コード	8940541	履修制限	無	単位数	2

科目名（メディア）＝　東アジアの歴史と社会　（’１０）＝（ＴＶ）

〔主任講師（現職名）：吉田光男（放送大学教授）〕

講義概要

中国と朝鮮を舞台にして、4人の講師が、各自の研究テーマに基づいてオムニバス形式で講義を行う。学説史・研究動向・史料的状況を基礎として、史料を用いた研究の方法を、具体的な事例の読み解き方を基礎として展開する。定説や通説を無批判に自明の理とすることなく、史料に基づき、社会学・経済学・人類学・文学など隣接諸分野を含めた新たな理論や方法論を取り入れてより豊かな歴史像を描き出す道を探求する。

授業の目標

講師ごとに提示される、歴史研究の多様な方法や視点を学び、東アジア史研究の最前線がどのような研究をしているのかを理解するとともに、史料批判と史料読解に基づく歴史研究の方法を身につける。また、現代の国家的枠組みにとらわれない、時代的実態に合わせたフレキシブルな地域理解を目標とする。

履修上の留意点

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	総論―東アジア史を研究する方法・視点	本講座で検討対象とする東アジア（中国・朝鮮）史の研究方法について、中国史・朝鮮史を専門とする4人の講師がそれぞれの立場から論じる。従来の研究を基礎としながら、第2章から始まる各論を見すえて全体像を提示し、実際の東アジア史研究をどのように行うかについて示していく。 【キーワード】方法、史料、理論、環境	上田信（立教大学・教授） 鶴間和幸（学習院大学・教授） 橋谷弘（東京経済大学・教授） 吉田光男（放送大学・教授）	上田信（立教大学・教授） 鶴間和幸（学習院大学・教授） 橋谷弘（東京経済大学・教授） 吉田光男（放送大学・教授）
2	中国文明から東アジア文明へ―文明の多様性と多元性	中国文明の舞台は黄河と長江が作り出した平原にある。その自然環境の変化と地域文化の多様性に注目しながら、中国文明が東アジア文明として広がっていくことを見ていく。紅山遺跡の玉器と三星堆遺跡の青銅器を素材として取り上げる。 【キーワード】黄河、長江、良渚文化、紅山文化、星堆遺跡	鶴間和幸（学習院大学・教授）	鶴間和幸（学習院大学・教授）
3	古代中華帝国の成立―始皇帝の時代	中国史上最初の帝国と皇帝の誕生の歴史を資料に基づいて見ていく。始皇帝の秦時代の暗殺未遂事件の解明、統一後の巡行と刻石（顕彰碑）の検討を中心に進めていく。基本文献である『史記』への見直しでもある。 【キーワード】『史記』、画像石、統一、巡行、刻石、始皇帝陵	鶴間和幸（学習院大学・教授）	鶴間和幸（学習院大学・教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
4	隋唐帝国—東アジア世界における古代	秦漢帝国に続く隋唐帝国を東アジア世界から見ていく。内陸の帝都長安も実は東方の平原や東アジアの海域とつながっていた。遣隋使や遣唐使の海域の海路と中国の運河の水運ネットワークの結びつきなども解明していく。 【キーワード】関隴集団、長安、運河、遣唐使、張宝高、新羅、東アジアの海	鶴間和幸（学習院大学・教授）	鶴間和幸（学習院大学・教授）
5	モンゴル帝国とその後の世界	13世紀以降、中国の歴史を、東シナ海・南シナ海・インド洋と連なる海域アジアとの交流のなかで、大局的に把握する。そこに活躍する人々の姿を、歴史として見るためには、どのような方法があるのだろうか。科学を標榜する歴史学は「英雄史観」から脱却するために、人物を描くことに消極的であった。一個の人物の多様な側面を、史料を通じて客観的に把握するめための方法を提示する。 【キーワード】生態環境史、文明の生態史観、文明の海洋史観、人格の標識	上田信（立教大学・教授）	上田信（立教大学・教授）
6	碑文を通してみる明初の世界—鄭和	七回にわたる大航海をしたことで知られる鄭和は、雲南のムスリムの家に生まれた。明軍の雲南攻略のなかで去勢され、明朝第3代の皇帝・朱棣（永楽帝）の宦官となった鄭和が、なぜ大航海の率いることになったのか。この航海がその後の中国に残したものは何だったのか。鄭和に関する碑文を読み解くことで、明らかにしてゆく 【キーワード】明朝、海禁政策、朝貢、宦官	上田信（立教大学・教授）	上田信（立教大学・教授）
7	武装海洋商人の世界—王直	新安商人として知られる商人グループの故郷・徽州で生まれた王直は、なぜ倭寇の統領として名を歴史に留めることになったのか。王直本人が記したとされる上訴を読み解くことで、考察していく。明朝・ポルトガル人・日本人など、立場を異にする人々が記した史料から、日本に拠点をおいた王直の実像に迫る。また、今日における日中間の人物評価の違いにも目を向ける。 【キーワード】後期倭寇、、王直上訴、種子島への鉄砲伝来	上田信（立教大学・教授）	上田信（立教大学・教授）
8	清朝の勃興と海域アジアの変容—鄭成功	日本人を母に持ち、中国海洋商人を父とする鄭成功がどのようなヴィジョンを持っていたのか、オランダ語史料に残された鄭成功が出した布告を手掛かりにして迫る。また、「実録」と呼ばれる史料の読み方を示す。 【キーワード】平戸、海洋商人、オランダ東インド会社、タイオワン、実録の読み方	上田信（立教大学・教授）	上田信（立教大学・教授）
9	行政文書から見える社会—陳弘謀	清代を通じて最も有能な地方官僚の1人として知られる陳弘謀は、詳細な行政文書を後世に残した。この文書を読み解くことで、18世紀の人口爆発に清朝がどのように対応しようとしたのか、地方の情報を官僚がどのように把握していたのか、地方官は皇帝とどのような関係を持っていたのか、具体的に知ることができる。海域アジアに在住する華人への政策をめぐる公文書を読む。 【キーワード】科挙、地方官、人口爆発、食料輸入清代行政文書	上田信（立教大学・教授）	上田信（立教大学・教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
10	近代世界システムと中国―ウィリアム=ジャーディン	アヘン戦争の仕掛け人として、中国史に悪名を残すジャーディンは、スコットランドで生まれ、イギリス東インド会社の船医からカントリー・トレーダーに転身、茶葉とアヘンの交易で活躍する。彼が創立したジャーディン・マセソン商会は、アジア有数の商社として、発展を遂げる。転機となったアヘン戦争を、書簡から読み解いていく。 【キーワード】イギリス東インド会社、アヘン戦争、ジェントルマン資本主義	上田信（立教大学・教授）	上田信（立教大学・教授）
11	高麗と東アジア・元帝国	モンゴルと高麗の間は、支配服属関係で語られる。しかし、高麗国王は元の王女を妻にむかえ、元王室の婿として駙馬高麗国王という特殊な地位を得た元王室の一員の地位にもあった。元の強大な軍事力による東アジアの変動の中で高麗のとった外交政策が可能だった背景を探り、朝鮮史料を中心として考察することによりし、日本・中国から見たのとは異なった東アジア史像を構想する。 【キーワード】モンゴル、元、高麗、元寇、支配、服属	吉田光男（放送大学・教授）	吉田光男（放送大学・教授）
12	東アジアの国際環境と近世朝鮮	近世の日朝関係において、朝鮮王朝から江戸幕府に派遣されてきた通信使が注目されている。東アジアの外交現場で、お互いの利益をかけた戦いが繰り広げられていた。さらに朝鮮は清に燕行使を派遣し、北方の安定化もはかっていた。それぞれがどのような思惑で国際関係を結んでいったのか、日本・朝朝・中国の史料を対比しながら、同時代の歴史的リアリティーに迫る方法を探求する。 【キーワード】通信使、燕行使、外交、倭館、交隣、清	吉田光男（放送大学・教授）	吉田光男（放送大学・教授）
13	人口資料で見る近世朝鮮社会―戸籍大帳を読み解く	朝鮮王朝は14世紀末の創建以来、3年ごとに全国一律の住民調査を行い、戸籍大帳というかたちでまとめていた。この戸籍大帳を資料として用いて、朝鮮近世社会の実態を人口を通して探求する。また、歴史学における通説的理解のできかたと問題点、その批判と克服の方法について提示してみる 【キーワード】人口、身分、両班、通説、戸籍、歴史人口学	吉田光男（放送大学・教授）	吉田光男（放送大学・教授）
14	植民地期の朝鮮	朝鮮における植民地支配の歴史を取り上げ、欧米の植民地支配との比較、産米増殖計画、植民地工業化の意味、植民地都市の形成、皇民化政策などの問題について、史料や統計を示しながら具体的に検討する。また、解放後の歴史との関連や、現代からの視点も意識して取り入れる。 【キーワード】植民地　産米増殖計画　植民地工業化　植民地都市　皇民化政策	橋谷弘（東京経済大学・教授）	橋谷弘（東京経済大学・教授）
15	アジアNIESとしての韓国	20世紀後半の世界史特徴づけるアジア工業化の一環としての韓国の工業化の歴史を取り上げ、欧米や日本の工業化との比較、アジアNIES（新興工業経済地域）の工業化プロセスの特徴などについて、史料や統計を示しながら具体的に検討する。また、「ポストアジアNIES」ともいえる80年代以降の展開についても考察する。 【キーワード】工業化　アジアNIES　輸出志向　外資導入　開発独裁	橋谷弘（東京経済大学・教授）	橋谷弘（東京経済大学・教授）

＝　表象文化研究（‘０６）＝（TV）

〔 主 任 講 師（現職名）：渡辺　　保（演劇評論家）　　〕
〔 主 任 講 師（現職名）：小林 康夫（東京大学大学院教授）〕
〔 主 任 講 師（現職名）：石田 英敬（東京大学大学院教授）〕

全体のねらい

新しい角度からの表象文化研究。本年度の新機軸は表象文化研究を美術、建築、彫刻、文学、演劇、音楽、映画の各分野を拡大し、かつ、平易に現代的に学生に理解されるように企画した。

回	テ　ー　マ	内　　容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	表象の舞台（Ⅰ）	「ラス・メニナス」をめぐって。 ベラスケス「ラス・メニナス」。ミッシェル・フーコー「言葉と物」。表象の問題の一般的設定。主体の問題。空間の問題。近代の問題。演劇性。表象装置。身体。 表象文化研究のキーワード解説。	小林　康夫（東京大学大学院教授）	小林　康夫（東京大学大学院教授） 石田　英敬（東京大学大学院教授） 渡辺　　保（演劇評論家）
2	近代の閾 ー近代の乗り越えとディドローー	1　ディドロと『百科全書』 2　存在と表象がずれる以前 3　『百科全書』における全体性と普遍性 4　カントを乗り越えるディドロ	青山　昌文（放送大学教授）	青山　昌文（放送大学教授）
3	表象の舞台（Ⅱ）	マネの作品（「草上の昼食」、「オランピア」、「鉄道」、「フォリーベルジェールのバー」など）をめぐって。スキャンダルとモデルニテ。「世界の首都」パリの成立。鉄とガラスの都市。フラヌール。都市のなかの出会い。「表象」から「投影（プロジェクション）」へ。無意識のイマージュ。	小林　康夫（東京大学大学院教授）	小林　康夫（東京大学大学院教授）
4	詩と記号	マラルメからソシュールへ： マラルメの詩と「言語の学」の構想を、文字・活字・書物・言語の問題をめぐって概説したのち、ソシュールの記号学がどのように１９世紀の言語と表象の問いを転換させたのか、「一般言語学講義」と「アナグラム」研究にかけられていた表象批判の問題系を解説する。	石田　英敬（東京大学大学院教授）	石田　英敬（東京大学大学院教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
5	文化装置の誕生 －表象の政治性－	1　都市と表象装置 2　広場・街路・劇場 3　塔と超高層ビル 4　美術館の誕生と現在	青山　昌文（放送大学教授）	青山　昌文（放送大学教授）
6	伝統と近代（Ⅰ） －九代目団十郎の試み－	演劇における近代と伝統的な古典劇の表象の分析。明治の名優九代目団十郎は、近代にふさわしい歴史劇としていわゆる「活歴」をはじめた。その成功と失敗の両面を分析する。	渡辺　保（演劇評論家）	渡辺　保（演劇評論家）
7	伝統と近代（Ⅱ） －九代目団十郎・挫折と回帰－	明治二十七年七月、日清戦争がおきる。この戦争劇が流行。九代目は、これによって川上音二郎の戦争劇に敗退して古典に回帰する。その挫折と回帰を通して近代の意味を問う。	渡辺　保（演劇評論家）	渡辺　保（演劇評論家）
8	表象の舞台（Ⅲ）	「大ガラス」をめぐって マルセル・デュシャンの作品（「階段を降りる裸体」、「彼女の独身者たちによって裸にされた花嫁、さえも」、「泉」、「遺作」など）をめぐって。キュビズムとフォービズム。「表象」から「構成（コンポジション）」へ。無意識の欲望。レディーメイド。オブジェ。シュールレアリズム。「ナジャ」の物語。マニフェストの時代。見る装置。	小林　康夫（東京大学大学院教授）	小林　康夫（東京大学大学院教授）
9	女性作家と身体	「身体の美の歴史」とは、とりわけ「女性の美」の問題だった。堂々と「男性の美」を鑑賞してしまった女性作家の身体性とは、いかなるものか。舞台から写真、そしてラジオまで、あるいは美食からファッションまで、貪欲に20世紀の前半を生きぬいて、国葬という儀式によって顕揚されたコレットを素材とし、市民社会におけるジェンダー構造の変容という新たな問題系を浮上させる。	工藤　庸子（放送大学教授）	工藤　庸子（放送大学教授）
10	映像の時代 －映画と越境の体験－	19世紀末にフランスで発明された映画は、またたく間に国境を超えて広がり、物語装置として成長をとげた。ハリウッド的「夢の工場」の強大化による、映像文化の画一化が進む一方、さまざまな「新しい波」が今もなお、映画の可能性を問い直し続けている。映像の時代を担い続ける、映画に固有のダイナミズムを明らかにする。	野崎　歓（東京大学大学院准教授）	小林　康夫（東京大学大学院教授） 野崎　歓（東京大学大学院准教授）
11	音楽の解体	２０世紀に入って、音楽の分野では「音楽の解体」が起こったといわれる。そのようにいわれる理由はどこにあるのか、また、音楽は２０世紀に入って実際どのように変質したのか、１９世紀以前の「調性」音楽の「機能和声体系」にまで遡って考察する。	笠原　潔（放送大学教授）	笠原　潔（放送大学教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
12	表象の舞台(Ⅳ)	「マリリン・モンロー」をめぐって： ウォホール・ニューヨークの時代。芸術が記号化することと「記号化した現実」との関係を、ウォホールに代表されるポップ・アートの表象戦略を解説しつつ解き明かす。	小林　康夫 (東京大学大学院教授) 石田　英敬 (東京大学大学院教授)	小林　康夫 (東京大学大学院教授) 石田　英敬 (東京大学大学院教授)
13	表象メディア論Ⅰ ーテレビを考えるー	TVの表象文化研究： 日常生活がテレビという記号装置によって作り出される私たちの世界の表象を、マクルーハン以後のメディア論を紹介した上で、テレビ番組の表象分析の具体例を提示しつつ分析する。	石田　英敬 (東京大学大学院教授)	石田　英敬 (東京大学大学院教授)
14	表象メディア論Ⅱ ーコンピューターー	メディアとコンピュータの表象世界： サイバースペース上に成立するヴァーチャル・リアリティがもたらした表象世界とはどのようなものか。コンピュータ・アートの作品にみる表象作用を分析することによって明らかにする。	石田　英敬 (東京大学大学院教授)	石田　英敬 (東京大学大学院教授)
15	文化創造の現場へ ー来るべきもののためにー	表象文化研究の現在： 19世紀からの現代の表象文化を通時的に振り返り、21世紀の文化の行方を表象文化論の視点から展望する。	小林　康夫 (東京大学大学院教授)	小林　康夫 (東京大学大学院教授)

科目名（メディア）＝　地域文化研究Ⅲ（‘０７）＝（TV）
－ヨーロッパの歴史と文化－

〔主任講師（現職名）：　草光　俊雄（放送大学教授）　〕
〔主任講師（現職名）：　宮下　志朗（東京大学大学院教授）〕

講義概要

これまでヨーロッパの歴史は各国別に分断され、それらを一冊にまとめて論じるということが多かった。外交や戦争を扱うときには勿論他国との関係が論じられるが、それもあくまでも一国の歴史という脈絡のなかでしかなかった。しかしヨーロッパはいろいろな意味で、考えられる以上に有機的につながっている。ギリシア・ローマの古典文化、ゲルマン民族、キリスト教という三大要素ばかりでなく（民族的、宗教的にももっと複雑ではあるが）、古くからヨーロッパの人々は旅をし、知見を広め、自国の文化のなかにヨーロッパという普遍的なものを作り上げてきたと言っても良い。本講義ではそのようなヨーロッパの歴史のなかからいくつかのテーマを選び、国境にまたがる地域に広がる、国境を越えた文化を採り上げる。それはあるときには空間を支配する関係についてのネットワーク論であり、人やモノの移動や交流、交換と流通を考える社会史や文化史でもある。またヨーロッパが非ヨーロッパと出会ったときに自らのアイデンティティをどのように築いていったか、そしてそれがヨーロッパの地球規模での進出にどのような役割を果たしたのか、といった点にもふれて考えてみたいと思う。

授業の目標

当然のことながら、包括的なヨーロッパの歴史を学習することが目標ではない。授業で採り上げるテーマを一つのきっかけ、あるいは参考にして、学生のみなさんが自らの関心で越境する文化について調べたり書いたりしてくれることを望んでいる。放送授業や教科書にはそのためのいくつかの方法やヒントをちりばめておくつもりである。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	イントロダクション－人、モノ、情報の交流－	授業の全体のテーマを紹介し、ヨーロッパの歴史を見ていくなかで、人、モノ、情報などがいかに国境を越えて交流していったか、そしてそれがどのようにしてヨーロッパのアイデンティティを築いていったか考えるヒントをまず提示する。	草光俊雄（放送大学教授） 宮下志朗（東京大学大学院教授）	草光俊雄（放送大学教授） 宮下志朗（東京大学大学院教授）
2	「旅人」の誕生	古来人々は戦のため（侵略や略奪、領土の拡大など）はるばる遠路他国への旅をしてきた。また宗教の布教のためあるいは商業の目的で、多くの困難を顧みず地球規模での旅をも行ってきた。そうした活動のなかで得た知見は様々な形で残されている（たとえばカエサルの『ガリア戦記』、ルイス・フロイスの『日本史』、マルコ・ポーロ『東方見聞録』など）。しかし近世になり、人々は知的好奇心のため、あるいはたんなるレジャーのために旅をするようになる。旅のネットワークとはどんなものだったのだろうか、それぞれの旅人がどのような目的で何を発見したのか。イギリス貴族のイタリアへのグランドツアーや、国内でも旅行家であったアーサー・ヤングのフランス旅行などを例にとって考えてみる。	宮下志朗（東京大学大学院教授）	宮下志朗（東京大学大学院教授） 草光俊雄（放送大学教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
3	国境を越える書物	印刷術が誕生した次の世紀には、ヨーロッパの内では宗教改革が起こり、外に向かっては、大航海時代を迎えてと、エピステモロジーの大きな変革の時期にさしかかる。そうした知や思想の所産である書物の文化も発展していくが、発禁処分といった抑圧の動きも強く働くことになる。そして各国語訳聖書に代表される「危険な書物」は、いわば国境の向こう側で生産され、送りこまれたりする。フランスを例に取れば、国境の商都リヨン、国外のアントワープ、スイスの諸都市が、フランス語による「危険な書物」を、ときにはその信念から、ときにはビジネスライクに製作して、送りこむのだ。こうした動きを、のちの１８世紀の啓蒙の時代まで射程に収めて考えてみる。そしてまた、知的共同体としての「文芸の共和国」を束ねる存在、つまりは「サロン」「カフェ」の前身としての、印刷工房の役割にも注意を促したい。	宮下志朗（東京大学大学院教授）	宮下志朗（東京大学大学院教授） 高宮利行（慶応義塾大学教授）
4	北欧ー自らをどう捉えてきたかー	我が国では理想的に語られることの多い北欧だが、現在の北欧ではヨーロッパ統合の進展を背景として「自らは何者であったのか」という問いを、歴史のなかで省察する動きが盛んになっている。ヨーロッパ世界の北の辺境に位置する北欧は、それだけで独特な自己意識と社会像を作り上げてきたように見える。しかし実際には、ヴァイキング時代から現代に至るまで、北欧と大陸ヨーロッパ世界との接触と交渉が繰り返されてきた。北欧の歴史を振り返るならば、他者との接触を通じ固有の文化と外来の文化を融合させて、独特な自己意識を形成するに至った過程を確認できよう。この回の講義では、第一にヴァイキング時代以来の北欧固有の文化観と大陸ヨーロッパ起源のキリスト教理念が融合することによって形成された自己意識の事例として近世のゴート主義を、第二に西欧市民社会の理念を咀嚼しながら構築され、現代へと繋がる北欧観に決定的な影響を与えた近代のスカンディナヴィア主義を、第三に大陸ヨーロッパ世界との駆け引きのなかで産み出されてきた北欧アイデンティティが他者の自己理解形成にさえ影響を与えていく事例として現代のサーミあるいはバルト諸国の変貌を紹介する。この回はこれらの事例を検討することによって、北欧の自己理解が作り上げられる過程で、他者が果たした役割を具体的に検討することを目標とする。	古谷大輔（大阪大学准教授）	古谷大輔（大阪大学准教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
5	「好奇心」と「探究心」ー啓蒙主義と博物館の思想ー	普通、ヨーロッパの啓蒙思想は１８世紀フランスに始まると考えられているが、大航海時代以降のヨーロッパがいかにして異文化にたいする好奇心を示し、探究心を持って異文化の思想や文物を収集していったか、そしてそれらがどのようにして体系的な知識の蓄積として新しい学問を生んでいったかを考える。初期近代に生まれた博物館が、絶え間ない探究心と新しい、あるいは珍奇な知識の収集を求める人々の活動によって成り立っていること、またそこには知のネットワークが存在していたことを見ていく。	草光俊雄（放送大学教授）	草光俊雄（放送大学教授） 宮下志朗（東京大学大学院教授）
6	コレクターの誕生と芸術作品の流通	収集する欲望・ふるまいは、人類の属性のひとつかもしれない。ここでは、「コレクション」を、流通回路とは（一時的に）引き離して、その目的のために特別に整備された空間で、保護・保存し、（ときに）他者の視線にさらすモノの集合体と定義して、考察する。すなわち、一般的な図書館のようなものではなく、特定個人の趣味・好奇心の投影としての収集物、とりわけ芸術作品の「コレクション」を扱う。近代を迎えると芸術家のパトロンが出現し、片や作品のマーケットも生まれてくる。とりわけ商業都市ヴェネツィアは、流通市場での影響力を強く行使していくし、ヴェネツィア絵画も各国のコレクターに広がっていく。ここでは、パリ随一の優雅なコレクション空間である、ジャックマール・アンドレ美術館の沿革を探り、また、イタリアにコレクターの一族を訪ねて、芸術作品を鑑賞するとともに、それらが「コレクション」として、いかなる流通・移動の歴史をたどり、いかなる機能をはたしたのかを検証してみる。さらに私的なコレクションが、公的なものになっていく一つの傾向を考え、国家規模での美術館の成立を、イギリスのナショナル・ギャラリーの館長とのインタビューを紹介する。最後にオークション・ハウスのことを考える。	草光俊雄（放送大学教授）	草光俊雄（放送大学教授） 宮下志朗（東京大学大学院教授）
7	食文化の地政学	今日ヨーロッパの食文化は、各国ごとに、また一国内でも地域ごとに特徴が見いだされる。一方、ある種普遍的とも呼べるヨーロッパ的な料理方法が存在するのも確かである。また食事に欠かせない飲み物も地域によって異なる。そしてそれはかつては素材の生育地域と密接に関連していた。イギリスや北フランス、北ヨーロッパには葡萄の生育が適さなかったために葡萄酒の生産は不可能であった。そうした地域では麦を原料とするビール、ウイスキーが主なアルコールであったし、またリンゴからとれたサイダー酒（シードル）も作られた。ヨーロッパを地政学的に捉えて、イギリスやフランスそしてイタリアなどの食文化を考え、さらにはなぜイギリスがボル	草光俊雄（放送大学教授）	草光俊雄（放送大学教授） 宮下志朗（東京大学大学院教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
		ドーやブルゴーニュの支配に固執したのかなどといった問題を考えてみたい。葡萄酒は教会のミサに欠かせなかったが、アルコールそのものの魅力もあったであろう。放送授業ではイタリア・トスカーナのワイナリーを訪ねてそこで作られるワインやオリーブオイルについて取材したものを使う予定である。		
8	ロシアー「大使節団」と西欧化ー	ユーラシア大陸の東の大国ロシアと西欧諸国、特にイギリスとの文化的接触と影響について考える。中世に遅れてキリスト教国家となったロシアは、ギリシャ正教を取り入れた点で他のヨーロッパ諸国と大きな違いがある。また中世都市国家を持たなかったという点でも西欧的な市民社会形成という点で異なっている。しかし１６世紀半ば以降、ロシアは西欧化を進めることによってヨーロッパの覇権を狙い始める。とくに１７世紀にピヨトール帝はオランダ、イギリスなどに長期旅行を行い、見聞を深めることによってロシアの西欧化を進めようとした。授業では特にピヨトール帝の旅行を詳しく検討することで、ロシアの内部にある西欧志向とその反動であるナショナリズムの問題を考えてみる。	土肥恒之（一橋大学大学院教授）	土肥恒之（一橋大学大学院教授）
9	奢侈と経済ーヨーロッパ・ブランドの成立ー	奢侈は一国の経済を大きく変化させる。さらにその影響は一国を超えて広い地域に広がっていく。１８世紀のヨーロッパは奢侈の広がりが新しい技術を生み出し、その中で特産品が生まれそれがまた広く普及していく。どのような技術が生まれどのような製品が生み出されたのか、この分野の世界的権威Maxine Berg教授へのインタビューなどを交え、世界商品の成立について考える。	草光俊雄（放送大学教授）	草光俊雄（放送大学教授） ゲスト：Maxine Berg（ウォリック大学教授）
10	異端のディアスポラ	ワルド（ヴァルド）派は、リヨンの豪商ペトルス・ヴァルドゥスが１２世紀に創始した、贖罪と清貧を説く説教団である。この「リヨンの貧者」は異端宣告を受けて、ボヘミア、北イタリアなどに散開していくが、やがて衰微、フランスでは南仏の山塊の奥で、落ち武者のようにして、信仰の火をともしていくことになる。しかしながら、１６世紀という宗教改革の世紀を迎えると、オリヴェタン訳仏語聖書の刊行に関して改革派との結びつきを強め、以後はプロテスタントの一翼を担っていく。こうしたワルド派の流転を、現地調査を交えつつ報告し、宗教のネットワークについて考察する。	宮下志朗（東京大学大学院教授）	宮下志朗（東京大学大学院教授） 草光俊雄（放送大学教授）
11	アラビアン・ナイトの「発見」ーヨーロッパ世界の東方幻想ー	アラビア語の説話集『アラビアン・ナイト』は、１８世紀初頭以来、ヨーロッパ各国語に翻訳され、ヨーロパ人の東方幻想の基盤、諸芸術の霊感源として大きな役割を演じてきた。その受容の様相を、翻訳自体に見られる改変や、文学、音楽、絵画、舞台、映画などへの応用という視点から紹介する。	杉田英明（東京大学大学院教授）	杉田英明（東京大学大学院教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
12	スポーツの近代化	本来狩猟など上流階級の余暇の遊びであったスポーツが近代的な形をとるようになったのは１９世紀イギリスであったが、それぞれの国々の余暇の様々なあり方と国境を越えたスポーツへの変化を見ていく。授業では特にテニス、ボートレース、登山を採り上げ、必ずしもイギリス発祥ではなかったこれらのスポーツがいかにイギリスにおいて近代化の道を歩んだかを考える。また日本においてこれらのスポーツがどのように受容され、どのように独自の発展をしていったかについても見ていくことにする。	草光俊雄（放送大学教授）	草光俊雄（放送大学教授） 宮下志朗（東京大学大学院教授）
13	近代読者の成立	ここでは、「国境」ではなく、ことばが社会階層を越境して、広がっていく様相を考察する。「日常生活の簡単な文章を理解し、読み書きできる１５歳以上の成人」、これがユネスコによる「識字者」の定義である。「読み書き能力」は、社会の安定した発展には不可欠なインフラなのである。だが日本のような、だれもが読み書きできることが当然の国家に暮らしていると、こうしたことも忘れがちになる。ここでは話をヨーロッパの１９世紀にさかのぼって、読み書きの実体に迫りたい。１９世紀は、人々の読み書き能力が急速に増大した時代であって、これと呼応して、新聞・雑誌、そして小説といったジャンルが発展し、社会に浸透していく。こうした変化を、さまざまの図像や、大ベストセラーとなった新聞小説等を見ながら確認し、読み書きの実践態（プラティック）と、その研究方法などについて考えてみたい。	宮下志朗（東京大学大学院教授）	宮下志朗（東京大学大学院教授） 草光俊雄（放送大学教授）
14	アーサー王伝説の展開	アーサー王伝説は、ローマ帝国が撤退した５世紀のブリテンで、北方から侵入したサクセン人に敗戦を強いられるケルト人のなかに、勇敢な戦争指揮官がいて、後にアーサーという名前が与えられて伝説化した。１２世紀の歴史家が大いに喧伝したために、文学としてもフランスからヨーロッパ全土に広がった。その伝播にいは十字軍遠征の兵士達が一役を担ったと考えられる。しかし、最近の映画『キング・アーサー』に描かれたように、近年は伝説をケルト文化ではなく、ローマ軍の傭兵となってブリテンに駐屯したサルマート人求める説もある。 中世の終わりまで再話が繰り返され、長大な散文ロマンスが印刷されたが、近代精神の広がりとともに、アーサー王ロマンスの不義密通や超自然的な要素は嫌われ、忘れ去られた。アーサー王伝説がよみがえるのは、１８世紀後半のロマン主義復興による振り返り現象だった。１９世紀の文学、絵画、音楽に題材を提供したこの伝説は、カメレオンのように変容しながら、２０世紀の映像の時代を生き抜いた。漱石にもすぐれた短編小説がある。	高宮利行（慶応義塾大学教授）	高宮利行（慶応義塾大学教授） 宮下志朗（東京大学大学院教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
		こうした時代的にも地域的にも広がりをもつアーサー王伝説は、リアリズム小説の衰退とともに盛んになったファンタジー文学の基礎を形成している。アーサー王伝説の発展とその特色を探るのがこの講義の狙いである。		
15	まとめ～ヨーロッパから日本への旅～	１４回の授業を振り返り、とくにヨーロッパから日本への旅を考えてみる。キリスト教の伝来と「かくれキリシタン」、オランダ東インド会社、日本の近代化などをヨーロッパとの関係で考える。	草光俊雄（放送大学教授） 宮下志朗（東京大学大学院教授）	草光俊雄（放送大学教授） 宮下志朗（東京大学大学院教授）

事務局記載欄	開講年度	２００９年度	科目区分	大学院科目	科目コード	8940509	履修制限	無	単位数	2

科目名（メディア）＝　　日本の歴史と社会　　（’０９）＝（R）

〔主任講師（現職名）：五味文彦（放送大学教授）〕

〔主任講師（現職名）：杉森哲也（放送大学教授）〕

講義概要

この講義は日本の歴史と社会を、都市という切り口から探ってみるものである。都市は政治・文化・社会の結節点にあることから、その都市の成立と展開の歴史を古代から現代にいたるまで探って、まず日本における都市社会の展開の道筋を追い、さらに建築空間の様相から都市の新たな展開の方向性をも捉える。

授業の目標

日本において都市がどのように形成されてきたのか、都市が歴史的社会のありかたをいかに映し出しているのか、都市に凝縮された様々な社会関係はどうあったのか、日本の都市はどのような特色を帯びているのか、また今後、都市はいかなる方向をめざしているのか。これらの課題を考える材料となることをめざす。

履修上の留意点

特にないが、学部の日本史関連の科目もあわせて学習することを希望する。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	総論－日本の都市と社会－	日本において都市がいかに形成され、どう展開していったのかという問題を考える。これにより都市の視点から歴史と社会・文化とのかかわりを多角的に探ることの意味を提示したい。 【キーワード】 都市論	五味文彦（放送大学教授）	五味文彦（放送大学教授）
2	日本古代の飛鳥	5～6世紀の日本はヤマト王権の勢力が各地に伸張し、朝鮮三国に対抗しうる存在となった。都城成立以前のこの時期はいわゆる歴代遷宮の時代であり、政権の拠点となる本格的都市は建設されていない。しかし7世紀になって宮が飛鳥に集中すると、飛鳥には次々に宮殿や寺院などの公的施設が造営され、次第に政権拠点としての形を整えていった。その姿は、天皇家と蘇我氏との間の権力抗争の姿でもあった。 【キーワード】 蘇我氏と飛鳥寺、飛鳥の諸宮、飛鳥浄御原宮、飛鳥の公的施設	北村優季（青山学院大学教授）	北村優季（青山学院大学教授）
3	平城京の成立	平城京の広さは、今日からみても驚くべき規模であるが、なぜそうした巨大な都市を日本古代の人々が造営したのか、その理由を考えるのが今回のテーマである。この時期の「律令」は、自国を唐と並立する国と位置づけたが、そのゆえにこそ日本に長安を再現する必要があった。また同時に、都城は畿内豪族を天皇の元に再編する空間ともなっていた。平城京は思想の産物であるとともに、天皇を中心とする権力再編の場でもあった。 【キーワード】 律令国家の世界観、長安の再現、宅地の班給、権力集中の場	北村優季（青山学院大学教授）	北村優季（青山学院大学教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
4	平安時代の京都	8世紀末に造営された平安京はその後も朝廷によって維持・管理がなされたが、10世紀後半になると、右京の荒廃が顕著になり左右対称の構造が崩壊した。摂関時代には左京を中心として寝殿造による貴族邸宅や諸司厨町が展開したが、院政期になると、里内裏の造営が盛んになるのと平行して大内裏（宮城）が空洞化しさらに白河・鳥羽に上皇の政治拠点が作られるなどしたため、京都には左京域を中心とする新たな都市空間が展開した。 【キーワード】 右京の荒廃、大内裏と里内裏、庶民の祭礼、白河と鳥羽	北村優季（青山学院大学教授）	北村優季（青山学院大学教授）
5	中世都市の形成	11世紀から13世紀にかけて、博多や京都・奈良・鎌倉などの中世都市がいかに形成されてきたのかを探って、都市が中世社会にとってどのような位置を占めていたのかを考察する。 【キーワード】 政治都市、宗教都市、港湾都市	五味文彦（放送大学教授）	五味文彦（放送大学教授）
6	中世における都市社会の展開	12世紀から14世紀にかけての中世社会において、都市社会がどう展開していったのかを、東アジア世界との関わりや日本列島の新たな流れのなかから考える。 【キーワード】 市、宿、湊	五味文彦（放送大学教授）	五味文彦（放送大学教授）
7	中世の都市文化	15世紀から16世紀にかけて、中世の都市には新たな文化が成長したが、その動きをさぐって、現在につながる都市の諸要素がこの時期に用意されてきたことの意味を探る。 【キーワード】 町、祇園祭り、館	五味文彦（放送大学教授）	五味文彦（放送大学教授）
8	城下町の構造	城下町は、日本の歴史が中世から近世へと大きく転換する過程で生まれた、新しい都市類型である。近世幕藩制国家における標準的な都市として、十六世紀末から十七世紀初頭頃までの比較的短期間に全国で一斉に展開した。城下町の成立は、日本の都市の歴史なかでも、画期的なことであった。そこで本章では、まず城下町を捉える方法を紹介するとともに、加賀藩の城下町である金沢を事例として取り上げ、その構造について具体的に検討する。次に近世日本が生み出した最大の巨大都市であり城下町でもある江戸を取り上げ、空間的にも社会的にも大きな比重を占めていた武家地の中の大名藩邸の構造について、加賀藩の江戸藩邸を事例として検討する。 【キーワード】 城下町、都市的要素、金沢、江戸、大名藩邸	杉森哲也（放送大学教授）	杉森哲也（放送大学教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
9	近世の京都	京都は、古代律令国家の都城・平安京として建設されて以来、1200年余の歴史を有する都市である。とりわけ古代から近世に至る前近代において、一貫して国家の中枢的機能を担い続けてきたことは、日本の都市の歴史を考えるうえで非常に重要な事実であると考えられる。第8章では、日本の歴史が中世から近世へと大きく転換する過程で城下町という新しい都市類型が生まれ、それが全国的に展開したことを述べた。それでは都城として成立して以来の歴史を有する京都にとって、近世という時代はどのように位置づけられるのだろうか。本章では、近世の京都に焦点を合わせ、その特徴の一端について検討する。 【キーワード】 京都改造、近世京都、町、町掟、町会所	杉森哲也（放送大学教授）	杉森哲也（放送大学教授）
10	札幌の建設	札幌は、北海道開拓の拠点として建設された都市であり、一般にその歴史は近代都市として始まるものとして理解されている。しかし、札幌の建設の過程を検討してみると、近世から引き継いだ要素も含まれていることがわかる。本章では、札幌の建設を日本の都市の歴史という文脈の中で捉え直し、再検討することを試みる。 【キーワード】 近世都市、近代都市、札幌、北海道開拓	杉森哲也（放送大学教授）	杉森哲也（放送大学教授）
11	開港場の形成	19世紀中葉における安政の5カ国条約の締結によって、5港が開港され、自由貿易が開始された。貿易の進展とともに、これらの開港場は、単に貿易港としてだけではなく、世界との接点として、日本の国際化（グローバル化）の尖兵として、経済・社会を中心に日本の近代化を推進する都市としての機能を果たした。横浜を中心に開港場の都市としての歴史的役割について考える。 【キーワード】 開港、開港場、交通革命、国際化	小風秀雅（お茶の水女子大学大学院教授）	小風秀雅（お茶の水女子大学大学院教授）
12	帝都の成立	明治維新後、江戸は東京と改称されただけでなく、幕藩体制における政治都市「江戸」から近代国家の首都「東京」への変化は、その都市機能を大きく変化させた。なにより日本の中心としての首都の位置を明確にする儀礼の展開と国民の受容による国民国家の成立は、近代日本史の展開と密接に関連していたのである。その構造を明らかにすることは、近代日本史を都市の視点から再考することにつながる。 【キーワード】 江戸から東京へ、憲法発布と東京、国家と国民の形成	小風秀雅（お茶の水女子大学大学院教授）	小風秀雅（お茶の水女子大学大学院教授）
13	町屋論（特論1）	特論1～3では、空間的立場から日本の都市史を捉え直してみる。特論1の町屋論では、日本の伝統的な都市建築であった町屋の形成と展開のプロセスを追跡し、日本都市の歴史的変化を建築の側から考える。 【キーワード】 町屋、接道性、沿道性、地割	伊藤毅（東京大学大学院教授）	伊藤毅（東京大学大学院教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
14	境内論（特論2）	日本の都市の空間的組成を分解してみると、「境内」と「町」という素朴な空間類型に還元できる。中世都市はこの二つの空間類型の複雑な組み合わせとみることができる。前者の代表例が宗教都市であり、後者は交易都市である。 【キーワード】 境内、町、宗教都市、交易都市	伊藤毅（東京大学大学院教授）	伊藤毅（東京大学大学院教授）
15	グリッド論（特論3）	格子状の道路パターン（グリッド）をもつ都市は古今東西を問わず、普遍的に存在しつづけてきた。本講では一見単純なグリッドがもつ多様な意味を探るとともに、そこに込められた時代の都市イデアを考える。 【キーワード】 グリッド、街区、都市計画、都市イデア	伊藤毅（東京大学大学院教授）	伊藤毅（東京大学大学院教授）

科目名（メディア）＝　言語文化研究Ⅰ（‘０７）＝（Ｒ）
－国語国文学研究の成立－

〔主任講師（現職名）：長島　弘明（東京大学大学院教授）〕

講義概要

江戸時代の国学は、日本古来の精神のあり方を考究する学問であったが、その一方で、古語や古典文学を文献を通じて明らかにする学問であった。その意味で、国学は、今日の国語学研究・国文学研究の先蹤と見なすことができるが、幕末・明治という変動の時代の中で、その国学的な語学研究・文学研究が、西欧文化をはじめとする様々なものの影響のもとに変容を重ねつつ、近代的な国語学研究・国文学研究として成立していった過程を明らかにする。

授業の目標

この授業では、国学から国語学研究・国文学研究への学問的方法の変化を考察するだけではなく、国学・国語学研究・国文学研究が研究対象にしている、ことば（国語）や文学（国文学）自体が幕末・明治期にどのような変化を遂げているかを併せて考察し、研究対象の変容が、それを研究する方法の変容や革新と、密接に関わっていることを理解してもらうことを目標としたい。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	歌学・国学・国文学研究	伝統的な歌学を基盤として、江戸時代に入って契沖・真淵・宣長らによって確立した国学が、明治時代に至り新たな近代的国文学研究へと変化するまでの経緯と、それを促した歴史的な状況について考察する。	長島　弘明（東京大学大学院教授）	長島　弘明（東京大学大学院教授）
2	大学の設置と国文学研究	江戸時代の幕府の学問所から、明治政府による大学設置にいたる高等教育の学制改革と、和漢文学科から和文学科へ、さらに国文学科へという改組について触れながら、初発期の国文学研究が抱えていた問題について考察する。	同上	同上
3	文献学の成立	留学してドイツ文献学を学び、国文学に近代文献学の方法を取り入れたとされる芳賀矢一の業績に焦点を当て、江戸時代の国学者や漢学者による、本文批判や注釈等の文献学的方法との共通性・異質性を検証する。	同上	同上
4	文学史の成立	国文学の時代性に鋭い感性で切り込み、「国文学全史」を構想した藤岡作太郎の業績を中心に、文学史の概念の成立について考察する。	同上	同上

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
5	国文学と民俗学・歴史社会学・文芸学	文献学と文学史の方法を基本として進んできた国文学研究も、時代の変化に伴って、隣接する学問領域の方法から大きな影響を受けることとなるが、その中でも、特に大きな影響を与えている民俗学的方法・歴史社会学的方法・文芸学的方法について解説する。	林　廣親（成蹊大学教授）	林　廣親（成蹊大学教授）
6	詩歌論の近代Ⅰ	江戸時代の和歌・俳諧が、子規らによって近代詩歌としての短歌・俳句に生まれ変わり、また新体詩が確立・展開していく様相を、同時代の詩歌論、詩歌批評等の検討を交えながら考察する。（Ⅰは、主として新体詩の成立と短歌の革新について）	猪狩　友一（白百合女子大学教授）	猪狩　友一（白百合女子大学教授）
7	詩歌論の近代Ⅱ	同上。（Ⅱは、主として新体詩の展開と俳句の革新について）	同上	同上
8	漢詩文の近代	江戸時代後期の漢詩文と明治時代の漢詩文の継承と断絶に注目しつつ、新しい時代への対応を様々に模索しながらも、最終的には近代文学から脱落し、古典化への歩みを進めていった漢詩文について考察する。	長島　弘明（東京大学大学院教授）	長島　弘明（東京大学大学院教授）
9	小説論の近代Ⅰ	江戸時代の戯作から近代小説への転換の様相を、西洋の文学・文学論の移入（『小説神髄』・「文学極衰論争」・「没理想論争」等々）、言文一致体の問題、小説批評・文芸評論の展開等、様々な観点から検討する。（Ⅰは『小説神髄』「没理想論争」等を中心に明治20年代まで）	猪狩　友一（白百合女子大学教授）	猪狩　友一（白百合女子大学教授）
10	小説論の近代Ⅱ	同上。（Ⅱは、小説論の形成と展開を中心に明治20年前後から明治末まで）	同上	同上
11	演劇の近代	演劇の近世が演劇の近代に至る過程を、歌舞伎における活歴の試み、演劇改良運動の時代、新派劇の発生等の動きを押え、時々の演劇論の展開に留意しつつ、具体的に検討してゆく。	林　廣親（成蹊大学教授）	林　廣親（成蹊大学教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
12	国語学の成立	明治時代において、国学が近代的学問に脱皮する過程において、語学研究がどのような位置を占めたかを構築論的に解説する。その中において、近代の言語文化の様相を検討する。	近藤　泰弘（青山学院大学教授）	近藤　泰弘（青山学院大学教授）
13	文法研究の近代化	明治期の文法研究がどのような過程をたどって、西洋文典と和文典との折衷を果たし、また、それ以上のものになっていったかを実例を検討しつつ考え、「文法」というものの日本における構築のあり方を提示する。	同上	同上
14	表記論と近代の表記	外国語との出会いから生じた日本語表記への自覚と表記改良への意欲がどのような研究を呼びおこしたか、またそれが近代的な日本語表記の成立にどのように関わったかを検証する。	屋名池　誠（慶應義塾大学教授）	屋名池　誠（慶應義塾大学教授）
15	外国人の日本語研究	明治時代の帝国大学の外国人教師などの実例を調査し、外国人による日本語研究が果たした役割の重要性を述べ、その研究がその後どのような形で日本の学術に影響を与えたかについても考察する。	同上	同上

事務局記載欄	開講年度	２００９年度	科目区分	大学院科目	科目コード	8940517	履修制限	無	単位数	2

科目名（メディア） ＝ 異文化の交流と共存 （’０９）＝ （R）

〔主任講師（現職名）：工藤庸子（放送大学教授） 〕

講義概要

国際政治、歴史、文学、言語など、多角的な視点から、異文化の交流と共存について考察する。対象となるのは大航海時代から現代まで。欧米とイスラム世界、そしてアジアを視野に入れることになるが、15回の講義を構造化するために「宗教と文明」「人種と民族とジェンダー」「言語と文化」という大枠を設けることにした。講義ごとに具体的なトピックを設定して問題構成とアプローチの手法を実践的に提示する。

授業の目標

歴史や地域の条件を背景として、現代世界の諸問題を解析することが、講義の目標である。履修者は、知識を習得するだけでなく、人文社会科学の方法論を学ぶこと、文献を引用し、これをふまえて論述を展開する手法を身につけることが重要な課題となる。

履修上の留意点

世界史概論の講義ではない。基礎知識の不足している履修者は、各自、しかるべき入門書で学んでおくこと。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	Ⅰ 宗教と文明(1)「キリスト教文明vs.イスラム？」	ヨーロッパのキリスト教世界とイスラムの出会いを概観し、啓蒙思想が生んだ「文明」の概念が、その後、変貌していゆくさまを見る。20世紀末、「宗教の復讐」（ジル・ケペル）として西欧の人々を驚かせたイスラム復興の運動に、いかなる歴史の必然があるのだろうか。 【キーワード】 文明と文化、啓蒙思想、ヨーロッパ、宗教と国家	工藤庸子（放送大学教授）	工藤庸子（放送大学教授）
2	Ⅰ 宗教と文明(2)「アメリカのイスラム：マルコムXの旅」	1960年代にブラック・ムスリムの説教師としてマルコムXは世に出た。マルコムは1950年代にキリスト教からネーション・オブ・イスラムのイスラムへと改宗している。しかし、やがてマルコムは主流派のイスラムへと再改宗する。このマルコムの遍歴を通じて、アメリカのイスラムの意味を考える。 【キーワード】 イライジャ・ムハマッド、ムハマッド・アリ、怒りのイスラム、巡礼	高橋和夫（放送大学教授）	高橋和夫（放送大学教授）
3	Ⅰ 宗教と文明(3)「ムスリム同胞団：スエズ運河のほとりで生まれたイスラム復興運動」	スエズ運河沿いの町イスマイリーヤの教師であったハサン・アルバンナーが1920年代に創始したムスリム同胞団は世界最大のイスラム教徒の組織に成長した。イギリス支配下の運河地帯でイスラム復興運動が起こったわけだ。イスラム復興を欧米の浸透へのムスリムの反応という視点から、アルバンナーの時代と思想を振り返る。 【キーワード】 スエズ運河会社、ムスリム同胞団、バンナーの道	高橋和夫	高橋和夫

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
4	Ⅰ 宗教と文明(4)「政教分離と共和国」	1989年フランスでおきた「スカーフ事件」はいかなる問題を明るみに出し、「ライシテ」(政教分離)をめぐる議論を巻きおこしたか。イスラムの国トルコ、イギリスやドイツなどプロテスタントの伝統に立つ国々と比較しながら、フランス共和国とカトリック教会との歴史的な関係を分析する。 【キーワード】 ライシテ、プロテスタント、カトリック、学校教育、法律	工藤庸子	工藤庸子
5	Ⅰ 宗教と文明(5)「寛容と不寛容のプロテスタンティズム」	プロテスタンティズムの波及と諸問題 国教会の成立と分裂の歴史的過程 プロテスタントの異分子たち(非国教徒とその言説、ユニタリアンとメソディスト) 異端の文学 プロテスタンティズムの精神文化 【キーワード】 宗教、プロテスタント、非国教徒、カトリック、異端	大石和欣(名古屋大学准教授)	大石和欣(名古屋大学准教授)
6	Ⅱ 人種と民族とジェンダー(1)「奴隷貿易・奴隷制というトラウマ」	奴隷制の起源 イギリスの海外貿易と植民地政策 奴隷貿易の実態(イギリス、アメリカ) 奴隷制の実態(イギリス、アメリカ) 奴隷貿易廃止運動および奴隷制廃止運動とその言説 現代の人身売買 【キーワード】 奴隷制、奴隷貿易、植民地、人身売買	大石和欣	大石和欣
7	Ⅱ 人種と民族とジェンダー(2)「傷と記憶と歴史」	奴隷制、植民地化、旧植民地の経済破綻……人類の過去におきてしまった悲劇、今日もおきている悲惨なドラマをいかに歴史にとどめるか。法律と文学テクストと無名の黒人少年たちの遺書という3つの素材を通し、記憶の問題を考える。アフリカの奴隷制と植民地化、そして独立後の現実にも目を向けよう。 【キーワード】 記憶、歴史叙述、証言、弱者、アフリカ	工藤庸子	工藤庸子
8	Ⅱ 人種と民族とジェンダー(3)「フランス人海軍士官の見た明治の長崎」	18世紀から20世紀初頭の植民地化の時代まで、ヨーロッパによるアジアの「発見」を概観する。さらに、明治維新後の日本に滞在したピエール・ロティの小説『お菊さん』をとりあげ、海軍士官でもあった作家の証言の中に読みとれる異文化理解のあり方を検討する。 【キーワード】 インド洋、アジア、鎖国、明治維新、女性、異国趣味	工藤庸子	工藤庸子
9	Ⅱ 人種と民族とジェンダー(4)「西洋の衝撃/イランのジャラール・アーレ=アフマドの『西洋かぶれ』を例として」	古代ペルシア帝国以来の栄光を誇るイランも近代に入り抗いがたい西洋の衝撃に直面した。自己のアイデンティティーを守りつつ、いかに西洋の技術を導入するか。日本が中国が直面した課題にイランも苦悩してきた。この問題を正面から扱ったアーレ=アフマドの評論を通して、近代化とアイデンティティーを考える。 【キーワード】 イスラム教シーア派、イラン革命、機械かぶれ	高橋和夫	高橋和夫

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
10	Ⅱ　人種と民族とジェンダー(5)「トルコの苦悩/民主主義、民族主義、世俗主義」	建国以来のトルコ共和国の二つの国是は、世俗主義と一民族神話であった。しかしながら、この二つの原則は民主主義と矛盾していまいか。トルコは国民の多くはイスラム的な価値を反映した政治を望んでいるからである。またトルコ国内のクルド人は民族の権利を主張しているからである。トルコは民主主義、民族主義、世俗主義の間で苦悩している。 【キーワード】 オスマン帝国、「オスマン・トルコ」帝国、アタテュルク、トルコ軍、イスラム政党	高橋和夫	高橋和夫
11	Ⅱ　人種と民族とジェンダー(6)「多文化（＝他文化）の表象としての移民へのまなざし」	イギリスにおける移民の構成と歴史的過程 南アジア系移民 ブリティッシュ・ムスリムとラシュディー事件 移民法と錯綜するイデオロギー（同化主義、多文化主義、反人種主義、新人種主義） 他民族・外国人の表象 【キーワード】 移民、植民地、エスニック・マイノリティ、表象、人種主義、同化主義、多文化主義	大石和欣	大石和欣
12	Ⅲ　言語と文化(1)「ディアスポラな英語の増殖」	グローバル化する英語 『オックスフォード英語辞典』とジョンソン博士の『英語辞典』 英語の歴史とパクス・ブリタニカ 膨張する英語の不安 「英語帝国主義」という考え方は妥当か？ 【キーワード】 英語帝国主義、英語辞書、パクス・ブリタニカ	大石和欣	大石和欣
13	Ⅲ　言語と文化(2)「多言語・多文化の国家　中国」	中国における二重の多様性 ①漢民族・漢語／周縁諸民族・少数民族語 ②漢民族の地域性と漢語内部の方言分岐 特に近代の文脈において、これらがどのように捉えられ、また乗り越えられようとしたか。 【キーワード】 漢語、少数民族語、共通語（普通話）、方言	宮本徹（放送大学准教授）	宮本徹（放送大学准教授）
14	Ⅲ　言語と文化(3)「ケベックの試み」	「二言語・多文化主義」を掲げるカナダ。そのなかでフランス語のみを「公用語」に定めたケベック州。「ネイション」のアイデンティティを確立しつつ異文化との共存をめざす政治とはいかなるものか。「政教分離」論争を糸口に考察する。 【キーワード】 政教分離、多文化主義、ネイション、公用語、インターカルチュラリズム	工藤庸子	工藤庸子
15	Ⅲ　言語と文化(4)「多文化共生社会を求めて」	「国民」の統一と自立のシンボルとしての「国語」という概念は19世紀ヨーロッパで確立し、その後、世界に広まった。脱植民地化の時代におけるベトナムとインドネシアの言語政策を紹介し、最後に、外国語学習の問題もふくめて、グローバル化の時代における多文化共生という身近な課題について考える。 国語教育、言語政策、多言語主義、地域社会	工藤庸子	工藤庸子

事務局記載欄	開講年度	２００９年度	科目区分	大学院科目	科目コード	8940525	履修制限	無	単位数	2

科目名（メディア） ＝ ことばと情報 （’０９）＝ （R）

〔主任講師（現職名）：杉浦克己（放送大学教授）〕

〔主任講師（現職名）：大橋理枝（放送大学准教授）〕

講義概要

日常的なコミュニケーションの中でのことばの理解（会話の含意、言語行為論など）、自然言語を処理する仕組み（音声認識・文字認識や態素解析・構文解析についてなど）、及び人の脳の中での情報伝達のモデル（ニューラル・ネットワークの構築など）などのトピックを通して、ことばで情報を伝達する仕組みや、そこで伝達される内容に関して、様々な角度から扱う。

授業の目標

人間が相手に対して何かを伝えようとして発するもの全てを「ことば」と捉えた上で、なぜことばは通じるのか、という問いを考えることによって、人が言葉を操ることについての本質に迫ることを目標とする。

履修上の留意点

特になし

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	「ことば」とは、「言語」とは、そして「情報」とは	この授業の全体像を受講者に示し、それぞれの回でどんな内容が扱われるのかを紹介した上で、授業を聞くについて必要な「ことば」「言語」及び「情報」の捉え方を明確化させる。 【キーワード】 「ことば」、「情報」	杉浦克己（放送大学教授） 大橋理枝（放送大学准教授） 秋光淳生（放送大学准教授）	杉浦克己（放送大学教授） 大橋理枝（放送大学准教授） 秋光淳生（放送大学准教授）
2	「育ち」に潜む情報	妹：「この服、いいよねー。滅多にないよねー。素敵だよねー。ここが特に良くない？うーん、すごいなー。こういうの、持ってないし。」 姉：「じゃあ・・・（5千円札を手渡しながら）はい。」 という会話は、さほど不自然とは思えないだろう。では何故この会話がなぜ成り立ち得るのか。姉は妹の発話から、何を、どうやって、理解したのかを、文化背景を考慮する立場から考える。 【キーワード】 コミュニケーション、コンテクスト、価値観、社会慣習、言語使用域、コードスイッチング、言語的社会規範	大橋理枝（放送大学准教授）	大橋理枝（放送大学准教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
3	会話の文脈の成立	妹:「これ、素敵だよねー。でも今月ピンチなんだよなー。」 姉:「じゃあ・・・(5千円札を手渡しながら)はい。ちゃんと返してね。」 という会話は、会話としては筋が通っていると思えるが、実はかなり大きな飛躍を含んだ発話が並んでいる。何故この会話が成り立ち得るのかを、会話の文脈に注目する立場から考える。 【キーワード】 隣接ペア、協調の原則と4つの公理、丁寧さの原理、ポライトネスのルール、ポライトネス理論、関連性の原則、表意と推意	同上	同上
4	発話することの能動性	妹:「これ、素敵だよねー。でも今月ピンチなんだよなー。」 姉:「じゃあ・・・(5千円札を手渡しながら)はい。ちゃんと返してね。」 妹:「わかった。月末までに返す。」 という会話があれば、姉は月末までには妹から5千円受け取るであろうと予想できるようになる。妹の発話の何が、そのような予想を成り立たせる根拠となるのか。「発話することの能動性」を考える。 【キーワード】 言語行為(発話行為)、(言語行為の遂行に必要な)権限、直接的言語行為、間接的言語行為、発話内行為、成功条件	同上	同上
5	「内容」と「使い方」	姉:「これ、素敵ね。うちの娘によく似合うと思うわ。でも、今これを買ってしまったら、今月足が出てしまうわ。」 妹:「あなたの台所はいつも火の車なのね。(5千円札を手渡しながら)はい。足(た)しにして。」 姉:「どうも有難う。恩に着るわ。」 という会話では、特定の内容を示す語として解釈しなければ話が通じない単語が幾つか入っている。私達は普段どうやって然るべき「特定の内容」に到達しているのか。単語が指し示す内容や使い方の面から考える。 【キーワード】 辞書、文法規則、多義性、比喩、慣用句、視点の切り替え	大橋理枝(放送大学准教授)	大橋理枝(放送大学准教授)
6	音声認識と音声合成	言語による伝達の媒体となる言語音について概説し、音声、音韻、音節、音素、母音、子音などについて簡単に説明する。 自然言語処理の一例として、音声認識と音声合成を取り上げ、その具体的な手法の一端を紹介し、言語音の物理的特徴のどのような点が、言語音の弁別の中核を成しているかを示す。 【ポイント】特徴を抽出する 【キーワード】 音声、音韻、音節、音素、母音、子音、フォルマント、わたり音、アクセント、イントネーション、特徴抽出	杉浦克己(放送大学教授)	杉浦克己(放送大学教授)

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
7	文字認識	言語による伝達の媒体としての文字について概説し、文字の形についての視点である字形、字体、書体、などについて説明する。 自然言語の一例として、コンピュータで"文字"を扱う技術の基礎と文字認識技術の発達を概説する。いわゆる文字コードの基本的な考え方と経緯・現状について概説する。静的な図形としての文字の認識と、動的な行為としての文字(今書かれている文字)の認識の質的な違いを取り上げ、自然言語処理には分析対象そのものの特徴を扱う静的な手法と、対象の変化をとらえる動的な手法があり得ることを示す。 【ポイント】コード体系、変化をとらえる。 【キーワード】 字形、字体、書体、文字コード、図形認識、筆勢、筆圧、静的認識、動的認識	杉浦克己(放送大学教授)	杉浦克己(放送大学教授)
8	形態素解析	ことばの"意味"をとらえる基本的な考え方を示し、意味を表す最小の単位としての形態素について概説する。 自然言語処理の一例として、形態素解析の具体的な手法を概説し、ことばと意味の関係をとらえる処理のごく基本的な考え方と解析方法の実際例を提示し、併せて形態素解析技術の応用可能性について紹介する。 【ポイント】要素に分解する 【キーワード】 形態素、意義素、慣用句、最長一致、辞書、活用形、自立語、付属語	杉浦克己(放送大学教授)	杉浦克己(放送大学教授)
9	構文解析	意味理解のための第一歩の例として、形態素相互の関係をシソーラスのような形態で記述することを概説する。 実際の言語行動は、形態素の単位ではなく、文の単位で行われる。ことばを形態素という要素まで分解して分析することができただけでは不十分であり、形態素が一定のきまりに従って連なった文の単位での処理が不可欠である。文の構造やその生成は、どのような点に着目すれば可能になるのかを、構文解析の具体的な手法の一端を例として概説する。 【ポイント】要素相互間の関係を記述する 【キーワード】 シソーラス、文法、語法、構文、句構造文法、生成文法、入れ子型構造、逆ポーランド記法	杉浦克己(放送大学教授)	杉浦克己(放送大学教授)
10	文の理解	言語によって伝えられる情報が「わかる」とは、どういうことなのだろうか。自然言語処理の具体的な実例として第6～9回で紹介してきたような技術を総合し、は、言語によって伝えられた情報が「わかる」ということの様々な側面を、自動要約やテキスト生成の技術の実際を紹介しながら考える。 【ポイント】分析を総合する 【キーワード】 テキストマイニング、機械要約、抄録、情報検索、命題生成、	杉浦克己(放送大学教授)	杉浦克己(放送大学教授)

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
11	ニューラルネットワークとは	我々が普段ものを見たり、ことばを用いて会話をしたりするとき、一体脳の中ではどういった情報処理が行われているのだろうか？以降4回にわたり、脳の情報処理モデルについて述べる。そこで、以降3回の準備として、脳の仕組み、およびそのモデルであるニューラルネットワークについて説明する。 【キーワード】 脳の情報表現、神経細胞のモデル、ニューラルネットワーク	秋光淳生(放送大学准教授)	杉浦克己(放送大学教授) 秋光淳生(放送大学准教授)
12	教師あり学習とパターン認識	今までに提案されてきた脳の学習法則を分類すると、例題と解答を用いて学習を行う「教師あり学習」と、出力されるべき解答に関する情報(教師信号)を用いない「教師なし学習」の二つに分類される。今回の講義では、「教師あり学習」の代表例である、「誤差逆伝播型学習則」について説明し、この学習則を用いて機械がパターン認識を行う例を示す。 【キーワード】 教師あり学習　パターン認識、誤差逆伝播学習則、汎化と過学習	秋光淳生(放送大学准教授)	秋光淳生(放送大学准教授)
13	自己組織化学習とクラスタリング	脳は入力に対して期待する出力(教師信号)が与えられない場合であっても、環境に適応するように学習を行っている。この講義では、こういった「教師なし学習」の例として自己組織化学習を取り上げ、説明する。応用例として、パターン分類(クラスタリング)について述べる。 【キーワード】 教師なし学習、トポロジカルマップ、Hebb則、クラスタリング	同上	同上
14	強化学習と行動の決定	強化学習とは、報酬を与えられた場合に、その与えられた報酬をもとにどういう行動をするべきかを学習する仕組みである。このように環境との相互作用をしながら、自分の行動の仕方を決定する、その学習の仕組みについて説明する。 【キーワード】 強化学習、報酬、大脳基底核	同上	同上
15	再び、「情報」とは、「言語」とは、そして「ことば」とは	これまでに扱ってきた内容の復習として、第11章～第14章、第6章～第10章、第2章～第5章、の順に振り返り、ことばが何故通じるかをもう一度考える。 【キーワード】 ことば、情報、伝達、処理、理解	杉浦克己(放送大学教授) 大橋理枝(放送大学准教授) 秋光淳生(放送大学准教授)	杉浦克己(放送大学教授) 大橋理枝(放送大学准教授) 秋光淳生(放送大学准教授)

事務局記載欄	開講年度	平成20年度	科目区分	大学院科目	科目コード	8930333	履修制限	無	単位数	2

科目名（メディア） ＝ 世界の芸術文化政策 （’０８）＝（ＴＶ）

〔主任講師（現職名）：笠原　潔　（放送大学教授）（平成20年10月ご逝去）〕

〔主任講師（現職名）：西村　清和（東京大学大学院教授）〕

講義概要

芸術文化は、一つの民族、一つの文化が生きた証であり、また、後世に多くのことを伝える貴重な文化遺産でもある。そうした芸術文化を現在に活用し、また後世に伝えていくためには、的確な芸術文化政策を採る必要がある。この講義では、そうした芸術文化・芸術文化政策に関する世界の取り組みの現状を紹介しながら、今後、どのような芸術文化・芸術文化政策を創出していくべきかについて考える。

授業の目標

本講義の第1の目標は、芸術文化や芸術文化政策の重要性を受講者に理解させることにある。また、芸術文化を保護・保存し、さらには新たな芸術文化政策を創出していくために、世界では現在どのような取り組みがなされているか、また、芸術文化政策を実際の現場で運用する際にはどのような留意点が生じてくるか、といった点に関する認識を受講生に深めさせることも、本講義の目的である。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	芸術文化政策原論	芸術は、ある民族、ある文化が生きた証であり、人類にとって貴重な文化遺産である。そうした芸術文化の意義、また芸術文化政策の意義について語る。	西村清和（東京大学大学院教授） 徳丸吉彦（お茶の水女子大学名誉教授） 笠原　潔（放送大学教授）	西村清和（東京大学大学院教授） 徳丸吉彦（お茶の水女子大学名誉教授）
2	古代中国音楽論に見る芸術文化政策の諸相	古代中国の音楽論は、実は、芸術文化政策を巡る議論であった。この講義では、孔子・墨子・孟子・「楽記」などの音楽論の紹介しながら、芸術文化政策上の諸問題について考える。	笠原　潔（放送大学教授）	徳丸吉彦（お茶の水女子大学名誉教授）
3	近代日本の西洋音楽教育政策	芸術文化政策の1ケース・スタディーとして、明治以後昭和戦前期までを中心に、日本が西洋音楽をどのように取り入れ、国民教育に利用したかを考えてみる。唱歌のような国家による公的な教育政策だけでなく、校歌、民謡など、幅広い事例をとりあげ、それらの音楽が、人々が近代国家日本の「国民」としての意識や心性を身体化させてゆく上でどのような機能を果たしたかを明らかにしてゆきたい。	渡辺　裕（東京大学大学院教授）	渡辺　裕（東京大学大学院教授）
4	ミュージアムの思想	欧米の博物館では、展示品を展示するだけの従来の展示法を越え、展示品から何を学ぶのかを明らかにするような新しい展示法が試みられている。海外のミュージアムでのそうした試みを実写映像を交えながら紹介する。	笠原　潔（放送大学教授）	徳丸吉彦（お茶の水女子大学名誉教授）
5	アーカイヴの思想	日本に比べて、西洋ではアーカイヴ（文書館）がはるかに充実している。諸資料を集積することによって過去から何を学ぼうとするのか、海外でのアーカイヴ活動の実写映像を交えながら、文化を支えるアーカイヴの意義について考える。併せて、日本のアーカイヴが抱える問題点についても触れる。	笠原　潔（放送大学教授）	徳丸吉彦（お茶の水女子大学名誉教授）
6	資料の保存・修理・測定の科学	芸術文化を支える文化財としては各種の資料があるが、こうした資料を後世に伝えていくためには、保存・修理、さらには測定の科学が不可欠である。この講義では、資料の保存・修理・測定に関わる現場の状況を紹介する。	森田　稔（九州国立博物館学芸部長）	森田　稔（九州国立博物館学芸部長）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
7	無形文化財のドキュメンテーション	芸術文化を支える文化財の中には、無形文化財のように、形のないものもある。そうした文化財をどのように記録し、また、後世に向けて保存していくか、具体的な例に則し、松浦晃一郎ユネスコ事務局長へのインタビューを交えながら紹介する。	徳丸吉彦（お茶の水女子大学名誉教授）	徳丸吉彦（お茶の水女子大学名誉教授）
8	エリート文化と大衆文化	伝統的には、唯一無二のオリジナルな芸術作品を頂点とする高級文化こそを真の文化とし、一般大衆が喜ぶキッチュやオリジナルの大量の複製からなる大衆文化をえせ文化とする価値観が支配的であった。だが現代社会において、はたして文化の真正性とはなにをいうのかを、あらためて考えてみたい。	西村清和（東京大学大学院教授）	西村清和（東京大学大学院教授）
9	写真がもたらした文化変容	1839年に写真が発明されたことで、人類が世界を見る見方が大きく変化し、文化のありようも変容した。写真は、貴族しか持てなかった自己の肖像を一般大衆も持つことを可能にし、いわばイメージ・デモクラシーをもたらしたが、同時に新たな疎外も生み出した。そうした現代映像文化の深層を探る。	西村清和（東京大学大学院教授）	西村清和（東京大学大学院教授）
10	電子メディアが開く美的文化の諸相	インターネットやケータイ、ゲームは、こんにちではわれわれの環境となってしまった。電子メディアに乗って日常的に交換され消費される膨大な量の言葉やイメージや音は、ヴァーチャルな空間に渦巻いている。はたしてそこにはどのような生活環境や美的文化が発生しているのかを考える。	西村清和（東京大学大学院教授）	西村清和（東京大学大学院教授）
11	展覧会の企画から開催まで	芸術文化政策の講義で学んだことの実践への応用の1例として、展覧会の企画から準備、開催に至るまでの過程を実際に即して紹介し、シミュレーションする。	森田　稔（九州国立博物館学芸部長）	森田　稔（九州国立博物館学芸部長）
12	コンサートの企画から上演まで	第11回の講義と同様に、コンサートの企画から準備、上演に至るまでの過程を紹介し、芸術文化政策を実際の現場で実践する際には、どのような視点が必要か、どのような問題が生じるか、などについて考える。	徳丸吉彦（お茶の水女子大学名誉教授）	徳丸吉彦（お茶の水女子大学名誉教授）
13	海外への日本の芸術文化の紹介	今日、海外への日本の芸術文化紹介の試みは、国の機関、民間団体、個人などさまざまなレベルで行われている。また受け入れ側の団体の種類や機能も多様である。日本の伝統音楽の場合を例にして、日本と海外の相互の立場から文化の紹介について考える。	薦田治子（武蔵野音楽大学教授）	薦田治子（武蔵野音楽大学教授）
14	インドネシア、バリ島の芸術文化政策	インドネシアでは、1950年代から、国家の文化指針のもと、バリ島の芸能に対する文化政策がバリ州政府によって進められ、その結果、現在の「バリ芸能」が誕生した。本講義では、インドネシアの社会的背景を踏まえながら、バリ芸能に関する文化政策の内容やその過程について論じる。	梅田英春（沖縄県立芸術大学准教授）	梅田英春（沖縄県立芸術大学准教授）
15	新しい芸術文化政策の創出	全15回の講義のまとめとして、今後どのような新しい芸術文化政策を創出していくべきか、これまでの講義の内容を踏まえてそれぞれの視点から提言する。	西村清和（東京大学大学院教授） 徳丸吉彦（お茶の水女子大学名誉教授） 笠原　潔（放送大学教授）	西村清和（東京大学大学院教授） 徳丸吉彦（お茶の水女子大学名誉教授）

科目名（メディア）＝　文化政策の展開（‘０７）＝（Ｒ）
—芸術文化の振興と文化財の保護—

〔主任講師（現職名）：根木　昭（東京芸術大学教授）〕

講義概要

総論として、文化政策学の体系、文化政策の意義、基礎となる事項、一般的な構造、法制と予算を概観し、本講義で主たる考察対象とする芸術文化の振興、地域文化の振興、文化財の保護に関し、その意義と一般的な枠組みについて把握する。各論として、国による芸術文化活動の支援、国立文化施設の設置・運営、地域文化活動の支援、地域文化施設の設置・運営、文化財をめぐる国際的な動向、文化財の新たな類型である文化的景観について考察する。最後に、21 世紀における文化政策の新たな方向性を提示する。

授業の目標

授業の目標は、次の 6 点に要約される。①文化政策学の「学」としての体系を把握する。②文化政策の意義、一般的な構造等の基本的な事項を押さえる。③芸術文化振興の意義と一般的な枠組み、現状の把握と今後の在り方を考察する。④地域文化振興の意義と一般的な枠組み、現状の把握と今後の在り方を考察する。⑤文化財保護の意義と一般的な枠組み、国際的な動向、文化的景観の価値について考察する。⑥以上を総括し、今後の文化政策の新たな方向性を探る。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	文化政策学の体系 —その視点と枠組み、隣接分野との異同—	文化政策学を、学問の一領域（discipline）として、どのような視点から、どのような体系のもとに、その対象と範囲を把握するか。文化政策学が提唱されるに至った経緯を踏まえ、かつ隣接学問分野である文化経済学、文化経営学（アートマネジメント論）とも比較しながら、総括的に考察する。	根木　昭（東京芸術大学教授）	根木　昭（東京芸術大学教授）
2	文化政策の意義 —その性格と特質—	文化政策は、他の政策分野に比し、どのような性格を持っているか。文化政策の主体、民間との相互連携の必要性、行政的側面における規制行政と給付行政との二重性、給付行政の面に現れる行政作用の特殊性など、文化政策の特質を、文化芸術の人間社会における役割を踏まえて考察する。	根木　昭（東京芸術大学教授）	根木　昭（東京芸術大学教授）
3	文化政策の基礎 —その背景、形成過程と評価—	文化政策の背景をなしているものは何か。また文化政策の形成過程はどのようにとらえられるか。今日の文化政策の背景として考えられる 4 つの事項を整理するとともに、政策形成の一般的プロセスを踏まえ、国（文化庁）・地方公共団体の文化政策の形成過程と評価について眺める。	根木　昭（東京芸術大学教授）	根木　昭（東京芸術大学教授）
4	文化法制と文化予算—法制の体系と予算の構造—	文化法制の体系、文化予算の構造は、どのようになっているか。文化法制については、その全体像を整理し、体系的に把握するとともに、文化芸術創造享受権について考察する。文化予算については、主として文化庁の予算を中心に、その構造を把握するとともに、諸外国の文化予算とも比較する。	根木　昭（東京芸術大学教授）	根木　昭（東京芸術大学教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
5	文化芸術振興基本法と文化振興条例―文化政策の法的基礎―	文化芸術振興基本法、文化振興条例は、どのようなものであろうか。文化芸術振興基本法の全体の構成と制定の意義、文化芸術振興の基本理念の構造、第一次基本方針の性格と構成の概要等について理解するとともに、地方公共団体の文化振興条例と文化計画の相互関係、制定・策定の状況を眺める。	根木　昭（東京芸術大学教授）	根木　昭（東京芸術大学教授）
6	芸術文化の振興―その意義と一般的な枠組み―	芸術文化振興の意義と一般的な枠組みは、どのようにとらえられるか。文化政策の中における「芸術文化」の位置付けを確認し、支援行政としての側面を把握するとともに、その一般的枠組み（芸術活動の基盤の整備、奨励・援助、場の確保、芸術家等の育成、国際交流の推進）を把握する。	根木　昭（東京芸術大学教授）	根木　昭（東京芸術大学教授）
7	地域文化の振興―地域社会と地域文化振興の進展―	今日、地域文化の振興は、地域の固有文化を核とした地域振興へと変わりつつある。地域文化活動が活発化した原因とその背景、住民の動きと国・地方公共団体等行政側の施策の取組みとその意義を把握するとともに、現在地域が置かれている状況と照らし合わせながら、地域文化の振興策を探る。	枝川明敬（東京芸術大学教授）	枝川明敬（東京芸術大学教授）
8	文化財の保護―その意義と一般的な枠組み―	今日、文化財は、地域の経済社会を活性化させる有力な手段として大きな期待が持たれている。文化財の概念を明らかにし、文化財保護の歴史を跡付けるとともに、文化財保護法の誕生とその後の進化を把握し、現行制度における文化財の対象、内容、体系、手法を理解し、今後の方向性を探る。	垣内恵美子（政策研究大学院大学教授）	垣内恵美子（政策研究大学院大学教授）
9	国による芸術文化活動の支援―支援行政の実態とあり方―	国による芸術文化の振興施策の中で特に重要な芸術文化活動の支援行政は、どのようになっているか。国（文化庁）の文化芸術創造プラン、独立行政法人日本芸術文化振興会の芸術文化振興基金、民間のメセナ活動による支援を概観するとともに、今後の支援に関する包括的な枠組みのあり方を考察する。	根木　昭（東京芸術大学教授）	根木　昭（東京芸術大学教授）
10	国立文化施設の設置・運営―国立劇場・国立博物館・美術館等―	国立文化施設の設置・運営は、設置者行政として現れるが、平成の行政改革に伴い、その母体は、今日すべて独立行政法人となった。このような国立文化施設の設置・運営の意義を確認するとともに、各国立文化施設について、その目的を踏まえた上で、それぞれの具体的な事業内容を把握する。	根木　昭（東京芸術大学教授）	根木　昭（東京芸術大学教授）
11	地域文化活動の支援―国と地方公共団体の役割―	地域文化活動の支援は、基本的には地方公共団体の責務であるが、国としても、一定の文化水準の維持を図る観点から、全国的な規模や視点で行うべき事業もある。地域文化活動支援の根拠を探るとともに、国と地方公共団体の機能分担、現実の支援策について眺め、今後の方向性について考察する。	枝川明敬（東京芸術大学教授）	枝川明敬（東京芸術大学教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
12	地域文化施設の設置・運営—文化会館と博物館・美術館—	地域文化施設としては、文化会館、博物館・美術館がある。文化会館は、音楽、演劇、舞踊、オペラ等の舞台芸術の上演可能な施設である。博物館・美術館は、社会教育施設であるとともに文化施設でもある。これら文化施設の実態と課題について眺め、併せて、指定管理者制度についても考察する。	枝川明敬(東京芸術大学教授)	枝川明敬(東京芸術大学教授)
13	文化財保護をめぐる国際的な動向—世界遺産条約、無形遺産条約と文化多様性条約—	今日、文化財は、広く人類共通の遺産として、保護されるべきことが認識されるようになり、そのための条約として、ユネスコの世界遺産条約、無形遺産条約及び文化多様性条約が締結されている。この三条約について、誕生の経緯、その意義と一般的な枠組み、今後の課題と方向性を探る。	垣内恵美子(政策研究大学院大学教授)	垣内恵美子(政策研究大学院大学教授)
14	文化財の新たな類型—文化的景観—	文化的景観は、世界遺産条約における文化遺産の概念の拡大を踏まえ、国内的には、景観法と足並みをそろえて誕生した新たな文化財の類型である。景観概念の発展を見た上で、国際的な動向と景観法の枠組みを確認し、文化的景観の現状と定量的な評価の可能性を探り、その社会的価値を考察する。	垣内恵美子(政策研究大学院大学教授)	垣内恵美子(政策研究大学院大学教授)
15	文化政策の今後の方向—21世紀の新たな文化政策を目指して—	今後における文化政策のあり方は、どのように考えるべきか。文化政策の背景にある普遍化と個性化の二つの方向を押さえるとともに、中核領域の一層の深化、関連領域への関わりの必要性、教育・経済・民間との関係の強化などを踏まえ、今後、総合文化政策として構築していく必要性を提示する。	根木昭(東京芸術大学教授)	根木昭(東京芸術大学教授)

事務局記載欄	開講年度	２０１０年度	科目区分	大学院科目	科目コード	8960550	履修制限	有	単位数	2

科目名（メディア）＝　生命環境科学Ⅰ　（’１０）＝（ＴＶ）

－生物多様性の成立ちと保全－

※この科目は「生命環境科学Ⅰ（’０５）」を一部改訂した科目です。

改訂回は第9, 10, 11, 14, 15回です。

〔主任講師（現職名）：松本　忠夫（放送大学　教授）〕

講義概要

生命体は様々な地球環境のもとで、おそらく40億年近くかけて進化してきたが、その結果として、今日の大きな生物多様性が見られる。そのような多様な生命体の姿は、ゲノムの中の遺伝情報が表現型として表れたものである。本講義では、遺伝情報がどのようにして進化史の中で改変し、また現実にどのように発現されて多様化しているのかを環境との対比で見る。さらに、野外自然における生物多様性の調査法を解説する。そして、人間活動が生物多様性の減少に大きく影響している現代の様相を概観し、生物多様性の保全策について考察する。

授業の目標

自然環境科学における重要な概念としての生物多様性とは何か、いかにして成立したか、そしてそれを保全するにはどのようなことを行わなくてはならないかについて、大学院生としての知識を学んでもらう。

履修上の留意点

本講義を履修するにあたっては、学部での基礎科目の「初歩からの生物学」を履修しておくこと、あるいは同水準の生物学を既習していることが望ましい。また、学部での共通科目の「生物集団と地球環境」、専門科目の「動物の科学」、「植物の科学」、「分子生物学」、「細胞生物学」、「生物界の変遷」そして総合科目の「バイオサイエンスで豊かな暮らし」は、生物科学関係の関連した科目として設置されているので、できるだけ参考にして欲しい。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	「生命環境科学I」のねらい、生物多様性について	今日の生物の多様性が生じた理由は実にさまざまであるが、特に大きな理由として無機環境への適応性、生活資源の獲得力、そして生物間の相互作用がある。それらに関しての様相を概観し、本講義全体のねらいを解説する。 【キーワード】	松本　忠夫（放送大学教授）	松本　忠夫（放送大学教授）
2	様々な生物社会とその成立メカニズム	生物は多かれ少なかれ、同種個体が集団（群れ、群落、コロニーなど）を形成して生活しているものが多い。そのような集団を社会と見ることができるが、いかなる理由でそれらの社会が成立しているのかについて、特に環境との関連で説明する。 【キーワード】	松本　忠夫	松本　忠夫
3	植物の多様な繁殖様式と、動物との関係	植物では、動物とは個体性が大きく異なり、動物にはみられない多様な性表現が存在する。ここでは、被子植物にみられる性表現と受粉様式の進化を解説するとともに、それには動物の影響が大きかったことを紹介する。また、植物が動物からの摂食に耐えるためのさまざまな適応戦略を説明する。 【キーワード】	松本　忠夫 大原　雅（北海道大学大学院教授）	松本　忠夫 大原　雅（北海道大学大学院教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
4	動物の多様な繁殖様式	通常の動物は有性生殖を行うが、中には単為生殖、多胚生殖、幼形生殖などを行うものがいる。また、親による子の保護様式と関係して、卵生、卵胎生、胎生などが見られる。さらに哺乳類では雌親による授乳が発達している。本章では、このように多様な動物の繁殖様式を説明する。 【キーワード】	松本　忠夫	松本　忠夫
5	植物の発生と環境適応	植物は固着生物なので、環境に対して柔軟に適応する能力が進化の過程で発達した。中でも植物の生活を支えている光合成に関しては、環境適応が必須のため、光合成器官である葉の発生は、外界の環境に適応して実に大きな可塑性を発揮する。葉の発生の可塑性と環境適応との関係について、発生を制御する遺伝子の働きの視点から、現在の理解を紹介する 【キーワード】	塚谷裕一（東京大学大学院教授）	塚谷裕一（東京大学大学院教授）
6	動物の発生と環境適応 (1) 諸事例	動物の中には、発生・発育過程において環境の影響を受けて、その形態や性質が大きく変化するものたちがいる。生存のための環境適応と解釈される。また、繁殖における戦略として性転換をする魚類、さらには昆虫類の環境適応としての多型現象にもふれる。そして、そのような多様な形態や性質をもたらす進化的要因および体内メカニズムについて説明する。 【キーワード】	松本　忠夫	松本　忠夫
7	動物の発生と環境適応 (2) 昆虫の翅形質の例	昆虫類はその進化の中で翅を獲得することで陸上に大きく繁栄できた。しかし、昆虫によっては翅を形成しない種類もいる。一方、チョウ類のように翅の色彩や斑紋が華美であったり、擬態していたり多彩な分類群がいる。ここではそのような昆虫類における翅形成の有無、色彩や斑紋の多様性などが成立するに至った進化的要因および翅形成のメカニズムについて説明する。 【キーワード】	松本　忠夫 三浦　徹（北海道大学大学院准教授）	松本　忠夫 三浦　徹（北海道大学大学院准教授）
8	社会性生物におけるカースト分化	社会性生物は、集団で生活し、その中に少数の生殖者そして多数のワーカーや兵隊など非生殖者といったカースト分化が見られることを特徴としている。そして、陸域において大繁栄している。ここでは動物の社会性について解説する。そして、繁栄の鍵となっているカースト分化がもたらされた進化的要因およびカースト分化の分子生物学的メカニズムについておもにシロアリを例にして説明する。 【キーワード】	松本　忠夫 三浦　徹	松本　忠夫 三浦　徹
9	生態系における微生物の位置	生態系において、微生物によっては一次生産（光合成または化学合成による有機物生産）を行うものがいる。さらに、多くの微生物は、植物や動物由来の有機物を分解する働きをしている。本章では、そのような微生物の存在が、生態系における生物多様性とどのように関係しているかを説明する。また菌類と植物、あるいは菌類とシアノバクテリアとの共生関係に関しても説明する。 【キーワード】	松本　忠夫	松本　忠夫

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
10	地球における生物資源の管理	近世になって世界の人口は爆発的に増加し始めたが、現在でも勢いは衰えず着々と増えている。そして、所得水準の向上もあり、近未来に食料不足や化石燃料由来のエネルギー枯渇が起こることが懸念されている。付随して、地球上の原生的な自然が急速に開発されつつあり、生物多様性の危機がさけばれている。そこで、地球上における生物多様性を保全しつつ、地球上の生物資源を合理的に利用することが強く求められている。 【キーワード】	松本　忠夫	松本　忠夫
11	人工物の生物多様性への影響	人間は生活向上のために、さまざまな人為建造物を作ったりして、生態系を大規模に改変してきた。そして、近年では実に様々な化学物質を作ってきている。しかし、このような人為建造物や人為的に作成された化学物質は、生物多様性にも大きな負の影響を与えている。本章では、その影響の様相および対策について概観する。 【キーワード】	松本　忠夫	松本　忠夫
12	生物環境の調査法(1)陸上生物	植物群落は、陸上の生態系の一次生産を担い、また動物の生息空間の構造を大きく規定している。植物の種組成や種多様性、さらには動物の生息空間としての植物群落の構造を調査するための方法と、その結果の分析法についてまず紹介する。陸上の動物の調査法は、動物の種類に応じた様々な方法が知られているが、ここではその中から鳥類の個体数調査法を取り上げ、解説するとともに、調査結果を植物群落の調査結果と対応づけるやり方についても概観する。 【キーワード】	加藤　和弘（東京大学大学院准教授）	加藤　和弘（東京大学大学院准教授）
13	生物環境の調査法(2)水界生物	水界にも多様な生物が生育・生息しており、その調査方法は生物の種類に応じて異なる。ここでは河川での生物調査を念頭に置き、一次生産の主体である付着藻類と、調査が比較的容易で環境指標性も高い底生無脊椎動物の調査方法について説明する。さらに、そのような調査によって得られたデータを分析して、種多様性の数値化や生物相の地点間での比較、さらには生物の生息環境の善し悪しの評価を行う手順についても解説する。 【キーワード】	加藤　和弘	加藤　和弘
14	外来種の生物多様性への影響	近代の世界では、他地域からの生物が、意図的あるいは非意図的に導入されるが、それらの中で、新しい場所に居着いたものは外来種とよばれる。世界のあちこちで非常に多数の生物が導入された結果として、在来の生物相を圧迫する種が出現し、それらの外来種のために、生物多様性が急速に変化しつつある。本章では、その典型的な例を知るとともに、生物多様性保全のための施策について概観する。 【キーワード】	松本　忠夫	松本　忠夫
15	生物の絶滅問題と生物多様性の価値	現在の地球における生物多様性（生態系、種、遺伝子それぞれの多様性）に対しての人為の影響はたいへん大きい。そして、近代では非常に多数の生物が絶滅し、現在も絶滅の危機に瀕している生物が多い。特に熱帯多雨林域における森林群集全体の喪失は、生物多様性を一気に著しく減少させてしまうので重大問題である。ここでは、そのような生物絶滅の様相を説明し、絶滅をくい止める方策について、また、生物多様性の価値についても改めて考える。 【キーワード】	松本　忠夫	松本　忠夫

事務局記載欄	開講年度	平成20年度	科目区分	大学院科目	科目コード	8920257	履修制限	有	単位数	2

科目名（メディア） ＝ 生命環境科学Ⅱ （’０８）＝（ＴＶ）

－環境と生物進化－

※この科目は「生物環境科学Ⅱ（’06）」を一部改訂した科目です。
改訂回は1，5，6，7，8回です。

〔主任講師（現職名）：星　元紀（放送大学・教授）〕

〔主任講師（現職名）：二河　成男（放送大学准教授）〕

講義概要

生物の個体にとっては，自分自身を除くすべては環境である。このような意味における環境と生物の相互作用を軸として，生物の進化を総合的に考えることにする。

授業の目標

生物と地球環境は、互いに作用しあいながら、進化の過程を通じて現在のような姿になっていること、同じような関係が個体内や、細胞内にも認められることとを学ぶことによって、生物進化と環境との関わりを、分子から生物種間の関係にわたる広い観点から理解することを目指す。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	生物にとって環境とは何か（**※改訂回**）	「環境と生物進化」を考えるための序章として，生物にとっての環境とは外界の物理化学的自然環境だけではなく，細胞内の環境，生体の内部環境，さらには同種他個体や異種生物との直接的間接的な相互作用等があることを紹介する。ついで、環境との関わりにおいて生物進化を概観する。	星　元紀（放送大学・教授）	星　元紀（放送大学・教授）
2	原始地球環境と化学進化：生命誕生への第一歩	地球は今から45億5000万年前に誕生した。原始地球環境で無生物的に有機物が合成され、蓄積した有機物を基に生命が誕生した。こうした過程を概説するとともに、当時の生態系特に海底熱水系についても述べる。	山岸 明彦（東京薬科大学教授）	山岸 明彦（東京薬科大学教授）
3	生命の起源とRNA	生命誕生間もない頃の原始的な生命体はいったいどのような物であったか。有力な説の1つにRNAワールド仮説がある。この仮説では、原始的な生命体を形づくっていた物 質は主にRNA分子であり、現在ではDNAやタンパク質が担う遺伝情報や触媒機能といった生命活動の基礎を、生命の起源の頃はRNAが担っていたとする。その根拠について解説する。	二河成男（放送大学・准教授）	二河成男（放送大学・准教授）
4	極限環境での生物の生存戦略	さまざまな極限環境、たとえば100℃以上の高温、低温、高圧、酸性、アルカリ性等に、生物とくに微生物が生育している。微生物がこれらの環境に適応するためのさまざまな戦略を解説する。	山岸 明彦（東京薬科大学教授）	山岸 明彦（東京薬科大学教授）
5	細胞の出現（**※改訂回**）	細胞は生物を構築する基本単位であるとともに，機能分子にとっては環境としての意味をもっている。細胞の起源とその構造と機能について述べる。	星　元紀（放送大学・教授）	星　元紀（放送大学・教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
6	分子状酸素の増加(※改訂回)	原始地球上には酸素分子は乏しかったが，水分解型の光合成生物が出現したことによって，大気中のその濃度が上昇した。酸素濃度の上昇が生物進化に与えた影響について概説する。	星 元紀(放送大学・教授)	星 元紀(放送大学・教授)
7	真核細胞の出現(※改訂回)	生物全体の系統進化を概観した後に，種類の異なる原核細胞が共生しあうことによって真核細胞は生まれたとする共生説の根拠を紹介しつつ，ミトコンドリアおよび葉緑体の起源と進化について述べる。	星 元紀(放送大学・教授)	星 元紀(放送大学・教授)
8	多細胞生物の出現(※改訂回)	単細胞生物から多細胞生物が進化してきた道筋を考察するとともに，多細胞生物を構成する細胞は内部環境の恒常性と他細胞との情報交換によって、個体としての整合性が維持されていることを紹介する。	星 元紀(放送大学・教授)	星 元紀(放送大学・教授)
9	発生の場としての細胞環境	生物の発生において個々の細胞は周囲の環境からの情報を受容して分化する。環境要因としては細胞外基質や分泌因子などが重要であり、その作用機構の解明が進んでいる。この講義では発生における細胞環境や幹細胞の環境(ニッチ)について概説する。	八杉 貞雄(帝京平成大学教授)	八杉 貞雄(帝京平成大学教授)
10	生物の大進化と地球環境	生物の進化が環境要因の影響下におこることはいうまでもない。環境の影響は発生中の生物にとっても重要であり、近年は環境を通した発生と進化の密接な結びつきが明らかになりつつある。この講義では、進化、発生、環境の全体像について概説する。	八杉 貞雄(帝京平成大学教授)	八杉 貞雄(帝京平成大学教授)
11	寄生:異種生物という環境における生存戦略	寄生者にとっては、宿主生物の体内が生きていく環境である。寄生者と宿主の間にみられる高度な相互作用、そして巧妙な駆け引きや生存戦略について学び、理解を深める。	深津 武馬(産業技術総合研究所研究グループ長)	深津 武馬(産業技術総合研究所研究グループ長)
12	内部共生と進化	密接な生物間相互作用のもとに成り立つ「内部共生」と、それにともなう相互依存関係の発展としてとらえられる生物進化について、多様な実例に沿いつつ紹介し、その本質と帰結について考察する。	深津 武馬(産業技術総合研究所研究グループ長)	深津 武馬(産業技術総合研究所研究グループ長)
13	環境とゲノム	ゲノム維持機構は、環境ストレスから生物を守るとともに、様々な環境に適応する多様な生物種を生み出す原動力にもなっている。このシステムを支える分子の働きを解説する。	三谷 啓志(東京大学教授)	三谷 啓志(東京大学教授)
14	生物集団の個体数変動	生物の数の多さ少なさ、変動性・安定性などはどのように決まっているのかについて紹介し，それが生物進化に果たす役割について解説する。	宮下 直(東京大学准教授)	宮下 直(東京大学准教授)
15	生物種間の相互作用と進化	自然界で生物種どうしは競争・捕食・寄生・共生など相互に作用し合いながら共存しており，これが生物の多様性を生みだす原動力となっている。ここでは生物間相互作用の実態と，それが生物の多様化に果たす役割について概説する。	宮下 直(東京大学准教授)	宮下 直(東京大学准教授)

科目名（メディア）＝　複雑システム科学（‘０７）＝（TV）

〔主任講師（現職名）：生井澤　寛（放送大学教授）〕

講義概要

自然科学、特に物理学は、自然の理解にあたって、構成要素や基本的・普遍的な原理の追究を、ときには理想化や単純化をしながら行ってきた。こうして我々は、通常見る物質が、原子・分子から成り、それらが、電子、陽子、中性子などの素粒子から成り、素粒子はさらに･･･と言うように階層性を持つ構成要素とそれらの相互作用を発見し、ミクロな世界だけでなく、宇宙の生成に至るまでの自然の様々な様相の理解にかなりの成功を収めたし、いまでも同様のやり方で探求を続けている。

では、例えば空気が主に窒素、酸素と水の分子からなることを知って、台風がどうして、どこに、いつ発生し、どういう運動をするかを理解できるだろうか。これは決して易しい問題ではない。まず問題を難しくするのは、分子の数が膨大であることによる複雑さのほかに、海流、海水から太陽熱を吸収して蒸発する水蒸気と上昇気流、雲の生成消滅等、熱平衡にない（非平衡）状態、エネルギーや物質の出入りがある状況（開放系という）、さらに無数の雲の渦の生成消滅と非線形な相互作用が絡むからである。非線形な作用があれば、要素の数が少なくても、運動には本質的な複雑さが生ずるし、加えて、開放系で非平衡状態であるために、複雑さは増す。にもかかわらず、いつか無数の渦の中のどれかが成長して台風という形（形態形成）を取り、一つの存在として発達しながら（自己発展・自己組織化）動き始める。

実は良く見れば、我々が日常見るほとんどのもの（生命・生物と進化、乱れた水の流れ、気象など）が、この様な複雑システムであり、ものの変化や秩序の形成は非平衡性、非線形性によって動かされている。これらの様相を、「木（構成要素）もみながら森（全体）も見る」と言う見方で探求し、自然や社会現象、経済活動などを理解する手がかりを得ようと言うのがこの科目のねらいである。

授業の目標

複雑システムの示す複雑さの要因とそれから生まれる多様な可能性を理解することによって、自然現象を総合的に探求する姿勢を養う。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	複雑さは何から生まれるか	マクロな系は、分子数が多すぎてとても個々の分子の運動まで追跡できない典型的な複雑システムである。しかし、温度とエントロピーを導入し、体積や圧力、成分比など、系のマクロな変数の振る舞いに限定すれば、熱力学は、平衡状態の間の普遍的な振る舞いを記述し、系の変化の方向の予測を可能にする。この熱力学をお手本にして、複雑システムに共通の普遍性を探ることが、複雑システム科学の目標である。 そこで、この講で複雑さが何から生ずるかを具体的に見て行こう。まず、熱力学の対象でもある相変化にともなう臨界現象には、マクロに成長するゆらぎが共通し、スケール普遍性やフラクタル性が現れる。エネルギーや物質が出入りする開放系では、必然的に非平衡状態が生まれ、複雑さを誘起する。また、２重振り子のように簡単な系での複雑性は非線形性による。さらに、相互作用や構造の階層性・複雑さ、それに系の不安定性、緩和時間と時空条件の変化の差も複雑性の産み手であることを見る。	生井澤　寛（放送大学教授）	生井澤　寛（放送大学教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
2	複雑さから何が生まれるか	前講で見た複雑さを産むものから、どのように複雑さが出現するかを見よう。非線形性による複雑さの代表はカオスである。ここではまず、上田により非線形電気回路で最初に発見されたカオスを紹介し、カオスの性質・可能性について考える。そして、カオスにも見られる自己相似性がもたらすフラクタル性とスケール不変性、臨界現象について見て行く。これらの性質が、経済現象にどう現れ、どう予測につながるかを専門家にインタヴィューしてお話を伺う。	生井澤　寛	生井澤　寛
3	準結晶：複雑さの中の美しさ	19世紀以来の古典結晶学では、原子を秩序正しく並べる方法は原子を周期的に並べて結晶にすることだけであると信じられてきた。しかし、1980年代に この常識を覆す準周期タイリングをモチーフとする準結晶の発見があった。準周期性、非結晶学的回転対称性、自己相似性、高次元結晶学など、原子が構成する複雑構造である準結晶の秘密を探る。	堂寺　知成（近畿大学教授）	堂寺　知成（近畿大学教授）
4	複雑分子：秩序構造の建築家	ソフトマター、複雑流体（界面活性剤、脂質、液晶、ブロック共重合体）の領域では、複雑な分子が自己組織化（ボトムアップ）的にメソスケールの秩序構造 を作ることが知られている。分子の複雑さが作る新しい多様な秩序という観点で従来の研究を概観し、複雑性と多様性の意味を議論する。さらに複雑性を増す ように分子をデザインすることでアルキメデス・タイリング、ケルビン多面体などの構造が生成される。	堂寺　知成	堂寺　知成
5	共連続相：ミクロ世界のラビリンス	さまざまな物質、生命系では2種以上の物質が複雑に入り組んだ共連続相とよばれる構造が現れる。とりわけソフトマター系では数学的に周期的極小曲面とよばれる種々の周期的な共連続構造が自己組織化する。幾何、物理、化学、生物、工学の境界領域で発展してきた共連続相の研究を概観し、シミュレーションで 構造形成を観察する。	堂寺　知成	堂寺　知成
6	ダーウィン進化機構	ランダム突然変異と自然淘汰に基づくダーウィン進化機構は、ラマルク進化機構と異なり、分子生物学セントラルドグマや物理化学と整合性がある。それはまた、生物進化のみならず、一般的な複雑な系の最適化問題・学習問題の解法でもある。	伏見　譲（埼玉大学教授）	伏見　譲（埼玉大学教授）
7	分子を進化させるI	ダーウィン進化機構を試験管の中のDNAやRNAに適用すると、ランダムな塩基配列の分子集団から出発しても、高機能な分子が速やかに進化してくる。これは情報の物理的起源と言うべきものである。また、物質の自己組織化現象の極致ともいうべき生命の起源に関する、RNAワールド仮説を支持するものである。	伏見　譲	伏見　譲

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
8	分子を進化させるII	ダーウィン進化機構を試験管内の蛋白質に適用しようとすると、遺伝子型／表現型対応付けの問題を解決する必要がある。この対応付けのウイルス的戦略は1分子の進化に対しては細胞型戦略より効率が良く、生命の起源においてウイルスが果たした役割に示唆を与えている。	伏見　譲	伏見　譲
9	粉体とは何だろうか：砂は流れるか	砂の様に巨視的な大きさを持ち、粒子間斥力とエネルギー散逸が重要な物体を粉体と言う。実験室での砂やガラスビーズの振る舞いから、砂丘の運動、雪崩、地震までも含めて紹介し、その物理の可能性を探る。	早川　尚男（京都大学教授）	早川　尚男（京都大学教授）
10	粉体の振る舞い：経験則として何が知られているか	粉体の特徴や統計則を幾つか紹介する。粉体の粒子間の衝突で散逸を表現するはねかえり係数は、高校で習ってきたのとは異なり、衝突速度や角度に強く依存する。また、粉体を積み上げると力は一様に伝播せずランダムな鎖状に力が伝わる。また粉体が流れる時には普通の流体ではストレス(接線応力)とずり速度が比例するのに対して、ストレスはずり速度の2乗に比例する(バグノールド則)。また空中に分散した状態でも一様状態は不安定でクラスター化していくという現象やその法則性を紹介していく。	早川　尚男	早川　尚男
11	粉体をどう記述するか	未だに粉体を統一的に物理的に記述する方法はない。そのうち、シミュレーション法や、応力鎖に関する理論的手法、ガス状態の記述とその連続体方程式を用いて、バグノールド則に関する簡単な説明を紹介する。	早川　尚男	早川　尚男
12	複雑さを生み出す基礎	＊相転移と臨界点：対称性の破れ、イジング模型と二元合金の模型、平均場近似、液相気　相転移と臨界点 ＊量子系の相転移：ミクロな系と量子力学、量子多体系、量子融解転移	今田　正俊（東京大学教授）	今田　正俊（東京大学教授）
13	空間構造と時間構造の発生	＊空間構造:欠陥と秩序の破壊、複雑な周期性を持つ秩序 ＊非平衡ダイナミックス：非平衡状態からの緩和、スピノーダル分解・核形成 ＊自己組織化	今田　正俊	今田　正俊

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
14	強相関量子系	＊量子相の多様性と複雑性：多電子系、多原子系、物質の性質の多様さ ＊強い相関・ゆらぎと階層構造	今田　正俊	今田　正俊
15	複雑さの他の例とまとめ：複雑システム科学の可能性	複雑さは、訳の分からないものをもたらすだけでなく、秩序や組織、新しい構造も産み出す。非平衡・開放系の簡単な例では、エネルギー散逸や粘性によりきれいな渦（ベナール対流）が生まれたり、化学反応の時空構造が自発的に生ずる（ベルーゾフ・ジャボチンスキ反応）。脳の働きも、複雑システムとしてだんだん把握できてきている。受精卵からの発生や、細胞・機能分化も、制御された実験の進化で、複雑な仕組みが解きあかされてきている。ここでは、この生物化学の進歩を、専門家に伺う。そして、まだ進化の途中にある複雑システム科学の可能性について考えて行く。	生井澤　寛	生井澤　寛

事務局記載欄	開講年度	２００９年度	科目区分	大学院科目	科目コード	8960500	履修制限	無	単位数	2

科目名（メディア）＝　物質環境科学　（’０９）＝（ＴＶ）

〔主任講師（現職名）：濱田嘉昭（放送大学教授）〕

〔主任講師（現職名）：秋鹿研一（放送大学特任教授）〕

講義概要

物質の変化を分子レベルのミクロの視点で捉えることにより、環境問題を真に理解することができる。最初の4章で物質の循環、化学結合、反応、分析などの基礎的事項を学ぶ。次の2章で環境分析、未利用資源の利用、さらに続く2章で大気環境の観測や現象など、いわゆる環境化学的な事項を学ぶ。引き続く5章では環境を乱しながらも文明の発達の源泉であった産業活動との関連、そこでの対応技術を学ぶ。最後の2章では環境問題への対策活動、将来への展望などをまとめる。

授業の目標

「物質環境科学Ⅱ（仮）」では、エネルギー、エントロピーを切り口としたマクロの話題を取り上げる予定であり、本教科では、環境問題を考えるときのミクロの視点、主として化学的視点について論じ、専門家養成ではない一般の受講生（視聴者）にも分かる内容とする。基礎的な化学的素養は学部の教科目を前提とするが、重要な点を講義の前半において要約する。通信指導に関わる8章程度までは、入門あるいは基礎的事柄とする。

履修上の留意点

環境問題をミクロの視点から理解すると共に、その背景として理解の道具となる基礎的な化学を学ぶ。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	物質の循環と移動	環境問題を考える上で、自然環境における物質の循環と移動、それに伴う物質の変化、状態の変化を全体として把握しておくことは基本的に重要である。地球上の生命に関わる代表的な物質を例に挙げて、物質循環の姿を要約すると同時に、それらの循環と移動を起こしている原因となる力についても把握しておく。 【キーワード】システム、環境、相互作用、水、炭素、窒素、マクロとミクロ	濱田嘉昭（放送大学教授）	濱田嘉昭（放送大学教授）、秋鹿研一（放送大学特任教授）、鈴木勝久（横浜国立大学教授）、平田誠（大分大学准教授）
2	化学結合と分子間相互作用	分子は原子が化学結合力で結ばれたものである。化学結合にもさまざまな種類があるが、電子を仲介とした原子の結びつきとして統一的に把握しておきたい。マクロの物体はミクロの分子が会合したものであるが、それらはビー玉あるいは小さな鉄の球が単に積み重なったようなものではなく、分子と分子の間に働く分子間相互作用によって、結びついている。これらについて基本的な事柄を理解しておきたい。 【キーワード】化学結合、電子のやりとり、分子軌道、分子間相互作用	濱田嘉昭（放送大学教授）	濱田嘉昭（放送大学教授）、秋鹿研一（放送大学特任教授）
3	化学反応の基礎	分子は光や熱をエネルギーとして、衝突を介して別の分子に変化する。この変化の過程をマクロの立場で理解するのが熱力学であり、ミクロの立場で理解するのが統計力学である。平衡が、前後の分子の性質で決まることを学ぶ。さらに、化学反応の変化の様子を記述する反応速度論、反応機構論を学ぶ。これらの基本的な考え方と扱い方を復習する。 【キーワード】 自由エネルギー、エンタルピー、エントロピー、分配関数、反応速度、活性錯合体、素反応、律速段階	秋鹿研一（放送大学特任教授）	秋鹿研一（放送大学特任教授）、濱田嘉昭（放送大学教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
4	環境分析の基礎	自然環境・生活環境にどのような物質がどの程度に存在するかが、ヒトを含めたさまざまな生物の活動や生態系のバランスに大きく影響する。それを調べるには何らかの観測をして、データを収集する必要がある。検出・測定には、当該の物質に相応しい装置を使用することが重要であり、観測データをどのように処理あるいは評価するかも、環境分析において重要な事柄である。 【キーワード】濃度、分解能、検出限界、ダイナミックレンジ、信号の飽和、誤差	濱田嘉昭（放送大学教授）	濱田嘉昭（放送大学教授）、鈴木勝久（横浜国立大学教授）
5	環境分析の方法と問題点	環境分析に多用される代表的な分析法について、その特徴と適用範囲や限界などを実例に沿って説明する。 【キーワード】 ガスクロマトグラフ、イオンクロマト、マススペクトル、赤外分光器、pH計、XRD	濱田嘉昭（放送大学教授）	平田誠（大分大学准教授）、濱田嘉昭（放送大学教授）
6	未利用物質の有効活用	環境に大きな負荷を与えないように、資源やエネルギーの有効活用が必要である一方、高機能で効率的、あるいは用途に応じた新素材や製品を開発することも重要である。廃棄物の有効利用、リサイクルの事例を紹介し、化学の知識と技術が重要であることを学ぶ。 【キーワード】 植物資源からの化学製品製造、CO_2問題、カーボンニュートラル、醗酵化学、水問題、リサイクル	秋鹿研一（放送大学特任教授）	平田誠（大分大学准教授）、秋鹿研一（放送大学特任教授）
7	大気を構成する物質	地球大気は、N_2, O_2, Arによって体積の99．96%が占められる。その他極微量の気体が存在する。これら微量気体は化学的活性が大きく、 地球温暖化をはじめ大気環境に大きな影響を与える。ここでは、基本的な大気の構造と組成、大気放射過程について述べ、さらに微量成分の生成や消滅反応、輸送過程について解説する。 【キーワード】 微量成分、大気環境、太陽放射、光化学、温室効果ガス	鈴木勝久（横浜国立大学教授）	鈴木勝久（横浜国立大学教授）、濱田嘉昭（放送大学教授）
8	大気環境のモニタリング	大気環境の変動の解明には、大気微量成分の継続的で精度の良い観測が不可欠である。このため現在、実施されているさまざまな観測法を解説し、観測データから得られた大気環境の現状について述べる。ここでは成層圏におけるオゾン層破壊とフロンの規制，対流圏におけるNO_x、VOCによる光化学スモッグを取り上げる。 【キーワード】 分光分析、飛翔体、オゾン層破壊、光化学スモッグ、VOC、環境規制	鈴木勝久（横浜国立大学教授）	鈴木勝久（横浜国立大学教授）、秋鹿研一（放送大学特任教授）
9	環境保全-化学プロセス	企業活動や個人の生活において、必ず出る廃棄物を最小に抑え、排出の場合には有害性を除去することが求められている。どのような対策が採られ、その化学的なメカニズムがどのようになっているかの実例を紹介する。製造プロセスには多段階の反応を組み合わせ、その過程で副生成物が生ずるものも多い。これを1段で完結する触媒反応に変革する努力が行われてきた。硫酸を反応物の1部としたプロセスを酸触媒プロセスに変えた例などを示す。触媒反応の考え方、活性、選択性、触媒の機能について論ずる。 【キーワード】 触媒反応、分子の活性化、触媒機能、合成化学	秋鹿研一（放送大学特任教授）	秋鹿研一（放送大学特任教授）、三谷誠（三井化学㈱触媒科学研究所）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
10	環境保全-エネルギー変換プロセス	現在の日常生活は、エアコン、迅速大量交通手段など、快適な環境維持・空間と時間の利用においてさまざまな文明機器を使用することが前提になり、エネルギーと物質の大量消費を招いている。これらにおける環境対策としてどのような工夫がなされているのかについて、実例を紹介しながら考察する。発電プロセスで生ずる燃焼NOx、自動車エンジンより排出されるNOxの生成機構、それを無害化する触媒の作用を学ぶ。（電力、ガス、自動車産業関連） 【キーワード】 脱硫、脱硝、ディーゼルとガソリンの燃焼の違い、金属触媒、酸化物のレドックス	秋鹿研一（放送大学特任教授）	秋鹿研一（放送大学特任教授）、鈴木勝久（横浜国立大学教授）
11	環境浄化－民生プロセス	身の回りの民生機器、住居などでの環境はどのように守られているか？光分解触媒を塗布した壁、有害物質を分解する触媒付ストーブ、フロンや含塩素化合物を分解固定化するプロセスなどを紹介し、その機能を化学的に解説する。（民生分野関連） 【キーワード】 酸化チタンの光活性化、色素増感太陽電池、フロン分解、吸着、気体と固体の反応	秋鹿研一（放送大学特任教授）	秋鹿研一（放送大学特任教授）、滝田祐作（大分大学教授）
12	機能性物質の創成	望むものと望まないものを分離することは環境保全にとってきわめて重要である。分子のサイズの穴を規則的に有する結晶鉱物であるゼオライトの発展が目覚しい。自然鉱物から合成ゼオライトの発展を探る。さらには吸水ポリマー、分離膜、純水製造などの化学を論ずる。ゼオライトのイオン交換性、酸性、空間制御による触媒機能にも言及する。 【キーワード】 分子ふるい、メソポーラスシリカ、固体酸、分離	秋鹿研一（放送大学特任教授）	秋鹿研一（放送大学特任教授）、西村陽一（元、岐阜大学客員教授）
13	ミクロからマクロへ	マクロの物体は水素結合やワンデルワールス力などの力によってミクロの粒子が集合したものであるが、マクロの物体の性質はミクロの粒子の性質の単純な和ではない。物質世界は小さな要素粒子が結びつき大きな物質系、階層を作ることによって、新たな性質を発現するようになる。ミクロの粒子の集合によってどのような性質が発現するのか、それをいかに利用できるのかについて学ぶ。 【キーワード】相、液晶、超臨界流体、機能性高分子、クラスター、ナノサイエンス、光・電気変換機能	濱田嘉昭（放送大学教授）	濱田嘉昭（放送大学教授）、秋鹿研一（放送大学特任教授）
14	グリーンケミストリー	グリーンケミストリーに関しては、日本化学会などの学協会が世界の動きと連動させて取り組んでいる。化学プロセスを設計するあるいは評価する際に環境負荷や化学物質リスクを最小限にすることを目指すものである。Eファクター、LCAなどのグリーン度評価法について学び、幾つかの実例をもとに有機合成、製薬などの化学プロセスを学ぶ。 【キーワード】グリーンケミストリー、アトミックエコノミー、廃棄物規制	濱田嘉昭（放送大学教授）	濱田嘉昭（放送大学教授）、秋鹿研一（放送大学特任教授）
15	グローバル環境問題を考える	環境に排出される物質、環境の中を循環・移動する物質をどのように管理するかは、経済・産業活動がグローバル化する現在において、人類的な課題である。どのようなシステムが構築されているのか、どのような問題を内包しているのか、将来の展望などを検討する。ミクロの観点からの環境問題について、現状とこれからの対策について総合的に考える。 【キーワード】 環境基本法、大気浄化法、Rhom規制、元素の資源問題、化石資源問題、バイオ燃料問題	濱田嘉昭（放送大学教授）、秋鹿研一（放送大学特任教授）	濱田嘉昭（放送大学教授）、秋鹿研一（放送大学特任教授）、鈴木勝久（横浜国立大学教授）

事務局記載欄	開講年度	平成20年度	科目区分	大学院科目	科目コード	8920249	履修制限	無	単位数	2

科目名（メディア）＝　物質環境科学Ⅱ　（’０８）＝（ＴＶ）

－宇宙・自然システムと人類－

〔主任講師（現職名）：海部　宣男　（放送大学教授）　〕

〔主任講師（現職名）：杉山　直　（名古屋大学大学院教授）　〕

〔主任講師（現職名）：佐々木　晶　（国立天文台教授）　〕

講義概要

地球上の生命、および人類とその文明は、膨張する宇宙で進んだ自然の営みから生まれたものである。地球と生命・人類の創生をもたらし、またその存続を支える物質・エネルギーの源泉とその転化・変遷・循環のしくみは、どのようなものなのか。人類にとっての存続基盤であるさまざまなレベルの環境は、どのようにして生まれ、成り立っているのか。私たち人類文明の基盤とその現在とを物理学的・歴史的視点からグローバルに考察する、全15回の講義である。人類文明はいま存続の可能性すら問われるに至っているが、当面する問題や危機の背後にあるエネルギー・物質の流れや大きな時間・空間にわたるその変遷を踏まえて、宇宙の中の人類とその文明を、現代科学の視点でとらえなおす。

授業の目標

私たちが生き、活動しているこの世界(自然)環境について、その本質と歴史、変化のしくみを物理学・天文学・地球科学にもとづいて全体的・重層的に理解することが、本講義の第一の目標である。そうした自然システムの理解を基盤として、人類が活動する基盤である地球、人類自身の活動がいまや脅かしつつある環境、そして人類と文明の未来について、科学的で長期的な視点をもって深く考えることのできる地球市民の視座を獲得することが、第二の(そして、最終の)目標である。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
1	人類環境と宇宙	本講義の総論である。「環境」についての総合的かつ物理学的な考察を行い、人類とその環境を生み出した基盤が宇宙・地球の運動と歴史にあることを概観し、人類と環境問題の位置づけにふれながら、この講義全体の展望を与える。 【キーワード】 人類環境、生命環境、宇宙環境	海部宣男(放送大学教授)	海部宣男(放送大学教授)
2	宇宙の環境とそこに存在するエネルギー	宇宙の環境とはどのようなものか学び、そこに存在する多様な構造を、多様なエネルギーの存在形態としてとらえる。具体的な内容としては、まず惑星系から銀河、銀河団、宇宙の大規模構造へとまたがる宇宙の多様な構造について見ていく。次に、密度や温度が10桁以上も異なる各々の構造の環境についてまとめる。そして、そのような多様な環境を生み出した、宇宙でのエネルギーを生み出す機構について解説する。 【キーワード】 階層構造、銀河、銀河団、エネルギー	杉山　直(名古屋大学教授)	杉山　直(名古屋大学教授)
3	宇宙における物質生成	ビッグバンの熱的な歴史におけるエネルギーの役割と、そこでの物質の生成について理解する。具体的な内容としては、インフレーションと呼ばれる宇宙初期の莫大な膨張に導かれたビッグバンの誕生から、空間の膨張に伴う宇宙の熱的な環境の進化、そして、そこでの構造の形成について解説する。以上をふまえて、まとめとして地球という人間の生まれた環境が、宇宙全体から見たときにどのように実現しているのかについて述べる。 【キーワード】 ビッグバン、膨張宇宙、構造形成	杉山　直(名古屋大学教授)	杉山　直(名古屋大学教授)
4	恒星進化と物質・エネルギーの流れ	恒星進化を概説し、恒星で起きる元素合成、化学反応とそれらの放出過程を踏まえながら、恒星活動による物質とエネルギーの転換、その銀河系への影響をまとめる。 【キーワード】 恒星進化、元素合成、星周ダスト、質量放出	有本信雄(国立天文台教授)	有本信雄(国立天文台教授)

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
5	超新星による銀河環境への影響	超新星爆発について現在の理解の到達点をまとめ、超新星爆発が銀河系の物質・エネルギー環境にどのような影響を及ぼしてきたかを考察する。わが太陽系の形成において及ぼしたと考えられる影響（物質組成、トリガなど）にも触れる。 【キーワード】 Ia型超新星、II型超新星、化学進化、銀河系	有本信雄（国立天文台教授）	有本信雄（国立天文台教授）
6	星間分子雲からの地球環境の形成	星が生成放出した元素から星間物質、特に多量の氷やシリケイト、有機分子を含む分子雲ができること、さらに星間分子雲から太陽系と地球の形成に至る過程を概説する。また近年の太陽系外惑星の発見と太陽系形成論の新展開を踏まえ、地球の形成までにおこった物質の分別過程・変化について考察し、地球という生命を生んだ環境の成立とその位置を理解する。 【キーワード】 星間分子雲、原始惑星系円盤、惑星形成	海部宣男（放送大学教授）	海部宣男（放送大学教授）
7	太陽	太陽とはどんな星かという概論から始め、ひので衛星の最新の画像により研究の最前線について紹介し、最後に太陽と地球の関係、地球環境への影響について述べる。 【キーワード】 太陽、太陽フレア、太陽黒点、宇宙天気	櫻井　隆（国立天文台教授）	櫻井　隆（国立天文台教授）
8	地球の初期のエネルギー	惑星形成段階から現在に至る地球・惑星のエネルギー史を説明する。惑星集積段階では、微惑星・原始惑星の衝突の運動エネルギーの解放や金属中心核の生成に伴う重力エネルギーの解放により莫大な熱が内部に発生して、マグマの海が形成される。集積が収まると、冷却が進み、マントルが形成され、ウラン、トリウム、カリウムなどの放射性元素が主要な熱源になる。一方で、地表付近や大気では、過去から現在に至るまで、太陽エネルギーが重要な役割を果たしている。 【キーワード】 惑星集積、マグマの海、放射性熱源、太陽エネルギー	佐々木　晶（国立天文台教授）	佐々木　晶（国立天文台教授）
9	地球の物質循環－生命が存在する惑星の維持	地球・惑星の長いスケールの物質循環とその変遷について概説する。地球内部と表層・大気との間の物質循環には、マントル対流や、それに関係する活動が大きくかかわっている。地球ではプレートテクトニクスが重要な役割を果たす。物質循環が、過去どのように変わってきたか、現在はどのような状況にあるか。とくに、水や二酸化炭素の循環について、火星や金星と比較して概説して、なぜ地球だけが生命が繁栄できた環境になったかを議論する。 【キーワード】 物質循環、プレートテクトニクス、生命存在環境、二酸化炭素	佐々木　晶（国立天文台教授）	佐々木　晶（国立天文台教授）
10	地球型惑星の環境のエネルギーバランス	地球型惑星の気候が温室効果と大気大循環のエネルギーバランスのもとにどのように成り立っているのかを、金星・地球・火星を比較しつつ論じる。これらの惑星は大きさ・太陽からの距離・大気量・大気組成・自転速度などが互いに違っており、このことが異なる気候システムを生み出している。 【キーワード】 惑星　気候　温室効果　大気大循環	今村　剛（宇宙航空研究開発機構宇宙科学研究本部准教授）	今村　剛（宇宙航空研究開発機構宇宙科学研究本部准教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
11	生物関連元素の循環—微生物との共進化	地球表層を構成する陸域、大気、海洋を通じての短い時間スケールの物質循環、特に炭素・窒素などの生元素の循環には微生物を中心としたエネルギー獲得系などの生命活動が密接に関与し、現世を含めて地球の環境に大きな影響を与えている。本章では、これらの生元素の循環と地球表層での生命活動との相互作用について具体的な例を挙げながら考察する。さらに生命におけるエネルギー獲得系と地球の進化の関係についてもふれる。 【キーワード】 生元素循環、エネルギー獲得系、微生物	小池勲夫（琉球大学監事）	小池勲夫（琉球大学監事）
12	天体の運動と気候変動	惑星間の重力相互作用により、地球の軌道や自転軸の傾きが長い時間で周期的に変化する。また太陽活動の変動に伴い、地球の受ける太陽放射が変化したり、雲の量が変化することが知られている。これらの変化量はわずかであるが、それから大きな気候変動が生まれる可能性がある。その変動は、地球では海底堆積物や氷床に記録されている。一方で、火星の極冠の縞模様も気候変動の記録と考えられるようになっている。過去の気候変動の事例と、その機構についての最新の知識を説明する。 【キーワード】 ミランコビッチ・サイクル、気候変動、火星の極冠、自転軸傾斜角	佐々木　晶（国立天文台教授）	佐々木　晶（国立天文台教授）
13	地球の環境への生命活動・人間活動のインパクト	地球表層に誕生した生命は様々なプロセスを通じて地球の環境を変え、そのことによって結果的に生命の進化、多様性を導いてきた。ここでは生命活動によって地球表層の大気、海洋、陸域の酸化還元状態などの化学的環境や地形などの物理的環境がどのようなインパクトを受けたか、またそのインパクトがどのような生命の多様性、進化をもたらしたかについて具体的な事例を挙げて解説する。さらに人間活動が地球環境に与えたインパクトについても考察する。 【キーワード】 生命の進化、物理的・化学的環境、人間活動	小池　勲夫（琉球大学監事）	小池　勲夫（琉球大学監事）
14	文明と環境	長い時間スケールで見れば地球環境は激しく変化してきた。その中で人類はわずかな歴史を刻んできたに過ぎないが、厳しい環境を克服するための技術を開拓し、自然の根底を貫く法則を理解すべく科学を発展させて、文明の形態を大きく変化させてきた。その科学・技術文明が逆に人類にとって深刻な環境問題を引き起こすに至った現在の状況を掘り下げて考え、環境を保全しつつ人類活動をいかに進めるかを考えてみたい。今こそ、人類の英知が求められているのである。 【キーワード】 地球変動、環境問題、科学と技術の進歩、環境保全の取り組み	池内　了（総合研究大学院大学教授）	池内　了（総合研究大学院大学教授）
15	宇宙史の中の地球・生命・人類・文明	本講義全体のまとめをかねて、広く宇宙スケールで人類文明の位置を振り返り、文明の存在可能性とも絡めながら現在進行している宇宙文明の科学的探査を紹介し、そうした活動の意義を考える。最後に、現代の人間にとっての環境をどう捉えるべきかを宇宙・地球・生命の視座から見直すとともに、文明をもたらした科学・技術の人類にとっての意味を改めて考える。 【キーワード】 宇宙の中の人類、人類文明、地球市民の環境論	海部宣男（放送大学教授）	海部宣男（放送大学教授）

＝　地球環境科学（‘０５）＝（TV）

〔主任講師：　木村　龍治（放送大学客員教授）　〕
〔主任講師：　藤井　直之（名古屋大学名誉教授）〕
〔主任講師：　川上　紳一（岐阜大学教授）〕

全体のねらい

地球は、大気、海洋、地殻、マントル、核などのサブシステムが集まった一つの巨大なシステムである。地球を構成するサブシステムは構成物質が異なるため、さまざまな時間スケールで変動している。また、現在の地球環境は、46億年にわたる地球の歴史的産物である。地球システム科学の立場から、地球のダイナミクスの研究方法や歴史解読のアプローチを講義し、地球環境と人間の関わりについて考察していく。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	地球システムからみた地球環境	私たちは変動する地球環境の中で生きている。天気の移り変わりや異常気象は、変動する地球環境を身近に感じることができる現象である。気候の変動には数十年から数百年スケールのものから、10万年周期の氷期-間氷期サイクルまである。さらに、プレート運動による大陸の離散集合の歴史は数億年といった長い時間スケールの中で起こる。さまざまな時間スケールで変動する地球環境を理解するには、地球をシステムとして捉える地球システム科学の考え方や研究手法が重要である。	木村　龍治（放送大学客員教授） 藤井　直之（名古屋大学名誉教授） 川上　紳一（岐阜大学教授）	木村　龍治（放送大学客員教授） 藤井　直之（名古屋大学名誉教授） 川上　紳一（岐阜大学教授）
2	地球システムの成立と特異性	地球環境は46億年前の太陽系の形成に始まる長い時間の経過の中で変化してきた歴史的産物である。地球には海があり、多様な生物が生息しているユニークな惑星である。惑星形成過程や生命の起源論、グリーンランドやオーストラリアで進められている初期地球環境の地球史的研究の現場を紹介しつつ、地球システムの成立とその特異性について考察する。	川上　紳一	川上　紳一
3	気象システム	毎日の天気予報に深く関係する気象の変化のメカニズムについて述べる。現在の天気予報は地球全体の大気循環のコンピューターシミュレーションを基礎にして行われているが、シミュレーションの初期値を作成するために気象観測が必要である。気象はグローバルな大気循環からローカルな現象まで、さまざまなスケールの現象が階層構造をなしている。特に集中豪雨など気象災害をもたらすメソスケールの気象は特別なプロジェクト研究が必要である。現代の気象研究の最前線を紹介する。	吉崎　正憲（気象庁気象研究所主任研究官）	吉崎　正憲（気象庁気象研究所主任研究官） 木村　龍治
4	海洋システム	海洋は地球環境に大きな役割を占めているが、人間が陸地に住んでいるために、その実態を明らかにするのは容易ではない。しかし、海洋は陸地と同じような豊かな生物環境を構成している。海洋に関する物理、生物、化学、地学などのさまざまな側面を現代の海洋学はどのような方法で研究するのであろうか。特に、海洋研究船による現代の海洋調査について述べる。	小池　勲夫（琉球大学監事）	小池　勲夫（琉球大学監事） 木村　龍治

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
5	近未来の海洋観測	人工衛星の発展やIT革命によって、従来は不可能であった方法で、海洋の観測ができるようになった。従来は、海洋研究船による観測が主流であったが、現在、国際協力によって、無人の漂流ブイによる海洋観測が全世界で展開されている。そのプロジェクトを「アルゴ計画」という。また、エルニーニョのモニターのために、赤道太平洋で係留ブイによる観測が実施されている。それらの近未来を指向した海洋観測を、プロジェクトに関わっている研究者が説明する。	湊　信也（海洋研究開発機構アルゴグループサブリーダー）	岡　正太郎（海洋研究開発機構アルゴグループ研究員） 木村　龍治
6	気候変動 I	地球は常に太陽から、ほとんど一定の光を受け続けているにもかかわらず、大気環境が常に変動しているのはなぜであろうか。変動には、さまざまな周期が存在する。短い変動は、雷雲や台風などの突発的な気象擾乱の発生による。天気の変化は、中緯度帯に形成されている偏西風の流体力学的な不安定による。季節変化は、太陽放射量の変化による。それらの原因はかなり解明されているが、1年より長い周期の変動もある。数年の変動はエルニーニョ現象に関係している。それより長い気候の変化は、海洋の変動と関係が深い。大気環境の変動特性について考察する。	木村　龍治	木村　龍治
7	気候変動 II	1988年以来、地球環境問題が大きな社会問題になった。これをきっかけにグローバルな気候変化の研究が盛んになり、コンピューターシミュレーションによって、将来の気候予測が実施されている。東京大学気候システム研究センターは、日本の気候研究の中心的存在であるが、その所長を長く務めた住教授が現代の気候研究の最前線について語る。	住　明正（東京大学教授）	住　明正（東京大学教授） 木村　龍治
8	生物圏と地球システム	生物圏も地球システムの重要な構成要素である。深海底熱水生態系、珊瑚礁、干潟などの生態系を紹介し、それらが地球環境とどのように関わっているかを講義する。特に、地球表層の炭素循環に対する海洋微生物の役割について考察する。	川上　紳一	川上　紳一
9	固体地球と表層環境のカップリング	過去の大規模火山噴火の事例紹介、その気候変動との関連性を論じる。さらに、地球の火山活動は、プレートテクトニクスと密接に関わっていることを示す。また、大陸移動、超大陸の形成・分裂サイクルと表層環境、スーパープルームの活動などを講義する。	藤井　直之	藤井　直之
10	マントルダイナミクス	プレートテクトニクスの原動力やプレート内火山活動を理解するには、地球内部ダイナミクスを詳しく研究する必要がある。地震波トモグラフィーによる地球の3次元構造モデルの研究、地球内部物質科学の知見を用いたその解釈、さらにマントル対流のコンピュータシミュレーションの結果を紹介し、地球内部の変動のしくみを解説する。	藤井　直之	藤井　直之

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
11	地球磁場変動	地球磁場の特徴とその時間変動を論じる。また、地球磁場の逆転現象、地質時代の地球磁場を研究する古地磁気学の原理を講義し、地球磁場の変動と地球環境の関連性を論じる。	藤井　直之	藤井　直之
12	地球史解読	地球の歴史を解読するには、地層や岩石に刻まれた過去の出来事を読み解く必要がある。K/T境界の粘土層の分析結果をもとに提唱された恐竜絶滅の天体衝突仮説を解説し、この仮説が地球史研究に与えたインパクトを紹介する。古生代末の生物大量絶滅事件に関する研究にも言及する。また、南オーストラリアの潮汐リズムを記録した堆積岩から地球自転周期や月軌道を復元する研究を現地での取材を含めて紹介し、地球史の解読のアプローチを紹介する。	川上　紳一	川上　紳一
13	地球を変えた光合成	地球が誕生したころの大気には、ほとんどまったく酸素がなかった。現在の地球大気の20%は酸素分子でできており、性質が大きく変化した。その移り変わりを記録したさまざまな堆積岩から地球大気の変遷を読み解いていく。地球大気に酸素をもたらした最初の微生物として注目されているシアノバクテリアとその構築物であるストロマトライトについて、南オーストリア、現生ストロマトライト、縞状鉄鉱床などの露頭の様子を解説する。	川上　紳一	川上　紳一
14	全球凍結事件と多細胞動物の出現	約8億年前から6億年前の氷河時代の地層が世界各地に分布する。それらが堆積した緯度を推定する古地磁気学、氷河堆積物と縞状炭酸塩岩や縞状鉄鉱床の奇妙な組み合わせやその謎解きから提唱された全球凍結仮説、そして、これらの氷河時代が終わって突然登場する多様な多細胞動物など全球凍結仮説を巡る研究現場（南オーストラリアの縞状鉄鉱床、氷河堆積物の露頭紹介）をレポートし、地球史解読の研究の進め方、検証可能な作業仮説の重要性などを論じる。46億年の地球と生物の歴史を振り返り、変動する地球環境と生物進化の関連性を明らかにする。	川上　紳一	川上　紳一
15	地球環境と人類の未来	地球環境変動を地球システム科学のアプローチで研究する意義を総括する。また、地球環境と生物進化から私たち人類が歴史的存在であることを確認する。人類の出現とその地球環境への影響をグローバルかつ地球史的に捉え、多様な生物との共存していくためには何をなすべきか考察する。また、地球環境の理解には、地球科学の研究が不可欠なことを、オゾン層の破壊など具体例をもとに示す。	木村　龍治 藤井　直之 川上　紳一	木村　龍治 藤井　直之 川上　紳一

事務局記載欄	開講年度	２００９年度	科目区分	大学院科目	科目コード	8960526	履修制限	無	単位数	2

科目名（メディア）＝　　数理科学の方法　　（’０９）＝　（R）

〔主任講師（現職名）：熊原啓作（放送大学教授）　　〕

講義概要

コンピュータの発達と共に計量的手法があらゆる分野に浸透し，数理科学的手法が必要とされ使われている．この講義では数理科学の個別科学への応用例を提示する．数理科学やその考え方がいかに活用されているかを解説する．数理物理学から生まれ，情報科学，通信工学など広い応用を持つフーリエ解析学，生命現象を数学的に解明しようとする数理生物学，一見数学と無縁に思われる文化的方面にもデータ解析を活用する文化情報学，そして日々の経済動向の裏にある数理経済学を取り上げる．

授業の目標

様々な場面で数学的考え方がいかに有効に活用されているか，またその限界とこれからの課題についても理解を深めることを目標とする．数理科学あるいは応用数学は，数学者が準備してくれた道具を便利に使うというようなものではなく，新たに問題に応じて数学を作ることであることも強調したい．

履修上の留意点

15回の講義では厳密に理論を展開することはできないので，どうしても包括的な話が多くなるが，数学的論理の展開も不可欠である．数学に不慣れな受講者は細部より流れを読むようにし，この講義はいわば数理科学ガイダンスと理解していただきたい．

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	数理科学の方法	数理科学の概観と全担当講師によるそれぞれのパートにガイダンスを与える． 【キーワード】 数学と数理科学，生物学と数理科学，文化情報学と数理科学，数理経済学と数理科学	熊原啓作（放送大学教授）・梶原毅（岡山大学教授）・村上征勝（同志社大学教授）・丸山徹（慶應義塾大学教授）	熊原啓作（放送大学教授）・梶原毅（岡山大学教授）・村上征勝（同志社大学教授）・丸山徹（慶應義塾大学教授）
2	フーリエとフーリエ解析	数理物理学における問題の解決のために誕生したフーリエ解析の誕生と生い立ちを見る． 【キーワード】 振動，熱伝導，フーリエ級数，フーリエ級数複素形	熊原啓作（放送大学教授）	熊原啓作（放送大学教授）
3	フーリエ解析の発展と数学における影響	フーリエ解析の発展が数学の基礎を見直すことにつながり，j実数，関数，収束，積分などの基礎概念の明確化を必要とし，集合論やルベーグ積分論誕生の一因にもなった。数学にいかに大きな影響を与えたかを見る。 【キーワード】 関数と実数，フーリエ級数の収束問題，リーマン積分，フーリエ積分，集合論，ルベーグ積分	熊原啓作（放送大学教授）	熊原啓作（放送大学教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
4	フーリエ解析の諸結果	フーリエ解析の興味あるいくつかの性質について概観する。ギブズ現象，直交関数展開としてのフーリエ級数，一般フーリエ級数を紹介し，フーリエ級数の概収束，フーリエ変換，サンプリング定理を取り上げる。 【キーワード】 ギブズ現象，直交関数，関数空間，プランシュレルの定理，不確定性原理，サンプリング定理	熊原啓作(放送大学教授)	熊原啓作(放送大学教授)
5	フーリエ解析の新しい流れ	フーリエ解析は加法群に拡張される。その例として整数上のフーリエ変換とさらなる一般化の方向を示し，有限フーリエ変換と高速フーリエ変換を概説する。フーリエ変換は周波数情報を与えるが，その成分が何時現れるかを教えてはくれない。その欠陥を補うものとして誕生したウェーブレット変換を取り上げる。 【キーワード】 指標，離散フーリエ変換，双対定理，高速フーリエ変換，ウェーブレット変換	熊原啓作(放送大学教授)	熊原啓作(放送大学教授)
6	単一集団モデル	生物集団の個体数の変動は、数理生態学の基本的なテーマである。最初に単一集団のモデルを説明する。微分方程式モデルの導きかた、マルサスモデル、ロジスティックモデルについて、データと比較しながら述べる。小集団をあつかう確率モデルについても説明し、微分方程式モデルとの関係についても触れる。 【キーワード】 生物現象，微分方程式モデル，確率モデル	梶原毅(岡山大学教授)	梶原毅(岡山大学教授)
7	複数集団モデル	前回にひきつづき、互いに相互作用する複数集団のモデルを扱う。始めに競争関係を扱うロトカ・ヴォルテラ競争モデルについて、アイソクライン法、および数学的解析、生物的意味について説明する。次に、ロトカ・ヴォルテラ捕食モデルについて、解が周期的になることを説明し、それを用いた漁獲の効果の解析を説明する。 【キーワード】 競争モデル、単調性、捕食モデル、保存量	梶原毅(岡山大学教授)	梶原毅(岡山大学教授)
8	体内の病気モデル	人間の体内は観察が容易ではないので、病気の様子を調べるために数理モデルを作って研究することが役に立つ。主として HIV 感染のさまざまな段階を対象としたモデルについて、数学解析と生物的な意味について説明する。さらに、免疫が自己を攻撃する自己免疫病のモデルについても説明する。 【キーワード】 エイズ、免疫系、安定性、抗原多様性閾値、自己免疫	梶原毅(岡山大学教授)	梶原毅(岡山大学教授)
9	感染症の流行モデル	人間にとって切実な問題である病気の流行についてはデータも豊富で，昔から研究が盛んである。感染症の流行をあつかういくつかの基本的なモデルについて説明する。さらに、具体例として、狂犬病などの伝播のモデル、また空間的に一様でない防御の効果のモデルについて説明する。 【キーワード】 体内の病気，エイズ，肝炎，免疫細胞	梶原毅(岡山大学教授)	梶原毅(岡山大学教授)

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
10	文化領域の数量分析	文章や絵画を中心に，文化の研究領域における数量的アプローチの目的，意義および研究方法を紹介する．特に類似性という観点から，分析に用いる情報(変数)の選択や必要な統計量について説明する． 【キーワード】 数量分析，情報(変数)選択，平均値，分散，クラスター分析，主成分分析	村上征勝(同志社大学教授)	村上征勝(同志社大学教授)
11	文章の数量分析	文章の類似性の分析で著者に関する疑問の解明を試みた幾つかの研究を紹介する．具体的には「シェークスピア＝ベーコン説」の検討，『静かなドン』盗作説の解明，アメリカ合衆国憲法に関する論説12編の著者の推定，『源氏物語』の文章の分析，犯罪事件の文章の分析等を紹介する． 【キーワード】 シェークスピア＝ベーコン説，『静かなドン』，『連邦主義者』，『源氏物語』，最頻値，出現頻度，クラスター分析，判別分析	村上征勝(同志社大学教授)	村上征勝(同志社大学教授)
12	浮世絵の数量分析	浮世絵・美人画に描かれてた顔を対象に，目，鼻，口などの部品間の角度を分析することで，9人の浮世絵師たちの描画法の差異の解明を試みた研究を紹介する。また，歌舞伎劇で女役を演じる男性の顔の描き方について，数量分析でどのようなことが明らかになったかも紹介する。 【キーワード】 浮世絵，美人画，役者絵，女形，角度情報，主成分分析	村上征勝(同志社大学教授)	村上征勝(同志社大学教授)
13	効用関数の存在	集合上で定義された擬順序を実数値の関数(効用関数)で表現する可能性について述べる。制約条件下における最適化行動の分析は、経済理論におけるひとつの基本的類型である。効用関数はこの種の分析上不可欠の役割を果たす。併せて、必要とされる位相空間論の基本的な概念・事実についても解説したい。 【キーワード】 位相空間，擬順序，効用関数，Debreuの定理	丸山徹(慶應義塾大学教授)	丸山徹(慶應義塾大学教授)
14	期待効用の理論	生起しうる事象に対して定義された、いろいろな確率を序列づけする擬順序が与えられたとき、それを表現する効用関数の存在について研究する。とくに効用関数が、ある関数の期待値の形式で与えられるための条件に焦点をあわせて論ずる。基礎的準備として、測度・積分、そして確率測度が作る空間の＊弱位相についても解説し、ひとつの現代解析学への案内としたい。放送授業では効用関数と中心に丁寧に説明する。基礎的準備については印刷教材と精読されたい。 【キーワード】 測度と積分、確率測度族上の＊弱位相、期待効用	丸山徹(慶應義塾大学教授)	丸山徹(慶應義塾大学教授)
15	経済の均衡	効用関数に基づき、経済を構成する主体の最適化行動を分析する。つづいて多数の主体の間に成り立つバランス——つまり一般均衡の概念を論じて、現代経済学の基本的分析視角を紹介する。 【キーワード】 ラグランジュの未定乗数法，二次形式の符号、需要関数の導出、一般均衡	丸山徹(慶應義塾大学教授)	丸山徹(慶應義塾大学教授)

事務局記載欄	開講年度	２０１０年度	科目区分	大学院科目	科目コード	8960534	履修制限	無	単位数	2

科目名（メディア）＝　　計算論　　（’１０）＝（R）

〔主任講師（現職名）：隈部　正博（放送大学准教授）　　〕

講義概要

まず、言語、文法とは何かを定義する。次にチョムスキーの定義した様々な形の文法を学び、それによってどんな言語が生成されるかをみる。次に計算という概念について初歩から解説する。言語を構成（計算）するための機械であるオートマトンの定義から始め、様々な種類のオートマトンの形を学ぶ。その後チューリング機械の定義をする。そして多くの計算が、チューリング機械の形で書くことができることを理解する。最後にアルゴリズムとは何かを考える。

授業の目標

計算という概念を、様々な種類に分けて解説し、最終的には計算機の数学的モデルといわれる、チューリング機械がどのような構造を持っているかを理解する。また文法によって生成される（形式）言語がどのようなものか理解し、様々な文法と言語との関わりを理解する。このとき、文法によって生成される言語と、オートマトンによって計算される言語、これらの関連性を理解するのが目標である。

履修上の留意点

予備知識は仮定しない。計算や言語という概念について、論理的立場から解説するが、数学のみならず、コンピューターや言語に興味のある学生向けの授業でもある。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	準備	これから授業を進めるにあたって必要な予備知識に付いて解説する。 【キーワード】 数学的帰納法、集合、関数	隈部正博	隈部正博
2	言語	言語、文法とは何か、定義する。そして様々な例を通してこれらの概念を理解する。 【キーワード】 言語、文法	隈部正博	隈部正博
3	チョムスキーの階層	チョムスキーの階層といわれる、様々な文法や言語の種類について、例を挙げながら学ぶ。 【キーワード】 チョムスキーの階層、文脈依存文法、文脈自由文法、正規文法	隈部正博	隈部正博

回	テ　ー　マ	内　　容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
4	オートマトン	言語を計算する一つの形である、オートマトンとは何か、その定義を述べ、簡単な例を学ぶ。 【キーワード】 オートマトン、遷移関数	隈部正博	隈部正博
5	オートマトンによって受理される言語	様々なオートマトンの例を通して、どのような言語が作られるかをみる。 【キーワード】 受理される言語	隈部正博	隈部正博
6	非決定性オートマトン	機械が次のステップで行う動作が一つに限らない、非決定性オートマトンを定義し、いくつかの例を考える。 【キーワード】 決定性オートマトン、非決定性オートマトン	隈部正博	隈部正博
7	決定性オートマトンと非決定性オートマトン	非決定性オートマトンによって受理される言語は、決定性オートマトンによっても受理されることを示す。 【キーワード】 等価、状態の道	隈部正博	隈部正博
8	正規文法とオートマトン	正規文法で生成される言語と、オートマトンによって受理される言語が等しいことを示す。これを例を挙げながら解説する。 【キーワード】 正規文法	隈部正博	隈部正博
9	2方向オートマトン	今まで定義したオートマトンを改良し、機械のヘッドが左右に動く、2方向オートマトンについて、その定義を述べ、幾つかの例を学ぶ。 【キーワード】 2方向オートマトン	隈部正博	隈部正博
10	1方向オートマトンと2方向オートマトン	2方向オートマトンによって受理される言語が、1方向オートマトンによって受理される言語が等しいことを、例を使って解説しながら示す。 【キーワード】 1方向オートマトン、2方向オートマトン、等価	隈部正博	隈部正博

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
11	ε一動作を含むオートマトン	非決定性オートマトンの定義をさらに改良して、ヘッドが動かず機械の状態のみを変化させるような動作を追加した、非決定性オートマトンの定義をする。このε一動作を含む非決定性オートマトンと、含まない非決定性オートマトンが等価であることをみる。 【キーワード】 ε一動作	隈部正博	隈部正博
12	正規表現	言語を式で表すことを考え、正規表現とは何か解説する。そして正規表現で定義される言語がオートマトンによって受理される言語に等しいことを見る。 【キーワード】 正規表現	隈部正博	隈部正博
13	チューリング機械	コンピューターの数学的モデルである、チューリング機械とは何かについて考える。幾つかの例を通して理解を深める。 【キーワード】 チューリング機械、時点表示	隈部正博	隈部正博
14	様々なチューリング機械	さまざまなチューリング機械の例を考える。また複数ののテープを備えた多テープチューリング機械を定義する。そして、多テープチューリング機械とチューリング機械が等価であることを示す。 【キーワード】 多テープチューリング機械、非決定性チューリング機械	隈部正博	隈部正博
15	アルゴリズムの概念	非決定性チューリング機械を定義し、これが決定性チューリング機械と等価であることを示す。次にチューリング機械と、文法の概念が等しいことをみる。最後にアルゴリズム、計算とは何か、考察する。 【キーワード】 アルゴリズム、計算、チャーチの提唱	隈部正博	隈部正博

事務局記載欄	開講年度	２００９年度	科目区分	大学院科目	科目コード	8960518	履修制限	無	単位数	2

科目名（メディア）＝　基礎情報科学　（’０９）＝（R）

〔主任講師（現職名）：川合慧（放送大学教授）〕

〔主任講師（現職名）：萩谷昌己（東京大学教授）〕

講義概要

情報に関する学問分野は，記号論，計算機科学，計算機工学といった比較的に基礎分野を扱うものから，情報学，さらには人間社会と密接に絡み合うメディア関連の諸学問まで極めて幅広いものとなっており，その学習にあたっても，全体と部分を見る努力の焦点を定めにくい．本科目ではこのように広い情報分野の中で，基礎学問としての計算機科学の核となる概念である「計算」に焦点をあて，その数理的な概念と性質，計算のモデル化と計算量，計算可能性，さまざまなタイプの計算システム，そしてその物理現象としての実装とを総合的に扱う．

授業の目標

全15回の講義を通じ，本来抽象的であり理解することが容易ではない「基本概念としての計算」の姿を会得する．また，計算量やそのオーダ，計算可能性などについての具体的な理解を，数式等の助けを可能な限り借りることなしに得ることを目的とする．現代のコンピュータの動作についての，パソコン利用的な表面的ではない本質的な部分のイメージを体系的に学ぶことが最終目標である．

履修上の留意点

「情報科学の基礎('07)」および「数学基礎論('08)」の履修が望ましいが，本科目の履修に必須ではない．グラフ理論や形式言語等の知識があれば理解はさらに深まるであろう．実際のプログラム言語の利用経験も理解の助けにはなるが，本科目ではより抽象的かつ包括的な計算を取り扱う．

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	情報とその表現	我々が一般にイメージする「情報」は，本来は普遍的な概念である情報の，個々の局面での様々な出現形態である．ここでは情報の本質と，その表現に使われる種々の約束事について，多面的な例をもとにして理解する． 【キーワード】 情報，情報処理，表現	川合慧（放送大学教授）	川合慧（放送大学教授） 萩谷昌己（東京大学教授）
2	情報の処理と計算	我々が普段目にする「計算」，たとえば四則演算のようなものは，もともとの意味の忠実な表現を維持するようにして実行される，記号の間の変換操作である．ここでは，アルゴリズムと呼ばれる様々な「計算手順」の具体例によって，計算処理の本質を理解する． 【キーワード】 意味と記号，計算	川合慧（放送大学教授）	川合慧（放送大学教授） 萩谷昌己（東京大学教授）
3	再帰の本質	一定数の記述部品を使って計算を表現する場合，同じ部品を状況を変えて何回も利用するが，自分自身を下請けとして使用することもある．ここでは，再帰と呼ばれるこの手法によって組み立てられる計算のやり方と性質とを理解する． 【キーワード】 再帰，関数	萩谷昌己（東京大学教授）	川合慧（放送大学教授） 萩谷昌己（東京大学教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
4	パターン照合による計算	データの間の対応関係を定める処理をパターン照合と呼ぶ. データの構造や制限された任意性の利用により, パターン照合による計算が実現できる. ここではパターン照合による計算のやり方を学び, その性質を理解する. 【キーワード】 パターン照合, バインディング	萩谷昌己(東京大学教授)	川合慧(放送大学教授) 萩谷昌己(東京大学教授)
5	オートマトンと状態遷移	一連の入力を与えると内部の状態が順々に変化してゆくような抽象的なシステムをオートマトンと呼び, その性質は詳しく調べられている. ここではオートマトンを用いた計算のやり方と, その構成方法について学ぶ. 【キーワード】 オートマトン, 状態遷移	萩谷昌己(東京大学教授)	川合慧(放送大学教授) 萩谷昌己(東京大学教授)
6	チューリングのテープ機械	オートマトンの入出力を無限長のテープを使って行ない, テープ上に計算結果を残す働きをもつシステムとしてチューリング機械があり, 計算論では中心的な意味をもつ. ここではその原理と計算の様子および主な性質を学ぶ. 【キーワード】 チューリング機械, 遷移表, テープ	萩谷昌己(東京大学教授)	川合慧(放送大学教授) 萩谷昌己(東京大学教授)
7	計算モデルの等価性	これまでに見た様々な「計算のやり方」は, その基本要素の種類に応じて「計算モデル」として整理される. ここではその様子を学び, これらの計算モデルが互に他の真似をすることができるという意味で等価であることを理解する. 【キーワード】 計算モデル, シミュレーション, 等価性	萩谷昌己(東京大学教授)	川合慧(放送大学教授) 萩谷昌己(東京大学教授)
8	計算量	計算モデルのすべてに渡って, そのモデルに従った手順(アルゴリズム)を実行した際に, 結果を得るまでの手間という量(計算量)を考えることができる. ここではその基本的な性質と主要項である計算量のオーダについて学ぶ. 【キーワード】 計算量, 計算の手間, 計算量のオーダ	川合慧(放送大学教授)	川合慧(放送大学教授) 萩谷昌己(東京大学教授)
9	計算量の実際	各種の実用的な計算では計算量が莫大になることが多い. ここではそのような計算の例として, 膨大な数の局面を検査する必要のあるゲームプレイと, 解手順の計算量の大きさを利用する暗号処理について学ぶ. 【キーワード】 ゲーム, 探索空間, 暗号, 一方向関数	川合慧(放送大学教授)	川合慧(放送大学教授) 萩谷昌己(東京大学教授)
10	計算の複雑さ	計算量をそのオーダによって分類すると, 問題の大きさが変化した場合の計算量の変化の振舞いが明らかになる. いくつかのオーダの例でこれを調べ, 計算量のオーダの階層性を学び, 関連する未解決問題「P=NP？」を理解する. 【キーワード】 計算量階層, 多項式オーダ, 指数オーダ, P=NP問題	川合慧(放送大学教授)	川合慧(放送大学教授) 萩谷昌己(東京大学教授)

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
11	計算不能！	ここで取り上げた計算モデルはすべて数学の証明論の枠組みで取らえられる．数学基礎論では証明不可能な問題があることが不完全性定理の名で知られているが，その「計算版」として計算不可能な問題が構成できることを学ぶ． 【キーワード】 計算可能性，不完全性定理，対角線論法	萩谷昌己(東京大学教授)	川合慧(放送大学教授) 萩谷昌己(東京大学教授)
12	いろいろな計算	計算論におけるいくつかの話題として，分子の反応を利用する分子計算，いつでもundoができる可逆計算，量子力学にもとづく量子計算などの実際と，その原理とを理解する． 【キーワード】 可逆計算，量子計算，分子計算	萩谷昌己(東京大学教授)	川合慧(放送大学教授) 萩谷昌己(東京大学教授)
13	記号と情報	何かを意味し，かつ知覚できるもの，という記号の定義を，情報科学の文脈に摘要し，計算の諸概念を分析する．また，メッセージがもつ情報の大きさについての数値化の例としての情報量と，その計算とのかかわりを理解する． 【キーワード】 記号，情報の表現，情報量	川合慧(放送大学教授)	川合慧(放送大学教授) 萩谷昌己(東京大学教授)
14	計算の実現	計算で扱う様々な情報の処理は，計算の要素を様々な方法で表現することにより，現実に動作する物理的な装置として実現できる．ここではその概略と，現実のコンピュータにおける2進表現の使用理由について学ぶ． 【キーワード】 論理演算，2進表現	川合慧(放送大学教授)	川合慧(放送大学教授) 萩谷昌己(東京大学教授)
15	現代的コンピュータ	現代のコンピュータは「計算」を行なう機械であるが，その成り立ちは現実の工学的な実現可能性に強く縛られている．ここではその概略と，実際に用いられているプログラム言語と呼ばれる計算記述の様子を学ぶ． 【キーワード】 コンピュータ，プログラム内蔵方式，プログラム言語	萩谷昌己(東京大学教授)	川合慧(放送大学教授) 萩谷昌己(東京大学教授)

この冊子に掲載した2010年度新規開設科目の講義内容は、教材の原稿等を作成する時点で主任講師等が執筆しており、実際に印刷教材及び放送教材を制作する時点で内容等を組み替えていることもあり、必ずしも最終的な印刷教材・放送教材と一致していない部分がありますので、ご容赦ください。

なお、放送大学ホームページに掲載されている講義内容については、最新の内容にリアルタイムで更新しております。

R70
古紙配合率70%再生紙を使用しています